

令和7年度

中学部
年間指導計画
(シラバス)

沖縄県立八重山特別支援学校

沖縄県立八重山特別支援学校 中学部 国語科 I 課程 2 学年 年間指導計画 年間総時数 (140) 時間

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
4月	見えないだけ 1 時間 ◎語句について理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 詩を読み取る。 ・好きな言葉や表現をノートに書き写し、その理由をまとめる。 ◇言葉や表現が生み出している効果についても確認させる。 2 好きな言葉や表現を発表する。 ◇共感できた考えや自分にはなかった考えをノートにまとめさせる。 3 詩の特徴を生かして朗読する。 ・友達の発表を聞いて考えたことも踏まえて、詩の内容が効果的に伝わるように工夫して朗読する。	【知・技】語句について理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ →詩の中に出てくる好きな言葉や表現を、理由とともにまとめている。 【態】進んで語感を磨き、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
1 広がる学びへ				
4月	アイスプラネット 漢字に親しもう 1 4 時間 ◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★小説を読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 →二次元コード「イヌイット」 2 登場人物の設定を確かめる。 ・冒頭部から読み取れるぐうちゃんの人物像を捉える。(課題1-①) ・人物どうしの関係を図で整理する。(課題1-②) ・ぐうちゃんに対する「僕」「母」「父」、それぞれの思いがわかる言動や表現を挙げて関係を捉え、図に書き加える。(課題1-③) →P27「カギ」「登場人物の設定を捉える」 →P276「資」『「学びのカギ」一覧』(文学) →二次元コード「学びの地図」 3 ぐうちゃんに対する「僕」の思いを読み取る。 ・ぐうちゃんのほら話に対する「僕」の気持ちの変化を捉える。(課題2-①) ・「それ以来、僕は二度とぐうちゃんの部屋には行かなかった。」のはなぜかを考える。(課題2-②) ・手紙と写真を受け取ったときの「僕」の気持ちを、ぐうちゃんの考えや思いを踏まえて想像する。(課題2-③) ◇手紙の文面から、ぐうちゃんの考えや思いを踏まえさせる。 4 ぐうちゃんに対する自分の考えをまとめる。(課題3) ・ぐうちゃんの考え方や生き方について、自分の生活や経験などと比べながら、考えたことをまとめる。 5 学習を振り返る。 →P27「言の葉」 ・登場人物の設定を図で整理することには、どんな効果があったか、自分の言葉でまとめる。 ・どんなところに着目して登場人物の設定を捉えたか、自分の言葉でまとめる。 ・これまでに読んだ作品を一つ取り上げ、人物の設定を図で整理する。 6 P28「漢字に親しもう1」に取り組む。 →二次元コード「漢字一覧表」 →P260「小学校六年生で学習した漢字一覧」	【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2)イ →登場人物どうしの関係や人物像を図式化して整理している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →ぐうちゃんの人物像や、登場人物どうしの関係を文章から読み取り、図にまとめている。 【態】登場人物の設定のしかたなどを積極的に捉え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
				【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読ん

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたいとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>		<p>→P308[資]「二年生で学習した漢字」</p> <p>→P321[資]「二年生で学習した音訓」</p> <p>◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。</p> <p>◇P257「[練習] 小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。</p>	<p>でいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ)</p> <p>→文や文章の中で漢字を読んだり書いたりしている。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
4月	<p>【聞く】</p> <p>意見を聞き、整理して検討する 1時間</p> <p>◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたいとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする。(思・判・表A(2)ア)</p>	1	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 二次元コードの音声を開いて、水島さんと今西さんの意見と根拠を表で整理し、根拠の適切さを評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 根拠の客観性や信頼性を確かめたり、意見と根拠の結び付き(「理由づけ」)に無理や飛躍がないか検討したりする。 <p>→[二次元コード]「二人の意見」</p> <p>2 整理した表を基に、自分はどちらの意見に納得できるか、考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ペアやグループで意見と根拠の適切さについて話し合っただけで考えを深める。 <p>◇自分はどちらの意見に近いのか、二人の示したものの他に適切な根拠や「理由づけ」のしかたがないかを考えさせるとよい。</p> <p>3 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 聞き取った意見と根拠を整理し、根拠の適切さについて検討することができたか、確かめる。 	<p>【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>→意見と根拠を区別して捉え、適切な根拠の在り方について理解を深めている。</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア)</p> <p>→発言者の立場を踏まえ、それぞれの意見と根拠を整理して考えをまとめている。</p> <p>【態】進んで意見と根拠の関係を整理しながら聞き、今までの学習を生かして根拠の適切さなどについて検討しようとしている。</p>
4月	<p>文法への扉1</p> <p>単語をどう分ける？</p> <p>文法1 自立語 2時間</p> <p>◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。(知・技(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたいとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1-2	<p>1 P31の導入や解説を読み、単語が幾つかの観点で分類されることを確かめ、そのうち「自立語」について学ぶことを理解する。</p> <p>→[二次元コード]「文法ワーク」</p> <p>2 P242「文法1 自立語」を読み、自立語の各品詞の性質などについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 下段の練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。 <p>→[二次元コード]「練習問題」</p> <ul style="list-style-type: none"> P242下段「話すこと・書くことに生かす」を読み、ここでの学習を今後の学習に生かせるようにする。 	<p>【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。(1)オ)</p> <p>→自立語にどんな品詞があるかを知り、それぞれが文の中で果たす役割について理解を深めている。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に自立語について理解を深めようとしている。</p>
5月	<p>魅力的な提案をしよう</p> <p>資料を示してプレゼンテーションをする 5時間</p> <p>◎言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくこと</p>	1	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 提案内容を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 誰に(相手)、何を(話題)、何のために(目的)提案するかを確かめる。 現状の課題を見つけ、その解決策を基にするな 	<p>【知・技】言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。(1)ア)</p> <p>→相手が自ら行動したいと思えるような言葉や表現を用いることを意識している。</p> <p>【思・判・表】</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>ができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫することができる。(思・判・表A(1)イ)</p> <p>◎資料や機器を用いるなどして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたいとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする。(思・判・表A(2)ア)</p>	<p>2-3</p> <p>4-5</p>	<p>どして、提案内容を決める。</p> <p>→二次元コード「表現テーマ例集」</p> <p>◇相手が何を知りたいのかを考えさせるとよい。</p> <p>2 話の構成や表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで進行案を作り、話の構成や提示する資料、役割分担などを考える。 <p>→P35「言の葉」</p> <p>→P286「資」「グラフの見方／引用・出典」</p> <p>◇提示資料の情報は必要最低限に絞らせる。</p> <p>◇写真などを引用する場合は、出典を明記させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料を提示しながら話す練習をする。 <p>→P33「カギ」「資料や機器を活用して話す」</p> <p>→P280「資」『学びのカギ』一覧(話す・聞く)</p> <p>→二次元コード「学びの地図」</p> <p>◇資料を提示するタイミングを考えたり、聞き手を意識して話し方に変化をつけたりさせるとよい。</p> <p>3 プレゼンテーションをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> クラスの人たちに向け、グループごとにプレゼンテーションをする(録画する)。 <p>→二次元コード「プレゼンテーションをする」</p> <p>→P29「[聞く] 意見を聞き、整理して検討する」</p> <p>→P35「達人からのひと言」</p> <p>→P341「資」「ICT活用のヒント」</p> <p>◇聞き手には、話の構成や話し方に注意させ、質問を考えながら聞くようにさせる。</p> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> いちばん心が動かされた提案をクラスで選び、理由を含めて話し合う。 録画したプレゼンテーションを視聴し、よかった点や改善点を話し合う。 <p>◇話し方や話の構成、資料や機器の使い方など、振り返りの観点を明確にするとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、相手の心を動かし、行動を促す働きがあることを、学習のどのような場面で実感したか、自分の言葉でまとめる。 聞き手の印象に残るプレゼンテーションにするために、話の構成や資料の作成において、どのような工夫をしたか、自分の言葉でまとめる。 クラスでの発表を振り返り、次に何かを提案するときには、どんな点を工夫したいか考える。 <p>◇P32「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。(A(1)イ) →重要なことが効果的に伝わるように話の構成を工夫している。 「話すこと・聞くこと」において、資料や機器を用いるなどして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →プレゼンテーションソフトやフラッシュカードなどを用いて、提案内容が視覚的にもわかりやすくなるよう工夫している。 <p>【態】自分の考えがわかりやすく伝わるように粘り強く表現を工夫し、学習の見通しをもってプレゼンテーションをしようとしている。</p>
5月	<p>枕草子</p> <p>【書く】自分流「枕草子」を書こう</p> <p>3時間(読②書①)</p> <p>◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア)</p> <p>◎現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方をすることができる。(知・技(3)イ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことや</p>	<p>1</p> <p>2</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 「枕草子」を音読し、古文を読み味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新出漢字を調べる。 <p>→二次元コード「漢字の練習」</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代語訳を参考に情景を想像し、古文を音読する。 <p>→二次元コード「朗読音声」</p> <p>◇心に残った季節の一節を暗唱させてもよい。</p> <p>◇関連図書などを活用するとよい。</p> <p>2 作者のものの見方や感じ方を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 冒頭を読み、作者が四季のどんなところに趣を感じているのかを整理し、自分が感じる四季の趣と比べる。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) →古典の文章独特の調子やリズムを意識して音読している。 現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3)イ) →現代語訳や語注を手がかりに「枕草子」を読み、作者のものの見方や考え方を捉えている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>◎表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★古典作品などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>★随筆を創作するなど、感じたことや想像したことを書く。(思・判・表B(2)ウ)</p>	3	<p>・P38の章段を読み、作者が「何」の「どんな」様子を「どう」感じているのかについて整理する。 ◇P39のコラム「枕草子」を参考にしながら、「枕草子」の特徴を捉えさせる。「徒然草」の学習と関連させてもよい。 →P154「仁和寺にある法師」</p> <p>3 自分流「枕草子」を書く。 →P39「自分流『枕草子』を書こう」 ・「枕草子」の形を借りて、自分ならではの季節感を表す文章を400字程度で書く。</p> <p>4 学習を振り返る。 ・作者のものの見方や考え方について、印象に残っているものを、理由とともに挙げる。 ・書いた「自分流『枕草子』」を、友達と読み合い、感想をまとめる。 ◇自他の季節の捉え方の共通点や相違点を明らかにしながら感想をまとめさせる。</p>	<p>【思・判・表】</p> <p>・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →作者の考えと自分の考えとを比較し、感じたことをまとめている。</p> <p>・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →生活を振り返って、自分ならではの季節感を出すものを見つけている。</p> <p>・「書くこと」において、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →季節感を出すものについて、その様子が具体的に想像できるよう、語句や表現を選んで書いている。</p> <p>【態】文章を読んで理解したことや考えたことを進んで知識や経験と結び付け、学習課題に沿って自分ならではの季節感を出す文章を書こうとしている。</p>
5月	<p>季節のしおり 春</p> <p>・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ)</p> <p>・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	-	<p>・春の行事・暦に関わる言葉や、春の情景を詠んだ短歌や俳句を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P66「短歌の創作教室」、P110「表現を工夫して書こう」、P224「描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。 ◇春をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。</p>	<p>【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ) →作品中の「春」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。</p> <p>【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。</p>
2 多様な視点から				
5月	<p>クマゼミ増加の原因を探る 4時間</p> <p>◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>◎文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1 2 3-4	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 本文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 →P51「言葉」</p> <p>2 全体と部分の関係に注意して、構成を捉える。 ・「研究のきっかけ」に示された文章全体に関わる問題提起と、その問題についての大きな仮説を確かめる。(課題1-①) ・線や矢印を使って、文章を構成する六つの部分の関係を整理する。(課題1-②) ◇「前提」を受けて「仮説1〜3」があり、それらの検証によって「まとめ」が導き出されていることがわかるように整理できるとよい。</p> <p>3 文章と図表の関係に注意して、内容を読み取る。 ・三つの仮説に対する検証の内容とその結果を、図表や写真との関係に注意し、それぞれ文章中</p>	<p>【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2)イ) →文章を構成する六つの部分の関係を図式化して整理している。</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉えている。(C(1)ア) →筆者の主張を捉え、それと仮説1〜3との関係を理解している。</p> <p>・「読むこと」において、文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈している。(C(1)ウ) →文章中の図表やグラフが何のために示されているのかを、対応する文章を基に考えている。</p> <p>【態】積極的に文章と図表などを結び付けて内容を解釈し、学習の見通しをもって</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>間性等)</p> <p>★報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p>		<p>の言葉を用いて簡潔にまとめる。(課題2-①)</p> <p>→P51 カギ 「文章と図表を結び付けて読む」</p> <p>→P278 窓 『学びのカギ』一覧(説明文)</p> <p>→ 二次元コード 「学びの地図」</p> <p>◇図表や写真と結び付いている箇所を本文から探して線を引かせるとよい。</p> <p>◇P49の図が「仮説2」と「仮説3」を整理したものであることを確認する。</p> <p>・「研究のきっかけ」に示された大きな仮説は証明されたといえるか、筆者の考えと、自分の考えを書く。(課題2-②)</p> <p>4 考えたことを話し合う。(課題3)</p> <p>・筆者は、なぜ結果的に否定された説と、その検証結果も示したのか、考えたことをグループで話し合う。</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <p>・図などを用いて情報を整理することには、どんな効果があったか、自分の言葉でまとめる。</p> <p>・文章の内容を読み取るうえで、最も効果的だと感じた図表や写真はどれか、理由も含めて考えをまとめる。</p> <p>・図表を含む文章の読み方が、日常生活のどんな場面で活用できるか挙げる。</p>	<p>考えたことを話し合おうとしている。</p>
6月	<p>情報整理のレッスン</p> <p>思考の視覚化</p> <p>1時間</p> <p>◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1	<p>1 教材文を読み、情報の関係を整理して、視覚的に表す方法を理解する。</p> <p>→ 二次元コード 「漢字の練習」</p> <p>◇「観点」、「階層」、「軸」などの用語を理解させ、今後の学習に生かせるようにしておくことよい。</p> <p>2 問題1～3に取り組む。</p> <p>◇文章で書くのではなく、単語や一文など短い表現を使うように促す。</p> <p>◇視覚的にわかりやすくなるように、付箋や色ペンなどを準備して使わせてもよい。</p> <p>3 学習を振り返る。</p> <p>・情報を書き出して整理し、関係を図で表す四つの方法についてポイントを確認する。</p>	<p>【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2)イ)</p> <p>→問題1～3に取り組み、情報どうしの関係を図で表している。</p> <p>【態】積極的に情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し、学習したことを生かして練習問題に取り組もうとしている。</p>
6月	<p>情報を整理して伝えよう</p> <p>職業ガイドを作る</p> <p>5時間</p> <p>◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★多様な考えができる事柄について</p>	1-2	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>◇授業の導入として、「書くことのミニレッスン」に取り組みせるとよい。</p> <p>→ 二次元コード 「書くことのミニレッスン」</p> <p>1 題材を決め、情報を集める。</p> <p>・調べる職業を決め、知りたい項目を挙げる。</p> <p>・知りたいことに適した調べ方を考え、多様な方法で情報を集める。</p> <p>→P284 窓 「インタビューをする」</p> <p>→P285 窓 「インターネットの活用」</p> <p>→ 二次元コード 「表現テーマ例集」(「書くことのミニレッスン」内)</p> <p>◇図書館や資料館、インターネット、インタビューなど、多様な情報収集の方法を考えさせる。</p> <p>◇複数の情報源で調べる、出典を明らかにするなど、既習事項を想起させる。</p> <p>2 集めた情報を整理する。</p> <p>・集めた情報を、図や記号などを使って整理する。</p>	<p>【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2)イ)</p> <p>→集めた情報を表や図にまとめ、整理している。</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p> <p>→知りたいことに適した方法を考えて情報を収集し、収集した情報を分類・整理して自分の目的に合うものを選択している。</p> <p>【態】多様な方法で集めた情報を粘り強く整理し、学習の見通しをもって職業ガイドを作ろうとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	て意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	3 4 5	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に合わせて、情報を取捨選択する。 →P29「[聞く]意見を聞き、整理して検討する」 →P52「情報整理のレッスン 思考の視覚化」 →P55カギ「多様な方法で集めた情報を整理する」 →P280窓「『学びのカギ』一覧」(書く) →二次元コード「学びの地図」 <p>3 紙面構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見出しや文章、図・表、グラフ、写真などの配置を考えて、紙面を構成する。 ◇タブレット端末などを用いて、紙面構成を考えさせるとよい。 →P341窓「ICT活用のヒント」 <p>4 紙面を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡潔な文章を心がけて書く。 ・推敲し、清書する。 →P57言の葉 ◇見出しを付け、簡潔な文章にするよう留意させる。 <p>5 感想を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品を読み合い、感想を伝え合う。 ◇わかりやすかったところや、説明の順序や分量、紙面の工夫などについて考えさせる。 <p>6 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を図や記号で整理することには、どのような効果があるか、自分の言葉でまとめる。 ・読み手に何を伝えたいと考え、そのために、集めた情報をどのように整理したか、自分の言葉でまとめる。 ・集めた情報を整理するうえで、いちばん役に立った方法を理由も合わせて書く。 ◇P54「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。 	
6月	<p>漢字 1 熟語の構成 漢字に親しもう 2 1 時間</p> <p>◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1	<p>1 教材文を読み、熟語の構成の種類について理解する。 ◇身の回りにある熟語を挙げさせ、その構成を説明させてもよい。</p> <p>2 練習問題に取り組む。 →二次元コード「漢字一覧表」</p> <p>3 P60「漢字に親しもう 2」に取り組む。 →二次元コード「漢字一覧表」 →P260「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P308窓「二年生で学習した漢字」 →P321窓「二年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P257「[練習]小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。</p>	<p>【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ) →熟語の構成を意識しながら、漢字を読んだり書いたりしている。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
3 言葉と向き合う				
6月	<p>短歌に親しむ [書く]短歌の創作教室 短歌を味わう 5 時間 (読②書③)</p> <p>◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の</p>	1	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 P62「短歌に親しむ」を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」</p> <p>2 短歌を音読し、解説の内容を捉える。</p>	<p>【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ) →情景などを表す語句に着目して作品を読み深めている。また、情景や心</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ)</p> <p>◎観点を明確にして短歌を比較するなどし、表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎短歌を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる短歌になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたいとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★短歌などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>★短歌を創作するなど、感じたことや想像したことを書く。(思・判・表B(2)ウ)</p>	2 3 4-5	<p>・歌われている情景を想像しながら、短歌を声に出して読む。(課題1-①)</p> <p>・短歌とはどんなものか、筆者がその形式や歴史について説明している部分に線を引く。(課題1-②)</p> <p>3 短歌に用いられた、表現の効果を考える。</p> <p>・それぞれの短歌に描かれた情景や心情と、筆者が着目した表現、その表現の効果として示されていることをまとめる。(課題2)</p> <p>◇筆者が着目した表現やその効果の他に、生徒自身が着目した部分があれば、それを書かせてもよい。</p> <p>4 好きな短歌を選び、感想を書く。(課題3)</p> <p>・本文やP68「短歌を味わう」から好きな1首を選び、自分の知識や経験と結び付けて感想を書く。</p> <p>◇グループごとに1首ずつ担当したり、グループの中で各人が1首ずつ担当したりするなど、状況に合わせて活動させる。</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <p>・情景や心情を描写する語句のうち、感想を書くときに特に注目したものはどれか、自分の言葉でまとめる。</p> <p>・筆者の解説を読んで初めて気づいた着眼点や表現の効果には、どのようなものがあったか、自分の言葉でまとめる。</p> <p>・短歌の創作に生かせそうなことを挙げる。</p> <p>6 P66「短歌の創作教室」に取り組む。</p> <p>・「準備体操」に取り組み、短歌を作る練習をする。</p> <p>・出来事や場面を決めて、短い文章を作る。</p> <p>・作った文章を基に、最も伝えたいことを決め、短歌を作る。</p> <p>・言葉の順序を入れ替えたり、比喩や体言止めなどの表現技法を使ったりして、表現を工夫する。</p> <p>◇言葉を集める際、P9「思考の地図」のマッピングを活用することもできる。</p> <p>→P14「続けてみよう」</p> <p>→P268「語彙ブック」(感覚で捉えた言葉)</p> <p>・完成した作品を集めて、感想を伝え合う。</p>	<p>情が生き生きと伝わる言葉を選んで短歌を創作している。</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「読むこと」において、観点を明確にして短歌を比較するなどし、表現の効果について考えている。(C(1)エ)</p> <p>→複数の短歌を比較し、言葉の選び方や順序にどのような特徴や効果があるかを考えている。</p> <p>・「読むこと」において、短歌を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ)</p> <p>→好きな1首を選び、自分の知識や経験と結び付けて感想を書いている。</p> <p>・「書くこと」において、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる短歌になるように工夫している。(B(1)ウ)</p> <p>→自分の思いが伝わるように、学習した短歌の形式や表現の工夫を参考に短歌を作っている。</p> <p>【態】表現の効果について進んで考え、学習の見通しをもって短歌を創作しようとしている。</p>
6月	<p>言葉の力 2時間</p> <p>◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。(知・技(3)エ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたいとする。(学びに向かう力、人</p>	1 2	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 全文を通読する。</p> <p>・注意する語句・新出漢字を調べる。</p> <p>→二次元コード「漢字の練習」</p> <p>2 文章の内容を捉える。(課題1)</p> <p>・三つのまとまりそれぞれの内容を確認する。</p> <p>3 筆者の考え方を読み取る。(課題2)</p> <p>・「言葉の世界での出来事と同じこと」とあるが、筆者は、何と何が、どのように同じだと述べているのかを考える。</p> <p>4 筆者の考え方について話し合う。(課題3)</p> <p>・美しい言葉、正しい言葉に対する筆者の考え方について、自分はどのように考えるか、知識や経験を踏まえて話し合う。</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <p>・この文章を読むことで、どのようなもの見方や考え方を得ることができたか、自分の言葉で</p>	<p>【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ)</p> <p>→言葉に対する筆者の考え方を捉え、本や文章には、筆者の考え方が書かれていることや、それに触れることで自分の考えを広げたり深めたりできることを理解している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ)</p> <p>→言葉に対する筆者の考え方について自分の考えをもち、話し合っている。</p> <p>【態】文章を読んで理解したことや考えたことを進んで知識や経験と結び付け、今までの学習を生かして考えたことを伝</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	間性等) ★随筆を読み、引用して解説したり、考えたなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)		まとめる。 ・どのような知識や経験と結び付けて、筆者の考え方を捉えたか、自分の言葉でまとめる。 ・自分の考えが深まるきっかけになった友達の発言を挙げる。	え合おうとしている。
7月	言葉1 類義語・対義語・多義語語彙を豊かに 抽象的な概念を表す言葉 2時間 ◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1 2	1 P72導入の課題に取り組み、言葉どうしの関係性について関心をもつ。 2 教材文を読み、類義語・対義語・多義語について理解する。 ・例を基にして、それぞれの語がどのような関係にあるのかを考える。 →P272「語彙ブック」(抽象的な概念を表す言葉) ◇類義語には、意味が微妙に違うものや、意味は同じでも語感が違うものがあることに気づかせるとよい。 ・P73「生活に生かす」を読み、言葉の幅を広げるのに、類義語・対義語に注目するとよいことを知る。 →二次元コード「漢字の練習」 3 P74のリード文を読み、抽象的な概念を表す言葉を探す。 →P272「語彙ブック」(抽象的な概念を表す言葉) 4 3で集めた言葉の類義語や対義語を集める。 ◇国語辞典や類語辞典などを活用させるとよい。 →P72「言葉1 類義語・対義語・多義語」 5 言葉を比べ、用例を考える。 ・集めた言葉を比べ、気づいたことを文章にまとめる。 ◇下段「語感を磨く」を参考にさせるとよい。 →二次元コード「漢字の練習」	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ) →類義語・対義語・多義語の概念について、具体的な例を当てはめて理解している。 →抽象的な概念を表す言葉について理解し、類義語の微妙な違いを考えることを通して語感を磨いている。 【態】今までの学習を生かして、積極的に類義語と対義語、多義的な語句、抽象的な概念を表す語句などについて理解しようとしている。
情報×SDGs				
7月	メディアの特徴を生かして情報を集めよう デジタル市民として生きる 2時間 ◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★本や新聞、インターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかにしながら、考えたこ	1 2	1 メディアを比べて、それぞれの特徴を理解する。 ・P76-77に示されたさまざまなメディアを、「速報性」「詳細さ」「信頼性」の三つの観点で比較し、評価する。 ◇教科書の例を参考に、メディアによって配信日時や情報量に違いがあることに気づかせる。 ・メディアの特徴を踏まえて、P76①-③それぞれの場合にはどれを選ぶとよいか、考える。 →P52「情報整理のレッスン 思考の視覚化」 →P285「インターネットの活用」 2 災害時の情報収集・情報の読み取りについて考える。 ・P78「やってみよう」に取り組む。 ・災害を想定し、状況に応じてどのようなメディアを選ぶとよいか、また、どのように情報を読み取ればよいかを考える。 ◇「ここをチェック」を参考にするとよい。 3 情報を受け取るときの留意点を考える。 ・P80「デジタル市民として生きる」を通読する。 ・情報の信頼性を判断するポイントについて考える。 ◇「情報の発信源」「発信日時」「情報の根拠」について考えさせるとよい。 →二次元コード「漢字の練習」	【知・技】 ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →メディアが伝える情報の内容とその根拠の適切さに着目している。 ・情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2)イ) →メディアの特徴を、表や図などにまとめている。 【思・判・表】「読むこと」において、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈している。(C(1)イ) →メディアの特徴を踏まえ、情報の信頼性を判断するために必要なことについてまとめている。 【態】複数の情報を進んで整理しながら適切に読み取り、学習課題に沿って目的や状況に応じた情報収集のしかたについて考えをまとめようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	となどを説明したり提案したりする。(思・判・表C(2)ウ)		<p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディアから適切な情報を得るためには、どのような方法で、何を確認すべきか、わかったことをまとめる。 ・自分が今後、メディアから情報を得る際に意識していきたいと思うことを伝え合う。 	
いつも本はそばに				
7月	<p>読書を楽しむ 1時間</p> <p>◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。(知・技(3)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1	<p>1 教材文を読み、さまざまな読書活動を知る。</p> <p>2 「ブックトーク」、「読書ポスター」、「読みたい本のリスト」の中から、取り組む活動を選ぶ。 ◇学校や地域の状況に応じて活動を決めてもよい。 また、夏休みを利用した活動としてもよい。</p> <p>3 選んだ活動に沿って、見通しを立てる。 ・ブックトークの場合は、グループごとにテーマを決め、そのテーマに関するさまざまな本を、魅力が伝わるように紹介する。 ・読書ポスターの場合は、グループでテーマを決め、それに合った本を選ぶ。 ・読みたい本のリストの場合は、身の回りの本の情報などを基に、読書ノートに記録する。 ◇教材文を基に、手順やポイントなどを示した活動計画書を用意し、配布するとよい。</p> <p>4 グループごとに活動を行い、感想を発表し合う。 ◇教室ではなく、学校図書館で授業を展開することも考えられる。 ◇次の教材「翻訳作品を読み比べよう」と併せて指導することも考えられる。</p>	<p>【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ →活動を通して本の魅力を感じ、今後どんな本を読みたいかを考えている。</p> <p>【態】本や文章などにはさまざまな立場や考え方が書かれていることを進んで理解し、今までの学習を生かして、本の魅力や感想を共有しようとしている。</p>
7月	<p>翻訳作品を読み比べよう 星の王子さま コラム 「わからない」は人生の宝物 読書案内 本の世界を広げよう 1時間</p> <p>◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。(知・技(3)エ)</p> <p>◎観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★小説などを読み、引用して解</p>	1	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 二人の翻訳者による「星の王子さま」を読み比べる。 ・翻訳の違いによる作品の印象の違いについて考え、発表し合う。 ◇人物の言動や様子が描かれた表現を基に、人柄や心情の違いを捉えさせる。 →二次元コード「漢字の練習」</p> <p>2 翻訳や外国文学について知る。 ・「星の王子さま」やコラム「『わからない』は人生の宝物」を読み、「翻訳」の意味や、翻訳作品・外国文学のおもしろさについて理解する。 ◇学校図書館から本を借りてきて、実物を見せることなども考えられる。</p> <p>3 P87「本の世界を広げよう」を参考に、今後読みたい本を考える。 →P290窓「盆土産」 →P299窓「形」</p>	<p>【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ →これまでの読書生活を振り返り、より豊かにするためにできることを具体的に考えている。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ) →二人の翻訳者による「星の王子さま」を比較し、表現の違いによる作品の印象の違いについて発表している。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →翻訳の違いによって作品の印象が異なることを知り、その違いなどについて考えをまとめている。 <p>【態】表現の効果について進んで考え、学習課題に沿って二つの翻訳を比べて感じたことを発表しようとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>★本や新聞、インターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかにしながら、考えたことなどを説明したり提案したりする。(思・判・表C(2)ウ)</p>			
7月	<p>季節のしおり 夏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) 	-	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の行事・暦に関わる言葉や、夏の情景を詠んだ短歌や俳句などを味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P66「短歌の創作教室」、P110「表現を工夫して書こう」、P224「描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。 ◇夏をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。 	<p>【知・技】 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)エ)</p> <p>→作品中の「夏」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。</p> <p>【態】 伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準	
4 人間のきずな					
9月	ヒューマノイド 4時間 ◎話や文章の構成や展開について理解を深めることができる。(知・技(1)オ) ◎登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。(学びに向かう力、人間性等) ★小説を読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 →P103「言の葉」	【知・技】 話や文章の構成や展開について理解を深めている。(1)オ) →登場人物の言動や伏線に着目し、それらが話の展開にどのように関わっているのかを考えている。 【思・判・表】 「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C(1)イ) →登場人物の言動から人柄や心情を読み取り、それらが作品の印象にどう関わるのかを捉えている。 【態】 登場人物の言動の意味について粘り強く考え、今までの学習を生かして作品の印象を伝え合おうとしている。	
2	2 場面の展開に注意して、人物の設定を捉える。 ・「現在」と「過去」を区別して読み、「僕」にあって、「三十歳の六月十日」がどんな意味をもつか、簡潔にまとめる。(課題1-①) ・中学時代のタクジの言動から、人物像を捉える。(課題1-②)	3	3 過去と現在を結び付けて、登場人物の言動を解釈する。 ・タクジは、なぜ「転ばない」ロボットを作らなかったのか、考える。(課題2-①) ・「タクジ、聞いていた話と違うじゃないか。」とあるが、何が違って、そのことを「僕」はどのように感じているか、考える。(課題2-②) →P103「カギ」 「登場人物の言動の意味を考える」 →P276「窓」 『『学びのカギ』 一覧』 (文学) →二次元コード「学びの地図」 ◇中学時代のタクジとの会話や、現在のタクジの言葉に着目して考えるよう促す。		4
9月	字のない葉書 3時間 ◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。(知・技(3)エ) ◎観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。(学びに向かう力、人間性等)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 →P109「言の葉」 →P274「語彙ブック」(結び付きに着目して言葉を広げよう)	【知・技】 本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ) →随筆の味わい方について考え、日常の読書に生かせそうな点をまとめている。 【思・判・表】 「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ) →前半部分と後半部分の人柄や心情の描かれ方を比較し、表現の効果について考えている。 【態】 文章の構成や表現の効果について進んで考え、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。	
2	2 二つの思い出を整理する。(課題1) ・前半と後半に書かれた、二つの思い出の内容を整理する。 ◇必要に応じて、時代状況を解説する。既習の1年「大人になれなかった弟たちに……」を想起させてもよい。	3	3 表現に着目して、人物の人柄や心情を読み取る。 ・前半の思い出から想像される「父」の人柄を、文章中の表現を踏まえて簡潔にまとめる。(課題2-①)		

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>★随筆を読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	3	<p>・「末の妹」に対する家族の心情を、妹の様子の変化に着目して想像する。(課題2-②)</p> <p>・なくなった「父」に対して、今の「私」がどんな思いを抱いているか、表現に即して考える。(課題2-③)</p> <p>→P109 カギ 「表現の効果を考える」</p> <p>→P276 資 『『学びのカギ』一覧』(文学)</p> <p>→ 二次元コード 「学びの地図」</p> <p>◇前半と後半で、心情や人柄の描かれ方にどんな違いがあるかを考えさせるとよい。</p> <p>4 「父」に対する「私」の思いについて考える。(課題3)</p> <p>・自分が共感できることや、共感しにくいと思うことを発表する。</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <p>・随筆の味わい方で、日常の読書に生かせそうな点は何か、自分の言葉でまとめる。</p> <p>・「父」という人物を印象深く伝えるために、筆者はどのような工夫をしていたか、考える。</p> <p>・随筆と小説の違いについて、考えを交流する。</p>	
9月	<p>表現を工夫して書こう 手紙や電子メールを書く 3時間</p> <p>◎言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)カ)</p> <p>◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く。(思・判・表B(2)イ)</p>	1 2-3	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>◇授業の導入として、「書くことのミニレッスン」に取り組みせるとよい。</p> <p>→ 二次元コード 「書くことのミニレッスン」</p> <p>1 伝える相手や目的、内容を決める。</p> <p>2 適切な通信手段を選ぶ。</p> <p>◇相手や目的に応じて、手紙とメールのどちらを選ぶか考えさせるとよい。</p> <p>→P288 資 「いろいろな通信文」</p> <p>3 手紙や電子メールを書く。</p> <p>・それぞれの形式に沿って書く。</p> <p>・自分の思いや用件が伝わるように、効果的な語句や表現を選んで書く。</p> <p>→P110 カギ 「表現を工夫して思いを伝える」</p> <p>→P112 「[推敲] 表現の効果を考える」</p> <p>→P113 「言葉2 敬語」</p> <p>→P280 資 『『学びのカギ』一覧』(書く)</p> <p>→ 二次元コード 「学びの地図」</p> <p>◇相手や目的に応じて敬語を適切に用いたり、思いや用件が的確に伝わるように具体例を入れたりするなど、表現を工夫させるとよい。</p> <p>4 学習を振り返る。</p> <p>・書いた手紙や電子メールを読み合い、敬語の使い方や表現の工夫について確認し合う。</p>	<p>【知・技】</p> <p>・言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。(1)ア)</p> <p>→何かをお願いする文面などにおいて、どのような言葉を選ぶと、相手に引き受けてもらえるかを考えている。</p> <p>・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。(1)カ)</p> <p>→相手や目的に応じて、敬語を適切に使って書いている。</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)</p> <p>→自分の思いや考えが伝わるように、具体的な説明を加えたり、表現の工夫をしたりしている。</p> <p>【態】自分の考えが伝わる文章になるように積極的に工夫し、学習課題に沿って手紙や電子メールを書くとしている。</p>
9月	<p>[推敲] 表現の効果を考える 1時間</p> <p>◎言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)カ)</p> <p>◎読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章</p>	1	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 遠山さんの手紙の下書きを読み、傍線部①～④を書き改める。</p> <p>→ 二次元コード 「書くことのミニレッスン」</p> <p>2 点線部⑦⑧について、より効果的な表現を考える。</p> <p>3 学習を振り返る。</p> <p>・手紙を推敲する際のポイントを確認する。</p> <p>◇推敲前後を比べて気づいたことや、今後どんなときに生かしていきたいかを交流するとよい。</p>	<p>【知・技】</p> <p>・言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。(1)ア)</p> <p>→どのような言葉を選ぶと、相手の行動を促すことができるかを考えて推敲している。</p> <p>・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。(1)カ)</p> <p>→手紙を推敲し、適切な敬語に書き改めている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く。(思・判・表B(2)イ)</p>			<p>【思・判・表】「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ) →読み手の立場に立って手紙を推敲し、考えや思いがより伝わるような表現に書き改めている。</p> <p>【態】進んで文章を整え、今までの学習を生かして手紙を推敲しようとしている。</p>
9月	<p>言葉2 敬語</p> <p>1時間</p> <p>◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)カ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1	<p>1 導入の例文を読み、敬語の使い方について考える。</p> <p>2 教材文を読み、敬語の働きや種類について理解する。</p> <p>3 教材文を読み、敬語の組み合わせについて考える。</p> <p>◇P115「生活に生かす」を読み、実際の生活場面で敬語を使うときの注意点について考えさせるとよい。</p> <p>→二次元コード「漢字の練習」</p>	<p>【知・技】敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。(1)カ) →敬語を使う生活場面を想定し、敬語の働きについて理解を深めている。</p> <p>【態】今までの学習を生かして、積極的に敬語の働きについて理解しようとしている。</p>
9月	<p>聞き上手になろう</p> <p>質問で思いや考えを引き出す</p> <p>2時間</p> <p>◎言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする。(思・判・表A(2)ア)</p>	1	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 インタビューの準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材文を読んで、役割を決める。 ・「今、夢中になっていること」や「最近気になるニュース」をテーマに、インタビューの準備を行う。 ・教科書の例を参考に、思いや考えを引き出すためにどのように質問したらよいかを考える。 <p>→二次元コード「インタビューをする」</p> <p>◇「話し手としての準備」、「聞き手としての準備」の両方をさせる。</p> <p>2 インタビューを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話し手」、「聞き手」、「聴衆」の役割を交代しながら、一人5分程度でインタビューを行う。 <p>→P116カギ「質問で思いや考えを引き出す」</p> <p>→P280資「『学びのカギ』一覧」(話す・聞く)</p> <p>→二次元コード「学びの地図」</p> <p>→P284資「インタビューをする」</p> <p>◇聞き手と聴衆で話しやすい雰囲気を作り出すように促す。</p> <p>3 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話し手」、「聞き手」、「聴衆」それぞれの立場から、気づいたことや考えたことを出し合う。 	<p>【知・技】言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。(1)ア) →どのように質問をすると、相手がさらに話したくなるかを考えている。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) →話の要点や全体像を考えながら聞き、話を広げたり深めたりする質問をしている。 <p>【態】論理の展開などに注意して粘り強く聞き、今までの学習を生かして思いや考えを引き出すインタビューをしようとしている。</p>
10月	<p>漢字2</p> <p>同じ訓・同じ音をもつ漢字</p> <p>漢字に親しもう3</p> <p>1時間</p> <p>◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字</p>	1	<p>1 教材文を読み、同じ訓をもつが、意味の異なる漢字(同訓異字)の使い分けについて理解する。</p> <p>2 教材文を読み、同じ音をもつ漢字から成る言葉(同音異義語)の使い分けについて理解する。</p> <p>3 P119の練習問題とP120「漢字に親しもう3」に取り組む。</p> <p>→二次元コード「漢字一覧表」</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ)

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>		<p>→P260「小学校六年生で学習した漢字一覧」</p> <p>→P308【資】「二年生で学習した漢字」</p> <p>→P321【資】「二年生で学習した音訓」</p> <p>◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。</p> <p>◇P257「[練習] 小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。</p>	<p>→文脈や言葉の意味に注意して、漢字を読んだり、書いたりしている。</p> <p>【態】積極的に同訓異字や同音異義語を理解し、学習課題に沿って漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
5 論理を捉えて				
10月	<p>モアイは語る——地球の未来 5時間</p> <p>◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎文章の構成や論理の展開について考えることができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★論説の文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p>	1 2 3 4-5	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →【二次元コード】「漢字の練習」</p> <p>2 文章の構成に着目し、内容を捉える。 ・文章全体を序論・本論・結論に分ける。(課題1-①) ◇筆者の主張が書かれている段落(結論)を見つけ、その主張を支えるために序論と本論があることを押さえるとよい。 ・問いと答え、その根拠として示された事実を表にまとめる。(課題1-②)</p> <p>3 論理の展開を吟味する。 ・筆者が考えるイースター島と地球との共通点とは何か、考える。(課題2-①) ・「モアイの秘密」を解き、それを基に地球の未来を語る筆者の論理の展開について、「効果」や「説得力」という観点で吟味し、話し合う。(課題2-②) →P129【カギ】「論理の展開を吟味する」 →P130「思考のレッスン1 根拠の吟味」 →P278【資】『「学びのカギ」一覧(説明文)』 →【二次元コード】「学びの地図」 ◇本論で述べられたイースター島の事例が、地球の未来を語る上での根拠となっていることに気づかせる。</p> <p>4 筆者の主張に対する意見を文章にまとめる。(課題3) ・自分の知識や経験と結び付け、立場を明確にして、200字程度でまとめる。 ◇P127「モアイ・イースター島研究について」なども参考に、筆者の主張に対する自分の立場を明確に示させる。</p> <p>5 学習を振り返る。 →P129【言の葉】</p> <p>・筆者は本文の中で、何を根拠に、どのような意見を述べているかを挙げる。 ・論理の展開について吟味するとき、最も説得力を感じた友達の意見はどのようなものだったか、自分の言葉でまとめる。 ・論理の展開を吟味するときに大切だと感じたことを挙げる。</p>	<p>【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →筆者の意見(主張)がどのような根拠によって支えられているかを捉えるとともに、より適切な根拠の在り方を理解している。</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開について考えている。(C(1)エ) →文章全体の構成を捉え、意見と根拠の結び付きや論の進め方を吟味している。</p> <p>・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →自分の知識や体験と重ね、筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめている。</p> <p>【態】論理の展開について粘り強く吟味し、学習の見通しをもって筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめようとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
10月	思考のレッスン1 根拠の吟味 1時間 ◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたいや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 教材文を読み、根拠の適切さの吟味のしかたと、意見の説得力の高め方について理解する。 ◇P130に示されているような事例が身の回りにないか、考えさせるとよい。 2 問題1、2に取り組む。 ◇P131のチェックポイントで、根拠を吟味する観点を押さえるとよい。 3 学習を振り返る。 ・文章を読んだり、話を聞いたりするときには、根拠を把握し、その根拠や「理由づけ」が適切かどうかを吟味することが大切だということを確認する。 →二次元コード「漢字の練習」	【知・技】 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア →適切な根拠の吟味のしかたを理解して、問題1、2に取り組んでいる。 【態】 今までの学習を生かして、積極的に意見と根拠の関係について理解しようとしている。
10月	適切な根拠を選んで書こう 意見文を書く 5時間 ◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ) ◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたいや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 ◇授業の導入として、「書くことのミニレッスン」に取り組みせるとよい。 →二次元コード「書くことのミニレッスン」 1 課題を決め、調べる。 ・地域や社会で話題や問題になっていることなどの中から課題を決める。 →P14「続けてみよう」 →P282[資]「発想を広げる」 →二次元コード「表現テーマ例集」(「書くことのミニレッスン」内) ・課題に関する情報を集めて、自分の意見を決め、それを支える根拠を探す。	【知・技】 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア →自分の意見を支えるための適切な根拠を選んでいる。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。(B(1)イ) →段落のまとまりを意識して、自分の意見が明確に伝わるよう文章の構成を決めたり、段落の順序を検討したりしている。 ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →根拠となる事実を具体的に示したり、想定される反論に対する意見を示したりしている。 【態】 粘り強く根拠の適切さを考え、学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。
2	2 構成を考える。 ・適切な根拠を選び、「理由づけ」を考える。 →P130「思考のレッスン1 根拠の吟味」 ◇根拠と「理由づけ」についてグループ内で助言を求める場をもたせるとよい。 ・読み手にとってわかりやすい段落の構成を考え、全体の構成を決める。 →P133[カギ]「適切な根拠を選び、構成を工夫する」 →P280[資]『「学びのカギ」一覧』(書く) →二次元コード「学びの地図」 →P341[資]「ICT活用のヒント」 ◇タブレット端末などを活用して、文章の構成を検討させてもよい。			
3-4	3 意見文を書く。 ・600～800字程度でまとめる。 ・根拠の適切さ、「理由づけ」の説得力などの観点で推敲する。 →P134[言の葉]			
	4 交流する。 ・意見文を友達と読み合い、納得できた点や疑問点、改善点などを伝え合う。			
5	5 学習を振り返る。 ・どのようなことに注意して、自分の意見を支える根拠を選んだか、確かめる。 ・自分の意見を明確に伝えるために、どのような基準で根拠を選び、どのように構成を工夫したか、自分の言葉でまとめる。 ・意見をわかりやすく伝える工夫の中で、次に使ってみたいものを一つ挙げる。			

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			◇P132「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	
10月	聴きひたる 月夜の浜辺 1時間 ◎抽象的な概念を表す語句の量を増すと同時に、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 朗読音声を聴き、言葉の響きやリズムを味わう。 →二次元コード「朗読音声」 ・七音の繰り返しのリズムや反復表現に注目する。 ・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ・「忍びず」、「袂」、「沁みる」などの語句の意味を確認する。 2 表現に着目し、その効果について考える。 ・反復表現や対句表現、反語表現に着目し、詩の情景や作者の心情を想像する。 ・七音の繰り返しのリズムや反復の効果を感じ、情景や心情を想像しながら読む。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すと同時に、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ →詩の中の語句に着目し、詩全体の世界を豊かに想像している。 【態】進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして詩を味わおうとしている。
10月	季節のしおり 秋 ・抽象的な概念を表す語句の量を増すと同時に、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	-	・秋の行事・暦に関わる言葉や、秋の情景を詠んだ短歌や俳句を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P66「短歌の創作教室」、P110「表現を工夫して書こう」、P224「描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。 ◇秋をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すと同時に、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ →作品中の「秋」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
6 いにしえの心を訪ねる				
10月	音読を楽しむ 平家物語 「平家物語」の世界／ 「平家物語」の主な登場人物たち 1時間 ◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方をすることができる。(知・技(3)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 「平家物語」の冒頭部分を音読し、独特の調子とリズム、言葉の響きを味わう。 →二次元コード『平家物語』冒頭 朗読音声 2 『平家物語』の世界』『平家物語』の主な登場人物たちを読み、「平家物語」の概要や文章の特徴、主要な登場人物やあらすじについて知る。 →P304資料「敦盛の最期」 3 冒頭部分の現代語訳を読み、「平家物語」を貫く「無常観」を知る。 4 作品を貫く「無常観」と重ねて、再度冒頭部分を朗読する。 ・歴史的仮名遣いに注意して読む。 ◇漢語を交えた七五調のリズムを意識して暗唱させる。	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア →漢語を交えた独特の調子とリズムを捉えて朗読している。 ・現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3)イ →冒頭部分の現代語訳や、「平家物語」のあらすじを読んで、「無常観」を感じ取っている。 【態】進んで古典に表れたものの見方や考え方を知り、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
11月	扇的 —— 「平家物語」から 3時間 ◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通し	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ・歴史的仮名遣いの読み方を確認する。 →二次元コード『平家物語』朗読音声	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア →古典の文章独特の調子やリズムを意識して朗読している。 ・現代語訳や語注などを手がかりに作

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>て、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。(知・技(3)イ)</p> <p>◎登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★古典作品などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	2 2 3	<p>2 朗読して古典のリズムを楽しむ。(課題1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「平家物語」の冒頭部分や「扇の的」の原文を繰り返し朗読し、古文独特の調子やリズムを楽しむ。 <p>3 登場人物の言動から、心情を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与一、見送る源氏の武士たち、義経の思いをそれぞれの言動から考える。(課題2-①) ・「あ、射たり。」と言った人と、「情けなし。」と言った人の気持ちについて話し合う。(課題2-②) <p>4 読み取ったことを基に自分の考えを述べる。(課題3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「平家物語」の登場人物たちの言動から読み取ったものの見方や考え方に対する、自分の考えを述べる。 <p>◇登場人物の言動を文章から引用して、考えたことを述べさせるとよい。</p> <p>◇P141『「平家物語」の世界』、P151「弓流し」の場面、P304「寛」敦盛の最期」を読んで、武士の生き方や価値観などを捉えさせてもよい。</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朗読を通して、古文の調子やリズムについてどんなことを感じたか、自分の言葉でまとめる。 ・登場人物の言動を通して、共感できた人物、できなかった人物は誰か、自分の言葉でまとめる。 ・作品を読んで、現代に通じる(現代とは違う)と感じた部分などを挙げる。 	<p>品を読むことを通じて、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3)イ)</p> <p>→与一や義経の言動、扇の的を射落とした後の人々の反応に着目し、古人のものの見方や考え方を捉えている。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C(1)イ)</p> <p>→「扇の的」での与一の言動や「弓流し」の場面での義経の言動の意味について考え、作品を読み深めている。</p> <p>【態】登場人物の言動の意味について進んで考え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。</p>
11月	<p>仁和寺にある法師 ——「徒然草」から 【書く】人物の特徴を捉えて論じよう 3時間(読②書①)</p> <p>◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア)</p> <p>◎現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通じて、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。(知・技(3)イ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★古典作品などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・</p>	1 2 3	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 全文を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意する語句・新出漢字を調べる。 <p>→二次元コード「漢字の練習」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的仮名遣いの読み方を確認する。 <p>→二次元コード『徒然草』朗読音声</p> <p>→P156「係り結び」</p> <p>2 現代語訳や注を手がかりにして読み、文章の内容を捉える。(課題1)</p> <p>3 本文を読み、内容をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仁和寺の法師の勘違いの内容を、P155脚注の絵を使って説明する。(課題2-①) <p>◇仁和寺の法師と同じような経験をしたことがないか、考えさせてもよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作者が仁和寺の法師の勘違いをどのように捉えているか、判断できる部分を古文から抜き出す。(課題2-②) <p>4 作者の考え方について話し合う。(課題3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仁和寺の法師の描き方や、「少しのことも…」の一文から、作者のものの見方や考え方、人物像を想像して話し合う。 <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この作品には、どのような「ものの見方や考え方」が表れていたか、自分の言葉でまとめる。 ・どの記述を基に、作者のものの見方や考え方、人物像を想像したか、確かめる。 ・作者のものの見方や考え方は、現代でも通用するかどうか考える。 <p>6 人物の特徴を捉えて、論じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P157「人物の特徴を捉えて論じよう」を読み、 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) <p>→古典の文章独特の調子やリズムを意識して朗読している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通じて、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3)イ) <p>→現代語訳や語注などを手がかりにして、仁和寺の法師の言動やそれに対する作者のものの見方、考え方を理解している。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) <p>→作者のものの見方について、仁和寺の法師の描き方などを踏まえて考えたことを話し合っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。(B(1)イ) <p>→文章の構成を工夫して、古典の登場人物について論じる文章を書いている。</p> <p>【態】積極的に知識や経験と結び付けて考えを広げたり深めたりし、学習の見通しをもって登場人物について論じる文</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	判・表C(2)イ) ★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)		手順を確かめる。 ・「扇的」や「仁和寺にある法師」の登場人物の中から、論じる人物を決める。 ・選んだ人物の特徴を捉えて、人物像を300字程度の文章にまとめる。 →P270「語彙ブック」(人物を表す言葉) 7 文章を友達と読み合い、感想や意見を述べ合う。 8 学習を振り返る。 ・原文の内容を踏まえて登場人物の特徴を捉え、わかりやすく伝えられるように文章の構成を工夫したか、確かめる。	章を書こうとしている。
11月	漢詩の風景 3時間 ◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方をすることができる。(知・技(3)イ) ◎観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★漢詩などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1 2 3	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 →二次元コード「漢詩 三編 朗読音声」 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ◇返り点や訓読のしかたを振り返るとよい。 2 漢詩に描かれた情景や心情を読み取る。(課題1) ・漢詩に描かれた季節、情景、作者の心情を、解説の文章を手がかりにして読み取る。 3 構成や表現の効果を味わう。 ・それぞれの漢詩について、筆者が目にした構成や表現とその効果を、簡潔にまとめる。(課題2-①) ・漢詩の中から気に入った表現を選び、引用して、表現の効果やよいと思った理由を伝え合う。(課題2-②) 4 漢詩の特徴を生かして朗読する。 ・グループで朗読の会を開き、漢詩に描かれた情景や心情、構成や表現の効果などが伝わるように工夫して朗読する。(課題3-①) ◇漢詩特有の言葉遣いや調子に着目させるとよい。 ・何を伝えるために、どんな工夫をしたかを交流し、互いの朗読の優れたところを伝え合う。(課題3-②) ◇P164「律詩について」を読み、絶句と律詩の違いを理解させる。好きな漢詩を選ぶ際、教材の三つの漢詩に「春望」を加えることもできる。 5 学習を振り返る。 ・漢詩のどのような特徴が伝わるように朗読したか、自分の言葉でまとめる。 ・漢詩に使われている表現の中で特に効果的だと感じたものは何か、自分の言葉でまとめる。 ・朗読のしかたを工夫したり、友達の朗読を聞いたりする中で、新たに発見したことや、理解が深まったことを挙げる。	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) →漢文特有の言葉遣いや調子を意識して朗読している。 ・現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3)イ) →解説の文章を手がかりにして、詩の作者の思いを想像し、古人のものの見方、考え方について考えを深めている。 【思・判・表】「読むこと」において、観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ) →好きな漢詩を選び、気に入った表現や句を引用しながら、構成や表現の効果を伝え合っている。 【態】進んで漢詩の構成や表現の効果を考え、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
7 価値を語る				
11月	君は「最後の晩餐」を知っているか 「最後の晩餐」の新しさ 5時間 ◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎観点を明確にして文章を比較	1-2	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 2 二つの文章を比べながら読み、内容を捉える。 ・筆者の着眼点や、筆者が端的に「最後の晩餐」	【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2)イ) →二つの文章を比較し、それぞれの特徴や共通点・相違点を表に整理している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、観点を明確にし

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたいや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★評論や解説の文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p>	3-4 5	<p>を評した言葉に、印を付ける。(課題1-①) →P179「言の葉」</p> <p>・「君は『最後の晩餐』を知っているか」の筆者が、「最後の晩餐」を「かつこいい」と思った理由を、本文中の言葉を使って説明する。(課題1-②)</p> <p>・『『最後の晩餐』の新しさ』で筆者が指摘する「新しさ」について、本文で取り上げられている「新しさ」の要素を挙げる。(課題1-③)</p> <p>3 文章を比較し、気づいたことを話し合う。(課題2)</p> <p>・「最後の晩餐」の魅力を説明する方法(説明のしかた)や、文章の書き方、表現の特徴といった観点で二つの文章を比較し、気づいたことやその効果について考えたことを話し合う。 →P179「カギ」「観点を明確にして文章を比較する」 →P278「資」「『学びのカギ』一覧」(説明文) →二次元コード「学びの地図」</p> <p>◇二つの文章を表に整理して観点ごとに比較させる。P179に示されている観点を参考にしてまとめるとよい。</p> <p>4 筆者の意図や目的を考える。(課題3)</p> <p>・筆者はそれぞれ、読者に何を伝えるためにこのような書き方を選んだのか、文章を書いた目的と書き方の特徴を結び付けて考える。 →二次元コード「筆者インタビュー」</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <p>・文章に含まれる情報を表で整理することには、どんな効果があるか、自分の言葉でまとめる。 ・同じ題材について述べた二つの文章には、どんな違いがあったか、自分の言葉でまとめる。 ・文章の比較を通して気づいたことの中で、次に論説や評論を読むときに生かせそうなことを挙げる。</p>	<p>て文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。(C(1)エ)</p> <p>→文章の構成や表現の特徴などについて、二つの文章を比較して発見したことを話し合っている。</p> <p>・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ)</p> <p>→二つの文章を比較したり、書き方の特徴を捉えたりすることで、筆者が文章を書いた意図や目的についての自分の考えを深めている。</p> <p>【態】進んで観点を明確にして文章を比較し、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。</p>
11月	<p>思考のレッスン2 具体と抽象 1時間</p> <p>◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたいや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1	<p>1 教材文を読み、具体と抽象について理解する。 ◇「具体」、「具体化」、「抽象」、「抽象化」などの用語を理解させ、今後の学習に生かせるようにしておくとうい。</p> <p>2 問題1、2に取り組む。</p> <p>3 学習を振り返る。</p> <p>・考えを伝え合うときに、具体と抽象の観点を意識しながら話し合うと理解が深まることを確認する。 →二次元コード「漢字の練習」</p>	<p>【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →複数の情報をまとめて抽象化したり、言葉の意味を具体例を挙げて説明したりしている。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に具体と抽象の関係について理解しようとしている。</p>
12月	<p>季節のしおり 冬</p> <p>・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ)</p> <p>・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたいや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	-	<p>・冬の行事・暦に関わる言葉や、冬の情景を詠んだ短歌や俳句を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P66「短歌の創作教室」、P110「表現を工夫して書こう」、P224「描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。 ◇冬をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。</p>	<p>【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ) →作品中の「冬」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。</p> <p>【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
12月	<p>【話し合い（進行）】 話し合いの流れを整理しよう 1時間</p> <p>◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★それぞれの立場から考えを伝えるなどして、議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ)</p>	1	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 進行役になったつもりで話し合いの様子を視聴する。 →二次元コード「話し合いの様子」</p> <p>2 進行役の最後の発言に続く形で、参加者から出た意見をまとめる。 ◇要点を絞ってメモを取るように促す。</p> <p>3 P184下段の「話し合いの流れを整理するために」を参考に、まとめた意見を見直す。 ◇単なる意見の羅列ではなく、意見どうしの関係や、意見に対する評価も合わせてまとめるよう促す。</p> <p>4 見直して気づいたことを手がかりに、話し合いの流れを整理するときに必要なことをグループで話し合う。</p> <p>5 学習を振り返る。 ・話し合いの流れを整理する際のポイントを確認する。</p>	<p>【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →話し合いで出た意見と意見の間に、どのような関係があるか、整理している。</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。(A(1)オ) →意見の内容や意見どうしの関係に気をつけて、話し合いの流れを整理している。</p> <p>【態】話し合いの流れを整理するときに必要なことを進んで考え、今までの学習を生かして話し合おうとしている。</p>
12月	<p>文法への扉2 走る。走らない。走ろうよ。 文法2 用言の活用 2時間</p> <p>◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。(知・技(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1-2	<p>1 P185の導入や解説を読み、動詞の語の形の変化のしかたに規則性がありそうなことを知る。 →二次元コード「文法ワーク」</p> <p>2 P246「文法2 用言の活用」を読み、「活用」の意味や活用形などの用語、動詞・形容詞・形容動詞の活用について理解する。 ・下段の練習問題に取り組み、理解の程度を確認する。 →二次元コード「練習問題」 ◇必要に応じて、P250の活用表を参照し、表の方向や語の変化の規則性を確認するとよい。</p>	<p>【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。(1)オ) →用言の活用形と活用の種類について、語例を基に理解している。</p> <p>【態】今までの学習を生かして、積極的に単語の活用について理解しようとしている。</p>
12月	<p>立場を尊重して話し合おう 討論で視野を広げる 4時間</p> <p>◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★それぞれの立場から考えを伝えるなどして、議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ)</p>	1	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 テーマについて情報を集める。 ・テーマと用語の定義を全体で確認する。 ・各自、現状やメリット・デメリットを調べ、根拠となる情報を集める。 →P14「続けてみよう」 →P282「発想を広げる」 →二次元コード「表現テーマ例集」 ◇賛否や是非の分かれるものを選ばせるとよい。</p> <p>2 立場に分かれ、考えをまとめる。 ・立場（肯定側・否定側）を決め、意見と根拠、理由づけを整理する。 →P130「思考のレッスン1 根拠の吟味」 →P132「適切な根拠を選んで書こう」</p> <p>3 グループで討論する。 ・司会1名を決め、肯定側2名・否定側2名で討論する。 ◇グループの中で役割を交代しながら討論を行うとよい。</p>	<p>【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →適切な根拠となる情報を集め、意見と根拠、理由づけを整理している。</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。(A(1)オ) →互いの意見の共通点や相違点、話し合いの論点を踏まえて質問したり反論したりし、振り返りにおいて自分の考えをまとめている。</p> <p>【態】進んで互いの立場や考えを尊重し、学習の見通しをもって討論しようとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			<p>→P116「聞き上手になろう」</p> <p>→P183「[話し合い(進行)]話し合いの流れを整理しよう」</p> <p>→P187【カギ】「互いの立場や意見を尊重する」</p> <p>→P280【窓】『『学びのカギ』一覧』(話す・聞く)</p> <p>→【二次元コード】「学びの地図」</p> <p>→【二次元コード】「討論をする」</p> <p>◇タブレット端末などを用いて、討論の様子を録画させておくとよい。</p> <p>→P341【窓】「ICT活用のヒント」</p> <p>4 討論を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手側の意見や質問などを通して得られた新たな気づきを報告し合う。 ・司会は、肯定側・否定側のよかった点を伝え、共有する。 <p>◇録画を見て振り返るようにするとよい。</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見を裏づける適切な根拠を示すために、どんなことに気がつけたか、自分の言葉でまとめる。 ・異なる立場や意見を尊重しながら話し合ううえで、どのような発言が効果的だったか、確かめる。 ・実際に体験してわかったことを基に、討論が役立つような場面を挙げる。 <p>◇P186「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。</p>	
12月	<p>漢字に親しもう4 1時間</p> <p>◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1	<p>1 P190「漢字に親しもう4」に取り組む。</p> <p>→【二次元コード】「漢字一覧表」</p> <p>→P260「小学校六年生で学習した漢字一覧」</p> <p>→P308【窓】「二年生で学習した漢字」</p> <p>→P321【窓】「二年生で学習した音訓」</p> <p>◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。</p> <p>◇P257「[練習]小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。</p>	<p>【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ)</p> <p>→文や文章の中で漢字を読んだり書いたりしている。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
いつも本はそばに				
12月	<p>「自分らしさ」を認め合う社会へ父と話せば／ 六千回のトライの先に 読書案内 本の世界を広げよう 1時間</p> <p>◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。(知・技(3)エ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことや</p>	1	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 P192「父と話せば」を通読する。 ◇筆者の著書を紹介するとよい。</p> <p>2 P195「六千回のトライの先に」を通読する。 ◇原典の本を紹介するとよい。</p> <p>3 感想を伝え合う。 ・教材文を自分の知識や経験と結び付けて読み、初めて知ったこと、興味をもったこと、疑問に思ったことなどを伝え合う。</p> <p>4 P200「本の世界を広げよう」を参考に、今後読みたい本を考える。</p>	<p>【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ)</p> <p>→実体験を基に書かれた作品の魅力に触れ、今後読みたい本を選んでいる。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ)</p> <p>→教材文を自分の知識や経験と結び</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★本や新聞、インターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかにしながら、考えたことなどを説明したり提案したりする。(思・判・表C(2)ウ)</p>		<p>→P290【資】「盆土産」</p> <p>→P299【資】「形」</p> <p>→【二次元コード】「漢字の練習」</p>	<p>付けて読み、感想を伝え合っている。</p> <p>【態】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを進んで知り、今までの学習を生かして感想を伝え合おうとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
8 表現を見つめる				
1月	<p>走れメロス</p> <p>〔書く〕作品の魅力をもとめ、語り合おう</p> <p>漢字に親しもう5</p> <p>8時間(読⑥書②)</p> <p>◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ)</p> <p>◎登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)イ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたいとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★小説を読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)</p> <p>◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたいとする。</p>	<p>1-2</p> <p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 全文を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意する語句・新出漢字を調べる。 <p>→二次元コード「漢字の練習」</p> <p>◇初読の感想を書かせておくと、課題3で作品の魅力語る際に、学習の初めと終わりで作品の印象や自分の考えがどのように変わったかを振り返ることもできる。</p> <p>2 作品の設定と場面の展開を押さえる。(課題1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の設定を確かめ、人物、時、場所、出来事などに着目して幾つかの場面に分ける。 <p>3-5</p> <p>3 場面の展開に即して人物像を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冒頭からメロスが王城を出発するまでの場面で、メロスと王はどんな人物として描かれているかを考える。(課題2-①) ・村から刑場に向かう途中、メロスの考え方や心情は、どんな出来事をきっかけに、どのように変化したかを考える。(課題2-②) ・王の考え方や心情は、何をきっかけにどう変化したかを考える。(課題2-③) <p>→P221〔カギ〕「人物像に着目する」</p> <p>→P276〔資〕「『学びのカギ』一覧」(文学)</p> <p>→二次元コード「学びの地図」</p> <p>◇場面の展開と人物像の変化を結び付けて読み取らせるるとよい。</p> <p>6-8</p> <p>4 作品の魅力をもとめ、語り合う。(課題3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が感じた作品の魅力的文章にまとめる。 ・まとめた文章を基に、作品の魅力グループで語り合う。 <p>→P221〔言の葉〕</p> <p>◇原作(詩「人質」シラー作)を合わせて読み、構成や表現の特徴について、共通点・相違点を整理し、「走れメロス」の魅力を考える学習も考えられる。</p> <p>→P179〔カギ〕「観点を明確にして文章を比較する」</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの語句に着目して、作品の魅力語ったか、自分の言葉でまとめる。 ・友達との交流で新しく気づいた作品の魅力にはどんなものがあるか、自分の言葉でまとめる。 ・他の文学作品を読むときに生かせそうな、分析の観点を挙げる。 <p>6 P222「漢字に親しもう5」に取り組む。</p> <p>→二次元コード「漢字一覧表」</p> <p>→P260「小学校六年生で学習した漢字一覧」</p> <p>→P308〔資〕「二年生で学習した漢字」</p> <p>→P321〔資〕「二年生で学習した音訓」</p> <p>◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。</p> <p>◇P257「〔練習〕小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。</p>	<p>【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ)</p> <p>→作品中の漢語を和語に置き換えると、印象がどのように変わるかを考えている。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C(1)イ) →メロスや王の言動に着目して、考え方や心情の変化を読み取っている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →メロスの行動や考え方で共感できたところ・できなかったところを、自分の知識や経験と結び付けて考えている。 ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →登場人物の人物像や表現のしかたなど、観点を明確にして作品の魅力文章にまとめている。 <p>【態】登場人物の言動の意味などについて粘り強く考え、学習の見通しをもって作品の魅力文章にまとめようとしている。</p> <p>【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ)</p> <p>→文や文章の中で漢字を読んだり書いたりしている。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	て、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)			
1月	文法への扉3 一字違いで大違い 文法3 付属語 2時間 ◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。(知・技(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1-2	1 P223の導入や解説を読み、付属語を使い分けることで内容的に正確に伝えられることを知り、その働きや種類について学ぶことを理解する。 →二次元コード「文法ワーク」 2 P251「文法3 付属語」を読み、助動詞や助詞の種類や働きについて理解する。 ・下段の練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。 →二次元コード「練習問題」 ◇必要に応じて、P256「口語助動詞活用表」を参照し、活用形や接続のしかたについて確認するとよい。	【知・技】 単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解する。(1)オ) →助詞・助動詞の働きや種類について理解し、文や文章で使われている助詞や助動詞の意味・用法を判別している。 【態】 今までの学習を生かして、積極的に助詞や助動詞の働きについて理解しようとしている。
1月	描写を工夫して書こう 心の動きが伝わるように物語を書く 5時間 ◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ◎表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★物語を創作するなど、感じたことや想像したことを書く。(思・判・表B(2)ウ)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 ◇授業の導入として、「書くことのミニレッスン」に取り組みせるとよい。 →二次元コード「書くことのミニレッスン」 1 題材を決める。 ・日常生活を振り返り、「心が動いた瞬間」を書き出し、整理する。 →P14「続けてみよう」 →P66「短歌の創作教室」 →P282【資】「発想を広げる」 →二次元コード「表現テーマ例集」(「書くことのミニレッスン」内)	【知・技】 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ) →これまでに読んだ物語や小説の表現を参考にして、場面の様子や人物の心情を表す表現を使って書いている。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →読み手が場面の様子や人物の心情を具体的に想像できるように、表現の効果を考えながら描写を工夫している。 ・「書くこと」において、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) →書いた物語を友達と読み合い、よい点や改善点を伝え合っている。
		2	2 設定や構成を考える。 ・設定(時、場所、登場人物)を考える。 ・自分の心情や考えが変化した場面を中心に、あらすじを考える。 ・状況設定・発端、展開、山場、結末の流れで構成を考える。	
		3-4	3 物語を書く。 ・描写を工夫して物語を書く。 ・書きあがったら、推敲する。 ◇これまでに学習してきた物語や小説の表現を振り返らせ、どんな点を生かしたいかを考えさせるとよい。 ◇登場人物の呼称を一人称、三人称のどちらかに決め、書き手の視点を貫かせる。 →P204「走れメロス」 →P225【カギ】「表現の効果を考えて描写する」 →P227【言の葉】 →P227「達人からのひと言」 →P268「語彙ブック」(感覚で捉えた言葉) →P280【資】『「学びのカギ」一覧』(書く) →二次元コード「学びの地図」	
		5	4 作品を読み合う。 ・作品を読み合い、表現の工夫とその効果について、感想や助言を伝え合う。 ・友達の感想や助言などを踏まえ、自分の作品の	【態】 粘り強く描写を工夫し、学習の見通しをもって物語を創作しようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			<p>よい点や改善点を見いだす。</p> <p>◇作品評価の観点を示したワークシートなどを用意し、それに基づいて交流させるとよい。</p> <p>◇タブレット端末などの書き込み機能を活用して、助言させ合ってもよい。</p> <p>→P341[資]「ICT活用のヒント」</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに使えるようになった言葉や表現には、どんなものがあるか、挙げる。 ・心が動いた瞬間を読み手に伝えるために、表現においてどのような工夫をしたか、自分の言葉でまとめる。 ・物語を書いたり作品を読み合ったりする中で気づいた、描写を工夫することのよさや効果について、話し合う。 <p>◇P224「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。</p>	
2月	<p>言葉3 話し言葉と書き言葉</p> <p>2時間</p> <p>◎話し言葉と書き言葉の特徴について理解することができる。(知・技(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1-2	<p>1 導入の例文から、話し言葉と書き言葉の違いについて考える。</p> <p>◇学校生活の話題を、簡単な話し言葉と書き言葉で表現してその違いに気づかせるとよい。</p> <p>2 音声の性質から話し言葉の特徴を、文字の性質から書き言葉の特徴を捉え、それぞれの伝え方の注意点や工夫について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同音異義語の伝え方を理解する。(話し言葉) ・漢字、平仮名、片仮名、句読点、常体・敬体の使い方に注意する。(書き言葉) <p>◇P229「生活に生かす」を用いて、SNSでのコミュニケーションを考える学習につなげることもできる。</p>	<p>【知・技】話し言葉と書き言葉の特徴について理解している。(1)イ)</p> <p>→話し言葉と書き言葉について、それぞれの特徴を理解し、表現する際にどのような注意が必要かを考えている。</p> <p>【態】今までの学習を生かして、積極的に話し言葉と書き言葉の特徴について理解しようとしている。</p>
2月	<p>漢字3 送り仮名</p> <p>2時間</p> <p>◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1	<p>1 導入の例から、送り仮名が漢字の読みを明らかに示すために付けられていることを確認する。</p> <p>2 教材文を読み、送り仮名の付け方の主な原則と例外について理解する。</p> <p>◇P230下段「活用のある語」では、表中の[]に活用語尾を直接書き込んでよい。</p> <p>◇活用語尾などについて、P246文法2「用言の活用」で確認させる。</p> <p>3 P231の練習問題に取り組む。</p> <p>◇教材の語以外に、間違えやすい送り仮名にはどのようなものがあるかを考えさせるとよい。</p> <p>→P321[資]「二年生で学習した音訓」</p> <p>→[二次元コード]「漢字一覧表」</p>	<p>【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ)</p> <p>→送り仮名に注意して、漢字を読んだり書いたりしている。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
2月	<p>国語の学びを振り返ろう</p> <p>「国語を学ぶ意義」を考え、コピーを作る</p> <p>4時間(話聞①書③)</p> <p>◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p>	1	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 対話を通して考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年間の学習を振り返り、できるようになったことや、自分が変わったと思うことを語り合う。 ・「国語を学ぶ意義」を考える。 <p>◇P6「学習の見通しをもとう」を開いて学習した内容を振り返らせるとよい。</p>	<p>【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>→これまでの学習活動における具体的な変化を抽象化してまとめている。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>◎互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ)</p> <p>◎表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★それぞれの立場から考えを伝えるなどして、議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ)</p> <p>★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	2 3-4	<p>→P233 カギ 「これまでの学びを価値づける」</p> <p>→P234 言の葉</p> <p>→P280 資 『「学びのカギ」一覧』(話す・聞く／書く)</p> <p>→ 二次元コード 「学びの地図」</p> <p>2 コピーにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が考える「国語を学ぶ意義」を、コピーにまとめる。 <p>3 コピーの説明を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> そのコピーを付けた意図や理由を、200～300字程度で説明する。 <p>4 クラスで共有し、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品を読み合い、学びの価値づけ方や解説のしかたについて、よいと思った点やもっと知りたい点などを伝え合う。 <p>◇タブレット端末などのコメント機能を活用して、交流させてもよい。</p> <p>→P341 資 「ICT活用のヒント」</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年間の学びを振り返る際に、具体的な変化をどのように抽象化してまとめたか、確かめる。 対話の際に、互いの考えを尊重しながら、さらに考えを深めるために、どのような点を心がけたか、自分の言葉でまとめる。 作品に付いたコメントから見いだした、自分の文章のよい点や改善点は何か、挙げる。 友達の作品を読み、さらに考えが深まったことや新しく気づいたことを挙げる。 <p>◇P232「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。</p>	<p>い、結論を導くために考えをまとめている。(A(1)オ)</p> <p>→互いの考えを尊重しながら対話し、それを通して自分の考えを整理したり、価値づけたりしてまとめている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」において、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) <p>→自分の作品の読み手からのコメントを通して、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。</p> <p>【態】粘り強く国語を学ぶ意義を考え、今までの学習を生かしてコピーにまとめてクラスで交流しようとしている。</p>
3月	<p>鍵 2時間</p> <p>◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ)</p> <p>◎詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★詩歌を読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	1 2	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 詩を音読する。</p> <p>2 印象に残った語句や表現を話し合う。(課題1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 詩の中の印象に残った語句や表現を挙げ、感想や疑問を出し合う。 <p>3 表現の意味を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 詩の中に書かれた「鍵」の特徴を発表する。(課題2-①) 「鍵」によって「ひらかれる」「扉」の向こうには、どんなものがあるか考える。(課題2-②) <p>2 4 作者のものの見方について語り合う。(課題3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「私」は「この世」をどんな世界と捉えているのか、自分が考える「この世」との共通点や相違点を基に、作者のものの見方について考え、友達と語り合う。 <p>◇詩から読み取った作者のものの見方について、自分のこれまでの知識や経験と結び付けて考えさせるとよい。</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 詩の中で使われているどのような語句に着目したか、挙げる。 作者のものの見方を考える手がかりとなった友達の発言にはどんなものがあったか、振り返る。 「鍵」という作品との出会いで自分の考えがどう変化したか、ひと言で表す。 	<p>【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ)</p> <p>→抽象的な概念を表す言葉に着目し、詩の中での意味を考えている。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ)</p> <p>→自分の知識や経験と結び付けて、作者のものの見方について考えている。</p> <p>【態】詩を読んで理解したことや考えたことを進んで知識や経験と結び付け、学習課題に沿って作者のものの見方について話し合おうとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
国語の力試し				
3月	<p>国語の力試し</p> <p>3時間</p> <p>◎類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解することができる。(知・技(1)エ)</p> <p>◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)カ)</p> <p>◎文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>◎観点を明確にして文章を比較するなどし、表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ)</p> <p>◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果をj考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>◎読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にjして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★古典作品などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>★説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする。(思・判・表A(2)ア)</p> <p>★社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く。(思・判・表B(2)イ)</p>	<p>1</p> <p>1 P263-266の問題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・40分を目安に問題を解く。 ・解き終わったら、解答と採点基準を確認し、自己採点をする。 <p>◇タブレットやパソコンで問題に取り組んだり、解答を確認したりさせるとよい。</p> <p>→二次元コード「タブレットやパソコンで問題に取り組もう」</p> <p>◇「話す力・聞く力」の問題を解くときには、教科書の文章を読ませてもよいが、二次元コードから音声聞かせ、メモを取らせるほうが望ましい。</p> <p>→二次元コード「話す力・聞く力」</p> <p>2</p> <p>2 P262の二次元コードから、発展問題に取り組む。</p> <p>→二次元コード「タブレットやパソコンで問題に取り組もう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・40分を目安に問題を解く。 ・解き終わったら、解答と採点基準を確認し、自己採点をする。 <p>3</p> <p>3 振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間違ったところを改めて見直したり、それぞれの設問に関連する教材に立ち戻って、学習の要点を確認したりする。 <p>→P36「枕草子」</p> <p>→P109「カギ」「表現の効果を考える」</p> <p>→P29「[[聞く]意見聞き、整理して検討する」</p> <p>→P112「[[推敲]表現の効果を考える」</p> <p>→P110「カギ」「表現を工夫して思いを伝える」</p> <p>→P113「言葉2 敬語」</p> <p>→P72「言葉1 類義語・対義語・多義語」</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解している。(1)エ) →類義語の意味や用法を比較し、文脈に応じてより適した語を選んでいる。 ・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。(1)カ) →敬語の働きや種類を理解し、電子メールの下書きを推敲したり、文面を書いたりしている。 <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →「枕草子」の原文と、二つの現代語訳を比較して読み、文章の中心的部分を捉えている。 ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、表現の効果について考えている。(C(1)エ) →「枕草子」の二つの現代語訳を比較して読み、表現の効果について考えている。 ・「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) →「卒業生に贈る言葉」についての野口さんの提案を論理の展開に注意して聞き、伝えたいことを捉えるとともに、自分の考えをまとめている。 ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果をj考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →気持ちや用件が的確に伝わるように電子メールを書いている。 ・「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果を確かめて、文章を整えている。(B(1)エ) →読み手の立場に立ち、表現の効果をj考えて電子メールを推敲している。 <p>【態】</p> <p>今までの学習を生かして、それぞれの学習課題に粘り強く取り組もうとしている。</p>	

令和7年度 中学部2年 社会科(地理) 年間指導計画(時数:105)

学期	教科書	項目 (◎学習課題)	学習内容・ 学習活動	指導上の留意点	評価標準の具体例 ①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③=主体的に学習に取り組む態度
第3部 日本のさまざまな地域					
第1章 身近な地域の調査 ■章の問い■ 身近な地域の様子を調べるには、どのような方法があるのだろうか。			<p><第3部第1章のねらい> 場所などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の資質・能力を身に付けることができるようにさせる。</p> <p>①観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解させる。 ①地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付けさせる。</p> <p>②地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現させる。</p> <p>③地域調査の手法について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。</p>		<p><第3部第1章の評価標準> ①観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解している。 ①地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付けている。</p> <p>②地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③地域調査の手法について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>
2年1学期	130 131	1 調査テーマを決めよう ◎調査テーマは、どのように決めるとよいのだろうか。	地域に対する疑問を整理して、調査するテーマを設定し仮説を立てる。	日頃から感じている疑問や写真や資料を見て抱いた疑問を、日本の諸地域で学んだ五つの視点で整理・分類させる。	①地図や景観写真、統計資料などを活用し、対象地域に関する疑問をとらえ、対象地域を調べる視点や調査テーマを決める手順を理解している。 ②対象地域に関する疑問や調査するテーマを多面的・多角的に考察している。
2年1学期	132 133	2 調査方法を考えよう ◎調査テーマを追究するためには、どのようなことを、どのように調べればよいのだろうか。	調査を進めるための調査項目や調査方法を考え、野外調査の準備をする。	教室内でできる調査方法と野外調査を組み合わせた計画的な準備を進めさせる。	①調査テーマに対する予想が正しいかどうかを確かめる調査方法に活用できる適切な地図や景観写真、統計資料を収集し、調査テーマに対する予想が正しいかどうかを確かめる調査項目や調査方法について理解している。 ②調査テーマに対する予想やその予想が正しいかどうかを確かめる調査項目や調査方法を多面的・多角的に考察している。
2年1学期	138 139	3 野外調査を実行しよう ◎野外観察や聞き取り調査は、どのように行うとよいのだろうか。	野外調査と聞き取り調査を実施する。	調査ノートを作成し、ルートマップや聞き取り調査の結果、景観のスケッチなどを記録させる。	①調査した結果を適切に記録・活用し、聞き取り調査の方法を理解している。 ②より有効かつ効率的に野外調査が進むような工夫を多面的・多角的に考察している。
2年1学期	140 141	4 調査を深めて結果を発表しよう ◎調査を深め、分析するには、どのような方法があるのだろうか。また、調査結果はどのようにまとめ、発表すればよいのだろうか。	調査した結果をまとめたり、資料を関連させたりして野外調査でわからなかったことを確かめ、地域の特色や課題をとらえる。	調査のテーマや目的、調査方法、調査結果、結論などについて簡潔に記述させたり、視覚的にわかりやすくさせたりする。	①文献などの調査結果から、地域の変容を適切に読み取り、調査のまとめから対象地域の特色や課題を理解している。 ①調査結果を適切にわかりやすくレポートなどにまとめ、よりよい調査結果のまとめ方を理解している。 ②文献資料などを活用して野外調査で見つかった発見や疑問を多面的・多角的に考察している。
第2章 日本の地域的特色 ■章の問い■ 日本の自然環境や人口、産業には、どのような特色があるのだろうか。			<p><第3部第2章のねらい> 「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」の項目を取り上げ、分布や地域などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の資質・能力を身に付けることができるようにさせる。</p> <p>①日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取組などを基に、日本の自然環境に関する特色を理解させる。 ①少子高齢化の課題、国内の人口分布や過疎・過密問題などを基に、日本の人口に関する特色を理解させる。 ①日本の資源・エネルギー利用の現状、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題などを基に、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を理解させる。 ①国内や日本と世界との交通・通信網の整備状況、これを活用した陸上、海上輸送などの物流や人の往来などを基に、国内各地の結び付きや日本と世界との結び付きの特色を理解させる。 ①「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」の項目に基づく地域区分を踏まえ、我が国の国土の特色を大観し理解させる。 ①日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分をする技能を身に付けさせる。</p> <p>②「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」の項目について、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現させる。 ②日本の地域的特色を、「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」の項目に基づく地域区分などに着目して、それらを関連付けて多面的・多角的に考察し、表現させる。</p> <p>③日本の地域的特色と地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。</p>		<p><第3部第2章の評価標準> ①日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取組などを基に、日本の自然環境に関する特色を理解している。 ①少子高齢化の課題、国内の人口分布や過疎・過密問題などを基に、日本の人口に関する特色を理解している。 ①日本の資源・エネルギー利用の現状、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題などを基に、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を理解している。 ①国内や日本と世界との交通・通信網の整備状況、これを活用した陸上、海上輸送などの物流や人の往来などを基に、国内各地の結び付きや日本と世界との結び付きの特色を理解している。 ①「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」の項目に基づく地域区分を踏まえ、我が国の国土の特色を大観し理解している。 ①日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分をする技能を身に付けている。</p> <p>②「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」の項目について、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ②日本の地域的特色を、「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」の項目に基づく地域区分などに着目して、それらを関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③日本の地域的特色と地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>
2年1学期	142 143	1 山がちな日本の地形 ◎日本の国土には、どのような地形的な特色があるのだろうか。	日本の山地や造山帯の特色を理解する。	世界の火山の分布と日本列島の位置との関係に着目させる。	地図を活用して、世界の火山の分布を適切に読み取り、我が国が山がちな国土となっていることを理解している。 ②世界や日本の産地の分布を基にして、我が国の地形的な特色を多面的・多角的に考察させる。
2年1学期	144 145	2 川がつくる地形と海岸や海洋の特色 ◎日本の平野や海岸、日本を取り巻く海には、どのような特色があるのだろうか。	日本の川と平野との関係や特色を理解する。	世界の川や平野の特色と比較し、その違いに気付かせる。	①資料から世界と日本の川や平野の違いを比較しながらそれぞれの特色を読み取り、日本の川や平野の地形的な特色を理解している。 ②日本の川や平野の特色を、世界の川や平野の特色と比較して多面的・多角的に考察している。

令和7年度 中学部2年 社会科(地理) 年間指導計画(時数:105)

学期	教科 書	項目 (◎学習課題)	学習内容・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準の具体例 ①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③=主体的に学習に取り組む態度
2年1学期	146 147	3 日本の気候 ◎日本各地の気候を比較すると、地域によってどのような違いがあるのだろうか。	日本の気候の特色や地域による違いを理解する。	景観写真や雨温図から日本の気候が大きく六つに分けられることに気付かせる。	①雨温図から日本の六つの気候の違いを適切に読み取り、日本の六つの気候の特色を理解している。 ②太平洋側と日本海側で降水量の多い時期が異なる理由を、季節風や地形と関連付けて多面的・多角的に考察している。
2年1学期	148 149	4 日本のさまざまな自然災害 ◎日本で発生する自然災害は、地形や気候とどのような関係があるのだろうか。	日本で発生する自然災害の特色を理解し、地形や気候など自然環境との関連や課題を考える。	これまで発生した自然災害の具体的な事例を活用させる。	①さまざまな資料から、日本の災害の分布を適切に読み取り、日本で発生する自然災害の特色や課題を理解している。 ②さまざまな自然災害が起こる理由を地形や気候など自然環境と関連付けて多面的・多角的に考察している。
2年1学期	150 151	5 自然災害に対する備え ◎国や地域は、自然災害を防いだり、被害を少なくしたりするために、どのような工夫をしているのだろうか。	日本で取り組まれている防災や減災の取り組みを理解し、自然災害に対する備えを考える。	具体的に行われている取り組みをもとに、これからの自然災害への備えを主体的に考えさせる。	①ハザードマップを活用し、自然災害の情報を適切に読み取り、日本で取り組まれている防災や減災の取り組みの特色を理解している。 ②日本で取り組まれている防災や減災の取り組みをもとに、自然災害に対する備えを多面的・多角的に考察している。
2年1学期	154 155	6 日本の人口 ◎日本の人口分布や人口構成は、どのように変化してきたのだろうか。	日本の人口分布や年齢別人口構成の特色を理解し、人々の生活に及ぼす影響を考える。	人口ピラミッドの変化から日本が少子高齢社会になったことや人々の生活に及ぼす影響について考えさせる。	①分布図や人口ピラミッドを活用して、日本の人口分布や年齢別人口構成の特色を適切に読み取り、日本の人口分布や年齢別人口構成の特色や課題を理解している。 ②日本が少子高齢社会になったことが人々の生活に及ぼす影響について多面的・多角的に考察している。
2年1学期	156 157	7 日本の資源・エネルギーと電力 ◎日本では、資源を有効に活用するために、どのような取り組みが行われているのだろうか。	日本における資源の有効活用や持続可能な社会の実現に向けてのエネルギー活用について考える。	東日本大震災での原子力発電所の事故以来、変化してきている日本の資源やエネルギーに関する考え方に着目させる。	①さまざまな資料から、東日本大震災での原子力発電所の事故以来、変化してきている日本の資源やエネルギーに関する考え方を適切に読み取り、日本の資源・エネルギーと電力の現状や課題を理解している。 ②日本における資源の有効活用や持続可能な社会の実現に向けてのエネルギー活用について多面的・多角的に考察している。
2年1学期	158 159	8 日本の農業・林業・漁業とその変化 ◎日本の農業・林業・漁業には、どのような特色や課題があるのだろうか。	日本の農業・林業・漁業の特色や課題、変化を理解する。	海外との競争や従事者の高齢化や後継者不足などが大きな課題となっていることに気付かせる。	①さまざまな資料から日本の農業地域の分布や各地方の農業生産の特色や課題を適切に読み取り日本の農業・林業・漁業の特色を理解している。 ②海外との競争や従事者の高齢化や後継者不足などの課題解決を多面的・多角的に考察している。
2年1学期	160 161	9 日本の工業とその変化 ◎日本の工業にはどのような特色があり、工場の立地はどのように変化してきたのだろうか。	日本の工業地域の分布や工業出荷額をもとに、日本の工業の特色と変化、課題を理解する。	日本の工場の立地が変化する理由や日本の企業が海外に進出する理由を考えさせる。	①工業出荷額の内訳を示す統計資料から日本のおもな工業地帯・工業地域の特色を適切に読み取り、日本の工業の変化や課題を理解している。 ②日本の工場の立地が変化する理由や日本の企業が海外に進出する理由を多面的・多角的に考察している。
2年1学期	162 163	10 日本の商業・サービス業 ◎日本の産業の中心である商業やサービス業には、どのような特色や変化がみられるのだろうか。	日本の商業・サービス業の現状と課題を理解する。	産業の高度化が進む中で、特に近年、サービス業の中でも情報通信技術（ICT）関連産業が急速に拡大していることに着目させる。	①さまざまな資料から、商業やサービス業での成長分野を適切に読み取り、日本の商業・サービス業の現状と課題を理解している。 ②テレビやインターネットを利用した無店舗販売や情報通信技術（ICT）関連産業が急速に拡大することによっておこる社会の変化や影響について多面的・多角的に考察している。
2年1学期	164 165	11 日本の交通網・通信網 ◎交通網や通信網が発達したことで、日本と世界や国内の地域間の結びつきはどのように変化したのだろうか。	交通網や通信網が発達することによっておこった、世界や日本の地域間の結びつきの変化を理解する。	世界や日本の地域間の結びつきが強まったことによって利点や問題点に気付かせる。	①さまざまな資料から、交通網や通信網が発達することによっておこった、世界や日本の地域間の結びつきの変化を適切に読み取り、世界や日本の地域間の結びつきの変化や特色を理解している。 ②世界や日本の地域間の結びつきが強まったことによる利点や問題点をそれぞれ多面的・多角的に考察している。
2年1学期	166 167	12 さまざまな地域区分 ◎日本をいくつかの地域に区分する場合、どのような分け方ができるのだろうか。	日本を区分するさまざまな視点を知り、さまざまな地域区分があることを理解する。	形式地域による区分であるのか、実質地域による区分であるのかに留意しながら区分の仕方を理解させる。	①さまざまな地域区分を分類し、表などに整理し、さまざまな地域区分の仕方や目的について理解している。 ②7地方区分以外の地域区分がある理由を、区分の目的や基準などから多面的・多角的に考察している。
2年1学期	168 169	章の学習を振り返ろう ■章の問い■ 日本の自然環境や人口、産業には、どのような特色があるのだろうか。	「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「地域間の結びつき」など日本の地域的特色的な基本的事項を確認するとともに、地理的な見方・考え方を働かせて学習の成果を表現する。	分布や地域などに着目しながら、「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「地域間の結びつき」など日本の地域的特色的な課題に気を付けさせる。	①分布や地域などに着目して、「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「地域間の結びつき」など日本の地域的特色的な整理している。 ②第1章の問いを、単元の学習の成果を生かして多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ③単元の学習を振り返り、系統的に見た日本の地域的特色的な課題、これからの日本の在り方について主体的に追究し、解決しようとしている。

令和7年度 中学部2年 社会科(地理) 年間指導計画(時数:105)

学期	教科書	項目 (◎学習課題)	学習内容・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準の具体例 ①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③=主体的に学習に取り組む態度
<p>第3章 日本の諸地域</p> <p><第3部第3章のねらい> 下の(1)から(5)までの考察の仕方を基にして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の資質・能力を身に付けることができるようにさせる。 (1)自然環境を中核とした考察の仕方 (2)人口や都市・村落を中核とした考察の仕方 (3)産業を中核とした考察の仕方 (4)交通や通信を中核とした考察の仕方 (5)その他の事象を中核とした考察の仕方</p> <p>①幾つかに区分した日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解させる。 ①上の(1)から(5)までの考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解させる。 ②日本の諸地域において、それぞれ左の(1)から(5)までで扱う中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現させる。 ③日本の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。</p> <p><第3部第3章の評価規準> ①幾つかに区分した日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解している。 ①左の(1)から(5)までの考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。 ②日本の諸地域において、それぞれ左の(1)から(5)までで扱う中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。 ③日本の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>					
<p>第1節 九州地方</p> <p>■節の問い■ 九州地方の自然環境は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。</p> <p><この節のねらい> 他地域との結びつきや地域などに関わる視点に着目して、九州地方の特色ある地理的事象を他の事象と関連づけて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成する。</p> <p><この節の評価基準> ①地図や資料から、九州地方の自然環境の特色やそれを生かした産業、自然災害や防災への取り組みを読み取り、九州地方の地形や気候などの自然環境に関する特色や、人々の生活や産業と自然環境とのかかわりについて理解している。 ②自然環境に注目しながら、九州地方に暮らす人々の生活と産業との関係について多面的・多角的に考察している。 ③九州地方の自然環境と生活、産業との関係について関心をもち、九州地方の特色を主体的に追究しようとしている。</p>					
2年2学期	174 175	1 九州地方の自然環境 ◎九州地方では、地形や気候にどのような特色がみられるのだろうか。	九州地方を概観し、自然や人々の生活の特色を理解する。	現在も活動する火山が多く自然災害が多いという地域の特色に注目させる。	①地図や雨量図などから、自然環境を視点とした九州地方の特色を大まかに読み取り、九州地方の都道府県や地形の位置と名称を理解している。 ②温暖な気候や火山が多い地形、アジアに近いという位置の特色から、九州地方の人々の生活を大まかに考察している。
2年1学期	176 177	2 火山と共にある九州の人々の生活 ◎火山は人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。	火山の恵みと被害の両面を理解し、その利点の生かし方や防災への取り組みを考える。	火山が多いという自然環境の中で恵みと被害に直面する人々の生活のようすをとらえさせる。	①さまざまな資料から九州地方における火山の恵みや被害の実態について適切に読み取り、九州地方の自然環境を生かした産業や、災害、防災への取り組みなどを理解している。 ②火山のめぐみや被害の実態をもとに、九州地方の人々の生活向上について多面的・多角的に考察している。
2年1学期	178 179	3 自然を生かした九州地方の農業 ◎火山活動の影響を受けた土地や温暖な気候を生かして、九州地方ではどのような農業が行われているのだろうか。	温暖な気候や火山活動の影響を受けた土地を生かした農業の実態をとらえ、その特色を理解する。	温暖な気候や火山灰地層という地域的特色が特色ある農業を生み出していることに気づかせる。	①さまざまな資料から九州地方の自然環境と農業との関連について適切に読み取り、九州南部の畜産やシラス台地での畑作、北部での稲作の実態を理解している。 ②温暖な気候や火山との関連などの自然環境を生かした農業の特色について、多面的・多角的に考察している。
2年1学期	180 181	4 都市や産業の発展と自然環境 ◎アジアの国々に近いということが、都市や地域の産業の発展にどのような影響を与えているのだろうか。	アジアに近いという特色を生かして発展してきた都市や工業の歴史をとらえ、その特色を理解する。	アジアに近いという特色から福岡市や北九州工業地帯の発展と役割について考えさせる。	①地図やその他の資料からアジアに近いことで都市や工業が発達してきた実態を適切に読み取り、アジアに近いという立地から原料が調達しやすいことで発達した九州の工業について理解している。 ②アジアに近いという自然環境を生かした都市の発達や工業の特色について、多面的・多角的に考察している。
2年1学期	182 183	5 南西諸島の自然環境と人々の生活や産業 ◎南西諸島の自然環境は、人々の生活・文化や歴史、産業とどのように関わっているのだろうか。	温暖な気候やアジアとの交流の歴史などに着目しながら、特色のある南西諸島での人々の暮らしについて理解する。	南西諸島の独特の文化や生活を世界やアジアにおける南西諸島の位置や歴史に着目しながら考えさせる。	①さまざまな資料からアジアに近いという位置と独自の文化や生活の発展との関連を適切に読み取り、アジアとの交流の歴史や軍事基地のある地域での生活について理解している。 ②世界やアジアにおける南西諸島の位置や歴史が独特の文化や生活をつくりだしていることについて多面的・多角的に考察している。
2年1学期	184 185	節の学習を振り返ろう ■節の問い■ 九州地方の自然環境は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。	九州地方の基本的事項を確認するとともに、地理的な見方・考え方を働かせて学習の成果を表現する。	アジア地域との結びつきや自然災害の多発に着目しながら、九州地方の地域的特色やそこで生ずる課題に気を付けさせる。	①九州地方の自然環境や社会環境に着目して、九州地方の地域的特色を整理している。 ②第1節の問いを、単元の学習の成果を生かして多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ③単元の学習を振り返り、九州地方の地域的特色や九州地方の課題、これからの九州地方の在り方について主体的に追究し、解決しようとしている。

令和7年度 中学部2年 社会科(地理) 年間指導計画(時数:105)

学期	教科 目 書	項目 (◎学習課題)	学習内容・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準の具体例 ①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③=主体的に学習に取り組む態度
<p>第2節 中国・四国地方</p> <p>■節の問い■ 中国・四国地方における交通網や通信網の整備は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。</p>					
2年2学期	190 191	1 中国・四国地方の自然環境 ◎中国・四国地方では、地形や気候にどのような特色がみられるのだろうか。	中国・四国地方を概観し、自然や人々の生活の特色を理解する。	地域を山陰、瀬戸内、南四国の三つに分けて、気候の特色と地域の特色を関連付けてとらえさせる。	①雨温図を活用して、山陰、瀬戸内、南四国の気候の特色を適切に読み取り、中国・四国地方の地形や気候の特色を理解している。 ②瀬戸内が温暖で降水量が少ない理由を地形の特色と関連付けて多面的・多角的に考察している。
2年2学期	192 193	2 交通網の整備と人々の生活の変化 ◎本州四国連絡橋や高速道路の開通は、人々の生活をどのように変化したのだろうか。	本州四国連絡橋や高速道路の整備による地域の人々の生活の変化について考える。	交通網の整備によって他地域と結びついたことによる利点や問題点に気付かせる。	①さまざまな資料を活用して交通網の整備によって他地域と結びついたことによる地域の変化を適切に読み取り、本州四国連絡橋や高速道路の整備による地域の人々の生活の変化を理解している。 ②交通網の整備によって他地域と結びついたことによる利点や問題点を多面的・多角的に考察している。
2年2学期	194 195	3 瀬戸内海の内海と工業の発展 ◎瀬戸内海に面した地域では、船を使った輸送を利用して、どのように工業を発展させてきたのだろうか。	海上交通の利点を生かした瀬戸内地域の工業の特色について考える。	海外とつながることによる利点や課題に気付かせる。	①さまざまな資料から、海上交通の利点を生かした瀬戸内地域の工業の特色を適切に読み取り、海上交通の利点を生かした瀬戸内地域の工業の特色を理解している。 ②海外とつながることによる瀬戸内地域の工業の利点や課題を多面的・多角的に考察している。
2年2学期	196 197	4 交通網を生かして発展する農業 ◎瀬戸内や南四国で生産される農産物は、どのようにして競争力を高め、市場を広げてきたのだろうか。	他地域との結びつきを生かして全国展開を進めている瀬戸内や南四国の農業の特色について考える。	気候の特色を生かして特色ある農業が営まれていることに気付かせる。	①さまざまな資料から、他地域との結びつきを生かして全国展開を進めている瀬戸内や南四国の農業の実態を適切に読み取り、瀬戸内や南四国の農業の特色を理解している。 ②海外や他地域との競争が激しくなる中で行われる地域の努力や工夫を多面的・多角的に考察している。
2年2学期	198 199	5 人々を呼び寄せる地域の取り組み ◎過疎化や高齢化が進むなかで、交通網が整備されたことにより、地域にどのような変化が生じたのだろうか。	過疎化が進む山陰地域の、交通網の整備による変化について考える。	地域の持続発展に向けて、さまざまな努力がなされていることに気付かせる。	①さまざまな資料から山陰地域のさまざまな地域おこしの実態を適切に読み取り、山陰地域で行われている観光を中心とした取り組みを理解している。 ②過疎化が進む山陰地域の持続発展について、交通網の整備と観光業を中心に多面的・多角的に考察している。
2年2学期	200 201	節の学習を振り返ろう ■節の問い■ 中国・四国地方における交通網や通信網の整備は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。	中国・四国地方の基本的事項を確認するとともに、地理的な見方・考え方を働かせて学習の成果を表現する。	地形や気候との関連や他地域との結びつきに着目しながら、中国・四国地方の地域の特色やそこで生ずる課題に気を付けさせる。	①中国・四国地方の自然環境や社会環境に着目して、中国・四国地方の地域的特色を整理している。 ②第2節の問いを、単元の学習の成果を生かして多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ③単元の学習を振り返り、中国・四国地方の地域的特色や中国・四国地方の課題、これからの中国・四国地方の在り方について主体的に追究し、解決しようとしている。
<p>第3節 近畿地方</p> <p>■節の問い■ 近畿地方における自然環境や歴史的景観の保全是、人口の増加や産業の発展のなかで、どのように取り組まれてきたのだろうか。</p>					
2年2学期	206 207	1 近畿地方の自然環境 ◎近畿地方では、地形や気候にどのような特色がみられるのだろうか。	近畿地方を概観し、自然環境や人々の生活の特色を理解する。	南北の山地に着目して地形や気候の特色をとらえさせる。	①地図や雨温図から近畿地方の地形や気候の特色を適切に読み取り、近畿地方の地形や気候の特色を理解している。 ②南部、中央部、北部の特色を地形や気候の特色と関連付けて多面的・多角的に考察している。
2年2学期	208 209	2 琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏 ◎京阪神大都市圏の水源地である琵琶湖とその周辺では、環境保全のために、どのような取り組みが行われてきたのだろうか。	京阪神大都市圏の水源地である琵琶湖の環境保全の重要性について考える。	琵琶湖から淀川を通して瀬戸内海に至る水運を生かして商業を発達させた大阪にも着目させる。	①さまざまな資料から琵琶湖の水質汚濁の状況や環境保全の取り組みなどを適切に読み取り、京阪神大都市圏の生活を支える水源としての琵琶湖の重要性について理解している。 ②琵琶湖の水質汚濁に対する原因や影響、対策などについて多面的・多角的に考察している。

令和7年度 中学部2年 社会科(地理) 年間指導計画(時数:105)

学期	教科 単 元 目 次	項目 (◎学習課題)	学習内容・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準の具体例 ①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③=主体的に学習に取り組む態度
2 年 2 学期	210 211	3 阪神工業地帯と環境問題への取り組み ◎阪神工業地帯では、工業の発展と共に生じた環境問題に対して、どのように取り組んできたのだろうか。	阪神工業地帯の現状や課題を追究し、環境保全の取り組みについて考える。	内陸部に中小企業が多いことにも着目させる。	①さまざまな資料から阪神工業地帯の現状や課題を適切に読み取り、阪神工業地帯の環境問題や環境保全の取り組みを理解している。 ②大企業や中小企業に関する環境保全についての課題やその解決を多面的・多角的に考察している。
2 年 2 学期	212 213	4 古都京都・奈良と歴史的景観の保全 ◎京都と奈良では、歴史的景観を保全していくために、どのような取り組みが行われているのだろうか。	京都や奈良の町なみの変化や歴史的景観を守る取り組みについて考える。	地域で生活する人々の利便性を守りながら歴史と伝統を守っていくという視点に着目させる。	①さまざまな景観写真から歴史的景観を守るための工夫や努力を適切に読み取り、京都や奈良の歴史的景観を守るさまざまな取り組みを理解している。 ②地域で生活する人々の利便性を守りながら歴史と伝統を守るという地域の持続発展について多面的・多角的に考察している。
2 年 2 学期	214 215	5 環境に配慮した林業と漁業 ◎近畿地方で行われている林業・漁業では、観光を保全するために、どのような取り組みを行っているのだろうか。	近畿地方の林業や漁業の特色と環境保全の取り組みについて考える。	森林がもつ環境保全の役割に着目し、林業の大切さに気付かせる。	①さまざまな資料から林業や漁業がかかえる現状と課題を適切に読み取り、近畿地方の林業や漁業の特色と環境保全の取り組みを理解している。 ②林業や漁業と環境保全との関連や持続発展に向けての取り組みについて多面的・多角的に考察している。
2 年 2 学期	216 217	節の学習を振り返ろう ■節の問い■ 近畿地方における自然環境や歴史的景観の保全は、人口の増加や産業の発展のなかで、どのように取り組まれてきたのだろうか。	近畿地方の基本的事項を確認するとともに、地理的な見方・考え方を働かせて学習の成果を表現する。	自然環境や歴史的景観の保全に着目しながら、近畿地方の地域的特色やそこで生ずる課題に気を付けさせる。	①近畿地方の自然環境や社会環境に着目して、近畿地方の地域的特色を整理している。 ②第3節の問いを、単元の学習の成果を生かして多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ③単元の学習を振り返り、近畿地方の地域的特色や近畿地方の課題、これからの近畿地方の在り方について主体的に追究し、解決しようとしている。
第4節 中部地方 ■節の問い■ 中部地方における産業の発展に、自然環境や交通網の整備はどのような影響を与えているのだろうか。		<この節のねらい> 他地域との結びつきや地域などに関わる視点に着目して、中部地方の特色ある地理的事象を他の事象と関連づけて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成させる。		<この節の評価基準> ①さまざまな資料を活用して、中部地方の三つの地域の産業の特色と変化を読み取り、その地形や自然環境などにより異なる産業が発達したことを理解している。 ②中部地方の三つの地域において、さかんな産業に違いがある理由や、それぞれの産業が発達した理由について多面的・多角的に考察している。 ③産業の視点からみた中部地方の特色に関心をもち、自然環境や人々の生活と関連させながら、主体的に追究している。	
2 年 2 学期	222 223	1 中部地方の自然環境 ◎日本の中央部に位置する中部地方では、地形や気候にどのような特色がみられるのだろうか。	中部地方を概観し、自然環境や人々の生活の特色を理解する。	地域を東海、中央高地、北陸に三つに分けて、気候の特色と地域の特色を関連付けてとらえさせる。	①雨温図を活用して、東海、中央高地、北陸の気候の特色を適切に読み取り、中部地方の地形や気候の特色を理解している。 ②東海、中央高地、北陸の生活のようすを地形や気候の特色や違いと関連づけて多面的・多角的に考察している。
2 年 2 学期	224 225	2 中京工業地帯の発展と名古屋大都市圏 ◎名古屋を中心とする地域では、どのようにして自動車などの輸送機械工業が盛んになったのだろうか。	中京工業地帯や東海工業地域の特色をとらえ、輸送機械工業がさかんな理由を考える。	歴史的背景や大手企業の工場立地に着目させる。	①さまざまな資料から中京工業地帯や東海工業地域の特色を適切に読み取り、中京工業地帯や東海工業地域の特色を理解している。 ②歴史的背景や大手企業の立地に着目しながら東海で輸送機械工業がさかんな理由を多面的・多角的に考察している。
2 年 2 学期	226 227	3 東海で発達するさまざまな産業 ◎東海の産業は、自然環境や交通網などの条件を生かして、どのように発達してきたのだろうか。	都市向けの農業が発達した理由を考える。	気候や交通網の発達、大都市との位置関係などに着目させる。	①さまざまな資料から都市向けの農業が発達してきたことを適切に読み取り、抑制栽培や園芸農業について理解している。 ②気候や交通網の発達、大都市との位置関係などに着目しながら都市向けの農業が発達した理由を多面的・多角的に考察している。
2 年 2 学期	228 229	4 内陸にある中央高地の産業の移り変わり ◎内陸で山あいの環境にある中央高地では、時代の変化とともに、どのような産業が発展したのだろうか。	時代の変化とともに移り変わってきた中央高地の産業の実態をとらえる。	社会の変化や自然環境の特色と関連付けて考えさせる。	①さまざまな資料から中央高地の産業の変化を適切に読み取り、中央高地の産業の特色を理解している。 ②中央高地の産業の変化を、社会の変化や自然環境の特色と関連付けて多面的・多角的に考察している。
2 年 2 学期	230 231	5 雪を生かした北陸の産業 ◎雪が多い北陸では、どのような産業が発達してきたのだろうか。	北陸で稲作や地場産業がさかんな理由を考える。	日本有数の豪雪地帯であるという特色に着目しながら地場産業の発達に気付かせる。	①さまざまな資料から北陸で稲作や地場産業がさかんな実態を適切に読み取り、豪雪と北陸の産業とのかかわりを理解している。 ②日本有数の豪雪地帯であるという特色に着目しながら、北陸で稲作や地場産業がさかんな理由を多面的・多角的に考察している。

令和7年度 中学部2年 社会科(地理) 年間指導計画(時数:105)

学期	教科書	項目 (◎学習課題)	学習内容・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準の具体例 ①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③=主体的に学習に取り組む態度
2年2学期	232 233	節の学習を振り返ろう ■節の問い■ 中部地方における産業の発展に、自然環境や交通網の整備はどのような影響を与えているのだろうか。	中部地方の基本的事項を確認するとともに、地理的な見方・考え方を働かせて学習の成果を表現する。	自然環境と産業の発達との関連に着目しながら、中部地方の地域的特色やそこで生ずる課題に気を付けさせる。	①中部地方の自然環境と産業の発達との関連に着目して、中部地方の地域的特色を整理している。 ②第4節の問いを、単元の学習の成果を生かして多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ③単元の学習を振り返り、中部地方の地域的特色や中部地方の課題、これからの中部地方の在り方について主体的に追究し、解決しようとしている。
第5節 関東地方		■節の問い■ 関東地方における人口の集中は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。	<この節のねらい> 他地域との結びつきや地域などに関わる視点に着目して、関東地方の特色ある地理的事象を他の事象と関連づけて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成させる。	<この節の評価基準> ①関東地方の地域的特色やそれと関連する事象とそこに生ずる課題について理解している。 ②関東地方における人口の集中が成立する条件を、地域の広がりや他地域との結びつき、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と関連づけて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③地域の広がりや他地域との結びつき、人々の対応などに着目しながら、関東地方に暮らす人々の生活に監視をもち、地域的特色や地域の課題を意欲的に追求しようとしている。	
2年2学期	238 239	1 関東地方の自然環境 ◎関東地方では、地形や気候にどのような特色がみられるのだろうか。	地図や景観写真、雨温図などを活用して関東地方を概観し、自然環境や人々の生活の基本的な特色を理解する。	関東地方への人口集中の大きさに着目させる。内陸と沿岸とで違いがあることに気付かせる。	①地図や景観写真、雨温図などを活用して、関東地方の地形や気候の特色を調べ、まとめている。 ②内陸と沿岸とに分けて異なる地形や気候の特色について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。
2年2学期	240 241	2 多くの人々が集まる首都、東京 ◎首都であり、多くの人々が集まる東京には、どのような役割があるのだろうか。	さまざまな資料を活用して日本や世界における、東京の役割を考える。	東京は人口やさまざまな機能が集中し、日本だけでなく世界にも大きな影響を与えていることに気付かせる。	①首都であり、多くの人々が集まる東京の特色を調べ、まとめている。 ②昼夜間人口の違いに着目し、特に東京の中心部が果たす役割について多面的・多角的に考察し、表現している。
2年2学期	242 243	3 東京大都市圏の過密問題とその対策 ◎拡大する東京大都市圏では、どのような課題が生じてきたのだろうか。	人口が集中することによって発展した産業の特色を考えるとともに、サービス業や商業がさかんな理由を、人口や交通網とのかかわりから考える。	東京大都市圏の中心部と周辺部では、役割が大きく異なるとともに都市部ならではの課題も生じていることに気付かせる。	①東京大都市圏の拡大の特色や課題を調べ、まとめている。 ②人口が集中することで発生した都市問題とその解決について多面的・多角的に考察し、表現している。
2年2学期	244 245	4 人口の集中と第3次産業の発展 ◎人口が集中する地域で発達する産業には、どのような特色があるのだろうか。	人口が集中することによって発展した産業の特色を考える。	人口集中と第3次産業の発達との関連に着目させる。	①人口が集中することによって発展した産業の特色や課題を調べ、まとめている。 ②人口が集中する地域で第3次産業がさかんになる理由や課題の解決を多面的・多角的に考察し、表現している。
2年2学期	246 247	5 臨海部から内陸部へ移りゆく工場 ◎京浜工業地帯や北関東工業地域の形成は、関東地方の人口の変化とどのように関係しているのだろうか。	関東地方の工業の発展や移り変わりを、人口の特色に着目して考える。	東京で出版・印刷業が多い理由を、人口集中と関連付けながら考えさせる。	①京浜工業地帯、京葉工業地域、北関東工業地域の特色を調べ、まとめている。 ②関東地方の工業の発展や移り変わりとその課題を人口の変化や市街地の拡大に着目しながら多面的・多角的に考察し、表現している。
2年2学期	248 249	6 大都市周辺の農業と山間部の過疎問題 ◎東京大都市圏の周辺の農業地域や山間部は、人口の多い東京大都市圏と、どのように結びついているのだろうか。	大消費地と深く関連する関東地方の農業の特色や山間部での過疎問題について考える。	UターンやIターンなどの近年みられる新しい動向にも着目させる。	①近郊農業の発達や利点について調べ、まとめている。 ②UターンやIターンなどの近年みられる新しい動向に着目しながら、山間部で深刻化する過疎問題の改善について多面的・多角的に考察し、表現している。
2年2学期	250 251	節の学習を振り返ろう ■節の問い■ 関東地方における人口の集中は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。	関東地方の基本的事項を確認するとともに、地理的な見方・考え方を働かせて学習の成果を表現する。	関東地方の中心部と周辺部や他地域との結びつきに着目しながら、関東地方の地域的特色やそこで生ずる課題に気を付けさせる。	①関東地方の自然環境や社会環境に着目して、関東地方の地域的特色を整理している。 ②第5節の問いを、単元の学習の成果を生かして多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ③単元の学習を振り返り、関東地方の地域的特色や関東地方の課題、これからの関東地方の在り方について主体的に追究し、解決しようとしている。
第6節 東北地方		■節の問い■ 東北地方における人々の生活や文化に、自然環境や交通網の整備はどのような影響を与えているのだろうか。	<この節のねらい> 他地域との結びつきや地域などに関わる視点に着目して、東北地方の特色ある地理的事象を他の事象と関連づけて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成させる。	<この節の評価基準> ①地図や写真・雨温図などから、東北地方の自然環境の特色や、伝統的な祭りや工芸品の特色を読み取り、東北地方の地域的特色について理解している。 ②東北地方の産業の発達を写真や地図・グラフなどを活用してとらえ、人々の生活の変化と、それともなう東北地方の産業の課題を多面的・多角的に考察している。 ③東北地方を伝統的な祭りや工芸品、町なみの特色など生活・文化の視点から、関心をもって主体的に追究している。	

令和7年度 中学部2年 社会科(地理) 年間指導計画(時数:105)

学期	教科書	項目 (◎学習課題)	学習内容・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準の具体例 ①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③=主体的に学習に取り組む態度
2年3学期	256 257	1 東北地方の自然環境 ◎南北に長い東北地方では、地形や気候にどのような特色がみられるのだろうか。	東北地方を概観し、自然環境や人々の生活の特色を理解する。	豪雪や厳しい寒さなど、厳しい自然環境の中で、人々が生活していることに気付かせる。	①地図や雨温図から東北地方の地形や気候の特色を適切に読み取り、東北地方の地形や気候の特色を理解している。 ②地形や気候などに着目し、東北地方の自然環境の特色を多面的・多角的に考察している。
2年3学期	258 259	2 伝統行事と生活・文化の変化 ◎東北地方の伝統的な祭りや人々の生活は、どのように変化してきたのだろうか。	祭りをはじめとする東北地方の伝統文化を生かした観光業の発展とこれからのことを考える。	観光業の発展が、これからの東北地方の発展や復興に大きく影響することに気付かせる。	①さまざまな資料から、農業と祭りや交通網と観光業とのかわりを適切に読み取り、東北地方の祭りや観光業の特色について理解している。 ②観光業を活用した東北地方の発展や復興について多面的・多角的に考察している。
2年3学期	260 261	3 稲作と畑作に対する人々の工夫や努力 ◎東北地方の人々は、冷涼な気候の下で農業を発展させるために、どのような工夫や努力を行ってきたのだろうか。	冷夏などの厳しい自然環境を克服し発展させてきた東北地方の稲作や畑作の努力について考える。	厳しい自然環境を克服するだけでなく、冷涼な気候を生かした農業の工夫についても着目させる。	①さまざまな資料から、東北地方の農業の特色を適切に読み取り、東北地方の稲作や畑作の実態や工夫を理解している。 ②厳しい自然環境を克服し、発展させていくための努力を多面的・多角的に考察している。
2年3学期	262 263	4 果樹栽培と水産業における人々の工夫や努力 ◎東北地方で盛んに行われている果樹栽培や水産業には、どのような工夫や努力がみられるのだろうか。	果樹栽培や水産業の発展がもたらした地域の人々の生活の変化について考える。	東日本大震災による漁業への被害や復興についても着目させる。	①さまざまな資料から、果樹栽培や漁業と人々の生活とのかわりに適切に読み取り、④東北地方での果樹栽培や漁業の特色について理解している。 ②果樹栽培や漁業の発展がもたらした地域の人々の生活の変化について多面的・多角的に考察している。
2年3学期	264 265	5 工業の発展と人々の生活の変化 ◎東北地方の工業は、交通網の整備や人々の生活の変化とともに、どのように発展してきたのだろうか。	工業の発展がもたらした人々の生活の変化について考える。	震災による原子力発電所の事故をきっかけにして原子力発電にかわる新しいエネルギー源として再生可能エネルギーを活用する動きが活発化していることに気付かせる。	①さまざまな資料を関連付けて、交通網の発達と工業の発達との関連を適切に読み取り、工業の発展がもたらした人々の生活の変化について理解している。 ②工業の発展が東北地方の人々の生活をどのように変化させたかを多面的・多角的に考察している。
2年3学期	266 267	節の学習を振り返ろう ■節の問い■ 東北地方における人々の生活や文化に、自然環境や交通網の整備はどのような影響を与えているのだろうか。	東北地方の基本的事項を確認するとともに、地理的な見方・考え方を働かせて学習の成果を表現する。	東北地方の人々の生活や文化と自然環境や交通網の発達との関連に着目しながら、東北地方の地域的特色やそこで生ずる課題に気を付けさせる。	①東北地方の自然環境や社会環境に着目して、東北地方の地域的特色を整理している。 ②この節の問いを、単元の学習の成果を生かして多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ③単元の学習を振り返り、東北地方の地域的特色や東北地方の課題、これからの東北地方の在り方について主体的に追究し、解決しようとしている。
第7節 北海道地方 ■節の問い■ 北海道地方の自然環境は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。			<この節のねらい> 他地域との結びつきや地域などに関わる視点に着目して、北海道地方の特色ある地理的事象を他の事象と関連づけて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成させる。		<この節の評価基準> ①地図や雨温図、統計資料などから北海道地方の地域的特色に関する情報を読み取り、北海道地方について、自然環境に注目した視点から地域的特色を理解している。 ②産業や開発の歴史に関する特色あることがらに注目して、自然環境や外国とのかわりなどと関連づけて多面的・多角的に考察している。 ③自然環境に注目した視点から、自然環境・産業や都市の発展と変化などに関心をもち、北海道地方の特色を主体的に追究している。
2年3学期	272 273	1 北海道地方の自然環境 ◎北海道では、地形や気候にどのような特色がみられるのだろうか。	北海道地方を概観し、自然や人々の生活の特色を理解する。	厳しい北海道の自然環境に合うように考えられたさまざまな工夫に着目させる。	①地図や雨温図から北海道地方の地形や気候の特色を適切に読み取り、北海道地方の地形や気候の特色を理解している。 ②自然環境に注目した視点から北海道地方の自然環境の特色を多面的・多角的に考察している。
2年3学期	274 275	2 雪と共にある北海道の人々の生活 ◎北海道の人々は、雪をどのように克服したり、利用したりしているのだろうか。	北海道の人々の雪と関わる取り組みや工夫を理解する。	雪による地域の人々の苦勞だけでなく、雪の恵みや雪に備える工夫など、地域の人々の努力に気付かせる。	①景観写真などから北海道地方の人々の雪との関わりを読み取り、雪に対する工夫や生かす試みなどについて理解している。 ②北海道地方における雪に対する課題の克服や雪の利用などについて多面的・多角的に考察している。
2年3学期	276 277	3 厳しい自然環境を克服してきた稲作 ◎温暖な気候の下で行われる米作りが、寒冷な北海道で盛んに行われているのはなぜだろうか。	厳しい寒さや農業に適さない土地という悪条件を乗り越えてきた稲作の歴史を考える。	厳しい自然条件を乗り越えてきた人々の努力に着目させる。	①さまざまな資料から、開拓によって農地を拡大してきた実態を読み取り、泥炭地の土地改良や稲の品種改良について理解している。 ②石狩平野が全国有数の米の生産地になった理由を、開拓の歴史に着目しながら多面的・多角的に考察している。
2年3学期	278 279	4 自然の恵みを生かす畑作や酪農、漁業 ◎北海道で、畑作や酪農、漁業が盛んになったのはなぜだろうか。	大規模に展開する北海道の畑作や酪農、漁業の特色を考える。	厳しい自然条件に対して適切に対応してきた地域の人々の努力に着目させる。	①さまざまな資料から、北海道の畑作や酪農、漁業が大規模であることを読み取り、北海道の畑作や酪農、漁業の特色を理解している。 ②畑作や酪農、漁業の規模が大きく変化した理由を、厳しい自然環境との関わりに着目しながら多面的・多角的に考察している。

令和7年度 中学部2年 社会科(地理) 年間指導計画(時数:105)

学期	教科書	項目 (◎学習課題)	学習内容・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準の具体例 ①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③=主体的に学習に取り組む態度
2年3学期	280 281	5 北国の自然を生かした観光業 ◎北海道では、観光業をどのように発展させてきたのだろうか。	北海道の豊かで特色ある自然環境を生かして発達した観光業の特色を考える。	自然環境の保全と観光業の発達の両立を目指したエコツーリズムの在り方について具体的に考えさせる。	①さまざまな資料から、北海道における観光業の発展と観光客の増加を読み取り、北国の自然を生かした観光業の特色を理解している。 ②観光客の増加に伴う自然破壊の対策とエコツーリズムについて多面的・多角的に考察している。
2年3学期	282 283	節の学習を振り返ろう ■節の問い■ 北海道地方の自然環境は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。	北海道地方の基本的事項を確認するとともに、地理的な見方・考え方を働かせて学習の成果を表現する。	北海道地方の厳しい自然環境やそれを克服してきた人々の努力に着目しながら、北海道地方の地域的特色やそこで生ずる課題に気を付けさせる。	①北海道地方の自然環境や社会環境に着目して、北海道地方の地域的特色を整理している。 ②第7節の問いを、単元の学習の成果を生かして多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ③単元の学習を振り返り、北海道地方の地域的特色や北海道地方の課題、これからの北海道地方の在り方について主体的に追究し、解決しようとしている。
※第3部第3章 日本の諸地域の「学習を振り返ろう」は7つの地方のうち1つを選択して行うよう想定している。					
第4部 地域の在り方					
		第1章 地域の在り方 ■章の問い■ 地域をよりよくするためには、どのようなことに取り組むとよいのだろうか。	<第4部第1章のねらい> 空間的相互依存作用や地域などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の資質・能力を身に付けることができるようにさせる。 ①地域の実態や課題解決のための取組を理解させる。 ①地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解させる。 ②地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、ここで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現させる。 ③地域の在り方について、よりよい社会の実現を視野にここで見られる課題を主体的に追究、解決させる。	<第4部第1章の評価規準> ①地域の実態や課題解決のための取組を理解している。 ①地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解している。 ②地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、ここで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ③地域の在り方について、よりよい社会の実現を視野にここで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
2年3学期	286 287	1 課題を把握しよう ◎地域が抱えている課題は何だろうか。その課題を発見し、追究するテーマを設定しよう。	持続可能な地域の在り方を構想するために、地域の地理的な課題を把握し、その解決に向けた追究の問い(テーマ)を設定する。	これまでの学習を通して身に付けてきた地理的な視点(注目する視点)を生かし、対象地域の課題を見出し、追究する問い(テーマ)を設定させる。単元を通して主体的に課題を追究、解決するための見通しを持たせる。	②地域の在り方を考える際に追究する問いを、地理的な見方・考え方や注目する視点を生かしながら設定することができる。 ③地域の在り方について、課題を主体的に追究、解決するための見通しを持つことができている。
2年3学期	288 289	2 地域をとらえよう ◎地域の実態を把握するためには、どのような手順で進めるとよいのだろうか。	追究のテーマに基づいた調査計画を立てるとともに、諸資料から地域の実態を把握する。	地図や統計などの諸資料を積極的に収集させたり、必要な情報をグラフや主題図にまとめるなど、収集した資料を適切に活用させる。	①課題解決に向けて計画を立てるとともに、地域の実態について諸資料からさまざまな情報を効果的に調べ、まとめる技能を身に付けている。 ③よりよい社会の実現を視野に、地域の特色や課題などの実態を把握しよう、主体的に資料を収集しようとしている。
2年3学期	290 291	3 課題の要因を考察しよう ◎地域が抱える課題の要因を考察するには、どのようなことに着目するとよいのだろうか。	調査結果を分析したり、他地域の状況と比較したりすることを通して、地域の課題の要因を考察する。	構想している地域独自の要因(地方的特殊性の視点)及び、類似の課題を抱える他地域における課題の要因(一般的共通性の視点)の両方の視点から、課題の要因を多面的・多角的に考察させる。	①地域の課題の要因を、他地域の状況などとも比較・関連付けながら理解している。 ②地域の課題の要因について、他地域の状況や地域内独自の要素に着目し、多面的・多角的に考察している。
2年3学期	292 293	4 課題の解決に向けて構想しよう ◎課題の解決に向けて構想するには、どのような点に気をつけるとよいのだろうか。	地域の課題を解決するために必要な取り組みを考え、よりよい地域の在り方を主体的に考察・構想したり、議論したりする。	持続可能な社会をめざすことを意識させるとともに、中間発表などの形で考察・構想したことを交流させ、実現可能性や持続可能性について議論させる。	①地域の課題を解決するために必要で、持続可能性のある取り組みは何か、他地域の事例と比較・関連付けたり、すでに行われている取組を参考に整理したり、議論を通したりして見出ししている。 ②地域の課題を解決するために必要な取り組みを多面的・多角的に考察するとともに、よりよい地域の在り方を主体的に考察・構想し、表現している。 ③持続可能な社会をめざす一員であるという自覚をもち、持続可能な地域の在り方を主体的に追究・解決しようとしている。
2年3学期	294 295	5 課題の成果を発信しよう ◎構想した成果を分かりやすく伝えるためには、どのようにするとよいのだろうか。	構想の成果を分かりやすく説得力ある伝え方でまとめ、発表会や提言などの形で発信する。	ポスターやプレゼンテーションソフトを活用した発表の仕方について身に付けさせる。	①発表会での他の生徒の発表などを通して、地域の実態における他のさまざまな側面や、それに対する課題解決のための取組を理解している。 ①発表会での他の生徒の発表からよりよい発信の方法を読み取るとともに、プレゼンテーションソフトを活用した発表の仕方などについても理解している。 ③「地域の在り方」の学習について、粘り強く考察・構想したり、学習の見通しを基に、自ら工夫・調整しながら主体的に学習に取り組むことができたかを振り返っている。

令和7年度 中学部2年 社会科(歴史) 年間指導計画(時数:105)

学期	教科書	項目 (◎ 学習課題)	学習内容・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準の具体例 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度
		第3節 武士による全国支配の完成 ◇節の問い◇ 江戸幕府はどのようにして全国を支配したの だろう。	<「江戸幕府の成立と対外関係」を扱うこの単元のねらい> ○江戸幕府の支配の下に大きな戦乱のない時期を迎えたことなど、中世から近世への転換のようすを、中世の武家政治との違いに着目して考察させ、自分の言葉で表現させる。 ○江戸幕府の成立と大名統制については、幕府が大名を統制するとともに、その領内の政治の責任を大名に負わせたことに気づかせる。	<「江戸幕府の成立と対外関係」を扱うこの単元の評価規準> ①江戸幕府の成立と大名統制、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係をもとに、幕府と藩による支配が確立したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②統一政権の諸政策の目的に着目して、江戸幕府により全国を支配するしくみが作られ、安定した社会が構築されたことを考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③江戸幕府の成立と対外関係について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	
2年1学期	112 113	1 幕藩体制の始まり ◎江戸幕府は大名や朝廷を統制するために、どのようなしくみをつくったのだろうか。	江戸幕府は大名や朝廷を統制するために、どのようなしくみをつくったのか、文章や資料から読み取る。	・大名配置図から、幕府が親藩・譜代大名・外様大名をどのように配置したかを読み取らせ、そのねらいを考えさせる。 ・参勤交代は、藩から江戸まで移動するのにかかる人件費などだけでなく、江戸で生活するための費用の負担が重かったことにも気づかせる。	①江戸幕府が大名や朝廷を統制するために行ったおこな政策(武家諸法度や禁中並公家諸法度の制定、参勤交代制度の整備、御手伝普請、京都所司代(設置)を三つあげ、それぞれのねらいと効果にもふれながら、適切にまとめ、理解している。 ②幕藩体制とはどのような体制か、武家諸法度などに基づく将軍と大名の関係や、幕府が藩に独自の統治を認めたことなどをふまえてさまざまな面から考察し、適切に表現している。
2年1学期	114 115	2 朱印船貿易から貿易統制へ ◎江戸幕府は、盛んになっていた貿易やキリスト教の布教に、どのように対処していったのだろうか。	江戸幕府の外交・貿易政策は、国内政策との関係で、どのように変化したのか、年表などから読み取ったり考えたりする。	・ポルトガル船の来航を禁止できたのは、オランダによるアジアでの貿易が活発になり、ポルトガルにたよらなくても利益が上げられるようになったことが背景にあることも予想させられるとよい。	①キリスト教の禁止と貿易統制までの流れについて、教科書の年表や本文からおもなことがらを読み取り、流れ図などで適切にまとめ、理解している。 ②大きな利益が得られる朱印船貿易が停止された理由を、キリスト教の禁止の徹底などの面から考察し、適切に表現している。
2年1学期	116 117	3 四つに絞られた貿易の窓口 ◎幕府は、貿易についてどのような政策をとり、どこを窓口としたのだろうか。	幕府は、四つの窓口を通して世界とどのようにつながっていたのか、地図でそれぞれの窓口を確認しながらまとめる。	・次時の学習と合わせて、「四つの窓口」の場所、貿易を行っていた藩、貿易の相手、おもな貿易品がまとめられるような表または図をつくらせる。	①貿易の四つの窓口を表や図でまとめ、オランダと清、朝鮮、蝦夷地への窓口の場所と貿易などの関係を理解している。 ②日本と貿易するヨーロッパの国がオランダだけとなった理由を、キリスト教の禁止の面から考察し、適切に表現している。 ③幕府が世界とつながる窓口を限定したことにはどのような利点があるかを考察し、利益や情報の独占という点に注目して、適切に表現している。
2年1学期	118 121	4 琉球王国とアイヌの人々への支配 ◎琉球王国とアイヌの人々は、薩摩藩や松前藩とどのような関係にあったのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 江戸幕府が安定した全国支配ができた理由を、統治のしくみと関係させて説明してみよう。 歴史を探ろう 琉球とアイヌの人々の暮らし	琉球王国とアイヌの人々は、薩摩藩や松前藩とどのような関係にあったのか、絵画資料などから読み取り、江戸時代になってどのように変化したのかを説明する。 ◇江戸幕府が行った国内と国外の政策をそれぞれ確認させる。	・琉球とアイヌの人々の独自の文化に気づかせる。 ・昆布や蝦夷錦が伝わった経路などを確認させ、琉球とアイヌの人々が、東アジア帯の交易ネットワークで大きな役割を担っていたことに気づかせる。 ◇外国や琉球とアイヌの人々とのような関係をもったのかに着目して考えさせる。	①琉球王国と薩摩藩、アイヌの人々と松前藩の交易品を、図を用いて適切にまとめ、理解している。 ②琉球王国とアイヌの人々の生活が、江戸時代になってどのように変化したのか、薩摩藩や松前藩との関係にふれながら考察し、適切に表現している。
		第4節 天下泰平の世の中 ◇節の問い◇ 江戸時代の社会は、どのような社会だったのだろうか。	<「産業の発達と町人文化」などを扱うこの単元のねらい> ○身分制のもとで、人々はそれぞれの身分の中で職分を果たしたこと、農村が幕府や藩の経済を支えていたことなどに気づかせる。 ○農林水産業や手工業、商業などの産業や河川・海上交通、街道が発達したことについて、身近な地域の特徴を生かした事例を選んで理解させる。 ○藩校や寺子屋などの普及に着目して、人々の教育への関心の高まりに気づかせるとともに、学問・芸術・芸能などの地域的な広まりに着目して、文化の社会的な基盤が拡大したことを理解させる。 ○近世の文化について、大阪・京都・江戸などの都市を舞台に、経済力を高めた町人を担い手とする文化が形成されたことなどを理解させる。	<「産業の発達と町人文化」などを扱うこの単元の評価規準> ①身分制と農村のようすをもとに、幕府と藩による支配が確立したこと、産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりをもとに、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②統一政権の諸政策の目的に着目して、江戸幕府により全国を支配するしくみが作られ、都市や農村における生活や文化が形成されていく中で、日本の文化の空間的な広がりが生み出され、それを背景として各地方の生活文化が生まれたことや、生産技術の向上や交通の整備と町人文化の特徴を考察したりするなど、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③産業の発達と町人文化などについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	

2 年 1 学 期	122 123	タイムトラベル⑥ 江戸時代を眺めてみよう 17～18世紀ごろのある場面	江戸時代のある街道沿いの農村のようすをえがいた想像図を見て、安土桃山時代と比べて、どのような点が変わり、どのような共通点があったのかを読み取り、疑問があれば追究すべき課題（生徒自身の「単元を貫く問い」を設定する。	・「次の場面を探してみよう！」の課題の他、武士の屋敷の周辺の様子に注目させ、平安時代の貴族の屋敷との共通点（農地に囲まれていること）にも気づかせる。 ・「武士の屋敷に運ばれる品物はどこから来るのか」「武士の屋敷で子どもが読んでいる本はどんな内容なのか」「僧侶はどんな教えを説いているのか」「神社をつくったのはだれか」などの追究課題が考えられる。	①江戸時代と安土桃山時代の農村の違いについて、田畑のようすや人々の役割などに注目し、適切なことがらを読み取っている。 ②基盤目状の道路という平城京や平安京などの都に共通する特色、日本風で色彩が豊かになっている貴族などの服装の変化など、奈良時代と平安時代の共通点や相違点を考察し、写真資料などをもとに適切に表現している。 【章の学習を振り返ろう】(58時間)の「タイムトラベルを眺め直そう！」の場面で ①百姓の成長を示していると考えられる場面を適切に読み取っている。 ②『タイムトラベル⑦』なども参考にしながら、想像図にえがかれているさまざまなことがらをもとにして、近世の時代の特色を自分の言葉で適切に表現している。
2 年 1 学 期	124 125	1 身分制の下での暮らし ◎江戸時代の身分制とは、どのようなしくみののだろうか。	江戸時代の人々は、身分制社会の下でどのような暮らしをしていたのか、文章や資料などから読み取ってまとめる。	・身分上の差別は非合理的なものであり、支配者に都合よく利用されたものであることに気づかせる。また、身分間の違いだけでなく、同じ身分の中にも大きな格差があったことにも気づかせる。 ・朱子学の考え方のもとで、男尊女卑の風潮が社会に根づいていったことに気づかせる。	①武士、百姓、町人の暮らし、自治に携わった役職、権利などについて、表などで適切にまとめ、理解している。 ②朱子学とはどのような考えを基本とするもので、徳川綱吉がなぜこれを重視したのかを、綱吉がめざした政治（武力ではなく学問や礼節を重んじる文治政治）との関係から理解している。 ③江戸幕府の政治が文治政治へと転換した理由とその影響について、社会の変化に着目して考察し、適切に表現している。
2 年 1 学 期	126 127	2 安定する社会と諸産業の発達 ◎江戸時代の国内産業は、どのように発達していったのだろうか。	江戸時代の国内産業は、どのように発達していったのか、絵画資料や地図などから読み取ってまとめる。	・身近な地域で行われた新田開発や代表的な特産物を取りあげ、関心を高めさせる。	①幕府・大名や農民が米の生産量を増やすために行ったこと（新田開発、効率のよい農具の使用や栄養価の高い肥料の使用など）を、適切に読み取り、理解している。 ②江戸時代に各地で特産物の生産がさかんになった理由について、貿易統制と関連づけて考察し、日用品の国産化の動きなどについて適切に表現している。
2 年 1 学 期	128 131	3 各地を結ぶ陸の道・海の道 ◎交通網の整備は、都市や産業の発達にどのような影響を与えたのだろうか。 歴史を探ろう 昆布ロードと北前船	交通網の整備は、都市や産業の発達にどのような影響を与えたのか、三都を中心とした都市の成長などをふまえて考えらる。	・陸路の街道に橋がかけられていなかったことなどから、商品の輸送に陸上交通は不向きであること、船の輸送は海上だけでなく河川も使われていたことに気づかせる。 ・経済面で武士を圧倒する商人が現れた理由を考えさせる。	①江戸時代のおもな街道と航路の名称とルート、「三都」の名称とそれぞれの特色を理解している。 ②大阪が商業の中心として発達した理由を、交通網の整備や江戸との関係、諸藩の蔵屋敷がおかれたことなどにふれて考察し、適切に表現している。
2 年 1 学 期	132 133	4 上方で栄えた町人の元禄文化 ◎江戸時代前半にはどのような特色をもった文化が展開したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 社会が安定した結果、人々の生活や産業はどのように変化したか、説明する。	江戸時代前半にはどのような特色をもった文化が展開したのか、文化を生み出した担い手の考えを中心に調べてまとめる。 ◇産業の発達と都市の繁栄が与えた影響を確認させる。	・現代に続く年中行事が生まれた背景に気づかせるとともに、身近な地域で行われている年中行事の起源や行事の具体的な内容を調べさせる。 ◇文化の担い手に着目させる。	①江戸時代前半のころに庶民が親しんだ文化を二つ以上あげ、それぞれ表などで適切にまとめ、理解している。 ②上方の町人が文化の担い手になった理由を、商業の発達や都市の繁栄などの面から考察し、適切に表現している。
第5節 社会の変化と幕府の対策 ◇節の問い◇ なぜ幕府は改革が必要だったのだろうか。		<「幕府の政治の展開」を扱うこの単元のねらい> ○貨幣経済の農村への広がりや自然災害などによる都市や農村の変化などをふまえて、近世社会の基礎が動揺していったことに気づかせる。 ○外国船の接近とそれに対応した幕府による北方の調査や打払令などを取り上げる。 ○財政の悪化などを背景とした幕府の政治改革を取り上げ、百姓一揆などに結びつく農村の変化や商業の発達などへの対応というねらいがあったことに気づかせる。 ○蘭学や国学などの中に新しい時代を切り開く動きがみられたことに気づかせる。			<「幕府の政治の展開」を扱うこの単元の評価規準> ①社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどをもとに、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②社会の変化と幕府の政策の変化に着目して、貨幣経済が農村に広がる中で経済的な格差が生み出され、それらの背景として百姓一揆がおこったことや、社会や経済の変化への対応としての諸改革の展開を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③幕府政治の展開について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
2 年 1 学 期	134 135	1 貨幣経済の広まり ◎徳川吉宗はどのような改革を行ったのだろうか。	徳川吉宗はどのような改革を行ったのか、また、貨幣を使う機会が増え、農村ではどのような変化があったのか、文章やグラフなどの資料から読み取ったり、考えたりする。	・商業や手工業の発達が、農民の生活をどのように変えたか、農民の収入や支出の品目など具体的な生活をイメージさせながら考えさせる。	①徳川吉宗が財政を立て直しのために行った政策を文章から読み取り、成果や課題についても表などで適切にまとめ、理解している。 ②農村において格差が生まれるなどの変化が見られるようになった理由を、商品作物の生産がさかんになったことをふまえて考察し、「商品作物」「貨幣」の語を用いて適切に表現している。

2 年 1 学 期	136 137	2 繰り返される要求と改革 ◎百姓の要求と財政難に対して、幕府はどのような対応を行ったのだろうか。	百姓の要求と財政難に対して、幕府はどのような対応を行ったのか、田沼意次と松平定信の政策のちがいに着目させて、表にまとめる。	・財政再建策を大きく二つに分けると、収入増と支出削減を進める方法があることに気づかせ、さまざまな政策はどちらにかかわりが深いかを考えながらまとめさせる。	①百姓一揆や打ちこわしがどのようなことを背景として起こり、何を要求した運動だったのかを理解している。 ②田沼意次と松平定信の政策の違いについて、田沼意次は商品の流通や生産活動から得られる利益を重視し、一方の松平定信は農村の立て直しを重視したことなどに着目して考察し、適切に表現している。
2 年 1 学 期	138 143	3 江戸の庶民が担った化政文化 ◎江戸時代後半には、どのような特色を持った文化が展開したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 江戸時代後期に行われた幕府の諸改革は、どのような結果であったか、社会の変化と関連づけてそれぞれ説明してみよう。 歴史を探ろう 世界有数の百万都市 江戸	江戸時代後半には、どのような特色を持った文化が展開したのか、文化を生み出した担い手の考えを中心に調べてまとめる。 ◇幕府の改革はどのような内容だったか、確認させる。	・文化の中心が上方から江戸に移ったことに気づかせ、その理由を考えさせる。 ・庶民の教育がさかんになり、高い識字率を実現したことが、その後の近代産業が発展する原因の一つになったことに気づかせる。 ◇「質素や儉約」がねらい通りにはいなかったことに着目して考えさせる。	①小学校の学習をふまえて、国学や蘭学など、新しい学問の発達に与えた影響について、表などで適切にまとめ、理解している。 ①幕末には文字を読める人の割合が高かった理由を、寺子屋などの普及をもとに理解している。 ②印刷技術が人々に与えた影響について、浮世絵の流行や地方にも文化が伝わったことなどに着目して考察し、適切に表現している。
2 年 1 学 期	144 145	多面的・多角的に考えてみよう 赤穂事件を考察する — 旧赤穂藩の浪士たちの処罰の行方	赤穂事件の概要と武家諸法度の方針が変更されていたことをふまえ、主君の仇討ちを果たした赤穂浪士を「忠義の義士」として許すか、「徒党」を組んだ罪で厳罰にするべきかを考える。	・助命する意見と厳罰にする意見とその根拠を整理し、当時の江戸の人々が赤穂浪士をたたえた理由を自分なりに考えた上で、将軍としてどのような判断を下すか考え、当時の資料に基づいた判断の根拠を明確にして説明する。 ・処罰には「打ち首」と「切腹」という方法があったことに気づかせる。	①資料をもとにして、旧赤穂藩の浪士たちが仇討ちを実行した理由や経緯、幕府が赤穂浪士に対して「切腹」という処罰を決定した理由を理解している。 ②赤穂浪士を助命すべきという主張と処罰すべきという主張の根拠をふまえ、当時の資料に基づいて将軍としてどのような判断を下すべきかを考察し、根拠を明確にして適切に説明している。
2 年 1 学 期	146 147	章の学習を振り返ろう 武家政権の展開と世界の動き ■章の問い ■ 全国を統一する安定した政権を成立させたものは何か。	全国を統一するために織田・豊臣・江戸幕府が行った政策で共通する点に着目し、安定した政権が成立するために必要なことを考えて発表し、意見交換を行う。 近世とはどのような時代か、自分の言葉で表現したり、意見交換を行ったりする。	・中世の幕府政治との違い（比較）、全国を統一するしくみの展開（推移）、安定した支配と外国との関係の歴史のな見方・考え方として働かせるようにする。 ・政治が行きづまりを見せた理由にも着目させる。 ・近世とはどのような時代か、まずは短い言葉で特色を表現させ、歴史的な見方・考え方（時代や年代、推移、比較、相互の関連）を働かせて、そのように表現できる理由を説明させる。	①章の学習を振り返り、歴史的な見方・考え方を働かせて、安定した政権が成立するために必要なことを効果的にまとめている。 ②安定した政権が成立する条件に着目するなどして、近世の日本を大観し、時代の特色を多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 ③近世の安定した政権に見られた諸問題について、現代のあり方と比較するなどして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
第4章 近代(前半) 近代国家の歩みと国際社会 ■章の問い ■ 「近代化」による、政治や社会の大きな変化とは何か。			<第2部第4章のねらい> ①欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解させる。 ①開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などを基に、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解させる。 ①自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正などを基に、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的な地位が向上したことを理解させる。 ①我が国の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解させる。 ②工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響、経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。 ②近代前半の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現させる。 ③近代前半の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。		<第2部第4章の評価規準> ①欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解している。 ①開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などを基に、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解している。 ①自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正などを基に、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的な地位が向上したことを理解している。 ①我が国の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解している。 ②工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響、経済の変化の政治への影響、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ②近代前半の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③近代前半の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

<p>第1節 欧米諸国における「近代化」 ◇節の問い◇「近代化」の進展で、欧米諸国の政治や社会はどのように変化したのだろうか。</p>		<p><「欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き」を扱うこの単元のねらい> ○政治体制の変化や人権思想の発達や広がり、現代の政治とのつながりなどと関連づけて、アメリカの独立やフランス革命を取り上げ、政治的な対立と社会の混乱、そこで生じた犠牲などを経て近代民主政治への動きが生まれたことに気づかせる。 ○工業化による社会の変化という観点から、イギリスなどにおける産業革命を取りあげ、資本主義社会が成立したことや労働問題・社会問題が発生したことに気づかせる。 ○産業革命の進展にもなつて、欧米諸国が新たな工業製品の市場や工業原料の供給地を求めてアジアへの進出を強めたことを理解させる。</p>	<p><「欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き」を扱うこの単元の評価規準> ①欧米諸国における市民革命や産業革命をもとに、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへの進出たことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②工業化の進展と政治や社会の変化に着目して、近代化の進展により欧米諸国の政治や社会がどのように変化したかを考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③欧米における近代社会の成立について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>	
<p>2年2学期</p>	<p>148 149</p>	<p>1 市民革命の始まり ◎イギリスでの革命や、アメリカでの独立運動によって、政治のあり方はどのように変化したのだろうか。</p>	<p>イギリスでの革命や、アメリカの独立戦争によって成立した政治体制とはどのようなものか、資料などから読み取り、表にまとめる。</p> <p>・「市民革命」の「市民」とは、王などによって支配される側にいた人々のことを指すことを確認しておく。 ・「国王」「市民」「法」「主権者」「議会」などのキーワードを用いて、「近代化」の意味を説明できるようにさせる。 ・イギリスでのピューリタン革命やアメリカ独立戦争が起こった共通のきっかけとして、税に対する反発があったことに気づかせる。</p>	<p>①イギリスとアメリカに成立した政治体制を、成立までの経緯をふまえて、表などで適切にまとめ、理解している。 ①君主政治と民主政治の違いを文章や図をもとに読み取り、立憲君主政の特色について理解している。 ②「近代化」とはどのような変化のことか、政治の面から考察し、「法」という言葉を用いて適切に表現している。</p>
<p>2年2学期</p>	<p>150 151</p>	<p>2 人権思想からフランス革命へ ◎フランス革命によって、政治や社会はどのように変化したのだろうか。</p>	<p>フランス革命によって、社会はどのように変化したのか、啓蒙思想を示す資料や『人権宣言』などから読み取る。</p> <p>・18世紀におけるフランス社会が、三つの身分で構成される社会であったこと、人口の9割以上を占めた第三身分（平民）は、免税特権のある第一身分（聖職者）、第二身分（貴族）を支えるための重税に苦しんでいたことを、風刺画も活用して確認しておく。</p>	<p>①『人権宣言』で主張されたことを確認したうえで、フランス革命前後の税の負担を表した風刺画を適切に読み取り、社会がどのように変化したのかを理解している。 ②フランス革命がその後のヨーロッパに与えた影響や、18世紀のフランスが当時の日本と同じような身分制社会であり、アメリカの独立からフランス革命を受け継がれた自由・平等の考え方が、明治以後の日本にも大きな影響を与えるようになったことについて考察し、適切に表現している。</p>
<p>2年2学期</p>	<p>152 153</p>	<p>3 産業革命と資本主義の成立 ◎産業革命によって、社会はどのように変化した。また、どのような考え方が生まれたのだろうか。</p>	<p>産業革命によって、社会はどのように変化した。また、どのような考え方が生まれたのか、絵画資料などをもとに読み取る。</p> <p>・産業革命によって生まれた工業中心の社会の良い面と課題の両面に気づかせる。 ・資本主義と社会主義の違いを表などでまとめて理解させておき、世界恐慌時や第二次世界大戦後の世界の動きを説明させるときに知識が活用できるようにする。</p>	<p>①産業革命のときに利用されるようになった蒸気機関によって、生産力や輸送能力が大きく向上し、人々の動きが活発となり、資本主義の成立や発展を支えていたことを理解している。 ②社会主義の考え方が生まれた理由について、資本主義社会における資本家と労働者の関係に着目して考察し、適切に表現している。</p>
<p>2年2学期</p>	<p>154 155</p>	<p>4 欧米諸国の近代国家建設 ◎アメリカ・ドイツ・ロシアでは、それぞれどのように近代国家の建設を進めたのだろうか。</p>	<p>産業革命やフランス革命の影響を受けて、アメリカやドイツ、ロシアではどのような国づくりが行われたか、地図や絵画資料などをもとに読み取る。</p> <p>・アメリカでは、領土の拡大とともに、東部と西部を結ぶ鉄道が発達し、工業がぐましく発展していったことに気づかせる。 ・明治維新のころ、ヨーロッパではドイツが統一され、立憲君主政のもとで工業化を進め、世界進出を目指すようになった一方、ロシアではまだ皇帝による専制政治のもとでの近代化が行われていたことに気づかせる。</p>	<p>①南北戦争期のアメリカ南部と北部の産業の特色の違いを表などにまとめ、お互いが争うようになった理由を読み取って適切に理解している。 ②アメリカ、ドイツ、ロシアで近代国家が建設されるなかで、それぞれどのような課題が残されたか、人種差別や政治の体制などに着目して考察し、適切に表現している。</p>
<p>2年2学期</p>	<p>156 159</p>	<p>5 世界進出を目指す欧米諸国 ◎欧米諸国は、なぜ世界各地に植民地を広げていったのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇各地域で「近代化」はどのように展開したのか、イギリス・フランス・アメリカのそれぞれの地域ごとに説明してみよう。</p>	<p>欧米諸国は、どのようにして世界へ進出したのか、イギリスとインドなどの関係を事例として、地図や資料から読み取ったり考えたりする。</p> <p>◇市民革命と産業革命による社会の変化、市場や植民地を求めての世界進出に着目して考えさせる。</p> <p>・地図をもとにして、イギリスがアジア進出を進めるうえで、インドを拠点としていたこと、南下政策をとるロシアとの争いが激しくなっていくこと、日本は両者の勢力がぶつかり合う位置にあったことに気づかせる。</p>	<p>①工業化を進める欧米諸国が世界各地へ進出した理由と、イギリスが「世界の工場」とよばれ、ほかのヨーロッパ諸国と比べて優位にたつた理由を理解している。 ②欧米諸国がつくった経済のしくみや植民地支配が、アジア・アフリカに与えた影響について考察し、当時だけでなく現在まで続く問題にもつながっていることを適切に表現している。</p>

<p>第2節 開国と幕府の終わり ◇節の問い◇ 欧米諸国が来航するなかで、人々はどのような対応をしていたのだろうか。</p>		<p><「欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き」を扱うこの単元のねらい> ○欧米諸国のアジア進出と関連づけて取り扱い、アヘン戦争後に幕府が対外政策を転換して開国したこと、その政治的および社会的な影響を理解させ、それが明治維新の動きを生み出したことに気づかせる。</p>	<p><「欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き」を扱うこの単元の評価規準> ①欧米諸国のアジア進出による中国の動き、日本の開国と貿易の開始による政治的、経済的、社会的な影響を理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べとめている。 ②工業化の進展と政治や社会の変化に着目して、欧米諸国の市場や原料供給地を求めたアジアへの進出が、日本の政治や社会に与えた影響を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動きについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>	
<p>2年2学期 160 161</p>	<p>1 日本を取り巻く世界情勢の変化 ◎「近代化」を進める欧米諸国の来航は、東アジアにどのような影響を与えたのだろうか。</p>	<p>世界情勢の変化は、江戸時代の日本にどのような影響を与えたのか、外国船の来航と幕府の対応、アヘン戦争とその影響などを法令や地図などの資料をもとに考える。</p>	<p>・外国船が来航した背景について、前節で学んだことを復習しておく。 ・異国船打払令を批判した蘭学者を幕府が処罰していたことに気づかせる。 ・幕府の命による蝦夷地の調査や高杉晋作による奇兵隊の創設など、外国の侵略に備える動きが広がっていたことに気づかせる。</p>	<p>①植民地を求めてアジアやアフリカなどに進出する欧米諸国の動きが、やがて江戸時代の日本にも及び、幕府が許可しているオランダ以外の国々の船が日本の周辺に現われるようになって、引き続き外国船を追い払う方針を変えなかったことを理解している。 ①南京条約で決まったことがらをまとめて、小学校のときに学んだ、日本が開国してアメリカと結んだ条約との共通点に気づき、南京条約の意味を理解している。 ②異国船打払令から薪水給与令へと幕府の政策が変化した理由について、アヘン戦争の影響をふまえて考察し、適切に表現している。</p>
<p>2年2学期 162 163</p>	<p>2 諸藩の改革と幕府の衰退 ◎飢饉や財政の悪化に対して、諸藩や幕府はどのような改革を行ったのだろうか。</p>	<p>飢饉や財政の悪化に対して、諸藩や幕府は、どのような改革を行ったのか、資料などから読み取り、表などにまとめる。</p>	<p>・当時、身近な地域を支配していた領主は、どのような政治改革を行ったのか、調べさせておき、簡単に説明させる。 ・新しい生産のしくみや専売制など、藩による財政立て直しの方法に着目させる。 ・諸藩の改革が、幕末の政治や明治期に日本で近代産業が発展する基盤になったことに気づかせる。</p>	<p>①大塩平八郎は幕府のどのような態度を批判したのか、幕府は大塩平八郎が起こした反乱になぜ大きな衝撃を受けたのかを文章から読み取って理解している。 ②藩や幕府の改革の内容をふまえ、改革に成功した藩の政策の共通点と幕府の政策が失敗した理由について考察し、適切に表現している。</p>
<p>2年2学期 164 165</p>	<p>3 黒船来航の衝撃と開国 ◎ペリーらの来航は、日本にどのような影響を与えたのだろうか。</p>	<p>ペリーらの来航により、日本ではどのような変化が起こったのか、資料などから読み取り、経緯を流れ図にまとめる。</p>	<p>・幕府の威信（権威）が大きく揺らいだきっかけとして、天保の改革の失敗、開国の決定に際し、初めて諸大名や下級の幕臣などに意見を求めたこと、朝廷に報告したこと、大老の井伊直弼が暗殺されたことなどがあることに気づかせる。</p>	<p>①日本とアメリカとの間で結ばれた条約とその内容を表にまとめ、それぞれの課題についても理解している。 ②関税自主権と領事裁判権の意味と日本が抱えた問題点をふまえ、この時期に始まった外国との貿易が日本の経済や社会に与えた影響を考察し、適切に表現している。</p>
<p>2年2学期 166 167</p>	<p>4 江戸幕府の滅亡 ◎江戸幕府はどのようにして倒れていったのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 武士の政権である江戸幕府が倒れた理由について、社会の変化・諸藩の動き・対外関係の三つの面から説明してみよう。</p>	<p>武士による政治は、どのように終わりを迎えたのか、戊辰戦争にいたるまでの経緯を資料などから読み取り、流れ図や年表にまとめる。 ◇工場制手工業、諸藩の改革、アヘン戦争前後から開国にいたるまでの動きと幕府の権威の低下に着目して考えさせる。</p>	<p>・長州藩や薩摩藩の動きだけでなく、幕府が低下した権威や威信をどのようにして回復しようとしたのか、幕府の「近代化」政策とは何かという点に着目させる。</p>	<p>①倒幕を進めた勢力と、その中心となった人物について、流れ図や年表を用いて適切にまとめ、理解している。 ①長州藩と薩摩藩が攘夷から考えを変えた理由について、両者の藩が共通して経験したことなどを注目に留意し、どのような動きによって幕府が倒れていったのかを考察して、適切に表現している。</p>
<p>第3節 明治政府による「近代化」の始まり ◇節の問い◇ 明治政府はどのような国づくりを行ったのだろうか。</p>		<p><「明治維新と近代国家の形成」を扱うこの単元のねらい> ○明治維新について、複雑な国際情勢の中で独立を保ち、近代国家を形成していった政府や人々の努力に気づかせる。 ○富国強兵・殖産興業政策の下に新政府が行った、廃藩置県、学制・兵制・税制の改革、身分制度の廃止、領土の画定を取りあげ、学制など今日につながる諸制度がつけられたことや、身分制度の廃止にもかかわらず現実には差別が残ったことに気づかせる。 ○欧米諸国から取り入れた制度や文化の影響で、社会のようすや人々の生活が大きく変化したことに気づかせる。</p>	<p><「明治維新と近代国家の形成」を扱うこの単元の評価規準> ①富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などをもとに、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べとめている。 ②明治政府の諸改革の目的に着目して、諸改革が政治や文化や人々の生活に与えた影響を考察したり、明治維新について、近世の政治や社会との違いに着目して、近世から近代への転換のようすを考察したりするなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③明治維新と近代国家の形成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>	

2年2学期	168 169	タイムトラベル④ 明治時代を眺めてみよう 1880～90年代ごろのある場面	明治時代のある地方都市の様子をえがいた想像図を見て、江戸時代と比べて、どのような点が変化し、どのような共通点があったのかを読み取り、疑問があれば追究すべき課題（生徒自身の「単元を貫く問い」）を設定する。	・「次の場面を探してみよう！」の課題をもとに、近代化政策によって生まれた大きな社会の変化に着目させる。 ・「集会所に参加した多くの人が求めていたこととは何か」「生糸はどこへ運ばれるのか」「農村で見られた変化（桑畑の増加）とは何か」「教会をつくったのはだれか」などの追究課題が考えられる。	①小学校で学んだことをふまえて、明治時代の地方都市と江戸時代までの町との違いについて、建築物や人々の役割、子どもの生活の変化などから適切なことがらを読み取っている。 ②学校教育や徴兵制の導入、近代建築、鉄道の開通、製糸工業による生糸の輸出など、近代化の政策によって見られるようになったさまざまな面の変化や人々の服装・住居などについて、江戸時代と明治時代の共通点や相違点を考察し、写真資料などをもとに適切に表現している。 【章の学習を振り返ろう】（84時限の「タイムトラベルを眺め直そう！」の活動場面で ②想像図にえがかれているさまざまなことがらとともに、近代前半の時代の特徴を自分の言葉で適切に表現している。
2年2学期	170 171	1 新政府による改革 ◎この時期には、どのような政治のしくみや社会の変化があったのだろうか。	明治維新とは、どのような改革・変化だったのか、新政府がどのような国家をめざしたのかを資料などを読み取りながら考える。	・廃藩置県によって、藩の名称がそのまま県の名称になったところと、それが認められなかったところがあることに気づかせる。 ・近代化を目指す動きと古代の時代の特色との共通点（天皇中心の国づくり）に気づかせる。	①版籍奉還と廃藩置県の内容とそのねらい、廃藩置県を行うことでなぜ中央集権国家とよべるようになるのかを理解している。 ②新政府はなぜ廃藩置県や身分制度の廃止を必要としたのか、江戸時代の幕藩体制との違いに着目して考察し、「欧米諸国」「中央集権」などの語を用いて適切に表現している。
2年2学期	172 173	2 富国強兵を目指して ◎日本を欧米諸国に劣らない強い国にするため、どのような政策が行われたのか、新政府が行った殖産興業政策、兵制・税制の改革を中心に資料などから読み取る。	日本を欧米諸国に劣らない強い国にするために、どのような政策が行われたのか、新政府が行った殖産興業政策、兵制・税制の改革を中心に資料などから読み取る。	・それぞれ基本的な絵画資料や統計資料、さらに地券については実物資料や写真を見せて、具体的に理解できるようにする。 ・徴兵令に反対する人々や地租改正後に負担が変わらず不満が残った農民がいたことなど、改革は順調に進んでいったわけではないことに気づかせる。	①「富国」のために行われた政策（殖産興業、地租改正、学制）と、「強兵」（殖産興業、徴兵令、学制）のために行われた政策を表に整理するなど適切にまとめ、理解している。 ②富国強兵の政策（殖産興業、徴兵令、地租改正、学制）の中から一つを選び、その政策が社会に与えた影響について具体的な資料などにもとづいて考察し、適切に表現している。
2年2学期	174 177	3 文明開化と新政府の政策 ◎新政府が進めた新しい政策や欧米の文化を、人々はそのように受け止めたのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 日本の「近代国家」の建設に向けて、明治政府はどのような政策を行ったのか、欧米の近代化の推移を踏まえて説明してみよう。 歴史を探ろう 世界に開かれた港 横浜	新しい政策や欧米の文化は、人々の生活にどのような影響を与えたのか、絵画資料などから読み取ったり考えたりする。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 日本の「近代国家」の建設に向けて、明治政府はどのような政策を行ったのか、欧米の近代化の推移を踏まえて説明してみよう。 歴史を探ろう 世界に開かれた港 横浜	・絵画資料をもとにして、文明開化によって人々の生活がどのように変化したか、具体的に考えさせる。 ・都市と農村を比べると、農村では文明開化の文化や生活スタイルがすぐには変化しなかった理由があることに気づかせる。	①日本に取り入れられた欧米の文化や生活様式を、絵画資料や文章をもとに具体的に理解している。 ②政府の新しい政策のうち、学制、徴兵令、地租改正について、国民から強い抵抗があった理由を考察し、適切に表現している。
第4節 近代国家への歩み ◇節の問い◇ 日本の「近代国家」の建設は、どのようになされたのだろうか。		<「議会政治の始まりと国際社会との関わり」を扱うこの単元のねらい> ◎自由民権運動の全国的な広がり、政党の結成、憲法の制定過程とその内容の特徴を取り上げ、大日本帝国憲法の制定によって当時アジアで唯一の立憲制の国家が成立したことをふまえて、立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことの歴史上の意義や現代の政治とのつながりに気づかせる。			<「議会政治の始まりと国際社会との関わり」を扱うこの単元の評価規準> ①自由民権運動、大日本帝国憲法の制定をもとに、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、日本の国際的な地位が向上したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、 ②議会政治や政治の展開に着目して、世界との関係や、現代の政治とのつながりを考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③議会政治の始まりについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
2年2学期	178 179	1 新たな外交と国境の画定 ◎新政府はどのような外交政策を進めていったのだろうか。	新政府は、どのような外交政策を進めたのか、欧米諸国とアジアに対する方針の違いにも着目しながら、地図や資料などから読み取ったり考えたりする。	・欧米諸国、中国、朝鮮、ロシアとの関係性にそれぞれどのような違いがあるかに注目させ、それがなぜかを考えさせる。 ・西郷隆盛と大久保利通の考え方の違いに気づかせる。	①新政府が1870年代に結んだ条約とその内容について、表などにまとめて整理し、新政府が国境を画定していった理由を近代国家の特徴をふまえて理解している。 ①日本地図の上に明治時代の国境を書き入れて、現在の国境とどこが違っていたかを適切に示している。 ②新政府が中国・朝鮮と結んだ条約の違いについて、欧米諸国と日本の関係との共通点にふれながら考察し、「領事裁判権」という語を用いて適切に表現している。
2年2学期	180 183	2 沖縄・北海道と「近代化」の波 ◎新政府は沖縄や北海道に対してどのような政策を進めていったのだろうか。 歴史を探ろう 移住と開拓が進む北海道	新政府は沖縄や北海道に対してどのような政策を進めていったのか、地図や資料などから読み取ったり考えたりする。	・琉球が日本領に組み入れられる経緯の中に、新政府による台湾や琉球への軍事的な圧力があつたことに気づかせる。 ・沖縄やアイヌの人々の立場から、新政府の政策の問題点を指摘させる。	①新政府が北海道の本格的な統治と開拓を進めた理由を、具体的な政策の内容とともに理解している。 ②新政府が行った政策によって、琉球やアイヌの人々の生活がどのように変化したかを考察し、「日本国民」などの語を用いて適切に表現している。

2年2学期	184 185	3 自由と民権を求めて ◎新政府の政策を批判していた人々は、どのような活動を行ったのだろうか。	人々は意見を政治に反映させるために、どのような活動を展開したのか、地図や地域史の資料などから読み取る。	・植木枝盛や中江兆民によるフランスの人権思想の紹介が、自由民権運動に大きな影響を与えていたことに気づかせる。 ・政府と自由民権運動の対立の結果、国会開設や憲法制定が約束された経緯に気づかせる。	①自由民権運動で要求されたことを読み取り、自由と民権を獲得するためには、どのような準備が必要であったか（国会開設、政党の活動）を理解している。 ②板垣退助など自由民権運動の活動家たちが、国会開設の過程においてそれぞれどのような行動をとったのかを読み取り、理解している。 ③藩閥政府と自由民権運動の目標が共通していた（立憲政治を行うこと）にもかかわらず、対立する関係になった理由（政府は急進的な国会開設を望まなかった）を考察して、適切に表現している。
2年2学期	186 187	4 帝国憲法の成果と課題 ◎大日本帝国憲法はどのような特色があり、その下でどのような国のしくみが作られたのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇なぜ明治政府は、国境を画定し、憲法を作ったのか、欧米の近代国家の建設の過程も踏まえて説明してみよう。	大日本帝国憲法や帝国議会にはどのような特色があるのか、条文を読んだり選挙のようすを調べたりしながら、その特色を考える。 ◇不平等条約の改正を欧米諸国に認めさせるといふ目標を明治政府がもっていたことをふまえ、近代国家を成立させるためのさまざまな条件に着目して考えさせる。	・主権者教育の観点から、詳細な知識は求めないものの、大日本帝国憲法や帝国議会、選挙が現在の憲法や国会、選挙とどのような点で違っているかにも着目させる。	①大日本帝国憲法における天皇・国民についてのあり方を、条文などから適切に読み取り、理解している。 ②帝国議会や選挙のしくみの主な点（主権が天皇にあること、男性の一部にしか選挙権がなかったことなど）について、現在との違いを理解している。 ③大日本帝国憲法の制定によって、国民にどのような成果と課題（さまざまな自由が認められ、国民の政治参加も可能になったが、制限があったこと）があったかを考察し、具体的な内容をふまえて適切に表現している。
2年1学期	188 189	多面的・多角的に考えてみよう 『三酔人経綸問答』を考察する	1880年代までの世界情勢をふまえて、日本が他国とどのように付き合うべきかを考え、さまざまな主張に対する自分なりの意見を発表する。	・『三酔人経綸問答』に登場する三人の主張を「アジヤ寄りか欧米寄りか」「武力を放棄するか重視するか」という観点で整理した上で、それぞれの内容と主張の根拠を表にまとめる。 ・三人の主張に対して、当時の視点から、現在の視点からかを明確にして、自分なりの批判を発表させる。	①資料をもとにして、当時の世界各地の様子をふまえ、ヨーロッパの国々の侵略を受けない国にするために、日本はどのような手段をとることができるか、それはなぜかを理解している。 ②日本がとるべき外国との関係の主張とその根拠を参考にして、当時の視点に立って、日本がとるべき立場を選択したり新たな主張を考えたりし、根拠を明確にして適切に説明している。
第5節 帝国主義と日本 ◇節の問い◇「近代国家」日本は、世界でどのような動きをしていたのだろうか。		<「議会政治の始まりと国際社会との関わり」を扱うこの単元のねらい> ○国内の社会状況や国際情勢とのかかわりなどの背景をふまえて、欧米諸国と対等の外交関係を樹立するための長年の努力の過程で条約改正が実現したことを理解させる。 ○大陸との関係をふまえて、日清・日露戦争にいたるまでの日本の動き、戦争のあらましと国内外の反応、韓国の植民地化などを取り上げ、日本の国際的地位が向上したことを理解させる。		<「議会政治の始まりと国際社会との関わり」を扱うこの単元の評価規準> ①条約改正、日清・日露戦争などをもとに、日本の国際的地位が向上したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②外交や戦争の展開に着目して、世界との関係や現代の政治とのつながりを考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③国際社会との関わりについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	
2年3学期	190 191	1 アジアの列強を目指して ◎明治政府は条約改正に向けて、どのような取り組みを行ったのだろうか。	帝国主義とはどのような動きや考えか、長年の条約改正への努力のねらいとは何か、なぜ条約改正の一部が実現したのかについて、当時の国際関係などをふまえて、地図や資料から読み取る。	・地図や風刺絵を活用して、イギリスが日本とどのような関係を結ぼうとしたかに気づかせる。 ・欧米諸国との対等な関係を求めるための政策の中には、国民からの批判を受けような面もあったことに気づかせる。	①帝国主義とはどのような動きや考えかかを文章から読み取り、理解している。 ②領事裁判権の撤廃に成功した理由について、明治政府の国内での取り組みと世界情勢をふまえて考察し、条約改正に向けての外交努力や世論の高まり、ロシアの南下を警戒するイギリスとの関係をもとにして、適切に表現している。
2年3学期	192 193	2 朝鮮をめぐる対立 日清戦争 ◎日本と中国との間でどのような対立があり、その結果はどのようなものになったのだろうか。	日本と中国との間でどのような対立があり、戦争の結果、日本と中国はそれぞれどのようなものになったのか、風刺絵の資料や地図などを活用しながら流れ図でまとめる。	・地図をもとに日清戦争の主な戦いは朝鮮半島と遼東半島で起こっていたこと、戦争後、欧米列強が清に進出していったことに気づかせる。 ・三国干渉が、日露戦争が起こる背景の一つになっていたことに気づかせる。	①日清戦争開始のきっかけとなったできごと、戦争の結果（下関条約の内容）や三国干渉後の朝鮮の状況までを、流れ図を用いて適切にまとめ、理解している。 ②日清戦争によって、日本・中国・朝鮮のアジアでの立場がどのように変わったのかをさまざまな面から考察し、欧米列強との関係もふまえて適切に表現している。
2年3学期	194 195	3 世界が目撃した日露戦争 ◎日本とロシアとの間でどのような対立があり、その結果はどのようなものになったのだろうか。	日本とロシアとの間でどのような対立があり、その結果はどのようなものになったのか、風刺絵の資料や地図などを活用しながら関係図でまとめる。	・戦争の背景や経過、結果をまとめるときに、日本とロシアだけでなく、イギリスやアメリカ、清や韓国との関係もふくめて考えやすくするため、関係図で示す方法が有効であることを示す。 ・日露戦争後に日本が開港自主権を完全に回復し、条約改正がすべて達成されたことの意味を考えさせる。	①日本とロシアが対立した背景について、「満州」（中国東北部）やイギリスもふくめた関係図を用いて、適切にまとめ、理解している。 ①ポーツマス条約で決まったことによって、日比谷焼き打ち事件などの暴動が起こった理由（賠償金が得られなかったこと）を理解している。 ②日露戦争によって、日本と外国との関係がどのように変わったのかをさまざまな面から考察し、アメリカとロシア、韓国との関係について適切に表現している。

2 年 3 学 期	196 197	<p>4 塗り替えられたアジアの地図</p> <p>◎日清・日露戦争の後、朝鮮・中国ではどのような変化が見られたのだろうか。</p> <p>◇節の問いを振り返ろう◇ 日清・日露戦争前後の日本の、中国・朝鮮との関わりの推移をまとめ、日本のアジアでの立場はどのように変化したか説明してみよう。</p>	<p>日清・日露戦争後のアジアの人々の意識の変化、韓国や満洲における日本の政策、中華民国の成立の経緯について、資料などから読み取る。</p> <p>◇条約の具体的な内容やアジアの人々からの視点に着目させて、日本の立場の変化を考えさせる。</p>	<p>・韓国をはじめとしたアジアの人々が日本に対してどのような感情をいだくようになったかについて、資料を読ませて自由に予想を述べさせる。</p> <p>・地図帳で長春、旅順、大連、武漢、南京などの都市の位置を地図帳で確認させる。</p>	<p>①日本と韓国の関係の変化について、日露戦争後から韓国併合とその後の日本の植民地政策までを整理し、流れ図などを用いて適切にまとめ、理解している。</p> <p>②日露戦争後に中国で起こった辛亥革命によって皇帝による政治が終わったことや、アジア初の共和国である中華民国が成立したことを文章から読み取り、理解している。</p> <p>③日本でのアジアでの立場が日清・日露戦争後にどのように変わったのかをさまざまな面から考察し、アジア諸国の立場から考えられること（日本が帝国主義国としての動きを活発にしたこと）にもふれて、適切に表現している。</p>
<p>第6節 アジアの強国の光と影</p> <p>◇節の問い◇「近代化」によって、日本の産業や社会はどのように変化したのだろうか。</p>		<p><「近代産業の発達と近代文化の形成」を扱うこの単元のねらい></p> <p>○富国強兵・殖産興業政策の下、製糸業、紡績業や鉄鋼業などの近代産業が日清戦争前後から飛躍的に発展して、資本主義経済の基礎がたまったこと、都市や農山漁村の生活に大きな変化が生じたことに気づかせる。</p> <p>○近代化遺産を取り上げるなど、身近な地域を例としながら、鉄道網の広がりや工業の発達などによって人々の生活の変化がみられた一方で、労働問題や社会問題が発生したことに気づかせる。</p> <p>○伝統的な文化の上に欧米文化を受容して、日本の近代文化が形成されたことに気づかせる。</p>		<p><「近代産業の発達と近代文化の形成」を扱うこの単元の評価規準></p> <p>①日本の産業革命とこの時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などをともに、日本で近代産業が発達し、近代文化が形成されたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。</p> <p>②近代化がもたらした文化への影響に着目して、産業の発展が国民生活や文化に与えた影響を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③近代産業の発達と近代文化の形成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>	
2 年 3 学 期	198 201	<p>1 近代日本を支えた糸と鉄</p> <p>◎日本の軽工業や重工業は、どのように発展していったのだろうか。</p> <p>歴史を探ろう 「絹の道」と日本の製糸業</p>	<p>日本の軽工業や重工業はどのように発展していったのか、地図やグラフなどの資料から読み取る。</p>	<p>・「糸で軍艦を買う」というはどういう意味かを考えさせる。</p> <p>・鉄道と工場の位置との関係に注目させ、教科書p.201の②「日本の製糸業はどのように発展したのかな？」を読ませて、現在と当時の鉄道の主な役割の違い（貨物輸送がさかんだったこと）に気づかせる。</p>	<p>①近代日本の工業化について、軽工業と重工業に分け、それぞれの工業製品を示しながら、表などで適切にまとめ、理解している。</p> <p>②軽工業と重工業の発展によって、日本の経済と産業はどのように変わったか、貿易上の地位の向上や軍需産業に力が入られたこと、財閥の登場などに着目して考察し、適切に表現している。</p>
2 年 3 学 期	202 203	<p>2 変わる都市と農村</p> <p>◎工業化の進展は、人々の生活にどのような影響を与えたのだろうか。</p>	<p>工業化が進むなかで、農村や都市での人々の生活はどのように変化したのか、資料などから読み取り、その理由を考える。</p>	<p>・日本の工業化にともなう社会の変化を農村の状況や労働問題をもとに考えさせる。</p> <p>・足尾銅山の鉱毒事件を例に、環境問題が起こったことにも気づかせる。</p>	<p>①農村で小作人になる農民が増えた理由や、海外に移住する人々が増えた理由について、当時の社会的な背景をもとに理解している。</p> <p>②社会問題が起こった背景として労働者の労働条件に関する問題があったことや、社会主義の運動が始まったことを理解している。</p> <p>③工業化の進展によって農村の生活がどのように変化したか、イラストの資料などをともに「光」と「陰」の両面から考察し、適切に表現している。</p>
2 年 3 学 期	204 207	<p>3 欧米の影響を受けた近代文化</p> <p>◎明治時代には、どのような特色を持った文化が展開したのだろうか。</p> <p>◇節の問いを振り返ろう◇ 産業革命によって、日本の産業や社会はどのように変化したか、軽工業の発達と農村の変化を例にして説明してみよう。</p>	<p>明治時代になって、人々の生活や文化はどのように変化したのか、文化を生み出した担い手の考えを中心に調べてまとめる。</p> <p>◇歴史を探ろう（「絹の道」と日本の製糸業）を参考に、重要な輸出品であった生糸の生産を農村が支えたり、輸送のために鉄道が敷設されたりしたことに着目して考えさせる。</p>	<p>・新しい日本画を西洋画と比べさせ、絵画の世界でも欧米文化が受け入れられていったことに気づかせる。</p>	<p>①日本の伝統文化や欧米文化に関わった人物に着目し、美術などの発展において、どのような動きがあったかを調べて適切にまとめ、理解している。</p> <p>②学校生活で身につけられる能力や習慣などに着目して、「近代化」のために学校教育が果たした役割を考察し、「国民」「標準語」という語を用いて適切に表現している。</p>
2 年 3 学 期	208 209	<p>章の学習を振り返ろう</p> <p>近代国家の歩みと国際社会 ■章の問い■「近代化」による、政治や社会の大きな変化とは何か。</p>	<p>日本の「近代化」を経済や産業、政治や制度、文化や生活、国際社会という4つの観点ごとに評価し、最も重視したい観点を選んでその理由を説明する。</p> <p>近代前半とはどのような時代か、自分の言葉で表現したり、意見交換を行ったりする。</p>	<p>・総合判定をその理由とともに発表し合った後、評価が異なる人との意見交換を重視させ、自分の理由に追加させたり修正させたりする。</p> <p>・近代後半とはどのような時代か、まずは短い言葉で特色を表現させ、歴史的新見方・考え方（時代や年代、推移、比較、相互の関連）を働かせて、そのように表現できる理由を説明させる。</p>	<p>①章の学習を振り返り、日本の近代化を観点ごとに評価し、歴史的な見方・考え方を働かせて、重視する観点を選んで総合判定を行い、効果的にまとめている。</p> <p>②「近代化」を観点ごとに評価する活動などを通して、近代前半の日本と世界を大観し、時代の特色を多面的・多角的に考察し、適切に表現している。</p> <p>③近代の国家づくりについて、現代のあり方と比較するなどして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>

<p>第5章 近代(後半) 二度の世界大戦と日本 ■章の問い■「近代化」が進展した日本で、世論が求めたものは何か。</p>	<p><第2部第5章のねらい> ①第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動き、我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを基に、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解させる。 ①経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる。 ②戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。 ②近代後半の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し表現させる。 ③近代後半の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。</p>	<p><第2部第5章の評価規準> ①第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動き、我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを基に、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解している。 ①経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解している。 ②戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ②近代後半の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③近代後半の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>
---	--	---

令和7年度(2025年度)用

中学校数学科用

「新編 新しい数学」
学習指導計画・評価規準例
【2年】

令和7年1月29日版

東京書籍

1 章 文字式を使って説明しよう [式の計算] (15 時間)

単元の評価規準例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 簡単な整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算をすることができる。 具体的な事象の中の数量の関係を文字を使った式で表したり、式の意味を読みとったりすることができる。 文字を使った式で数量及び数量の関係を捉え説明できることを理解している。 目的に応じて、簡単な式を変形することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な数の計算や既に学習した計算の方法と関連づけて、整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算の方法を考察し表現することができる。 文字を使った式を活用して具体的な場面を考察し表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字を使った式のよさに気づき粘り強く考えようとしている。 文字を使った式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 文字を使った式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

毎時の評価規準例

節	項	時	目標	学習活動	評価規準例		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 式の計算	マジックシートのしくみは？ (教科書 p. 11～13)	1	マジックシートの仕組みを見だし、その仕組みの説明に文字を使う必要があることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> マジックシートをいろいろな数で計算し、その仕組みを見だす。 文字を使ってマジックシートの仕組みを説明する。 	○文字を使うと、数量を一般的に表すことができることを理解している。	○マジックシートの仕組みが成り立つことを、具体的な数や文字を使って説明することができる。	○文字を使った式の必要性和意味を考えようとしている。
	1 多項式の計算 (教科書 p. 14～18)	2	単項式と多項式、次数の意味を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 文字式を項の数やかけられている文字の個数で分類する。 単項式と多項式、次数の意味を知る。 [用語・記号] 単項式、多項式、項、(単項式の)次数、(多項式の)次数、1 次式	○単項式と多項式、次数の意味を理解している。		○既習の計算方法と関連づけて、多項式の計算方法を考えようとしている。
		3	同類項の意味を理解し、同類項をまとめる計算や、多項式の加法や減法の計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 1 年で学習した同類項をまとめる計算を振り返って、2 つの文字をふくむ計算について考える。 同類項の意味を知る。 同類項をまとめる計算や多項式の加法や減法の計算をする。 [用語・記号] 同類項	○同類項の意味を理解し、同類項をまとめる計算ができる。 ○多項式の加法や減法の計算方法を理解し、計算ができる。	○既習の計算方法と関連づけて、2 つの文字をふくむ同類項をまとめる計算を考え、説明することができる。 ○マジックシートの仕組みが成り立つことを、文字を使って説明することができる。	
		4	多項式と数の乗法や除法の計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 1 年で学習した多項式と数の乗法の計算を振り返って、2 つの文字をふくむ計算について考える。 多項式と数の乗法や除法の計算をする。 	○多項式と数の乗法や除法の計算方法を理解し、計算ができる。	○既習の計算方法と関連づけて、2 つの文字をふくむ多項式と数の乗法や除法の計算を考え、説明することができる。	

	5	いろいろな多項式の計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな多項式の計算をする。 	○いろいろな多項式の計算ができる。		
2 単項式の乗法と除法 (教科書 p. 19～21)	6	単項式どうしの乗法や除法の計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 単項式の乗法や除法の計算方法を、面積図を使って考える。 単項式どうしの乗法や除法の計算をする。 	○単項式どうしの乗法や除法の計算方法を理解し、計算ができる。	○単項式の乗法や除法の計算方法を、面積図を用いて考え、説明することができる。	○単項式の乗法や除法の意味を考えようとしている。
	7	単項式どうしの乗法と除法の混じった計算ができる。また、式の値をくふうして求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 単項式どうしの乗法と除法の混じった式を計算する。 式の値をくふうして求める方法を考え、その方法で式の値を求める。 	○単項式どうしの乗法と除法の混じった計算ができる。	○式の値をくふうして求める方法を考え、説明することができる。	○式の値をくふうして求める方法を考えようとしている。
基本の問題 (教科書 p. 22)	8					
2 文字式の利用	9	数の性質を説明するには？ (教科書 p. 23)	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な数の計算をもとに数の性質を見だし、その性質が成り立つことを、文字を使って一般的に説明できることを理解する。 	○文字を使うと、数の性質を一般的に説明することができることを理解している。		○文字を使った式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。
	10	1 式による説明 (教科書 p. 24～26)	<ul style="list-style-type: none"> 数の性質が成り立つことを、文字を使って説明することができる。 	○文字を使って数量を表したり、説明することがらに合わせて文字式を変形したりすることができる。	○数の性質が成り立つことを、文字を使って説明することができる。	○文字を使った式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
	11		<ul style="list-style-type: none"> 数の性質が成り立つことを、文字を使って説明することができる。 	○文字を使って数量を表したり、説明することがらに合わせて文字式を変形したりすることができる。	○数の性質が成り立つことを、文字を使って説明することができる。	○問題の条件を変えて統合的・発展的に考え、説明することができる。

<p>スタート地点を決めよう (教科書 p. 27~28)</p>	<p>12</p>	<p>身のまわりの場面において、文字を使って数量の関係を見だし、説明することができる。</p>	<p>・となり合うレーンの1周の長さの差を求め、どのとなり合うレーンでも、1周の長さの差は等しいことを見いだす。</p>	<p>○文字を使って数量の関係を表すことができる。</p>	<p>○身のまわりの場面において、文字を使って数量の関係を見だし、説明することができる。</p>	<p>○身のまわりの場面において、文字を使って数量の関係を見だそうとしている。</p>
<p>2 等式の変形 (教科書 p. 29~31)</p>	<p>13</p>	<p>目的に応じて等式を変形することの必要性を理解し、等式を変形して、ある文字について解くことができる。</p>	<p>・具体的な問題の中の数量の間の関係を等式で表し、その等式を成り立たせる文字の値を求める。 ・等式を変形して、ある文字について解く。</p>	<p>○目的に応じて等式を変形することの必要性を理解している。 ○等式を変形して、ある文字について解くことができる。</p>	<p>○等式の性質を利用して、変形した式の意味を考えたり、具体的な問題を解決したりすることができる。</p>	<p>○目的に応じて等式を変形することの必要性を考えようとしている。</p>
<p>基本の問題 (教科書 p. 31)</p>	<p>14</p>					
<p>章の問題A (教科書 p. 32)</p>	<p>15</p>					

2章 方程式を利用して問題を解決しよう [連立方程式] (12時間)

単元の評価規準例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・2元1次方程式とその解の意味を理解している。 ・連立2元1次方程式の必要性と意味及びその解の意味を理解している。 ・簡単な連立2元1次方程式を解くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1元1次方程式と関連づけて、連立2元1次方程式を解く方法を考察し表現することができる。 ・連立2元1次方程式を活用して具体的な場面を考察し表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連立2元1次方程式のよさに気づき粘り強く考えようとしている。 ・連立2元1次方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・連立2元1次方程式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

毎時の評価規準例

節	項	時	目標	学習活動	評価規準例		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	連立方程式とその解き方	1	求めたい数量が2つある問題を、既習の1元1次方程式などを利用して解決することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・3点シュートと2点シュートの本数を、すべての組み合わせを調べたり、1次方程式をつくったりして求める。 		○求めたい数量が2つある問題を、既習の1元1次方程式などを利用して解決することができる。	○1元1次方程式を活用した問題解決の過程を振り返って、2元1次方程式の必要性と意味を考えようとしている。
		2	2元1次方程式とその解の意味、連立方程式とその解の意味を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・2元1次方程式とその解の意味を知る。 ・連立方程式とその解の意味を知る。 [用語・記号] 2元1次方程式、(2元1次方程式の)解、連立方程式、(連立方程式の)解、(連立方程式を)解く	○2元1次方程式とその解の意味を理解している。 ○連立方程式とその解の意味を理解している。	○連立2元1次方程式の必要性と意味を考えようとしている。	
		3	連立方程式では、1つの文字を消去して1次方程式をつくれれば解けることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な問題で、2つの式を比べて1つの文字を消去する方法を考える。 ・文字の係数の絶対値が等しい場合の連立方程式を解く。 [用語・記号] 消去する	○連立方程式では、1つの文字を消去して1次方程式をつくれれば解けることを理解している。 ○文字の係数の絶対値が等しい場合の連立方程式を解くことができる。	○1元1次方程式と関連づけて、連立方程式を解く方法を考えようとしている。	
	4	加減法を理解し、それを用いて連立方程式を解くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の係数の絶対値が等しくない場合の連立方程式を解く。 [用語・記号] 加減法	○加減法を理解し、それを用いて連立方程式を解くことができる。	○文字の係数の絶対値が等しくない場合の連立方程式で、1つの文字を消去する方法を考え、説明することができる。		
	5	代入法を理解し、それを用いて連立方程式を解くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・求めたい数量が2つある問題で、連立方程式と1次方程式を関連づけて、文字を消去する方法を考える。 ・連立方程式を代入法で解く。 ・連立方程式を適当な方法で解く。 [用語・記号] 代入法	○代入法を理解し、それを用いて連立方程式を解くことができる。 ○問題の連立方程式に応じて適切な解法を選ぶことができる。	○一方の式を他方の式に代入し、文字を消去する方法を考え、説明することができる。 ○連立方程式の解き方を振り返って、加減法と代入法を統合的に捉えることができる。		
	2	連立方程式の解き方 (教科書 p. 40～45)					

3 いろいろな連立方程式 (教科書 p. 46~47)	6	かっこをふくむ連立方程式や、係数に小数や分数をふくむ連立方程式を解くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> かっこをふくむ連立方程式を解く。 係数に小数や分数をふくむ連立方程式を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> かっこをふくむ連立方程式の解き方を理解し、解くことができる。 係数に小数や分数をふくむ連立方程式の解き方を理解し、解くことができる。 	○いろいろな連立方程式を、既知の連立方程式になおして解く方法を考え、説明することができる。	○いろいろな連立方程式を、既知の連立方程式になおして解く方法を考えようとしている。
	7	$A=B=C$ の形をした連立方程式を解くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> $A=B=C$ の形をした連立方程式を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> $A=B=C$ の形をした連立方程式の解き方を理解し、解くことができる。 		
基本の問題 (教科書 p. 48)	7					
2 連立方程式の利用	8	具体的な問題を、連立方程式を利用して解決するときの考え方や手順を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> プリンとケーキの個数を、連立方程式を利用して求めることについて考える。 連立方程式を利用して問題を解決するときの手順を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な問題の中の数量やその関係に着目し、連立方程式をつくることができる。 連立 2 元 1 次方程式を利用して問題を解決するときの手順を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 連立 2 元 1 次方程式を利用して、具体的な問題を解決することができる。 求めた解が問題に適しているかどうかを、問題の場面に戻って考え、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 連立 2 元 1 方程式を具体的な問題の解決に利用しようとしている。 連立 2 元 1 方程式を活用した問題解決の過程を振り返って、その手順を検討しようとしている。
	9	個数と代金に関する問題を、連立方程式を利用して解決することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 個数と代金に関する問題を、連立方程式を利用して解決する。 			
	10	速さ・時間・道のりに関する問題を、連立方程式を利用して解決することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 速さ・時間・道のりに関する問題を、連立方程式を利用して解決する。 			
	11	割合に関する問題を、連立方程式を利用して解決することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 割合に関する問題を、連立方程式を利用して解決する。 			
章の問題 A (教科書 p. 54)	12					

3章 関数を利用して問題を解決しよう [1次関数] (19時間)

単元の評価規準例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 1次関数について理解している。 事象の中には1次関数として捉えられるものがあることを知っている。 2元1次方程式を関数を表す式とみることができる。 1次関数の変化の割合やグラフの切片と傾きの意味を理解している。 1次関数の関係を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1次関数として捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連づけて考察し表現することができる。 1次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1次関数のよさに気づき粘り強く考えようとしている。 1次関数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 1次関数を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

毎時の評価規準例

節	項	時	目標	学習活動	評価規準例		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 1次関数	80℃になるまでの時間は? (教科書 p. 57~59)	1	具体的な事象の中の2つの数量の間の関係を調べ、一定の割合で変化していることを見いだす。	<ul style="list-style-type: none"> 水が80℃になるまでの時間を調べるために、水の温度の上がり方を、表やグラフを用いて調べる。 		<ul style="list-style-type: none"> 具体的な事象の中の2つの数量の間の関係について、表やグラフを用いて調べ、一定の割合で変化していることを見だし、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1次関数の必要性和意味を考えようとしている。
	1 1次関数 (教科書 p. 60~61)	2	1次関数の意味を理解し、 $y=ax+b$ の式に表すことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 1次関数の意味を知る。 yをxの式で表して、yはxの1次関数であるかどうかを調べる。 比例や反比例は、1次関数であるといえるかどうかを考える。 [用語・記号] yはxの1次関数である 	<ul style="list-style-type: none"> 1次関数の意味を理解し、$y=ax+b$の式に表すことができる。 比例$y=ax$は、1次関数$y=ax+b$で$b=0$の特別な場合であることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> yをxの式で表して、yはxの1次関数であるかどうかを考察し、説明することができる。 	
2 1次関数の性質と調べ方	1次関数の性質を調べてみよう (教科書 p. 62)	3	1次関数 $y=ax+b$ では、変化の割合は一定で、 a に等しいことを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 1次関数の値の変化を調べ、比例との共通点やちがいについて話し合う。 1次関数の変化の割合について調べる。 具体的な事象において、1次関数の変化の割合が何を意味しているかを読みとる。 反比例の変化の割合について調べる。 [用語・記号] 変化の割合 	<ul style="list-style-type: none"> 1次関数$y=ax+b$では、変化の割合は一定で、aに等しいことを理解している。 1次関数$y=ax+b$で、xの増加量からyの増加量を求めることができる。 具体的な事象において、1次関数の変化の割合が何を意味しているかを読みとることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1次関数の値の変化の特徴を見だし、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1次関数の値の変化の特徴を捉えようとしている。
1 1次関数の値の変化 (教科書 p. 63~64)							

2	1次関数のグラフ (教科書 p. 65~70)	4	1次関数のグラフは、その式をみたす点の集合で、1つの直線であることを理解する。また、1次関数のグラフの切片の意味を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 1次関数のグラフがどのようなになるかを、点を細かくとって調べる。 1次関数 $y=ax+b$ のグラフと比例 $y=ax$ のグラフの関係について調べる。 [用語・記号] 切片	<ul style="list-style-type: none"> 1次関数のグラフは、その式をみたす点の集合で、1つの直線であることを理解している。 1次関数のグラフの切片の意味を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 1次関数のグラフの特徴を見だし、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 比例のグラフと対比させて、1次関数のグラフの特徴を捉えようとしている。 1次関数の式とグラフを関連づけて、1次関数の特徴を捉えようとしている。
		5	1次関数のグラフの傾きの意味を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 1次関数の変化の割合は、グラフではどのようなことを表しているかを調べる。 1次関数について、グラフの傾きと切片をいう。 1次関数の増減とグラフの特徴についてまとめる。 [用語・記号] 傾き	<ul style="list-style-type: none"> 1次関数のグラフの傾きの意味を理解している。 1次関数の値の増減とグラフの特徴を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> グラフの傾きと切片から、そのグラフが表す式を考察することができる。 	
		6	1次関数のグラフを、切片と傾きをもとにかくことができる。また、1次関数について、グラフをもとに x の変域に対応する y の変域を求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 1次関数のグラフを、切片と傾きをもとにかく。 1次関数の表、式、グラフの関係についてまとめる。 1次関数について、グラフを使って x の変域に対応する y の変域を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> 1次関数のグラフを、切片と傾きをもとにかくことができる。 1次関数について、グラフをもとに x の変域に対応する y の変域を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1次関数の表、式、グラフを、相互に関連づけて考え、説明することができる。 	
3	1次関数の式を求める方法 (教科書 p. 71~73)	7	グラフの傾きと切片を読みとって、1次関数の式を求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> グラフの傾きと切片を読みとって、1次関数の式を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> グラフの傾きと切片を読みとって、1次関数を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1次関数の式を求める条件や求める方法を考えようとしている。 	
		8	グラフの傾きと通る1点から、1次関数の式を求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> グラフの傾きとグラフが通る1点の座標から、1次関数の式を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> グラフの傾きと通る1点の座標から、1次関数の式を求めることができる。 		
		9	グラフが通る2点から、1次関数の式を求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> グラフが通る2点の座標から、1次関数の式を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> グラフが通る2点の座標から、1次関数の式を求めることができる。 		
基本の問題 (教科書 p. 74)		10					
3	2元1次方程式の解はどうなるかな？ (教科書 p. 75)	11	2元1次方程式のグラフは、その解を座標とする点の集合で、式を変形してできる1次関数のグラフになっていることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 連立方程式の解について調べるために、2元1次方程式の解を座標とする点をとって、どのようなグラフになるかを調べる。 2元1次方程式のグラフは、式を変形してできる1次関数のグラフになっていることを知る。 2元1次方程式のグラフを、式を変形して1次関数の傾きと切片を求めてかく。 [用語・記号] 方程式のグラフ	<ul style="list-style-type: none"> 2元1次方程式のグラフは、その解を座標とする点の集合で、式を変形してできる1次関数のグラフになっていることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 2元1次方程式や連立方程式の解の意味を、グラフを用いて捉えようとしている。 	
	1						2元1次方程式のグラフ (教科書 p. 76~79)

		12	2元1次方程式のグラフをか くことができる。また、2元 1次方程式 $ax+by=c$ で、 $a=0$ や $b=0$ の場合のグラフ の特徴を理解し、グラフを かくことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 2元1次方程式のグラフを、グラフが通 る2点の座標を求めてかく。 2元1次方程式 $ax+by=c$ で、$a=0$ や $b=0$ の場合のグラフをかいて、その特徴 を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○2元1次方程式のグラフをか くことができる。 ○2元1次方程式 $ax+by=c$ で、 $a=0$ や $b=0$ の場合のグラフの 特徴を理解し、グラフをか くことができる。 		
2 連立方程式とグラ フ (教科書 p. 80～81)		13	連立方程式の解が、2つの2 元1次方程式のグラフの交 点の座標であることを理解 し、連立方程式の解をグラ フをかいて求めたり、2直線 の交点の座標を連立方程式 を解いて求めたりすること ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 連立方程式の解が、2つの2元1次方 程式のグラフの交点の座標であることを 確かめる。 連立方程式の解をグラフをかいて求め たり、2直線の交点の座標を連立方程式 を解いて求めたりする。 	○連立方程式の解が、2つの2元1 次方程式のグラフの交点の座標 であることを理解し、連立方 程式の解をグラフをかいて 求めたり、2直線の交点の座標を連立 方程式を解いて求めたりす ることができる。	○連立方程式の解の意味を、2つの 2元1次方程式のグラフを用 いて捉え、説明することが できる。	
基本の問題 (教科書 p. 82)		14					
4 1次関数 の利用	飲み物はいつまで冷た く保てる？ (教科書 p. 83～84)	15	具体的な事象の中の2つの 数量の間の関係を1次関 数とみなして、問題を解 決する方法を説明するこ とができる。	<ul style="list-style-type: none"> 飲み物がいつまで冷たく保てるかを、測 定した時間と温度をもとにして予想し、 その方法を説明する。 	○身のまわりには、2つの数量の間 の関係を1次関数とみなして問 題を解決できる場面があるこ とを理解している。	○具体的な事象の中の2つの数量 の間の関係を1次関数とみなし て、問題を解決する方法を説 明することができる。	○1次関数について学んだことを 生活や学習に生かそうとして いる。 ○1次関数を活用した問題解決 の過程を振り返って検討しよ うとしている。
	1 1次関数とみなす こと (教科書 p. 85)	16	具体的な事象の中の2つの 数量の間の関係を1次関 数とみなして、問題を解 決することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な事象の中の2つの数量の間 の関係を1次関数とみなして、問題を解 決する。 		○具体的な事象の中の2つの数量 の間の関係を1次関数とみなし て、問題を解決する方法を説 明することができる。	
	2 1次関数のグラフ の利用 (教科書 p. 86～87)	17	具体的な事象の中の2つの 数量の間の関係を1次関 数とみなして、そのグラフ を利用して問題を解決す ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な事象の中の2つの数量の間 の関係を1次関数とみなして、そのグラフ を利用して問題を解決する。 	○1次関数のグラフを利用して問 題を解決できることや、グラフ のよさを理解している。	○具体的な事象の中の2つの数量 の間の関係を1次関数とみなし て、そのグラフを利用して問 題を解決することができる。	
	3 1次関数と図形 (教科書 p. 88)	18	図形の辺上を動く点によ ってできる図形の面積の 変化を、1次関数の式や グラフで表すことができ る。	<ul style="list-style-type: none"> 図形の辺上を動く点によってできる 図形について、面積の変化を調べる。 	○1次関数の関係を、変域ごとに式 やグラフで表すことができる。	○具体的な事象の中の2つの数量 の間の関係を、変域によって場 合分けをして考え、説明す ることができる。	
章の問題A (教科書 p. 92)		19					

4章 図形の性質の調べ方を考えよう [平行と合同] (15時間)

単元の評価規準例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 多角形の角についての性質が見いだせることを知っている。 平行線や角の性質を理解している。 平面図形の合同の意味及び三角形の合同条件について理解している。 証明の必要性と意味及びその方法について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な平面図形の性質を見だし、平行線や角の性質をもとにしてそれらを確認、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 証明のよさに気づき、その証明の方法を粘り強く考えようとしている。 平面図形の性質について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 平面図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

毎時の評価規準例

節	項	時	目標	学習活動	評価規準例		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 説明のしくみ	角の性質の説明では何をもとにしているかな？ (教科書 p. 95～97)	1	多角形の内角の和の求め方を説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 算数で学習した三角形の角の和が 180° であることをもとにして、四角形、五角形、…などの多角形の角の和の求め方を説明する。 		○多角形の内角の和の求め方を説明することができる。	○多角形の角についての性質の説明で、もとにしていることがらを考えようとしている。
	1 多角形の角の和の説明 (教科書 p. 98～100)	2	n 角形の内角の和の求め方を、もとにしていることがらを明らかにして説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> n 角形の内角の和の求め方を、多角形をどのように三角形に分けるか、また、いくつの三角形に分かれるかをもとにして説明する。 [用語・記号] 外角、内角	○多角形の内角、外角の意味を理解している。 ○多角形の内角の和の性質は、三角形の内角の和をもとにして見いだせることを理解している。	○ n 角形の内角の和の求め方を、もとにしていることがらを明らかにして説明することができる。	
		3	n 角形の外角の和の求め方を、もとにしていることがらを明らかにして説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> n 角形の外角の和の求め方を、n 角形の内角の和をもとにして説明する。 	○多角形の外角の和の性質は、多角形の内角の和をもとにして見いだせることを理解している。	○ n 角形の外角の和の求め方を、もとにしていることがらを明らかにして説明することができる。	
2 平行線と角	説明でもとにしていることがらを調べてみよう (教科書 p. 101)	4	対頂角の意味を理解し、対頂角は等しいことを、論理的に筋道を立てて説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 算数で学習した三角形の内角の和が 180° であることの説明を振り返り、何を根拠にしているかを考える。 対頂角の意味を知る。 対頂角は等しいことを、論理的に筋道を立てて説明する。 同位角、錯角の意味を知る。 [用語・記号] 対頂角、同位角、錯角	○対頂角の意味と性質を理解している。	○角について、成り立つことがらを見だし、説明することができる。 ○対頂角が等しいことを、論理的に筋道を立てて説明することができる。	○証明の必要性と意味を考えようとしている。
	1 平行線と角 (教科書 p. 102～106)		5	同位角、錯角の意味を理解し、平行線と錯角の関係を、論理的に筋道を立てて説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 平行線と同位角の関係を、基本性質として確認する。 平行線と錯角の関係を、平行線と同位角の関係をもとにして説明する。 	○同位角、錯角の意味を理解している。 ○平行線の性質、平行線になるための条件を理解している。	○平行線と錯角の関係を、論理的に筋道を立てて説明することができる。

		6	<p>三角形の内角の和が 180° であることを、論理的に筋道を立てて説明することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 三角形の内角の和が 180° であることを、平行線の性質をもとにして説明する。 • 証明の意味を知る。 • 三角形の外角は、となり合わない2つの内角の和に等しいことを見いだす。 • 三角形の内角、外角の性質や多角形の内角の和、外角の和の性質を利用して、角の大きさを求める。 <p>[用語・記号] 証明</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○証明の意味を理解している。 ○三角形の内角、外角の性質を理解し、角の大きさを求めることができる。 ○多角形の内角の和、外角の和の性質を理解し、角の大きさを求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○三角形の内角の和が 180° であることを、論理的に筋道を立てて説明することができる。 	
	角の大きさを求める方法を考えてみよう (教科書 p. 107~109)	7	<p>角の大きさの求め方を、補助線や根拠となる図形の性質を明らかにして説明することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 平行線と折れ線の角の大きさの求め方を考え、図にかき加えた線や、根拠となる図形の性質を明らかにして説明する。 		<ul style="list-style-type: none"> ○角の大きさの求め方を、補助線や根拠となる図形の性質を明らかにして説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○平面図形の性質について学んだことを学習に生かそうとしている。
	基本の問題 (教科書 p. 110)	8					
3 合同な図形	図形の合同を調べるには? (教科書 p. 111)	9	<p>平面図形の合同の意味と合同な図形の性質を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 三角形が合同になる条件を考える。 • 平面図形の合同の意味と表し方を知る。 • 合同な図形の性質を確認する。 <p>[用語・記号] 合同、\equiv</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○平面図形の合同の意味と表し方を理解している。 ○合同な図形の性質を理解している。 		<ul style="list-style-type: none"> ○三角形が合同になる条件を考えようとしている。 ○平面図形の合同の意味を考えようとしている。
	1 合同な図形の性質と表し方 (教科書 p. 112)						
	2 三角形の合同条件 (教科書 p. 113~115)	10	<p>三角形の合同条件を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ある三角形と合同な三角形をかくためには、何がわかればよいかを考える。 • 三角形の合同条件を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○三角形の合同条件を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○三角形の合同条件を、三角形の決定条件をもとにして考え、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○三角形の合同条件を、三角形の決定条件をもとにして考えようとしている。
		11	<p>2つの三角形が合同かどうかを、三角形の合同条件を使って判断することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 2つの三角形が合同かどうかを、三角形の合同条件を使って判断する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○三角形の合同条件を利用して、2つの三角形が合同かどうかを判断することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ○三角形の合同条件を学習に生かそうとしている。

3 証明のすすめ方 (教科書 p. 116～121)	12	<p>ことがらの仮定と結論の意味を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 角の二等分線の作図の方法が正しいことを、三角形の合同条件を利用して証明することについて考える。 ことがらの仮定と結論の意味を知る。 <p>[用語・記号] 仮定、結論</p>	<p>○ことがらの仮定と結論の意味を理解している。</p>		<p>○証明の必要性と意味及びその方法を考えようとしている。</p>
	13	<p>根拠となることがらを明らかにして、簡単な図形の性質を証明することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 根拠となることがらを明らかにして、簡単な図形の性質を証明する。 証明の書き方を確認する。 証明のためにかいた図と、仮定が同じで異なる図をかいた場合、その証明がどうなるかを考える。 	<p>○証明の進め方を理解している。</p> <p>○証明のためにかいた図は、すべての代表として示されていることを理解している。</p>	<p>○証明の根拠となることがらを明らかにして、簡単な図形の性質を証明することができる。</p>	
基本の問題 (教科書 p. 121)	14					
章の問題 A (教科書 p. 122)	15					

5章 図形の性質を見つけて証明しよう [三角形と四角形] (21時間)

単元の評価規準例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 証明の必要性和意味及びその方法について理解している。 定義やことがらの仮定と結論、逆の意味を理解している。 反例の意味を理解している。 正方形、ひし形、長方形が平行四辺形の特別な形であることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 三角形の合同条件などをもとにして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめることができる。 証明を読んで新たな性質を見だし、表現することができる。 三角形や平行四辺形の基本的な性質などを活用して具体的な事象を考察し、表現することができる。 ことがらが正しくないことを証明するために、反例をあげることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 証明のよさに気づき、その方法を粘り強く考えようとしている。 平面図形の性質や図形の合同について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 平面図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

毎時の評価規準例

節	項	時	目標	学習活動	評価規準例		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 三 角 形	直角ができるのはなぜ? (教科書 p. 125～127)	1	あたえられた手順で、いつでも直角ができる理由を考え、説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> あたえられた手順でひもを操作し、直角ができることを確認する。 ひもの操作を図に表し、2つの三角形に着目して、いつでも直角ができるわけを考える。 二等辺三角形の定義を確認する。 [用語・記号] 定義	○二等辺三角形の定義を理解している。	○あたえられた手順で、いつでも直角ができる理由を考え、説明することができる。	○平面図形の性質について学んだことを生活に生かそうとしている。
	1 二等辺三角形の性質 (教科書 p. 128～132)		2	二等辺三角形の底角の性質を証明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 二等辺三角形の2つの角は等しいことを証明する。 二等辺三角形の底角の性質を利用して、角の大きさを求める。 [用語・記号] 頂角、底辺、底角、定理	○二等辺三角形の頂角、底辺、底角の意味を理解している。 ○二等辺三角形の底角の性質を理解し、角の大きさを求めることができる。	○二等辺三角形の底角の性質を証明することができる。
		3	二等辺三角形の頂角の二等分線の性質を見いだすことができる。また、正三角形の性質を証明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 二等辺三角形の底角の性質の証明を読んで、頂角の二等分線の性質を見だし、証明する。 正三角形の定義を確認する。 正三角形の3つの角は等しいことを証明する。 	○二等辺三角形の頂角の二等分線の性質を理解している。 ○正三角形の定義と性質を理解している。	○二等辺三角形の底角の性質の証明を読んで頂角の二等分線の性質を見だし、証明することができる。 ○正三角形の性質を証明することができる。	
	2 二等辺三角形になるための条件 (教科書 p. 133～135)	4	二等辺三角形になるための条件を論理的に確かめることができる。また、二等辺三角形になるための条件を利用して、図形の性質を証明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 紙テープを折って重なる部分の三角形はどんな三角形かを調べる。 2つの角が等しい三角形の2辺は等しいことを証明する。 二等辺三角形になるための条件を利用して、図形の性質を証明する。 	○二等辺三角形になるための条件を理解している。 ○二等辺三角形になるための条件の証明において、辺や角の関係などを読みとることができる。	○2つの角が等しい三角形の2辺は等しいことの証明について考察することができる。 ○二等辺三角形になるための条件を利用して、図形の性質を証明することができる。	○二等辺三角形になるための条件を証明する方法を考えようとしている。

	5	ことがらの逆と反例の意味を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 二等辺三角形の底角の性質と二等辺三角形になるための条件を比べる。 ことがらの逆と反例の意味を知る。[用語・記号] 逆、反例 	○ことがらの逆と反例の意味を理解している。			
3 直角三角形の合同 (教科書 p. 136～138)	6	直角三角形の合同条件を、三角形の合同条件をもとにして考え、説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 2つの直角三角形はどんなときに合同であるかを考え、説明する。 2つの直角三角形が合同かどうかを、直角三角形の合同条件を使って判断する。[用語・記号] 斜辺 	○直角三角形の合同条件を理解している。	○直角三角形の合同条件を、三角形の合同条件をもとにして考え、説明することができる。	○直角三角形の合同条件を、三角形の合同条件をもとにして考えようとしている。	
	7	直角三角形の合同条件を利用して、図形の性質を証明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 直角三角形の合同条件を利用して、図形の性質を証明する。 証明を振り返って、さらにわかることを考え、説明する。 	○直角三角形の合同条件を利用して、図形の性質を証明することができる。	○証明を振り返って、新たな性質を見いだすことができる。	○直角三角形の合同条件を学習に活かそうとしている。	
基本の問題 (教科書 p. 138)	8						
2 平行四辺形	テープを重ねてできる図形は？ (教科書 p. 139)	9	平行四辺形の定義と性質を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 2つのテープが重なる部分の四角形は、どんな四角形になるかを調べる。 平行四辺形の定義と性質を確認する。[用語・記号] 対辺、対角、□ABCD 	○平行四辺形の定義と性質を理解している。		○平行四辺形の性質を証明する方法を考えようとしている。
	1 平行四辺形の性質 (教科書 p. 140～142)	10	平行四辺形の性質を証明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 平行四辺形の性質を証明する。 		○平行四辺形の性質を証明することができる。	
		11	平行四辺形の性質を利用して、図形の性質を証明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 平行四辺形の性質を利用して、図形の性質を証明する。 証明のための図をかいて、どんな図でも証明できていることを確認する。 	○証明のためにかいた図は、すべての代表として示されていることを理解している。	○平行四辺形の性質を利用して、図形の性質を証明することができる。	○平行四辺形の性質を学習に活かそうとしている。
	2 平行四辺形になるための条件 (教科書 p. 143～147)	12	具体的な事象を考察することを通して、平行四辺形になるための条件②を証明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ロボットが動くようすから、その仕組みについて考察する。 2組の対辺がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形であることを証明する。 		○具体的な事象を考察することを通して、平行四辺形になるための条件②を証明することができる。	○平行四辺形になるための条件を証明する方法を考えようとしている。
13		平行四辺形の性質の逆を証明することを通して、平行四辺形になるための条件③、④を見いだすことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 2組の対角がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形であることを証明する。 対角線がそれぞれの中点で交わる四角形は、平行四辺形であることを証明する。 	○平行四辺形になるための条件の証明において、辺や角の関係などを読みとることができる。	○平行四辺形の性質の逆を証明することを通して、平行四辺形になるための条件③、④を見いだすことができる。		

	14	平行四辺形になるための条件 [5] を証明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> • あたえられた手順でノートに図をかくと、どんな四角形になるかを考える。 • 1組の対辺が平行でその長さが等しい四角形は、平行四辺形であることを証明する。 • 平行四辺形になるための条件を確認する。 	○平行四辺形になるための条件を理解している。	○平行四辺形になるための条件 [5] を証明することができる。	
	15	平行四辺形になるための条件を利用して図形の性質を証明したり、その証明を振り返って統合的・発展的に考えたりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> • 平行四辺形になるための条件を利用して、図形の性質を証明する。 • 平行四辺形になるための条件を利用した証明を振り返って、統合的・発展的に考える。 		○平行四辺形になるための条件を利用して図形の性質を証明したり、その証明を振り返って統合的・発展的に考えたりすることができる。	○平行四辺形になるための条件を学習に生かそうとしている。
3 特別な平行四辺形 (教科書 p. 148~150)	16	長方形、ひし形、正方形の定義やそれらと平行四辺形との相互関係を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> • 2つのテープの重なる部分が長方形やひし形、正方形になるのはどんなときかを考える。 • 長方形、ひし形、正方形の定義をもとにして、それらが平行四辺形であることを証明する。 	○長方形、ひし形、正方形の定義やそれらと平行四辺形との相互関係を理解している。	○長方形、ひし形、正方形の定義をもとにして、それらが平行四辺形であることを証明することができる。	○長方形、ひし形、正方形と平行四辺形との相互関係を捉えようとしている。
	17	長方形やひし形の対角線の性質を証明することができる。また、その性質の逆が正しくないことを、反例をあげて示すことができる。	<ul style="list-style-type: none"> • 長方形やひし形の対角線の性質を証明する。 • 長方形の対角線の性質をもとにして、直角三角形の斜辺の中点の性質を証明する。 • 長方形やひし形の対角線の性質について、その逆が正しいかどうかを調べる。 	○長方形やひし形の対角線の性質を理解している。	○長方形やひし形の対角線の性質を証明することができる。 ○長方形やひし形の対角線の性質の逆が正しくないことを、反例をあげて証明することができる。	
2つの正三角形の性質は？ (教科書 p. 151~152)	18	既習の内容を活用して、図形の性質を見だし証明したり、問題の条件を変えて統合的・発展的に考えたりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> • 1点を共有する2つの正三角形の頂点について成り立つ性質を予想し、その性質を証明する。 • 一方の正三角形を回転させても、同じ性質が成り立つことを証明する。 		○既習を活用して、図形の性質を見だし証明したり、統合的・発展的に考えたりすることができる。	○平面図形の性質や図形の合同について学んだことを学習に生かそうとしている。 ○平面図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
4 平行線と面積 (教科書 p. 153~154)	19	平行線の性質を利用して、図形を等積変形することができる。	<ul style="list-style-type: none"> • 台形に対角線をひいた図の中にある面積の等しい三角形を見つける。 • 底辺を共有し、その辺に平行な直線上に頂点をもつ三角形の面積は等しい理由を考える。 • 多角形を、面積を変えずに変形する方法を考える。 	○底辺が同じで高さが等しい三角形の面積は等しいことを理解している。 ○平行線の性質を利用して、図形を等積変形することができる。	○平行線の性質を利用して、図形を等積変形する方法を考え、その方法や手順を説明することができる。	○平行線の性質を学習に生かそうとしている。
基本の問題 (教科書 p. 155)	20					
章の問題A (教科書 p. 158)	21					

6章 起こりやすさをとらえて説明しよう [確率] (9時間)

単元の評価規準例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 多数回の試行によって得られる確率と関連づけて、場合の数をもとにして得られる確率の必要性と意味を理解している。 簡単な場合について確率を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 同様に確からしいことに着目し、場合の数をもとにして得られる確率の求め方を考察し表現することができる。 確率を用いて不確定な事象を捉え、考察し表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 場合の数をもとにして得られる確率のよさに気づき粘り強く考えようとしている。 不確定な事象の起こりやすさについて学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 確率を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

毎時の評価規準例

節	項	時	目標	学習活動	評価規準例		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 確率	くじを先にひく？あとにひく？ (教科書 p. 161～163)	1	多数回の実験の結果をもとにして、あたりやすさの傾向を読みとり、説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 3枚のうち1枚があたりであるくじをひくとき、何番目にひくとあたりやすいかを予想し、多数回の実験によって確かめる。 		<ul style="list-style-type: none"> 多数回の実験の結果をもとにして、あたりやすさの傾向を読みとり、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 場合の数をもとにして得られる確率の必要性と意味を考えようとしている。
	1 同様に確からしいこと (教科書 p. 164～168)	2	多数回の試行によって得られる確率と関連づけて、場合の数をもとにして得られる確率の必要性と意味及び確率の求め方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 1つのさいころを投げるとき、1の目が出る確率を、実験によらずに求める方法を考える。 どの場合が起こることも同様に確からしいときは、場合の数をもとにして確率を求めることができることを知る。 確率 p の値の範囲が、$0 \leq p \leq 1$ であることを確認する。 [用語・記号] 同様に確からしい	<ul style="list-style-type: none"> 多数回の試行によって得られる確率と関連づけて、場合の数をもとにして得られる確率の必要性と意味及び確率の求め方を理解している。 確率 p の値の範囲が、$0 \leq p \leq 1$ であることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験によらずに確率を求める方法を、場合の数に着目して考え、説明することができる。 確率の意味をもとにして、誤りがあることがらを指摘することができる。 	
		3	起こりうる場合を、樹形図や表を使って全部あげ、確率を求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 2枚の硬貨を投げるとき、表と裏の出方を3通りとして求めた確率と、実験結果が異なった理由を考える。 起こりうる場合を、樹形図や表を使って全部あげ、確率を求める。 [用語・記号] 樹形図	<ul style="list-style-type: none"> 起こりうる場合を、樹形図や表を使って全部あげ、確率を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 同様に確からしいことに着目し、場合の数をもとにして得られる確率の求め方を考え、説明することができる。 確率をもとにして、ことごらの起こりやすさを比較し、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 同様に確からしいことに着目し、場合の数をもとにして得られる確率の求め方を考えようとしている。

	2 いろいろな確率 (教科書 p. 169～171)	4	起こりうる場合の組み合わせを考えて、確率を求めることができる。また、起こりうる場合を 2 次元の表に整理し、確率を求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・起こりうる場合の組み合わせを考えて、確率を求める。 ・起こりうる場合を 2 次元の表に整理し、確率を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○起こりうる場合の組み合わせを考えて、確率を求めることができる。 ○起こりうる場合を 2 次元の表に整理し、確率を求めることができる。 		
		5	あることがらの起こらない確率の求め方を理解し、その確率を求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・あることがらの起こらない確率の求め方を考える。 ・あることがらの起こらない確率を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○あることがらの起こらない確率の求め方を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○あることがらの起こらない確率を、場合の数について成り立つ関係に着目して考え、説明することができる。 ○あることがらの起こらない確率に着目して、確率を求めることができる。 	
	基本の問題 (教科書 p. 172)	6					
2 確率による説明	出やすい組み合わせは？ (教科書 p. 173～174)	7	身のまわりの事象の起こりやすさを、確率をもとにして考え、説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・2 枚のスクラッチカードを削るとき、どの組み合わせが出やすいかを、確率をもとにして考え、説明する。 		<ul style="list-style-type: none"> ○身のまわりの事象の起こりやすさを、確率をもとにして考え、説明することができる。 ○同様に確からしいことに着目し、起こりうる場合の数え方の誤りを指摘することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○不確定な事象の起こりやすさについて学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○確率を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
	1 確率による説明 (教科書 p. 175)	8	身のまわりの事象の起こりやすさを、確率をもとにして考え、説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・くじびきの順番とあたりやすさの関係を、確率をもとにして考え、説明する。 		<ul style="list-style-type: none"> ○身のまわりの事象の起こりやすさを、確率をもとにして考え、説明することができる。 	
	章の問題 A (教科書 p. 176)	9					

7章 データを比較して判断しよう [データの比較] (5 時間)

単元の評価規準例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解している。 コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを整理し箱ひげ図で表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読みとり、批判的に考察し判断することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 四分位範囲や箱ひげ図のよさに気づき粘り強く考えようとしている。 データの分布について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 四分位範囲や箱ひげ図を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

毎時の評価規準例

節	項	時	目標	学習活動	評価規準例		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	牛乳の販売数の傾向は？ (教科書 p. 179～181)	1	複数のデータの分布の傾向を比較するとき、ヒストグラムでは比較しにくいことを知る。	<ul style="list-style-type: none"> 牛乳の1日ごとの販売数の傾向を、データを用いて調べる方法について話し合う。 		○2つのヒストグラムから、データの分布の傾向を比較して読みとり、説明することができる。	○既習のデータの整理や分析の方法を、問題解決に生かそうとしている。
	1 四分位数と箱ひげ図 (教科書 p. 182～187)	2	箱ひげ図と四分位範囲の意味を理解し、データを整理して箱ひげ図に表すことができる。また、箱ひげ図と四分位範囲の特徴を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 牛乳の販売数のデータを整理し、箱ひげ図に表す方法を知る。 四分位範囲の意味を知る。 [用語・記号] 箱ひげ図、四分位数、第1四分位数、第2四分位数、第3四分位数、四分位範囲	<ul style="list-style-type: none"> 箱ひげ図と四分位範囲の意味を理解し、データを整理して箱ひげ図に表すことができる。 箱ひげ図と四分位範囲の特徴を理解している。 箱ひげ図からデータの分布の傾向を読みとる方法を理解している。 箱ひげ図とヒストグラムの対応を理解している。 	○箱ひげ図からヒストグラムのおおよその形を考察し、説明することができる。	○四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を考えようとしている。
		3		<ul style="list-style-type: none"> 牛乳の販売数のデータを整理し、箱ひげ図に表す。 ヒストグラムと箱ひげ図を対応させて、箱ひげ図からデータの分布の傾向や特徴を読みとる方法を考える。 箱ひげ図とヒストグラムの対応について知る。 			
		4	四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読みとり、批判的に考察し判断することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 箱ひげ図を用いて、牛乳の販売数の傾向を調べる。 牛乳の販売数の傾向を読みとり、批判的に考察し判断する。 	○箱ひげ図と四分位範囲の必要性を理解している。	○四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を読みとり、批判的に考察し判断することができる。	○データの分布について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○四分位範囲や箱ひげ図を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
	章の問題A (教科書 p. 190)	5					

【単元1】第1章 物質のなり立ち (教科書 p. 15~34)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
<ul style="list-style-type: none"> 物質を分解する実験を通して、分解して生成した物質はもとの物質とは異なることを見いだして理解する。また、物質は原子や分子からできていることを理解するとともに、物質を構成する原子の種類は記号で表されることを知る。あわせて、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。(知識・技能) 物質のなり立ちについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだして表現する。(思考・判断・表現) 物質のなり立ちに関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。(主体的に学習に取り組む態度) 	化学変化を原子や分子のモデルと関連づけながら、物質の分解、原子・分子についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	物質のなり立ちについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	物質のなり立ちに関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

重点…重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録…記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
1	<ul style="list-style-type: none"> 「Before & After」これまでに学んだことや生活経験をもとに自分の考えを記述し、話し合う。 第1節 ホットケーキの秘密 「レッツ スタート！」イラストを見ながら、ホットケーキのやわらかさを生む原因について話し合う。 ホットケーキのやわらかさを生む原因を、根拠をもって説明できるように、調査方法を見いだす。 ベーキングパウダーの主成分は炭酸水素ナトリウム(別名:重そう)であることの説明を聞く。 「?課題」炭酸水素ナトリウムを加熱すると、どのような変化が起こってホットケーキがふっくらするのか。 	15~16	思		今までの経験と照らし合わせながら、ホットケーキのやわらかさを生む原因を調べる方法を見いだしている。 [発言分析・行動観察]	炭酸水素ナトリウムを加熱する実験を行うことが、ホットケーキのやわらかさを生む原因をさぐることになることを、論理的に表現している。	ホットケーキの断面がスポンジ状になることで、やわらかくなることを気づかせ、材料を調整したホットケーキの写真を手がかりに、その原因について考える際に、ベーキングパウダーの主成分である炭酸水素ナトリウムであることに気づくよう助言・指導する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 【実験1】炭酸水素ナトリウムを加熱したときの変化 実験1を行い、発生した気体や加熱後に残った物質の性質を調べ、炭酸水素ナトリウムにどのような変化が起こったのかを考える。 「基礎操作」レポートの書き方を確認する。 実験結果やp.19図1、図2、表1を参考にして、炭酸水素ナトリウムを熱すると、炭酸ナトリウム、二酸化炭素、水に分かれることの説明を聞く。 「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 	17~19	思	○	実験結果を根拠として、ホットケーキのやわらかさを生む原因について、自分の考えを論理立てて表現している。 [行動観察・記述分析]	炭酸水素ナトリウムを加熱したときの変化を適切に記録し、その実験結果を根拠として、ホットケーキのやわらかさを生む原因(断面がスポンジ状になる理由)について、実験結果を用いて説明できるように助言・指導する。	

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
3	<ul style="list-style-type: none"> 「調べよう」酸化銀を加熱して、どのような変化が起こるか調べる。 化学変化と分解についての説明を聞く。 化学変化と状態変化のちがいについて考える。 「学びをいかして考えよう」について考える。 「探究をふり返ろう」イラストを見ながら、この節の探究活動をふり返って、活動の適否や改善点を書き出し、話し合う。 	19～21	知	○	化学変化、分解、化学変化と状態変化のちがいについて理解している。 [行動観察・記述分析]	炭酸水素ナトリウムや酸化銀の実験結果を例に、化学変化、分解について説明している。また、状態変化と比較しながら、化学変化について説明している。	炭酸水素ナトリウムと酸化銀の分解を例に、化学変化を考えることができるよう助言・指導する。また、水の状態変化の例をあげ、炭酸水素ナトリウムや酸化銀の分解と同じ変化であるかどうかを問うなどの助言・指導を行う。
			態	○	探究の過程をふり返ろうとしている。 [行動観察・記述分析]	疑問から、疑問を解決するために実験を行い、実験結果から、疑問に対して自分の考えを整理して述べることもできたか、探究の過程をふり返ろうとしている。	何のために実験を行ったか、得た結果から、どのようなことを考えたか、探究の過程をふり返ることができるよう助言・指導する。
4	第2節 水の分解 <ul style="list-style-type: none"> 「導入」図1を見ながら、水をさらに分解できるかどうかを話し合う。 水は、熱しても分解しないが、電流を流すと気体が発生することの説明を聞く。 「基礎操作」簡易型電気分解装置の使い方、電源装置の使い方を確認する。 「?課題」水に電流を流すと、どのような変化が起こるだろうか。 	22～23	知		電気分解装置の操作方法や、水の電気分解によって生じた気体を調べる方法を理解している。 [発言分析・行動観察]	電気分解装置を正しく操作している。また、水の電気分解によって生じた気体を調べる方法を、自分で考え、説明している。	電源装置と電気分解装置との接続方法、電流の流し方、発生した気体の性質の調べ方など、内容ごとに分けてていねいに助言・指導を行う。
5	【実験2】 水に電流を流したときの変化 <ul style="list-style-type: none"> 実験2を行い、電極付近に発生する気体のようすや性質を調べ、水に電流を流したときにどのような変化が起こるのか調べる。 電気分解についての説明を聞く。 水素、酸素などは、それ以上ほかの物質に分解できないことの説明を聞く。 「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 「なるほどね!」イラストを見ながら、燃料電池に興味や関心をもつ。 	23～25	思	○	水に電流を流したときに起こった変化や発生した物質が何であるかを判断して、論理立てて表現している。 [行動観察・記述分析]	水に電流を流したときに起こった変化や発生した物質について、実験結果と第1学年で学んだ気体の性質をもとに、根拠をもって何であるかを判断して、表現している。	実験で発生した気体を確認する操作によって、どのようなことがわかるのかを問いかけ、第1学年で学んだ気体の性質をふり返りながら助言・指導を行う。
6	第3節 物質をつくっているもの <ul style="list-style-type: none"> 「導入」図1を見ながら、物質を細かくしていくとどうなるかを話し合う。 「?課題」どのような物質も小さい粒子からできているだろうか。 「予想しよう」その粒子はどのくらいの大きさなのか予想する。 「ここがポイント」原子の性質についての説明を聞き、理解す 	26～29	知		物質を構成しているものとその性質について理解している。また、元素を理解し、代表的な元素記号を書くことができる。 [行動観察・記述分析]	物質が粒子で構成されていることや、物質を構成する原子の性質について説明している。また、原子の種類が元素であることを理解し、代表的な元素記号を書くことができる。	原子の性質は、電子顕微鏡の画像を見せるなど、具体例を用いて説明する。また、元素記号は、アルファベットの書き方をていねいに説明する。

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価基準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
	<ul style="list-style-type: none"> 教科書のモデルをもとに、実際の原子の大きさ、質量、種類について説明を聞く。 原子の種類が元素であり、元素は記号（元素記号）で表すことができることについて説明を聞く。具体的な元素記号として、p.28表1の説明を聞く。 原子と元素のちがいの説明を聞く。 周期表についての説明を聞く。 「！結論」自分の考えをまとめ、確認する。 「学びをいかして考えよう」について考える。 		態		<p>代表的な元素以外にも、ほかの元素を知ろうとして進んで学ぼうとしている。</p> <p>[発言分析・ペーパーテスト]</p>	<p>代表的な元素を理解することで、もっとほかの元素を知ろうとして進んで学ぼうとしている。</p>	<p>元素の説明の際には、周期表を活用しながら、何に使われているかなどのエピソードを交えて、いろいろな元素を示す。</p>
7	<p>第4節 分子と化学式</p> <ul style="list-style-type: none"> 「導入」イラストを見ながら、水の分子の構造について話し合う。 分子について説明を聞く。 「？課題」分子は、原子がどのように結びついてできているだろうか。 「考察しよう」分子についてモデルで考える。 「ここがポイント」分子をつくる物質を化学式で表す方法についての説明を聞き、理解する。 「！結論」自分の考えをまとめ、確認する。 「なるほどね！」元素や化学式に親しむカードゲームなどで遊ぶ。 	30～31	知		<p>分子とその構成について理解している。また、化学式とその表し方を理解している。</p> <p>[発言分析・ペーパーテスト]</p>	<p>分子が物質の性質を示す最小単位の粒子であることや、原子がどのように結びついて分子を構成しているかを説明している。また、元素記号を用いて物質を表したものが化学式であることを説明し、これまでに学んだ物質について、化学式を用いて表している。</p>	<p>原子の粒子モデルを用いて、分子の構造を説明する。水を電気分解して、酸素と水素ができる反応を、原子の粒子モデルを用いて理解できるよう助言・指導を行う。</p>
8	<p>第5節 単体と化合物・物質の分類</p> <ul style="list-style-type: none"> 「導入」図1を見ながら、物質は全て分子として存在しているかを話し合う。 分子をつくらない物質もあることを理解する。 「ここがポイント」分子をつくらない物質を化学式で表す方法についての説明を聞き、理解する。 「？課題」化学式からわかることは何だろうか。 p.33 図2を見ながら、混合物と純粋な物質、単体と化合物、分子をつくる物質と分子をつくらない物質のちがいについて説明を聞く。 化学式から単体と化合物のちがいを見だし、物質の分類について理解する。 単体と元素のちがいについての説明を聞く。 「！結論」自分の考えをまとめ、確認する。 「学んだことをチェックしよう」各節で学んだことを確認する。 「学びを生活や社会に広げよう」学習した内容を、生活や社会と結びつけて考える。 「Before & After」この章で学んだことをもとに自分の考えを記述し、話し合う。 	32～34	態		<p>それぞれの物質の構成を理解し、見通しを立てて、物質を分類しようとしている。</p> <p>[行動観察・記述分析]</p>	<p>それぞれの物質について、どのような粒子が結合して物質を構成しているか、どのようにして存在しているかを理解し、粒子の構成のしかたを手がかりに、見通しを立てて、物質を分類しようとしている。</p>	<p>今までに学んだ物質について、元素記号と粒子モデルを用いて、それぞれの物質がどのように存在しているかを示す。そして、粒子モデルから物質を分類する活動をゲーム形式で示すことで、見通しを立てられるよう支援する。</p>

【単元1】第2章 物質どうしの化学変化 (教科書 p. 35~48)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
<ul style="list-style-type: none"> 2種類の物質を反応させる実験を通して、反応前とは異なる物質が生成することを見いだして理解するとともに、化学変化は原子や分子のモデルで説明できること、化合物の組成は化学式で表されること、化学変化は化学反応式で表されることを理解する。あわせて、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。(知識・技能) 化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだして表現する。(思考・判断・表現) 化学変化に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見るができるようにする。(主体的に学習に取り組む態度) 	化学変化を原子や分子のモデルと関連づけながら、化学変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	化学変化に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

重点…重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録…記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
1	<ul style="list-style-type: none"> 「Before & After」これまでに学んだことや生活経験をもとに自分の考えを記述し、話し合う。 第1節 異なる物質の結びつき 「導入」図1、図2を見ながら、水素と酸素を結びつけられるか話し合う。 「?課題」物質と物質が結びつく化学変化とは、どのような変化だろうか。 「課題に対する自分の考えは?」粒子モデルをもとに、異なる2つの物質が結びついたとき、できた物質の性質がどうなるか予想し、話し合う。 鉄と硫黄が結びつくときについても同様の予想を行う。 	35~37	思		水素と酸素とが結びつくことを理解し、その結びつき方について、自分の考えを表現している。 [発言分析・行動観察]	酸素と水素とが結びついて水ができることを説明し、それらがどのように結びつくかを、今までに学んだ知識を用いながら考えて表現している。	水素分子、酸素分子、水分子の粒子モデルを示すなど、思考のきっかけとなるような助言・指導を行う。
2	<ul style="list-style-type: none"> 【実験3】鉄と硫黄が結びつく変化 実験3を行い、熱した後の物質の性質を調べて、性質がどのように変化するかを調べる。 実験結果から、鉄と硫黄を熱することで、別の物質ができたといえるか考え、話し合う。 	38~39	思	○	硫黄と鉄が結びついてできた物質が、鉄や硫黄と異なる物質であることを科学的に考察して判断している。 [行動観察・記述分析]	硫黄と鉄が結びついてできた物質と鉄や硫黄との性質を比較することで、できた物質が鉄や硫黄と異なる物質であることを科学的に考察して判断している。	硫黄と鉄の混合物と加熱後にできた物質を、見た目や磁石につくかどうかなどの項目ごとに比較したようすを表にまとめさせるなどして、判断できるよう支援する。
3	<ul style="list-style-type: none"> p.40図1~4やp.41図5、図6を参考に、物質どうしが結びつく化学変化について説明を聞く。 化合物について説明を聞く。 「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 「学びをいかして考えよう」について考える。 	40~41	知		物質どうしが結びつく化学変化を理解している。 [発言分析・行動観察]	物質どうしが結びつく化学変化について、鉄と硫黄が結びつく実験結果や炭の燃焼などを例にあげ、具体的に説明している。	鉄と硫黄の実験のほかに、炭の燃焼などの写真を活用するなどして、いくつかの例を示しながら、物質どうしが結びつく化学変化について理解できるよう助言・指導を行う。

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価基準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
4	<p>第2節 化学変化を化学式で表す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「導入」図1を見ながら、鉄と硫黄が結びつく化学変化を粒子モデルを使って表し、話し合う。 ・「?課題」化学式を使って化学変化を表すには、どのような決まりがあるだろうか。 ・化学反応式についての説明を聞き、粒子モデルと化学反応式を使った化学変化の表し方について理解する。 ・炭素と酸素が結びつく化学変化についての説明を聞く。 	42	知		<p>化学反応式について理解している。</p> <p>[発言分析・行動観察]</p>	<p>鉄と硫黄が結びつく化学変化を手がかりにして、化学反応式が化学式を組み合わせる化学変化を表していることを説明している。</p>	<p>鉄と硫黄の粒子モデルを用いて、鉄と硫黄が結びつく反応を図示しながら、各モデルを化学式に直し、化学反応式をつくることができるよう助言・指導を行う。</p>
5	<p>【実習1】化学変化のモデル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習1を行い、物質の粒子モデルを使って、化学変化を表す。 ・モデルの作成を通して、注意点をまとめる。 	43	態		<p>いろいろな化学変化を矛盾なく説明するために、自らの学びを調整しようとしている。</p> <p>[発言分析・行動観察]</p>	<p>粒子モデルを用いて化学変化を表すときのルールを説明している。また、この実習を通じて、化学変化を表すときのルールを見つけた過程を説明することができる。</p>	<p>化学変化を粒子モデルで表した後、今までに学習した原子の性質とひとつひとつ照らし合わせながら、成立するかを繰り返すことで、実習の中で学んだ化学変化のルールを理解させ、化学変化のルールと理解できた過程を自らの言葉で説明できるように助言・指導を行う。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ・「ここがポイント」化学反応式の作り方についての説明を聞き、理解する。 ・化学反応式からわかることについての説明を聞く。 ・「ここがポイント」H_2と$2H$と$2H_2$のちがいについての説明を聞き、理解する。 	44~45	知	○	<p>化学式・化学反応式にまつわる数字の意味を理解して、正しく化学反応式をつくることができる。また、化学反応式を見て、どのような反応であるかを理解している。</p> <p>[ペーパーテスト]</p>	<p>H_2と$2H$と$2H_2$のちがいを理解したうえで、正しく化学反応式をつくることができる。また、化学反応式を見て、どのような反応であるかを説明している。</p>	<p>化学反応式をつくるためのステップをいねいに設定して、粒子モデルを用いた助言・指導を行う。</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> ・p.45の「例題」の考え方を参考にして、「練習」を行う。 ・いろいろな化学反応式について説明を聞き、p.46の「例題」の考え方の空らんを埋める。 ・「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学んだことをチェックしよう」各節で学んだことを確認する。 ・「学びを生活や社会に広げよう」学習した内容を、生活や社会と結びつけて考える。 ・「Before & After」この章で学んだことをもとに自分の考えを記述し、話し合う。 	45~48	態	○	<p>さまざまな化学変化を化学反応式で表そうとしている。また、化学反応式から、化学変化について考えようとしている。</p> <p>[発言分析・行動観察]</p>	<p>今までに学習した化学反応式の作り方を使って、さまざまな化学変化を化学反応式で表そうとしている。また、化学反応式から、化学変化について考えようとしている。</p>	<p>複雑な化学反応式でも、今までに学習した化学式や化学反応式の作り方をヒントに、小さなステップで考えていくことで理解できることを実感できるよう助言・指導を行う。</p>

【単元1】第3章 酸素がかかわる化学変化 (教科書 p. 49~62)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
<ul style="list-style-type: none"> 酸化や還元の実験を通して、酸化や還元は酸素が関係する反応であることを見いだして理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。(知識・技能) 化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだして表現する。(思考・判断・表現) 化学変化に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見るができるようにする。(主体的に学習に取り組む態度) 	化学変化を原子や分子のモデルと関連づけながら、化学変化における酸化と還元についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	化学変化に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

重点…重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録…記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
1	<ul style="list-style-type: none"> 「Before & After」これまでに学んだことや生活経験をもとに自分の考えを記述し、話し合う。 第1節 物質が燃える変化 「レッツ スタート！」鉄くぎは燃えないがスチールウールは燃えることと、木片はかたまりでも燃えることについて話し合う。 「?課題」物質が燃えるとき、どのような変化が起こっているだろうか。 「課題に対する自分の考えは？」物質が燃えるという現象を、ろうそくや木などが燃えたときのようすをもとに考える。 	49~50	思		物質が燃えるとき、どのような変化が起こっているか予想できる。 [発言分析・記述分析]	ろうそくや木などが燃えたときのようすをもとに、物質が燃えるときにどのような変化が起こっているか予想できる。	ものが燃える様子を観察させ、どのような変化が起こっているか、再度考えさせる。
2	<ul style="list-style-type: none"> 【実験4】鉄を燃やしたときの変化 実験4を行い、スチールウールを燃やすときに酸素が使われているか、反応前後の物質の性質や質量の変化を調べる。 「解決方法を考えよう」実験4ステップ1で、集気びんの中の水面が上がった理由を考える。 自分の考えを班内で発表し、異なる考えが出たとき、自分やほかの生徒の考えを比べて検討・改善する。 	50~52	態		集気びんの中の水面が上がった理由について、自分の考えをもち、異なる考えが出た場合、自分やほかの生徒の考えを比べて検討し、改善しようとしている。 [発言分析・行動観察]	集気びんの中の水面が上がった理由について、自分の考えをもち、異なる考えが出た場合、話し合いを行いながら、自分やほかの生徒の考えを十分に検討して改善しようとしている。	集気びんの中の水面が上がったことに注目させ、どうして水面が上がったのか考えるよう促す。
3	<ul style="list-style-type: none"> 酸化、酸化物、燃焼についての説明を聞く。 金属の酸化や燃焼についての説明を聞く。 金属以外の物質の酸化についての説明を聞く。 「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 「学びをいかして考えよう」について考える。 	53~55	知	○	酸化、酸化物、燃焼、金属以外の物質の酸化について、理解している。 [発言分析・ペーパーテスト]	酸化、酸化物、燃焼、金属以外の物質の酸化について、具体的な例をあげながら説明している。	酸化、酸化物、燃焼、金属以外の物質の酸化についての説明を、再度行うなど個別に指導を行い、知識を身につけることができるよう支援する。

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
4	<p>第2節 酸化物から酸素をとる化学変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「レッツ スタート！」身のまわりに単体の金属が多いことについて話し合う。 ・「?課題」金属の酸化物から酸素をとって、金属のみにするには、どうすればよいだろうか。 ・「調べ方を考えよう」酸化銅から酸素をうばいとる方法を考え、話し合う。 	56	態	○	<p>酸化銅から酸素をうばいとる方法について考えようとしている。</p> <p>[発言分析・行動観察]</p>	酸化銅から酸素をうばいとる方法について、話し合いながらねばり強く考えようとしている。	これまでの学習内容を想起させ、酸化銅から酸素をうばえそうな物質はないか、考えるよう助言・指導する。
5	<p>【実験5】酸化銅から酸素をとる化学変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験5を行い、加熱後に残った物質の性質を調べ、どのような変化が起きているかを考える。 ・「考察しよう」粒子のモデルを活用しながら、実験5の結果について考える。 ・酸化銅と炭素を混ぜ合わせて熱すると、炭素が酸化銅から酸素をうばい、二酸化炭素が発生して銅ができることを粒子のモデルを用いて説明する。 ・酸化物から酸素をうばう化学変化を化学反応式で表し、還元についての説明と、酸化と還元は同時に起こることについての説明を聞く。 ・「探究をふり返ろう」炭素のほかにも、酸化銅から酸素をうばう物質はあるかを考える。 	57～58	思	○	<p>酸化物から酸素をとる化学変化について、粒子のモデルを用いて表現している。</p> <p>[記述分析]</p>	実験結果をもとに、炭素が酸化銅から酸素をうばい、二酸化炭素が発生して銅ができることについて、粒子のモデルを用いて表現している。	実験結果から、反応した物質、できた物質はそれぞれ何かを考え、粒子のモデルで表すようながす。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・水素にも酸化物から酸素をうばうはたらきがあることについての説明を聞く。 ・「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「ここがポイント」酸化と還元について学んだことを整理して理解する。 ・「まちなか科学」についての説明を聞く。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。 ・「学んだことをチェックしよう」各節で学んだことを確認する。 ・「学びを生活や社会に広げよう」学習した内容を、生活や社会と結びつけて考える。 ・「Before & After」この章で学んだことをもとに自分の考えを記述し、話し合う。 	59～62	知		<p>酸化銅と水素の化学変化ではどのようなになるか、理解している。</p> <p>[発言分析・ペーパーテスト]</p>	酸化銅と水素の化学変化について、水素が酸化銅から酸素をうばい、水が発生して銅ができることを粒子のモデルを用いて説明している。	酸化銅と炭素の化学変化と比較して説明を再度行うなど、個別に指導を行い、知識を身につけることができるよう支援する。

【単元1】第4章 化学変化と物質の質量 (教科書 p. 63~72)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
<ul style="list-style-type: none"> 化学変化の前後における物質の質量を測定する実験を通して、反応物の質量の総和と生成物の質量の総和が等しいことを見いだして理解する。また、化学変化に関係する物質の質量を測定する実験を通して、反応する物質の質量の間には一定の関係があることを見いだして理解する。あわせて、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。(知識・技能) 化学変化と物質の質量について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだして表現する。(思考・判断・表現) 化学変化と物質の質量に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようにする。(主体的に学習に取り組む態度) 	化学変化を原子や分子のモデルと関連づけながら、化学変化と質量の保存、質量変化の規則性についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	化学変化と物質の質量について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	化学変化と物質の質量に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

重点…重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録…記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
1	<ul style="list-style-type: none"> 「Before & After」これまでに学んだことや生活経験をもとに自分の考えを記述し、話し合う。 第1節 化学変化と質量の変化 「導入」フラスコの中にスチールウールを閉じこめて燃やしたとき、フラスコ全体の質量はどうなるか話し合う。 「?課題」化学変化が起こる前と後では、物質全体の質量はどうなるだろうか。 「課題に対する自分の考えは?」化学変化の前後で、物質をつくる原子はどうなるか、原子・分子のモデルで考える。 	63~64	思		化学変化によって質量はどのように変化するかを予想することができる。 [発言分析・記述分析]	化学変化によって質量はどのように変化するか、原子・分子のモデルを用いて根拠を示しながら自分の考えを表現している。	フラスコの中にスチールウールを閉じこめて燃焼させる実験をもとに、質量がどう変化するか考えるよう助言・指導する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 【実験6】化学変化の前と後の質量の変化 実験6を行い、化学変化が起こるとき、化学反応の前と後では、物質全体の質量が変化するかどうかを調べる。 	65	思	○	化学変化が起こるとき、反応の前と後では、物質全体の質量が変わらないことを見だし、そのしくみを原子や分子に関連づけて表現している。 [発言分析・記述分析]	実験結果を原子や分子と関連づけて分析して解釈し、化学変化が起こるとき、反応の前と後では、物質全体の質量が変わらないことを見だして表現している。	反応の前と後の物質全体の質量を比較し、どうなっているか考えるよう助言・指導する。
3	<ul style="list-style-type: none"> 実験6の化学変化と、閉鎖系では反応の前後で物質全体の質量に変化がないことの説明を聞く。 質量保存の法則から、化学変化の前後では、反応に関係する物質の原子の種類と数に変化がないことについての説明を聞く。 「考察しよう」実験6の実験B④で化学反応が起こった後、容器のふたをあけてから質量を測定すると、質量が小さくなった理由を考える。 質量保存の考え方は、物質の変化のほぼ全てについてなり立つことについての説明を聞く。 「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 「学びをいかして考えよう」について考える。 	66~67	知	○	化学変化によって物質全体の質量が変わらないことについて理解している。 [発言分析・ペーパーテスト]	化学変化の前と後では、反応に関係する物質の原子の種類と数に変化がないことから、化学変化によって、物質全体の質量が変わらないことについて、説明している。	実験6の結果を再確認して質量が変化していないことを確かめさせるなど、個別に指導を行い、知識を身につけることができるよう支援する。

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
4	<p>第2節 化学変化する物質どうしの質量の関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「導入」同じ質量の鉄とマグネシウムを酸化させたのに、それぞれの酸化物の質量がちがう理由について話し合う。 ・「?課題」2種類の物質が結びつくとき、それぞれの物質の質量には、どのような関係があるだろうか。 <p>【実験7】金属を熱したときの質量の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験7を行い、金属と酸素が結びつくとき、それぞれの質量にはどのような関係があるかを見いだす。 	68~69	思	○	<p>金属と酸素が結びつくとき、それぞれの質量にはどのような関係があるかを見いだして表現している。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>実験結果を具体的に示しながら、反応する金属の質量と結びつく酸素の質量の関係を量的に見いだして表現している。</p>	<p>反応する金属の質量と結びつく酸素の質量の関係をグラフに示し、そこからどのような関係があるか、再度考えるよう助言・指導する。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・実験結果や p.70 図1 から、ある質量の金属と結びつく酸素の質量に限度があることを確認する。 ・「データを読みとろう」実験結果の表から、金属の質量と、できた酸化物の質量や結びつく酸素の質量の間には、何か決まりがあるか考え、話し合う。 	70	態	○	<p>金属の質量と、できた酸化物の質量や結びつく酸素の質量の間について考えようとしている。</p> <p>[発言分析・行動観察]</p>	<p>金属の質量と、できた酸化物の質量や結びつく酸素の質量の間について、話し合いながらねばり強く考えようとしている。</p>	<p>金属の質量と、できた酸化物の質量や結びつく酸素の質量のグラフを示し、どのような関係があるか考えるよう助言・指導する。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ・化学変化する物質どうしの質量の割合についての説明を聞く。 ・「探究をふり返ろう」p.71 図2 のグラフではなく、p.71 図3 のグラフをもとに考察したのはなぜか考える。 ・「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。 ・「学んだことをチェックしよう」各節で学んだことを確認する。 ・「学びを生活や社会に広げよう」学習した内容を、生活や社会と結びつけて考える。 ・「Before & After」この章で学んだことをもとに自分の考えを記述し、話し合う。 	71~72	知		<p>物質と物質が結びつくとき、それぞれの物質が一定の割合で結びつくことについて、理解している。</p> <p>[発言分析・ペーパーテスト]</p>	<p>物質と物質が結びつくとき、それぞれの物質が一定の割合で結びつくことについて、銅と酸素、マグネシウムと酸素などの具体的な例をあげて説明している。</p>	<p>実験結果を示しながら、物質と物質が結びつくとき、それぞれの物質が一定の割合で結びつくことについて、説明をもう一度行うなど、個別に指導を行い、知識を身につけることができるよう支援する。</p>

【単元1】第5章 化学変化とその利用 (教科書 p. 73~79)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
<ul style="list-style-type: none"> 化学変化によって熱をとり出す実験を通して、化学変化には熱の出入りがともなうことを見いだして理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。(知識・技能) 化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだして表現する。(思考・判断・表現) 化学変化に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見るができるようにする。(主体的に学習に取り組む態度) 	化学変化を原子や分子のモデルと関連づけながら、化学変化と熱についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	化学変化に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

重点…重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録…記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
1	<ul style="list-style-type: none"> 「Before & After」これまでに学んだことや生活経験をもとに自分の考えを記述し、発表する。 第1節 化学変化と熱 「レッツ スタート！」日常生活で熱が発生する化学変化には何があるか話し合う。 「?課題」どのような化学変化でも、周囲に熱を出すだろうか。 「課題に対する自分の考えは？」燃焼以外の化学変化で熱が発生するかどうか考え、話し合う。 	73~74	態		燃焼以外の化学変化で熱が発生するかどうか考えようとしている。 [発言分析・行動観察]	燃焼以外の化学変化で熱が発生するか、話し合いながらねばり強く考えようとしている。	これまでの学習内容から、燃焼以外の化学変化を想起させ、熱が発生しているか考えるよう助言・指導する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 【実験8】化学変化による温度変化 実験8を行い、どのような化学変化でも周囲に熱を出すかどうか調べる。 	75	思	○	化学変化には熱の出入りがともなうことを見いだして表現している。 [記述分析]	実験結果をもとに、化学変化には熱の出入りがともなうことを見いだして適切に表現している。	実験で化学変化によって温度が変わったことから熱がどのようなようになったかを考えるよう促す。
3	<ul style="list-style-type: none"> 実験結果から、化学変化では温度が上がる場合と温度が下がる場合があることを見いだす。 発熱反応、吸熱反応、化学エネルギーについての説明を聞く。 「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 「まちなか科学」についての説明を聞く。 「学びをいかして考えよう」について考える。 	76~77	知	○	熱が発生する化学変化について理解している。 [行動観察・記述分析]	熱が発生する化学変化について、鉄と硫黄の反応などの具体例をあげながら、説明している。	発熱反応、吸熱反応、化学エネルギーについての説明を、再度、行うなど、個別に指導を行い、知識を身につけることができるよう支援する。

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
4	<ul style="list-style-type: none"> ・「学んだことをチェックしよう」各節で学んだことを確認する。 ・化学変化が日常生活のなかで役に立つ例にどのようなものがあるか話し合う。 ・化学変化が日常生活のなかで役に立つ例を調べ、紹介文をカードやポスターにまとめる。 ・ほかの生徒が書いた紹介文を読み、感想や疑問をふせん紙に書いてはりつける。 ・「学びを生活や社会に広げよう」で紹介されている、化学変化が日常生活のなかで役に立つ例を確認する。 ・「Before & After」この章で学んだことをもとに自分の考えを記述し、話し合う。 	78~79	態	○	<p>化学変化が日常生活のなかで役に立つ例を、関心をもって調べ、紹介文をカードやポスターにまとめようとしている。</p> <p>[行動観察・記述分析]</p>	<p>化学変化が日常生活のなかで役に立つ例を、関心をもってねばり強く調べ、複数の紹介文をカードやポスターにまとめようとしている。</p>	<p>化学変化が日常生活のなかで役に立つ例を一つ紹介し、興味をもたせることによって主体的に学習にとり組めるよう支援する。</p>

【単元2】プロローグ ミクロの世界をのぞいてみよう

(教科書 p. 88~89)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
<ul style="list-style-type: none"> 生物のからだのつくりとはたらきとの関係に着目しながら、生物と細胞について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。（知識・技能） 生物と細胞について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、生物のからだのつくりとはたらきについての規則性や関係性を見いだして表現する。（思考・判断・表現） 生物と細胞に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。（主体的に学習に取り組む態度） 	<p>生物のからだのつくりとはたらきとの関係に着目しながら、生物と細胞についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。</p>	<p>生物と細胞について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、生物のからだのつくりとはたらきについての規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。</p>	<p>生物と細胞に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>

重点…重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録…記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
1	<ul style="list-style-type: none"> p.89 の写真をもとに、「身近な野菜であるタマネギを、顕微鏡観察すると小さな部屋のようなものが見えてくる」を見ながら、顕微鏡の経験などについて話し合う。 基礎操作「顕微鏡の使い方」を確認する。 	88~90	知		<p>顕微鏡で観察するために必要な操作の意味を理解し、その技能を身につける。また、スライドガラスやカバーガラスなど、観察に必要な器具を扱う上での注意点についても理解する。 [発言分析・行動分析]</p>	<p>顕微鏡で観察するために必要な操作の意味を理解し、倍率など顕微鏡操作に必要な知識について、説明することができる。スライドガラスやカバーガラスなど、観察に必要な器具を扱う上での注意点についても理解し、行動している。</p>	<p>顕微鏡の操作に慣れていない、経験がない生徒に対し、顕微鏡の正しい使い方や扱い方を丁寧に説明する。スライドガラスやカバーガラスなど、顕微鏡を使用する際に必要な器具についても実物を見せながら具体的に助言・指導する。</p>

【単元2】第1章 生物と細胞 (教科書 p. 91~104)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
<ul style="list-style-type: none"> 生物のからだのつくりとはたらきとの関係に着目しながら、生物と細胞について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。(知識・技能) 生物と細胞について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、生物のからだのつくりとはたらきについての規則性や関係性を見いだして表現する。(思考・判断・表現) 生物と細胞に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。(主体的に学習に取り組む態度) 	<p>生物のからだのつくりとはたらきとの関係に着目しながら、生物と細胞についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。</p>	<p>生物と細胞について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、生物のからだのつくりとはたらきについての規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。</p>	<p>生物と細胞に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもってたりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>

重点…重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録…記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
1	<ul style="list-style-type: none"> 「Before & After」 これまでに学んだことや生活経験をもとに自分の考えを記述し、話し合う。 第1節 植物の細胞 p.92 図1の写真を見て、身近な植物のからだ、葉、茎、根からなることについてふり返る。 「?課題」植物のからだを顕微鏡で観察すると、どのようなつくりが見えるだろうか。 「調べ方を考えよう」植物を顕微鏡で観察する方法について考え、どのような材料が適しているか話し合う。 【観察1】植物のからだの顕微鏡観察 観察1を行い、植物のからだのつくりを顕微鏡で観察し、スケッチする。 観察できた試料もしくは、p.89の写真を参考にして、植物のからだのつくりに見られた共通点や相違点について話し合い、まとめる。 	91~93	知	○	<p>植物を顕微鏡で観察するために必要な操作の意味を理解し、その技能を身につけている。また、観察できたものを正しくスケッチしている。</p> <p>[行動観察・記述分析]</p>	<p>プレパラートを作成し、それぞれの特徴がわかりやすい部分(例えば、サンプルの重なっていない部分)を選び、観察している。また、染色液の有無による、見え方のちがいを適切に表現している。</p>	<p>プレパラートの作成がうまくいかない生徒については、書画カメラやデジタル教材などを用いて、手元をわかりやすく演示するなどして、安全に作業が行えるよう助言・指導する。視野の中で、資料が見つからない生徒には、顕微鏡の倍率のちがいによる見え方のちがいがわかるような写真や映像を示しながら指導する。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> p.94 図1~図3をもとに、植物のからだ細胞からできていることの説明を聞く。 p.95 図4をもとに、葉の表皮や中に見られるさまざまな細胞の形を確認する。 p.95 図5をもとに、植物の細胞の基本的なつくりを確認し、核、細胞膜、細胞壁、葉緑体、液胞などに関する説明を聞く。 葉の表皮や中に見られるさまざまな細胞の形を確認する。 「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 「学びをいかして考えよう」について考える。 	94~95	思	○	<p>前時に行った観察結果をもとにして、それぞれの特徴を、言葉や図を用いてまとめ、さまざまな植物の細胞に見られる共通点を表現している。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>いくつかの試料を観察した記録として、大きさなど細胞の特徴や、酢酸カーミンなどの染色液を用いると核が見やすくなること、核がさまざまなサンプルで確認できることをスケッチや文章で適切に表現している。</p>	<p>それぞれの試料で観察したもののどこが細胞なのかを理解できていない場合、教科書などの写真を見せながら、スケッチの内容を確認し、細胞の見え方について助言・指導する。共通の構造としての核を見つけることができなかつた場合、染色方法など、実験手順について再度確認するよう助言・指導する。</p>

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
3	<p>第2節 動物の細胞</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物のからだについて、これまで学習したことについて話し合う。 前時に観察した植物の細胞について振り返り、植物細胞に見られた共通の特徴について確認する。 「?課題」動物のからだを顕微鏡で観察すると、どのような特徴が見られるだろうか。 「調べ方を考えよう」植物の細胞を観察したときの経験をもとにして、動物の細胞を観察する際の材料や観察方法について話し合う。 材料として用いる口の内部をおおう粘膜に関する説明を聞く。 <p>【観察2】動物の細胞の観察</p> <ul style="list-style-type: none"> 観察2を行い、動物の細胞を観察し、スケッチを行う。 植物の細胞と比較し、観察できたものをもとに、動物のつくりについて、共通点や相違点があるか考える。 	96~97	知	○	<p>植物を顕微鏡で観察した際の実験操作をもとに、動物の細胞を観察するために必要な操作の意味を理解し、その技能を身につけている。また、観察できたものを正しく記録している。</p> <p>[行動観察・記述分析]</p>	<p>正しくプレパラートを作成し、植物に比べて小さい動物の細胞を見つけてスケッチしている。また、染色液の有無による見え方のちがいや、大きさなど植物細胞とのちがいを適切に記録している。</p>	<p>ほおの内側の細胞の観察における実験操作自体は植物のときよりも簡単だが、作成したプレパラート上で細胞を見つけることが難しいため、倍率による見え方のちがいを、巡回しながら助言・指導する。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> 観察結果およびp.98の私のレポートおよび図1を参考にして、染色の有無によって、細胞の見え方にどのようなちがいがあったかを確認する。 p.98 図2をもとに、動物の細胞と植物の細胞のつくりの共通点、細胞質に関する説明を聞く。 p.99 図3を参考にして、小腸の細胞と、ヒトのほおの内側の細胞を比較し共通点について話し合う。 「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 「学びをいかして考えよう」について考える。 	98~99	思	○	<p>観察結果をもとに、動物の細胞の特徴をまとめ、細胞内に核が存在することなどについて、細胞の共通点を、植物の細胞と比較しながら表現している。また、大きさや形など、植物の細胞との相違点をまとめている。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>細胞の大きさなどの特徴をスケッチや文章で適切に表現している。また、核などの観察した細胞に共通に見られる構造について表現している。さらに、図や表などを用いて、動物の細胞と植物の細胞の違いを、わかりやすくまとめている。</p>	<p>ここで観察した動物の細胞は、植物に比べて小さく見つけにくいので、教科書p.98 図1のような像が、どれくらいの倍率で観察できるかについて助言・指導する。植物の観察により得た細胞のイメージをもとに観察をはじめた生徒は、その先入観で動物の細胞を見つけられなくなることがあるため、適宜見え方に関する助言・指導する。</p>
5	<p>第3節 生物のからだと細胞</p> <ul style="list-style-type: none"> 「レッツ スタート！」p.100 池や水槽の中など水中の小さな生物に関連したことについて、知っていることや気づいたことを話し合う。 これまでに観察した細胞について、大きさなどのちがいについて振り返る。また、それぞれの細胞の共通点と相違点について話し合う。 「?課題」生物のからだは、どのようにつくられているだろうか。 「調べよう」小さな生物のおおよその大きさを知るための方法について説明を聞き、調べる。 単細胞生物と多細胞生物がいることを理解する。 p.101 図2、図3をもとに、単細胞生物の細胞に関する説明を聞く。 	100~101	知	○	<p>これまでの学習をもとに、水中の小さな生物の観察を行う際の大きさを比較するための工夫などについて、説明している。また、水中の小さな生物にはさまざまなものが見られ、大きく単細胞生物と多細胞生物に分けられることについて説明している。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>水中の小さな生物の観察もしくは写真をもとに、単細胞生物にもさまざまな特徴があることを説明している。植物・動物の細胞の観察を振り返り、多細胞生物の組織と器官の関係について説明している。</p>	<p>「水中の小さな生物＝単細胞生物」だと生徒が思いこんでいる場合があるので、ミジンコなどの多細胞生物の例を示す。単細胞生物と多細胞生物のちがいは、単に細胞数だけではないことについて助言・指導する。</p>

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
6 ・ 7	<ul style="list-style-type: none"> ・ p.102 図 1 をもとに、単細胞生物にもさまざまなものが見られ、それぞれの細胞には個々の生命活動に必要なしくみが全て備わっていることについて説明を聞く。 ・ p.102 図 2 をもとに、多細胞生物のからだを構成する細胞が組織をつくり、いくつかの組織が集まって器官をつくり、さらに器官が集まり個体となることについて説明を聞く。 ・ p.103 図 3 をもとに、単細胞生物の細胞と多細胞生物の細胞の共通点と相違点について説明を聞く。 ・ p.103 図 4 をもとに、ここまでの内容をふり返り、細胞ひとつひとつが、生命活動を行っていることに関する説明を聞き、さらに細胞の呼吸についての説明を聞いてまとめる。 ・ 「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 ・ 「学びをいかして考えよう」について考える。 ・ 「学んだことをチェックしよう」各節で学んだことを確認する。 ・ 「学びを生活や社会に広げよう」学習した内容を、生活や社会と結び付けて考える。 ・ 「Before & After」この章で学んだことをもとに自分の考えを記述し、話し合う。 	102~104	思		<p>単細胞生物の特徴（例「泳ぐ」）が細胞のつくり（例「細かい毛のようなつくり」）と深く関係していることについてまとめている。また、多細胞生物における組織と器官について説明している。単細胞生物と多細胞生物を比較し、多細胞生物では細胞の役割分担が見られることを見いだしている。また、多細胞生物のからだの大きさと細胞の数のちがいについて説明している。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>多細胞生物に見られる、細胞の役割分担について、例をあげて説明している。また、単細胞生物の1つの細胞中に存在するさまざまな構造について例をあげて説明している。細胞の呼吸について、エネルギーや酸素という言葉を使って説明している。</p>	<p>細胞が生きて活動するために必要な基本的なものや事柄を説明し、単細胞生物の細胞のつくりと、多細胞生物の細胞の役割分担（組織）について、例をあげながら助言・指導する。</p>
			態	○	<p>ここまでの観察等をふり返り、ほかの生徒との話し合いを通じて理解を深め、「多様な生物の間に見られる共通点は何だろうか」という問いかけへの答えをもとに、自己の成長や変容を表現しようとしている。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>章全体をふり返り、生物のからだは細胞からできていることについて、多様な生物の例について調べ、自身の理解の深まりを自覚している。</p>	<p>ヒトのからだや身近な植物などが細胞からできていることを例に話し合いをうながし、生物にとって（呼吸、成長などの生命現象における）基本単位となる細胞について、興味を深めるきっかけとなるように助言・指導する。</p>

【単元2】第2章 植物のからだのつくりとはたらき (教科書 p.105~126)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
<ul style="list-style-type: none"> 植物のからだのつくりとはたらきとの関係に着目しながら、葉・茎・根のつくりとはたらきについて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。(知識・技能) 植物のからだのつくりとはたらきについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、植物のからだのつくりとはたらきについての規則性や関係性を見いだして表現する。(思考・判断・表現) 植物のからだのつくりとはたらきに関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようにする。(主体的に学習に取り組む態度) 	植物のからだのつくりとはたらきとの関係に着目しながら、葉・茎・根のつくりとはたらきについての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	植物のからだのつくりとはたらきについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、植物のからだのつくりとはたらきについての規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	植物のからだのつくりとはたらきに関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

重点…重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録…記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
1	<ul style="list-style-type: none"> 「Before & After」 これまでに学んだことや生活経験をもとに自分の考えを記述し、話し合う。 第1節 葉と光合成 p.106 図1を見て、ふ入りの葉でデンプンがつくられるのかどうか考えて、話し合う。 p.106 図2などから、小学校の学習を想起し、植物の葉に光が当たるとデンプンがつくられること、光合成は葉の緑色の部分で行われていることを確認する。 	105~106	思		葉の緑色の部分とふの部分それぞれに光を当てた場合と当てていない場合のデンプンの生成について、ヨウ素液の反応をふまえて自分の考えをまとめて表現している。 [行動観察・記述分析]	葉の緑色の部分に光を当てたものはヨウ素液が反応していることからデンプンがつけられており、光が当たっていないものはヨウ素液が反応していないので、デンプンはつけられていないことを関連づけて表現している。	ヨウ素液はデンプンがあると青紫色に変化し、デンプンがないと変化しないことを確認し、生徒が思考できるよう助言・指導する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 「?課題」 光合成は葉の細胞の中のどこで行われているだろうか。 「課題に対する自分の考えは?」 葉の細胞のどの部分で光合成が行われているのか考える。 【実験1】 葉の細胞の中で光合成が行われている部分 実験1を行い、光を当てたものと当てていないオオカナダモを用意し、脱色してヨウ素液をたらして、細胞のようすを比較して、光合成が行われた場所を調べる。 葉のどの部分で光合成が行われたか考察する。 	107	態		葉の細胞の中で光合成が行われている部分についての実験に進んでかかわり、ほかの生徒と協力しながら、ねばり強く課題を解決しようとしている。 [発言分析・行動観察]	顕微鏡で観察を行い、光を当てた葉と光を当てていない葉を比較して、その結果のちがいを確認し、課題に対する自分の考えがどう変わったかふり返ろうとしている。	ヨウ素液で染まった細胞を顕微鏡で観察することは難しいので、顕微鏡の使い方について助言・指導する。葉の比較をする際に、黒っぽい粒(デンプンがある場所)をさがすように伝え、生徒が実験にかかわりやすいよう助言・指導する。
3	<ul style="list-style-type: none"> 前時の実験結果を整理し、葉の細胞にある葉緑体で光合成が行われていることを説明する。 「ここがポイント」を確認する。 p.109 図3を見て、光合成で発生した気体が酸素であることを確認する。 「!結論」 自分の考えをまとめ、確認する。 「学びをいかして考えよう」について考える。 	108~109	思	○	葉の細胞の中で光合成が行われている部分の実験結果をもとに、自らの考えを文章としてまとめて表現している。 [行動観察・記述分析]	実験結果をもとにして、葉の細胞の葉緑体で光合成が行われていることについて、自分の考えを論理的にまとめて表現している。	実験結果を比較し、葉に光が当たると緑色の部分がヨウ素デンプン反応で黒っぽく変色していること、そこにデンプンができていることを説明し、生徒が思考できるよう助言・指導する。

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
4	<p>第2節 光合成に必要なもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図1を見て、植物が光合成を行うのに必要なものについて考え、話し合う。 ・ 「?課題」光合成でデンプンがつくられるとき、何が材料になるだろうか。 ・ 「調べ方を考えよう」について考える。 <p>【実験2】光合成と二酸化炭素の関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実験2を行い、光合成と二酸化炭素の関係を調べる。 ・ 結果の表を作成・比較し、二酸化炭素が光合成によって使われたことを考察する。 ・ 陸上植物では気孔から二酸化炭素がとりこまれていることを理解する。 ・ 「調べよう」光合成と二酸化炭素の関係を石灰水を使って調べることができることを理解する。 ・ 光合成では材料として水も使われていることを理解する。 ・ 「!結論」自分で考えをまとめ、確認する。 ・ 「学びをいかして考えよう」について考える。 	110~113	思	○	<p>光合成と二酸化炭素の関係の実験結果を正しく記録し、結果の表を用いて考察している。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>光の有無、植物の有無などそれぞれの条件での結果を表にまとめて記録している。また、対照実験について理解し、結果を適切に考察している。</p>	<p>実験の条件の確認を行い、光の有無、植物の有無についての表をつくり、その表に結果をまとめるよう助言・指導する。</p>
5	<p>第3節 植物と呼吸</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「レッツ スタート!」p.114 図1の植物が呼吸を行っているのかを確かめる実験の結果について考え、話し合う。 ・ 実験結果から、光が当たっていない植物は呼吸によって二酸化炭素を放出することを理解する。 ・ 「?課題」植物はいつ呼吸や光合成をしているだろうか。 ・ 昼と夜での植物の気体の出入りについて理解する。 ・ 「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 ・ 「学びをいかして考えよう」について考える。 	114~115	思		<p>植物が呼吸をしていることを確認し、光合成や呼吸がいつ行われているか、自らの考えを文章にまとめて表現している。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>昼には呼吸と光合成が、夜には呼吸のみが行われていることについて、自分で考えて文章に適切にまとめている。</p>	<p>昼間は見かけ上、二酸化炭素が放出されないという点の理解が難しいので、具体的な数値を出して、生徒が理解できるよう助言・指導する。</p>
6	<p>第4節 植物と水</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「レッツ スタート!」p.116 図1の水面が下がった原因について考え、話し合う。 ・ 植物の吸水と蒸散について理解する。 ・ 「?課題」植物の吸水は、蒸散とどのような関係があるだろうか。 ・ 「調べ方を考えよう」蒸散と吸水の関係を調べるため、植物のからだのどの部分で蒸散をしているのかについてどのように調べればよいか考える。 	116	思	○	<p>吸水と蒸散の関係を調べる実験の方法について、自分たちでどのような条件を用意すればよいか、またそう決めた理由を科学的に考えている。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>グループで話し合い、自分たちの方法を考えている。また、その方法を考えた理由について説明している。</p>	<p>葉の表や裏、茎など、具体的な部位を例に出して、その部分の蒸散をおさえたとき、吸水がどのようになるかを問いかけて、生徒が思考できるよう助言・指導する。</p>
7	<p>【実験3】吸水と蒸散の関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実験3を行い、吸水と蒸散の関係を調べる。 	117	態		<p>吸水と蒸散の関係の実験について進んでかかわり、ねばり強く取り組もうとしている。</p> <p>[行動観察・発言分析]</p>	<p>条件が異なる枝について、結果のちがいを確認し、正しく記録することができる。</p>	<p>水中での操作は難しいため、実際に演示するなどして、実験をやりきるよう助言・指導する。</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「解決方法を考えよう」実験結果を整理し、仮説が正しかったかどうかを考察し、実験の改善点についてグループごとに話し合う。 ・ 蒸散と吸水のしくみについて理解する。 ・ 「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 	118~119	知	○	<p>吸水と蒸散の関係の実験結果をふまえて、葉で蒸散が生じることで吸水が生じることを理解している。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>自分の考えをまとめ、葉が蒸散をすることで吸水が生じることを理解している。</p>	<p>吸水が先か蒸散が先かがわかりにくいことをふまえて、吸水と蒸散の実験では、吸水は制御できないが、蒸散を制御することで吸水量にちがいが出ること</p>

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価基準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
	・「学びをいかして考えよう」について考える。						助言・指導する。
			思		実験結果を整理し、仮説や方法などを検証し、実験の妥当性について考えている。 [発言分析・記述分析]	自分たちの立てた仮説について、話し合いを通してふり返り、仮説や計画が正しかったかを論理的に説明している。	どのような実験を行ったかを確認させ、行った実験の妥当性を検証するよう助言・指導する。
9	第5節 水の通り道 ・「レッツ スタート！」p.120 図1から、花の色が変わった原因について考える。 ・「?課題」水は根・茎・葉のどの部分を通っているだろうか。 ・「調べよう」葉の断面を観察し、どの部分が水の通り道か考える。 【観察3】水の通り道 ・観察3を行い、植物の根の表面のつくりと、色水を吸わせた葉と茎の断面の観察を行い、吸水された水が茎のどこを通るのかを調べる。	120～123	思	○	水の通り道の実験において、結果を正しく記録し、吸水された水が葉や茎のどこを通るのか考察する。 [行動分析・記述分析]	葉や茎をスケッチして、色水が通ったところを正しく記録し、吸水された水が葉や茎のどこを通っているか説明している。	なぜ色水を使用したのかを確認させ、色水が通ったところを正確にかくよう助言・指導する。
10	・観察で見られた根の細かいつくりや根毛が、根の表面積を広げ、効率よく水や水にとけた肥料分をとりこんでいることを理解する。 ・維管束のはたらき、および維管束の並び方が、単子葉類と双子葉類で異なることを理解する。 ・「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学んだことをチェックしよう」各節で学んだことを確認する。 ・「学びを生活や社会に広げよう」学習した内容を、生活や社会と結び付けて考える。 ・「Before & After」この章で学んだことをもとに自分の考えを記述し、話し合う。	124～126	態	○	葉や茎の水の通り道について、探究した過程をふり返ろうとしている。 [行動観察・記述分析]	葉や茎の水の通り道について、実験結果を参考にして、以前に学んだ葉や茎の構造についてふり返りながら自分の考えをまとめている。	前時でとり組んだ実験結果を明示し、水がどこを通るのか、学習内容をふり返り、自らの考えをまとめるよう助言・指導する。

【単元2】第3章 動物のからだのつくりとはたらき (教科書 p.127~146)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> 動物のからだのつくりとはたらきとの関係に着目しながら、動物が生命を維持するはたらきについて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。(知識・技能) 動物が生命を維持するはたらきについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、動物のからだのつくりとはたらきについての規則性や関係性を見いだして表現する。(思考・判断・表現) 生命を維持するはたらきに関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようにする。(主体的に学習に取り組む態度) 	動物のからだのつくりとはたらきとの関係に着目しながら、動物が生命を維持するはたらきについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	動物が生命を維持するはたらきについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、動物の体のつくりとはたらきについての規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	動物が生命を維持するはたらきに関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

重点…重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録…記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
1	<ul style="list-style-type: none"> 「Before & After」 これまでに学んだことや生活経験をもとに自分の考えを記述し、話し合う。 第1節 消化のしくみ 「レッツ スタート！」 p.128 図1を参考にして、ヒトをふくめた動物が何を食べているか(食材)などについて話し合う。 「?課題」食物は、消化される過程で、どのように変化していくのだろうか。 主食とよばれるものの多くがデンプンをふくんでいることの説明を聞く。 だ液によりデンプンが甘い物質(麦芽糖)に変化すると考えられることについて説明を聞く。 「調べ方を考えよう」確かめること(デンプンが麦芽糖に変化する)を確認し、どのような実験をしたらよいかを話し合う。 ヨウ素液、ベネジクト液について、それぞれの性質(色の変化)などについての説明を聞く。 p.130 図1、図2を参考にして、実験の方法について話し合い、その結果を発表する。 	127~130	思		<p>食物に関して気づいたことや疑問に思ったことから、消化についての問題(食物の変化)を見いだしている。デンプンが消化によって糖(麦芽糖)に変化することを確かめる実験方法について話し合い、表現している。</p> <p>[発言分析・行動観察]</p>	食物に関する知識や経験から、消化に関する課題を見いだそうとしている。特に、消化が食物を吸収されやすい養分に変化させることを確かめる実験について、ヨウ素液やベネジクト液を使う意味を理解し、実験方法や手順を適切にまとめている。ヨウ素液、ベネジクト液、どちらか一方のみでは不十分であることをまとめている。	消化に対して興味をもたせるために、食物の種類や、それらがからだの中でどのように変化していくかについて、話し合いをうながす。色の変化によって、物質の有無(量)を調べる方法についての理解を深めるため、さまざまな濃度のデンプン液をつくり、これにヨウ素液を加えさせるなどの実験を演示する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 前時の話し合いの内容をふり返り、だ液のはたらきを調べる実験方法に関する説明を聞く。だ液の採取方法や対照実験について確認する。 だ液のはたらきを調べる実験方法の具体的な手順などについて話し合う。 【実験4】だ液によるデンプンの変化 実験4を行い、だ液によるデンプンの変化を調べる。 実験後、結果の見方を参考に、結果をまとめるための方法について話し合う。 	130~131	思	○	<p>前時の話し合いをもとにして、具体的な手順を確認し、正しい実験操作をしている。また、実験結果の記録方法について話し合い、表をつくるなどのくふうをして、適切にまとめている。</p> <p>[行動観察・記述分析]</p>	必要な試験管の準備など、実験方法や手順を正しく理解している。また、対照実験の意味を正しく理解し、実験結果(特に色の変化について)を言葉や表によって、わかりやすく記録している。	実験操作の意味を理解させ、スポイトの使い分けなど、だ液が対照実験に混ざらないようにする配慮が必要なことなどを、重ねて助言する。どの実験結果を比較するのかわかりやすく理解させられるように、試験管にラベルをはり、中に入っているものを示すよう助言・指導する。

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
	<ul style="list-style-type: none"> ・実験結果をまとめる。 						
3	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の実験をふり返し、対照実験の意味について再び話し合う。 ・実験操作の意味（反応の温度、反応の時間）などについて話し合う。 ・「考察しよう」結果をまとめた表をもとにして、何と何を比較すればよいかについて話し合い、考察する。 ・p.132 図1、図2をもとに、実験4の試験管内で起こったことについて話し合う。デンプンと麦芽糖に関して説明する。 ・だ液のはたらきと性質について話し合う。 	132	思	○	<p>実験結果をもとに、だ液のはたらきについて、対照実験の意味をよく理解しているかなど、実験結果をもとに考察した内容を適切に表現している。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>色の変化とデンプン、麦芽糖の有無（量の変化）を結びつけて考察し、適切に表現している。</p>	<p>考察が進まない場合などは、p.132「考察しよう」をもとに、何と何を比較すればよいのかを、p.130の実験方法を考える場面までもどって考えるよう助言・指導する。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・消化液と消化酵素に関する説明を聞く。 ・p.133 図3を参考にして、ヒトの消化系のつくりとはたらきに関する説明を聞く。 ・p.133 表1をもとに、食物にふくまれる栄養分に関する説明を聞く。 ・p.133 表2をもとに、さまざまな消化酵素のはたらきに関する説明を聞く。 ・「！結論」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。 	133	知	○	<p>消化にかかわる器官について、消化管とそれにつく器官のつながりを理解している。食物にさまざまな成分がふくまれていること、消化酵素には、さまざまなはたらきをもつものが存在することを理解している。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>食物にふくまれる成分と、これらの消化にかかわる消化酵素について、話し合いを通じて適切な表を作成し、まとめている。また、消化にかかわる器官の位置やつながり方を理解するために、模式図などを作成している。</p>	<p>食物にさまざまな成分がふくまれていることを、p.128 図1をふり返るなどして助言する。消化にさまざまな器官がかかわる理由について話し合わせて、消化酵素にも多様なものがあることについて助言・指導する。</p>
5	<p>第2節 吸収のしくみ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「レッツ スタート！」 p.134 図1のイラストを参考に、消化管の内側が、からだの外側とつながっていることについて話し合う。 ・からだの内側とはどこか（血管のある場所）について確認し、消化される場所と吸収される場所、吸収された後の行き先について確認する。 ・「？課題」消化された食物は、体内にどのように吸収されているだろうか。 ・p.134 図2を見て、デンプン、タンパク質、脂肪の消化の流れとそれぞれの消化酵素の役割についての説明を聞く。 ・p.135 図3を見て、小腸のつくり（柔毛）とそのはたらきについての説明を聞き、小腸の表面積が大きいことの利点について理解する。 ・p.135 図4を参考にして、ブドウ糖、アミノ酸、脂肪酸とモノグリセリドの吸収、および、小腸で吸収されたブドウ糖とアミノ酸が肝臓に送られたり、脂肪酸とモノグリセリドがリンパ管を通過して血管に送られたりすることについての説明を聞く。 ・「！結論」自分の考えをまとめ、確認する。 	134～135	思	○	<p>デンプン、タンパク質、脂肪が消化されていく過程を理解している。吸収がおもに小腸のかべで行われることを理解し、柔毛の構造と吸収のようすを表現している。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>デンプン、タンパク質、脂肪が消化されていく過程を、図などを用いて説明している。小腸のかべの表面積が広いことなど、吸収に適した構造になっていることを説明している。吸収されたものが全身に運ばれることを説明している。</p>	<p>口→食道→胃→小腸→大腸→肛門というつながりを確認しながら、各部分で食物にふくまれる成分がどのように変化するか（しないか）を、ひとつひとつ確認するよう助言する。消化前の成分と消化されてきた物質をわかりやすく対応させ、p.134 図2を必要に応じて、デンプンだけ、タンパク質だけ、脂肪だけに注目したものに分解するなどのくふうをし、確認できるよう助言・指導する。</p>

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
6	<p>第3節 呼吸のはたらき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「レッツ スタート！」 p.136 図1を参考に、吸気と呼気の成分のちがいについて話し合う。 ・前時に学習した消化・吸収された養分が全身の細胞に運ばれることについて思い出し、これを全身の細胞が、何のために、どのように利用しているのかについて話し合う。 ・p.136 図2を参考に、有機物を利用してエネルギーをうみ出す際に、酸素が必要であることの説明を聞く。 ・「?課題」細胞の呼吸に必要な酸素は、どのようにからだにとり入れられ、細胞に届けられるのだろうか。 ・p.137 図4を参考に、鼻、口、気管、肺、肺胞に関する説明を聞く。肺呼吸により、肺胞と毛細血管の間で、酸素と二酸化炭素のやりとりが起こることについて確認する。 ・p.136 図3を見て、ヒトの肺に空気が入るしくみについて理解する。 ・p.137 図5より、動脈血と静脈血にふくまれる酸素、二酸化炭素の量のちがいについて確認し、動脈血→静脈血、静脈血→動脈血という変化が、どこで起きるか話し合う。 ・細胞による呼吸についての説明を聞き、肺呼吸とのちがいを確認する。 ・「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 	136~137	知	○	<p>細胞の呼吸について理解している。また、肺が酸素をとりこみ、二酸化炭素を排出するための器官であることを理解している。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>細胞において、養分からエネルギーをとり出すときに、酸素が必要であること、および、その際に二酸化炭素が生じることについて理解している。細胞の呼吸に必要なものを、血液循環と関連づけて理解している。肺の構造について、酸素と二酸化炭素の交換を行ううえで都合のよい点を説明している。</p>	<p>細胞による呼吸と肺呼吸のちがいがわかりにくく、p.137 図5の意味がとらえにくい場合は、からだから細胞からできていることを話し合いのなかで確認し、ひとつひとつの細胞が呼吸を行っていることを助言する。</p> <p>激しい運動をして筋肉を使うと呼吸数が多くなる理由などについて話し合うよう助言・指導する。</p>
7	<p>第4節 血液のはたらき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「レッツ スタート！」 p.138 図1を参考に、心臓につながる血管が、どこにつながっているかについて話し合う。 ・「?課題」養分や酸素、二酸化炭素は、心臓、血管、血液のはたらきによってどのように運ばれるのだろうか。 ・p.138 図2を用いて、心臓の4つの部屋の位置関係（つながりなど）、血液の流れ方を確認する。 ・p.139 図3、図4をもとに、動脈と静脈の区別および毛細血管との関係について説明を聞く。また、動脈→毛細血管→静脈という流れについて話し合いを通して確認する。 ・動脈、静脈の血管のかべの厚さ、弁の有無に関する解説を聞く。 ・p.139 図5をもとに、体循環と肺循環について確認する。 ・血液がからだのすみずみまで流れることを理解する。 	138~139	思		<p>心臓に4つの部屋があることの意味を理解し、動脈、毛細血管、静脈、心臓、肺のつながりを表現している。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>心臓につながる静脈、動脈と心房、心室の関係を理解し、つながる血管（血液の流れ）がわかるような図で表現している。また、動脈、毛細血管、静脈のつながりを、自分のからだを想定しながら説明している。これに加えて、肺循環と肺循環について説明している。</p>	<p>血管が枝分かれしているようすを p.139 図4を使って示した後に、毛細血管は非常に細いものであることを助言・指導する。また、皮下の毛細血管のうすいかべが壊れると内出血とよばれる状態になることなど、血液が血管の中を流れていることを身近に感じられるような例をあげ、説明する。</p>

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ p.140 図 1 を参考に、肺循環と体循環について確認し、酸素を多くふくむ血液と、酸素の少ない血液の流れを確認する。 ・ 肺の中で静脈血が動脈血に、全身の細胞で動脈血が静脈血になることを確認する。 ・ 肺動脈には静脈血が、肺静脈には動脈血が流れることを確認する。 ・ 「説明しよう」について考え、説明する。 ・ p.140 表 1 を参考に、血球と血しょう、および赤血球、白血球、血小板のはたらきについて説明を聞く。 ・ 動脈血と静脈血の色のちがいについて確認し、ヘモグロビンのはたらきについて説明を聞く。 ・ 血液と細胞での物質の交換について理解する。とくに、組織液と血液（血しょう）の関係について、p.141 図 4 をもとに確認する。 ・ 「！結論」自分の考えをまとめ、確認する。 ・ 「学びをいかして考えよう」について考える。 	140～141	知	○	<p>肺循環と体循環のちがいを心臓の構造と結びつけて理解している。また、動脈血および静脈血が流れている部分や、酸素の運搬について理解している。血球の種類など血液の成分や、血しょうと毛細血管からしみだしたものの（組織液）の関係について理解している。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>動脈血と静脈血の区別、肺循環と体循環の区別、動脈と静脈の区別などを整理してまとめている。また、血球のはたらきを図などとともにもまとめている。毛細血管で起こる酸素、二酸化炭素、養分、不要物質のやりとりや、血液が循環しなければならない意味を説明している。</p>	<p>動脈血と静脈血のちがいが、ふくまれている酸素の量のちがいによることを示したうえで、動脈血→静脈血の変化と、静脈血→動脈血の変化が、どこで起こるのかを、肺呼吸、細胞による呼吸という言葉を用いて説明できるよう助言・指導する。血液循環が止まると、細胞の呼吸などにどのような影響が出るかを考えさせる。</p>
9	<p>第 5 節 排出のしくみ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「レッツ スタート！」からだから排出されるものにはどのようなものがあるかについて、汗と尿のちがいなどについて話し合う。 ・ 「？課題」尿はどこで何からつくられるのだろうか。 ・ 細胞の活動によって、血液中（組織液中）に不要物が存在するようになることについて説明を聞く。 ・ アンモニアについて第 1 学年で学習した内容について復習する。アンモニアが、肝臓で無害な尿素に変えられることについての説明を聞く。 ・ p.142 図 2 を参考に、腎臓の位置、腎臓に運ばれる血液、腎臓とぼうこうの結びつきなど、尿が排出されるまでのことについての説明を聞く。 ・ 「！結論」自分の考えをまとめ、確認する。 ・ 「学びをいかして考えよう」について考える。 	142～143	知	○	<p>尿は腎臓でつくられていること、尿には尿素などの不要物がふくまれていることを理解している。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>尿が腎臓でつくられていること、尿をつくることによって血液の成分にどのような変化が起こるのかを説明している。また、尿の成分を、血しょうの成分と対比させながら説明している。</p>	<p>腎臓とぼうこうの関係など、尿に関係する器官をわかりやすく示す。健康診断の際に行われる尿検査を例に、尿を調べると血しょうにふくまれる成分の変化を間接的に知ることができることなど、血液と尿の関係について理解できるように助言・指導する。</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「学びを生活や社会に広げよう」について考える。 【動物の器官と細胞のはたらきを結びつけよう】 ・ これまでの学習をふり返り、p.144 図 1 を見ながら、以下の内容について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ①細胞が生きていくために必要なものは何か。 ②細胞のはたらきによって生じるものは何か。 ・ p.144 図 2 を見ながら、消化と吸収、呼吸、血液の循環、排出の結びつきについて、以下の内容を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> さまざまな器官は、どのようなはたらきをするのか。 各部分の血液にふくまれている成分のちがいはどのようなものであり、どのように移動をするか。 	144	態	○	<p>これまでの学習をふり返り、話し合いを通して、細胞の活動と器官のはたらきを結びつけて考えている。p.144 図 2 に掲載されている情報を整理し、生命を維持するはたらきについて理解を深めようとしている。</p> <p>[発言分析・行動観察]</p>	<p>酸素、二酸化炭素、養分などに注目して動物のからだのつくりとはたらきをとらえ直し、各器官のはたらきと血液循環の関係を、話し合いの中で説明している。また、これまでの学習をふり返り、細胞がヒトのからだの基本単位となっていることの意味をとらえようとしている。</p>	<p>p.144 図 2 には、多くの要素が一つにまとめられている。こういった要素を一度にとらえられない場合は、トレーシングペーパーなどを利用して図を分解したものを示し、これらに関係づけて考えるよう助言・指導する。</p>

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
11	<p>【植物と動物のからだを比べよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ p.145 図 3 をもとに、植物の細胞と動物の細胞の共通点と相違点について話し合う。 ・ 植物の細胞にしかない構造（葉緑体）と、養分の獲得のしかたについて思い出す。 ・ p.145 図 4 を見ながら、植物と動物（p.144 図 2）を対比させて、養分の獲得のしかたと、養分の体内の移動について話し合う。 ・ 植物（維管束）と動物（血管や血液循環）を対比させて、そのちがいについて話し合う。 ・ 植物の器官（根、茎、葉）と動物の器官のちがいについてまとめる。例えば、冬に落葉する植物を例にして、植物と動物の養分の獲得のしかたのちがいについて話し合う。 ・ 「学んだことをチェックしよう」各節で学んだことを確認する。 ・ 「Before & After」この章で学んだことをもとに自分の考えを記述し、話し合う。 	145～146	態	○	<p>これまでの動物と植物に関する学習を、細胞、養分の獲得という 2 つの視点からふり返り、共通点と相違点を図、表や文章を使ってまとめ直すなど、ねばり強く自らの学びを深めようとしている。</p> <p>[発言分析・行動観察]</p>	<p>細胞の共通点や相違点や、動物と植物のからだのつくりやはたらきの共通点や相違点をふり返りながら比較し、話し合いを通して理解を深めている。また、これまでに学習した内容を、図や表を使って説明するなど、積極的に自らの学びをふり返り、深めようとしている。</p>	<p>植物に関する既習事項の整理ができていない場合はデンプンをキーワードにして、光合成などをふり返ることができるよう助言・指導する。また、水をキーワードとして、植物と動物、それぞれの体内の水の移動を確認できるように、からだを示す簡単な模式図を提示し、学習をふり返ることができるよう助言・指導する。</p>

【単元2】第4章 刺激と反応 (教科書 p.147~159)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> 動物のからだのつくりとはたらきとの関係に着目しながら、刺激と反応について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。(知識・技能) 刺激と反応について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、動物のからだのつくりとはたらきの規則性や関係性を見いだして表現する。(思考・判断・表現) 刺激と反応に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。(主体的に学習に取り組む態度) 	動物のからだのつくりとはたらきとの関係に着目しながら、刺激と反応についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	刺激と反応について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、動物のからだのつくりとはたらきについての規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	刺激と反応に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

重点…重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録…記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
1	<ul style="list-style-type: none"> 「Before & After」小学校で学習したことなどをもとに自分の考えを記述し、話し合う。 第1節 刺激の受けとり 「レッツ スタート！」ライオンがえものをとらえるときにはたらいている器官について考え、話し合う。 動物が外界から刺激を受けとっていることを理解する。 「?課題」刺激を受けとっている器官には、どのようなものがあり、どのようなはたらきをするだろうか。 感覚器官について説明を聞き、理解する。 「考えよう」写真を見て、その動物の目のつく位置と生活のしかたとの関係について考える。 	147~149	思		刺激にはどのようなものがあるか、動物はその刺激をからだのどこで受けとっているのかということを考え、それを話し合いなどで表現している。 [発言分析・行動観察]	写真資料や自らの経験から、いくつかの刺激や感覚器官について具体例をあげている。感覚器官がどのようなはたらきをしているのかを理解し、それを表現している。	p.148 図1を参照させ、何をたよりにしてライオンはシマウマをとらえることができているのかを考えさせ、刺激と感覚器官の関係について理解できるよう助言・指導する。
2	<ul style="list-style-type: none"> p.150、151 図1を見ながら、ヒトの感覚器官についての説明を聞き、自分たちの身のまわりの刺激がどこで受容されているか考える。 「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 「学びをいかして考えよう」について考える。 	150~151	知		ヒトの感覚器官について、それぞれのはたらきについて理解するとともに、身のまわりでどのような刺激がどの感覚器官によって受けとられているのかを理解している。 [発言分析・行動観察]	ヒトの感覚器官について、それぞれのはたらきについて理解し、普段の生活のなかでのいくつかの場面において、どのような刺激があり、それをどの感覚器官で受けとっているのかを説明している。	p.151 の調理場面においてどのような刺激があるか、ヒトの感覚器官を一つずつあげていきながら、それぞれで受けとる刺激の具体例を考えるよう助言・指導する。
3	<ul style="list-style-type: none"> 第2節 神経のはたらき 動物の感覚器官は刺激に対してどのように反応しているのかについて考え、話し合う。 神経の種類とはたらきについて理解する。 「?課題」感覚器官で受けとられた刺激は、神経のどこを伝わり、どのようにして反応を引き起こすだろうか。 【実験5】刺激に対するヒトの反応時間の計測 実験5を行い、意識して起こる反応にかかる時間を調べる。 右手をにぎられてから、左手でとなりの人の右手をにぎるまで 	152~153	知	○	中枢神経と末しょう神経のはたらきについて理解しているとともに、実験5を実施し、その結果を適切に記録している。 [発言分析・記述分析]	中枢神経と末しょう神経について理解している。また、正確に実験を行い、その実験結果を記録し、平均値を求めるなど適切に結果の処理をしている。	p.152 図2などを参照し、それぞれの神経のちがいを理解させる。また、実験の目的を明らかにして説明し、正しく実験ができるよう助言・指導する。

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価基準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
	にかかった時間の意味を考察する。						
4	<ul style="list-style-type: none"> 実験結果をもとに、刺激から反応までの流れを理解する。 反射について理解する。 「！結論」自分の考えをまとめ、確認する。 	154～155	思	○	<p>実験 5 の結果から、刺激から反応までの流れを適切に説明し、反射の特徴についても理解し、まとめている。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>実験 5 の結果をもとに、刺激から反応までの流れを、これまでの学習内容と関連づけながら、適切に説明している。また、反射の特徴についても理解している。</p>	<p>実験 5 で行った操作が、刺激から反応までの流れのどの段階に当てはまるのかを一つずつ説明し、全体の流れが理解できるよう助言・指導する。</p>
5	<p>第 3 節 骨と筋肉のはたらき</p> <ul style="list-style-type: none"> 図 1 を見て、骨格のようすと運動の関係について話し合う。 p.156 図 2 を参考にして、ヒトの筋肉と骨に関する説明を聞く。 「？課題」うでやあしが動くとき、骨や筋肉は、どのようなはたらきをするだろうか。 骨、筋肉、けんについての説明を聞く。 「！結論」自分の考えをまとめ、確認する。 「学びをいかして考えよう」について考える。 「おてがる科学」ニワトリの手羽先を使ってけんを引くと、手羽先がのびるようすを確認する。このことから筋肉の収縮とけん、さらに骨の動きについて考える。 「学んだことをチェックしよう」各節で学んだことを確認する。 「Before & After」この章で学んだことをもとに、自分の考えを記述し、話し合う。 「学びを生活や社会に広げよう」p.159 の観察を行い、これまで学習した内容を、生活や社会と結びつけて考える。 	156～159	知	○	<p>うでの曲げのばしの例などをもとに、骨と筋肉のはたらきについて理解している。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>からだを動かすときの骨と筋肉のはたらきについて理解している。また、これまで学習したことをもとに、動物がどのようにまわりのようすを知り、そして反応するのかを説明している。</p>	<p>うでの曲げのばしの模型などを利用し、筋肉が縮むことと骨格が動くことをあわせて理解できるよう助言・指導する。</p>
			態	○	<p>これまでの学習をふり振り返りながら、イカの解剖と観察について計画を立て、自ら探究しようとしている。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>第 3 章と第 4 章で学習したことをふり振り返り、イカの解剖と観察について注目すべき点を理解したうえで、これからの探究の計画などをノートやワークシートに適切に記述している。</p>	<p>これまで学習してきたことをあげさせ、イカの解剖ではどのような点に注目できるかを具体的に考えることができるよう助言・指導する。</p>

【単元3】 第1章 気象の観測 (教科書 p. 168~194)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
<ul style="list-style-type: none"> 気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、気象要素、気象観測、霧や雲の発生などについての基本的な原理・法則などを理解するとともに、それらの観察・実験の技能を身につける。(知識・技能) 気象観測について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化についての規則性や関係性などを見いだして表現する。(思考・判断・表現) 気象観測に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見るができるようにする。(主体的に学習に取り組む態度) 	<p>気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、気象要素、気象観測、霧や雲の発生などについての基本的な概念や原理などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。</p>	<p>気象観測について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化についての規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。</p>	<p>気象観測に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>

重点…重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録…記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
1	<p>プロローグ 気象を観測する前に</p> <ul style="list-style-type: none"> 気象要素には、気温、湿度、風向、風速、風力、気圧などがあること、また、それぞれの気象要素がどのような単位で表されるか説明を聞き、理解する。 	168~169	知		<p>気象要素には気温、湿度、風向、風速、風力、気圧などがあること、その表し方を理解している。 [発言分析・行動観察]</p>	<p>気象の状況は気象要素を用いて表すことができ、それぞれ決まった単位を使って表すことを理解している。</p>	<p>気象のようすを表す際に用いる用語を、具体的にイメージさせ、どのような表し方ができるか気付かせる。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> 「Before & After」これまでに学んだことや生活経験をもとに自分の考えを記述し、話し合う。 <p>第1節 圧力と大気圧</p> <ul style="list-style-type: none"> 「レッツ スタート！」図1をもとに、鉛筆の芯に接している指の方が、軸に接している指よりも、力を大きく感じるのはなぜか、気づいたことを話し合う。 「?課題」圧力とは、何だろうか。 「調べよう」の結果から、圧力が接した部分の面積に関係があることを見いだす。 圧力とその単位について説明を聞き、理解する。 	170~173	思		<p>物体に接している面積によって、圧力が異なることを見いだしている。 [発言分析・記述分析]</p>	<p>物体に接する面積を変える実験から、質量が同じでも接する面積によって圧力が変わることを見いだして表現している。</p>	<p>物体に接する面積が変わると圧力の大きさが変化することから、圧力を求める式では、分母が力のはたらく面積になることに着目するよう助言・指導する。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> 「例題」の考え方を参考にして、「練習」を行う。 図1のゴムボールの実験の説明を聞き、空気にも質量があることと、空気の重さによって圧力が生じることについて理解する。 「調べよう」の結果から、大気圧の大きさを知る。 図2の説明を聞き、大気圧の大きさは高度が高くなるほど小さくなることを知る。 気圧の単位は「hPa」を用いることについて説明を聞く。 	174~175	態	○	<p>圧力について、具体的な数値の計算をするなどして自らの学習を調整しようとしている。 [ワークシート・小テスト]</p>	<p>圧力について、圧力の式を用いて正確な計算にねばり強く取り組み、圧力を実生活の具体的な物理現象と結びつけようとしている。</p>	<p>具体的な実生活での体験例をあげることで、圧力について感覚的に理解できるよう助言・指導する。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> 図1から、あらゆる方向から大気圧がはたらいていることを理解する。 「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 「学びをいかして考えよう」について考える。 	176~177	知		<p>あらゆる方向から大気圧がはたらいていることを理解している。 [発言分析・記述分析]</p>	<p>各実験の結果にもとづいて、空気には質量があり、その質量による大気圧があらゆる方向からはたらいていることを見いだして理解している。</p>	<p>演示実験や映像を使って実験を紹介し、圧力によって物体が空気から力を受けることを想像するよう助言・指導する。</p>
5	<p>第2節 気圧と風</p> <ul style="list-style-type: none"> 「導入」図1のように落ち葉がひらひらと舞うようすから、風とは何か考え、話し合う。 「?課題」気圧と風には、どのような関係があるのだろうか。 等圧線と、高気圧・低気圧について説明を聞く。 「基礎操作」等圧線の読み方について知る。 	178	知	○	<p>天気図で、各地の気圧の値は等圧線を用いて表され、時間とともに変化することを理解している。また、風が気圧と関係していることを理解している。</p>	<p>気圧の値を天気図の等圧線から読みとり、任意の2地点間の気圧の高低のようすを、把握している。また、「高」「低」の記号がなくても高気圧・低気圧を指摘することができる。</p>	<p>気圧を等圧線で表すことが、地図などで学習する等高線と似ていることを示し、高さと同じように気圧もその高低が表されていることを助言・指導する。</p>

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
					[発言分析・記述分析]		
6	<ul style="list-style-type: none"> 「?に対する自分の考えは?」等圧線と風のふき方について、どのようなことがいえるか考える。 気圧と風についての説明を聞き、理解する。 高気圧・低気圧と風のふき方についての説明を聞く。 「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 	179	知		<p>風が、気圧の高いところから低いところへとふくことを見いだしている。また、低気圧や高気圧が鉛直方向の空気の流れに関係してつくられていることを見いだしている。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>風が、気圧の高いところから低いところへ空気が動くことを天気図などから見いだしている。また、低気圧と高気圧の鉛直方向の空気の動きをもとに、地表付近の気圧の高低について考え表現している。</p>	<p>天気図上での気圧の高低の読みとりについて確認し、その後風のふき方に注目させるなど、気圧と風の間隔を2段階に分けて助言・指導する。</p>
7	<p>第3節 気象の観測</p> <ul style="list-style-type: none"> 「導入」図1のように雨が降り始めると、気象要素がどのように変化するか、話し合う。 「?課題」気象要素と天気の変化には、どのような関係があるのだろうか。 「基礎操作」気象観測のしかたと天気図の記号について、説明を聞き、理解する。 	180、182～185	思		<p>雨が降り始めると、気象要素がどのように変化するかを考え、表現している。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>生活経験をもとに、雨が降り始めたときに、気象要素がどのように変化し、どのように降雨に関わっているのか、表現している。</p>	<p>雨の降り始めに関する自分の生活経験を確認させ、気象要素との関連に結びつけられるよう助言・指導する。</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> 学校内で気象観測をすると、どのようなことがわかるか話し合い、気象観測の計画を立てる。 	181、182～185	知	○	<p>それぞれの気象要素について、気象観測の方法を理解し、気象観測の計画を立てている。</p> <p>[記述分析]</p>	<p>それぞれの気象要素について、気象観測の方法を理解し、それをふまえて具体的な気象観測の計画を立案している。</p>	<p>実際の気象観測機器を提示したり、映像で示したりしながら、どのように気象要素を記録できるか説明する。</p>
9	<p>【観察1】校内の気象観測</p> <ul style="list-style-type: none"> 観察1を行い、気象要素がどのように変化し、どのようにかわり合っているのかを調べる。 	181～185	知		<p>気象観測を計画に沿って行い、その結果を記録・整理している。</p> <p>[行動観察]</p>	<p>気象観測の結果を適切な方法でもれなく記録し、その結果をまとめている。また、ほかの班のデータを共有し、図や表に整理している。</p>	<p>気象観測方法について復習し、班ごとに確認するよう助言・指導する。</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> 気象観測の結果をまとめる。 観測できない時間については、気象庁のサイトなどから近隣の気象データを調べる。調べたデータと観測結果を1つのグラフにまとめて表現し、比較する。 	181～185	思		<p>各気象要素について、既存のデータから補うなどして、気象要素の時間変化をデータとしてまとめて整理している。</p> <p>[行動観察]</p>	<p>各気象要素について、さらに時間を変えて気象観測を行ったり、ほかのデータで補ったりして、時間変化をとらえて、データを整理している。</p>	<p>気象庁などのデータベースへのアクセス方法などを、ICT機器などを用いて提示するなどして助言・指導する。</p>
11	<ul style="list-style-type: none"> 観察1のステップ1～2の結果から、校内のどこで観測しても雲量、天気は同じであること、観測場所によって気温、湿度、風向、風力が異なることを見いだす。 「理由を考えよう」それぞれの班の気象観測の結果が異なる理由を考える。 天気と気象要素について説明を聞く。 「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 「学びをいかして考えよう」について考える。 	186～187	思	○	<p>各気象要素について、既存のデータから補うなどして、気象要素の時間変化をデータとしてまとめて整理している。</p> <p>[行動観察]</p>	<p>各気象要素について、さらに時間を変えて気象観測を行ったり、ほかのデータで補ったりして、時間変化をとらえて、データを整理している。</p>	<p>図やグラフに正しく実験結果を表現し、比較できるようにワークシートなどを工夫し、それぞれの気象要素の変化に着目するよう助言・指導する。</p>
12	<p>第4節 水蒸気の変化と湿度</p> <ul style="list-style-type: none"> 「レッツ スタート!」水を入れたコップに、水滴がつく理由を話し合う。 露点についての説明を聞き、理解する。 「?課題」水蒸気が水滴に変化する条件は、何だろうか。 「?に対する自分の考えは?」水蒸気が水滴に変化し始める温度(露点)は、気温や湿度とどのように関係しているか考える。 	188	思		<p>水蒸気が水になるときの条件を調べる実験を計画し、課題解決に向けて進んで関わろうとしている。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>水蒸気が水滴に変わる現象を身近な例を通して示し、それを探究するための実験計画を、できるだけ正確な測定が行えるように粘り強く取り組もうとしている。</p>	<p>身のまわりで関係しそうな現象を多くあげて共有し、温度や気体の水蒸気について着目することで、課題解決に向けて見通しを持たせるよう助言・指導する。</p>
13	<p>【実験1】露点の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> 「実験1」を行い、水蒸気が水滴に変わる条件について調べる。 	189	態	○	<p>実験計画にもとづいて実験を行い、測定した条件と値を比較して、実験データを得ている。</p> <p>[行動観察・ワークシート]</p>	<p>実験計画にもとづいて実験を行い、金属製のコップの中の水の温度を、適切にコントロールして露点を正確に測定し、仮説を検証するための実験データを得ている。</p>	<p>どのように実験すればよいのか班で検討させながら、複数回データをとりよう助言・指導する。</p>

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
14	<ul style="list-style-type: none"> ステップ2で、窓の開閉をするなどして、気温や湿度などの条件を変えたとき、実験結果にどのような変化があったかを班で話し合い、水蒸気が水滴に変わる条件を考察する。 飽和水蒸気量についての説明を聞き、理解する。 「考察しよう」同じ気温で天気がちがう日の、水滴の生じ方のちがいについて考える。 	189～191	思		<p>実験で得られたことをもとにして、なぜ温度が下がると水蒸気が凝結するのかを、説明している。 [発言分析・行動観察]</p>	<p>空気を冷やしていくと、水蒸気が水滴になるという現象を、飽和水蒸気量の考え方と関連づけてまとめて表現している。</p>	<p>飽和水蒸気量のグラフとともに、p.190図1のように水蒸気を可視化して、量的な比較をしやすい形で指導する。</p>
15	<ul style="list-style-type: none"> 湿度の求め方についての説明を聞き、理解する。 「例題」の考え方を参考にして、「練習」を行う。 p.192図1を用いて、気温が変化したときの湿度の変化について話し合う。 「！結論」自分の考えをまとめ、確認する。 「学びをいかして考えよう」について考える。 「学んだことをチェックしよう」各節で学んだことを確認する。 「Before & After」この章で学んだことをもとに自分の考えを記述し、話し合う。 	191～193	思	○	<p>湿度について正確に理解し、グラフでの変化や身近な現象においても湿度の考え方を適用して説明している。 [ワークシート・小テスト]</p>	<p>実験結果をグラフで表現し、日常で起こる現象を飽和水蒸気量や湿度という考え方をを用いて説明している。</p>	<p>溶解度や百分率など、これまで学習した関連する内容を復習しながら、助言・指導する。</p>

【単元3】第2章 雲のでき方と前線 (教科書 p.195~199)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
<ul style="list-style-type: none"> ・気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、霧や雲の発生、前線の通過と天気の変化などについての基本的な原理・法則などを理解するとともに、それらの観察・実験の技能を身につける。(知識・技能) ・天気の変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化についての規則性や関係性などを見いだして表現する。(思考・判断・表現) ・天気の変化に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。(主体的に学習に取り組む態度) 	<p>気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、霧や雲の発生、前線の通過と天気の変化などについての基本的な原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。</p>	<p>天気の変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化についての規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。</p>	<p>天気の変化に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>

重点...重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録...記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
1	<ul style="list-style-type: none"> ・「Before & After」これまでに学んだことや生活経験をもとに自分の考えを記述し、話し合う。 第1節 雲のでき方 ・「レッツ スタート！」積乱雲が現れたときの天気はどのようなものか考える。 ・「?課題」雲はどのようなしくみで発生するのだろうか。 ・「構想」実験室で雲を発生させるには、自然界のどのような点を再現すればよのだろうか。 【実験2】気圧の低いところで起こる変化 ・実験2を行い、気圧が下がると空気にどのような変化が生じるか調べる。 	195~197	思	○	<p>水蒸気をふくむ空気のかたまりが、気圧の低い場所に移動したときの空気の変化について調べる実験を実施する技能を身につけ、結果を正確に記述し、どのような自然現象を再現したものか考えている。 [行動観察・記述分析]</p>	<p>水蒸気をふくむ空気のかたまりが気圧の低い場所に移動し、空気のかたまりが膨張し、気温が下がり、水滴が生じた際の、気圧計や温度計の計測値とともに、透明なふくろの中のようなすの変化を適切に記述し、実際の自然現象と関連付けて考察している。</p>	<p>実験の目的を十分に理解させ、地上の空気のかたまりが上昇した際の変化を再現していることを想像させ、気圧計や温度計などの測定値を正確に記録するとともに、透明なふくろのようすの変化をよく観察するよう助言・指導する。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・実験結果から、気圧が下がると空気の体積が膨張し、温度が下がることを確認する。 ・「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「説明しよう」雲から地表に降った雨や雪は、その後どうなるか説明する。 ・水の循環について説明を聞く。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。 	198~199	思	○	<p>実験結果から、空気のかたまりが上昇する場面を具体的に示しながら、雲ができる現象を科学的に考察している。 [発言分析・記述分析]</p>	<p>実験結果から、雲ができる場所は、上昇気流が発生している場所であることがわかり、雲ができる現象を気圧、飽和水蒸気量と気温(露点)を用いて説明している。</p>	<p>実験結果を、気圧の減少→温度の下降→飽和水蒸気量の減少→露点→結露の過程と結びつけて、ひとつひとつ段階をふんで理解させるよう助言・指導する。</p>
			知		<p>水が地球全体に循環していることを理解している。 [記述分析・ペーパーテスト]</p>	<p>雲粒が集合し雨粒(又は雪粒)が形成され、降雨となって地上にもどるなど、水が地球全体を姿を変えながら循環していることを理解している。</p>	<p>雨がどこから降ってきて、どこに行くのか、これまでの学習や実生活から考えるよう助言・指導する。</p>

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
3	<p>第2節 気団と前線</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「導入」p.200 図1の演示実験で、なぜ冷たい空気があたたかい空気の下に移動するのか考える。 ・性質の異なる空気は密度がちがうためすぐには混じり合わないことの説明を聞き、理解する。 ・気団と前線についての説明を聞き、前線と雲の関係性を理解する。 ・「?課題」前線の周辺ではどのようなことが起こるのだろうか。 ・「?に対する自分の考えは?」前線のまわりで空気が移動することで、天気にはどのような変化が起こるか考える。 ・雲と前線についての説明を聞き、理解する。 	200～201	知		<p>演示実験の結果より、暖気と寒気はすぐには混じり合わず、境の面をつくることを理解し、暖気と寒気の接し方のちがいにより、種類の異なる前線がつくられることを理解している。</p> <p>[発言分析・ペーパーテスト]</p>	<p>演示実験の結果より、暖気と寒気は密度が異なるため、接してもすぐには混じり合わず前線をつくること、前線には暖気と寒気の接し方により異なる種類の前線がつくられること、前線付近には雲ができることが多いことを説明している。</p>	<p>身のまわりにある、暖気と寒気がすぐには混じり合わない例(暖房による室内の温度差等)をあげさせ、実体験と結びつける。映像資料や立体模型など視覚的にわかる教材・教具を用いながら助言・指導する。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・「調べようのA」で前線が通過する前後の、気象要素の変化を読みとり、前線の通過と気象要素を関連づけて考える。 ・温帯低気圧の説明を聞き、理解する。 	201～202	思	○	<p>前線が通過する前後の気象要素の変化を説明している。また、温帯低気圧の付近では天気が急激に変化することを説明している。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>気象要素の時間変化のようすをグラフから読みとり、前線の通過のしくみと関連づけて説明している。温帯低気圧が前線をともなうことが多いことから、周辺では雲が発生したり、急激な気温の変化が起こったりすることを説明している。</p>	<p>水を加熱したときに発生する対流など、温度差によって生じる垂直方向の移動の例を示す。前線付近の空気の流れを確認させ、上昇気流が発生していることを理解させ、温帯低気圧周辺の天気を再度説明するよう助言・指導する。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・温暖前線の通過にともなう天気の変化について、巻末付録のペーパークラフトを作成して考える。 ・温帯低気圧と前線、寒冷前線と天気の変化、温暖前線と天気の変化、閉そく前線の説明を聞き、理解する。 ・「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 	202～203、巻末付録	態	○	<p>寒冷前線および温暖前線が通過したときの天気の変化に興味をもち、自分たちの住む地域で前線が通過したとき、どのような天気の変化が生じるのか科学的に探究しようとしている。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>前線が通過した際の天気の変化に興味をもち、寒冷前線や温暖前線のまわりのできる雲の特徴や天気の変化の説明と関連づけて自分たちの住む地域での天気の変化について説明している。また、ペーパークラフトを作成して、前線にともなう天気の変化を主体的に調べている。</p>	<p>寒冷前線が通過する際に撮影した映像資料などを視聴した後、自分たちの生活のなかで、同じような天気の変化が起こっていないか思い出させて、天気の変化と自分たちの生活との関連を調べるように促す。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ・「調べようのB」に取り組む。 ・「学んだことをチェックしよう」各節で学んだことを確認する。 ・「学びを生活や社会に広げよう」学習した内容を、生活や社会と結びつけて考える。 ・「Before & After」この章で学んだことをもとに自分の考えを記述し、話し合う。 	201、204	思	○	<p>データから、気象要素のグラフを作成し、グラフから気象要素の変化を読みとっている。また、読みとった気象要素の変化から、通過した前線の種類を推定している。</p> <p>[記述分析・ペーパーテスト]</p>	<p>データから、気象要素のグラフを正確につくり、各気象要素の変化を読みとっている。各気象要素が急激に変化している箇所を指摘している。また、その気象要素の変化のしかたから前線の種類を推定している。</p>	<p>どのような気象要素の変化がわかれば、前線の通過を推定できるか、今までの学習をふり返らせる。また、各気象要素の数値をていねいにグラフ化させ、急激な変化が生じている箇所を指摘させる。その変化が生じた原因を考えるよう助言・指導する。</p>

【単元3】第3章 大気の動きと日本の天気 (教科書 p. 205~221)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
<ul style="list-style-type: none"> ・気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、日本の天気の特徴、大気の動きと海洋の影響、自然のめぐみと気象災害などについての基本的な原理・法則などを理解するとともに、それらの観察・実験の技能を身につける。(知識・技能) ・日本の気象、自然のめぐみと気象災害について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化や日本の気象についての規則性や関係を見いだして表現する。(思考・判断・表現) ・日本の気象、自然のめぐみと気象災害に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見るができるようにする。(主体的に学習に取り組む態度) 	気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、日本の天気の特徴、大気の動きと海洋の影響、自然のめぐみと気象災害についての基本的な原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	日本の気象、自然のめぐみと気象災害について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、日本の気象についての規則性や関係性、天気の変化や日本の気象との関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	日本の気象、自然のめぐみと気象災害に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

重点...重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録...記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
1	<ul style="list-style-type: none"> ・「Before & After」これまでに学んだことや生活経験をもとに自分の考えを記述し、話し合う。 第1節 大気の動きと天気の変化 ・「導入」p.206 図1 などから、北半球での大気の流れはどのようになっているか考えさせる。 ・「?課題」なぜ日本付近では西から東へ天気が変わるのだろうか。 ・気象現象は、地表から約 10 km までの大気の下層のごく一部で起こり、その中で地球規模の大気の動きが起こること、特に中緯度は偏西風の影響を受けていることを理解する。 ・「!課題」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。 	205~207	知	○	天気予報で用いられる天気図や気象衛星画像などの資料をもとに、低気圧や雲の移動をとらえ、地球規模の大気の循環や偏西風と関連づけて理解している。 [記述分析]	天気予報で用いられる天気図や気象衛星画像などの資料をもとに、日々刻々と変化する天気の状態の多様性と、その中に見られる規則性について見だし、地球規模の大気の循環や偏西風と関連づけて理解している。	天気図や 気象衛星画像のように、広範囲の気象の状況が時間とともに変化するようすを、時間的・空間的な見方からとらえるために、例えば、1つの低気圧や雲のかたまりなどに注目して、時間の経過とともにどのように変化するかをとらえられるよう助言・指導する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 第2節 日本の天気と季節風 ・「導入」p.208 図1 から、風のふく向きが反対になる理由を考える。 ・「?課題」日本列島付近でふく季節風の風向が、冬と夏で風向が変わるのはなぜだろうか。 ・季節風、海陸風の説明を聞き、理解する。 ・「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。 	208~209	思	○	季節風や海陸風が生じるしくみを、陸と海で太陽のエネルギーを受けとったときのあたたまり方がちがうことと関連づけて説明している。 [発言分析・記述分析]	季節風や海陸風が生じるしくみについての仮説を立て、その妥当性を検討しながら説明するとともに、季節風と海陸風について、それらの類似点や時間的・空間的な視点から相違点を見いだしている。	地表と海面のあたたまり方のちがいや、あたためられた空気の動き方など、必要となる既習事項を活用できるよう助言・指導する。

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
3	<p>第3節 日本の天気の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「レッツ スタート！」日常生活をふり返り、季節に特徴的な気象について考え、話し合う。 ・「?課題」日本の四季に見られる特徴的な天気は、どのようにして生じるのだろうか。 ・冬の日本海側の天気の特徴と太平洋側の天気の特徴について考える。 ・日本の夏と冬の天気を、影響している気団に着目して、特徴をまとめる。 	210～211	知	○	<p>日本付近の夏と冬の天気を、影響している気団に着目して、特徴を理解している。</p> <p>[記述分析・ペーパーテスト]</p>	<p>日本付近の夏や冬に見られる天気の特徴を、それぞれの季節に日本付近に影響を与える高気圧や気団の特徴などと関連づけて理解している。</p>	<p>日本の夏には日本の南の太平洋上に、日本の冬にはユーラシア大陸のなかに、それぞれ高気圧が長期間存在することに気づかせ、それらが日本付近の天気にどのように影響しているか理解できるよう助言・指導する。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・春と秋の天気を、影響している気団の有無を判断して、特徴をまとめる。 ・梅雨と梅雨前線、秋雨前線の説明を聞き、理解する。 ・台風についての説明を聞き、理解する。 ・「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 	212～213	知	○	<p>日本の春と秋、梅雨の天気や台風の特徴について、偏西風や天気に影響を与える気団等と関連づけて理解している。</p> <p>[ペーパーテスト・記述分析]</p>	<p>日本の春と秋、梅雨の天気や台風の特徴について、日々刻々と変化する天気の状況の多様性と、その中に存在する規則性を見だし、偏西風やそれぞれの季節に影響を与える高気圧や気団等と関連づけて説明している。</p>	<p>日本の春と秋には、低気圧や高気圧が西から東へ移動し、天気が西から東へ変化することに気づかせ、上空をふいている偏西風が影響していることを理解できるよう助言・指導する。</p>
5	<p>第4節 天気の変化の予測</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「レッツ スタート！」天気予報があることによる恩恵について考え、話し合う。 ・「?課題」翌日の天気を予想するには、どのようにすればよいだろうか。 ・「調べ方を考えよう」翌日の天気を予想するためには、どのようなデータが必要か検討する。 	214	思		<p>天気の変化の予測について、目的意識をもって話し合い、翌日の天気を予想するにはどのようにすればよいか、科学的な根拠にもとづき自分の考えをまとめ、表現している。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>天気の変化の予測について、目的意識をもって話し合い、翌日の天気を予想するにはどのようなデータを用いてどのように予想すればよいかを構想し、科学的な根拠にもとづいて自分の考えをまとめ、表現している。</p>	<p>天気を予想するための手順を整理し、現在の天気の状況をもとにして、過去数日間の天気の移り変わりを参考に、今後どのような天気図になるか、また、どのような天気になるか予想することができるように、思考の過程について助言・指導する。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ・【実習1】翌日の天気の予想 ・実習1を行い、自分たちの住む地域の翌日の天気がどのように変化していくのか予想する。 	214～215	態	○	<p>翌日の天気がどのようになるか、天気の予測に進んでかわり、よりよい予測のために見通しをもって、ねばり強く取り組んでいる。</p> <p>[発言分析・行動観察]</p>	<p>翌日の天気がどのようになるか、天気の予測に進んでかわり、よりよい予測のために見通しをもって取り組むとともに、探究の過程をふり返り、妥当性を検討しながら、ねばり強く取り組んでいる。</p>	<p>単なる当て推量や憶測ではなく、根拠にもとづいて予想できるよう助言・指導する。</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> ・「解決方法を考えよう」天気予報が外れた場合は、その原因を検討する。より正確な天気予報ができるように、方法を改善し、天気予報を作成する。 ・天気予報のしくみについての説明を聞き、理解する。 ・「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。 	216～217	思	○	<p>自分たちで作成した天気予報について、予想した内容や根拠をふり返り、改善している。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>予想した内容を、実際の天気がどうであったか、その状況と比較することで、自分の予想を検証し、より正確な天気の予想ができるように改善している。</p>	<p>予想に使用したデータや図などを用いて、予想するまでの思考の過程をふり返ることができるよう助言・指導する。</p>

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
8	<p>第5節 気象現象がもたらすめぐみと災害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「導入」p.218 図1、p.219 図2 から気象現象がもたらすめぐみや災害について考え、話し合う。 ・「?課題」気象現象によって、どのようなめぐみや災害がもたらされるのだろうか。 ・p.219 図2 から、どのような気象災害が、どのような場所で、どのような原因によって発生しているか、インターネットなどの情報や資料を集めて調べる。 ・気象災害の被害を少なくするために、災害の発生するしくみを知り、適切な行動をとることが必要であることを理解する。 	218~219	態		<p>気象現象と日常生活とのつながりについて課題をもち、気象現象がもたらすめぐみや災害に関する事物や現象を進んで調べ、科学的に探究しようとしている。</p> <p>[発言分析・行動観察]</p>	<p>気象現象がもたらすめぐみや災害にはどのようなものがあり、どのような特徴があるかを明らかにするための具体的な課題を設定し、解決に向けてねばり強く取り組んでいる。</p>	<p>気象現象によって、どのような災害が起こるのかを明らかにするために、必要となる情報や資料を集めることができるよう助言・指導する。</p>
9	<ul style="list-style-type: none"> ・「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。 ・「学んだことをチェックしよう」各節で学んだことを確認する。 ・「学びを生活や社会に広げよう」各節で学んだことを確認して、考えたことをノートに記述し、話し合う。 ・「Before & After」この章で学んだことをもとに自分の考えを記述し、話し合う。 	220	思	○	<p>気象現象がもたらすめぐみと災害について、多面的、総合的にとらえ、自然と人間とのかかわり方について自分の考えを表現している。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>気象現象がもたらすめぐみや災害について、多面的、総合的にとらえ、日常生活や社会とのつながりと関連づけながら、自然と人間とのかかわり方について、自分の考えを表現している。</p>	<p>気象災害については、被害が発生する前に天気予報やニュース報道などを用いて的確に情報を収集し、それを分析することによって、科学的な根拠にもとづいて、災害の危険について判断できるよう助言・指導する。</p>

【単元4】第1章 静電気と電流 (教科書 p. 231~242)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
<ul style="list-style-type: none"> ・静電気の性質および静電気と電流には関係があること、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。また、静電気と放電を関連させ、放射線の性質と利用について理解する。(知識・技能) ・静電気や放電に関する経験から課題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、静電気の性質や放電について規則性や関係性を見だして表現する。(思考・判断・表現) ・静電気に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養う。また、静電気と放電を関連させ、放射線についてもその性質と利用について関心をもつことができるようにする。(主体的に学習に取り組む態度) 	静電気と電流に関する事物・現象を日常生活や社会と関連づけながら、静電気と電流の性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	静電気と電流について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、静電気と電流の性質や規則性を見だして表現しているなど、科学的に探究している。	静電気と電流に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

重点…重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録…記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
1	<ul style="list-style-type: none"> ・「Before & After」これまでに学んだことや生活経験をもとに自分の考えを記述し、話し合う。 第1節 静電気と放電 ・「導入」p.232 図1をもとに、身近な静電気の現象について話し合う。 ・第1学年で学んだ電気を通す物、通さない物とは関係なく、物が電気をもつことを確認する。 ・日常生活のなかで静電気が起こっていることに気づく。 ・「?課題」静電気には、どのような性質があるのだろうか。 ・「?に対する自分の考えは?」静電気についてのたがいの経験を話し合い、静電気の性質について考える。 	231~232	知	○	日常生活のなかでの静電気についてのたがいの経験を出し合い、静電気が起こる条件に気づき、説明している。 [発言分析・記述分析]	こすれ合う、乾燥している、引き合ったりはなれ合ったりするなど、日常生活のなかでの静電気についてのたがいの経験を出し合い、静電気が起こる条件に気づき、適切に説明している。	日常生活のなかでの静電気についてのほかの生徒の発言に、静電気が起こる条件がふくまれていることを確認するよう助言・指導する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 【実験1】静電気の性質 ・実験1を行い、物体どうしが反発し合ったり引き合ったりする場合を調べる。 ・電気をもったものの中には引力や斥力がはたらくことを確かめる。 	233	思	○	静電気の性質を調べる実験を行い、引き合う場合とはなれ合う場合について気づき、まとめている。 [行動観察・記述分析]	静電気の性質を調べる実験を適切に行い、引き合う場合とはなれ合う場合について見だし、適切に表現している。	静電気の性質を調べる実験について、引き合う場合とはなれ合う場合を確認させ、自分の考えを表現できるよう助言・指導する。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・p.234 図1、図2を参考に、電気には2種類あり、それぞれ+、-とすること、同符号どうしには斥力、異符号どうしには引力がはたらくことを確認する。 ・静電気が生じる理由について説明を聞き、理解する。 ・p.235 図3、図4、図5をもとに、放電について確認する。 ・「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。 	234~235	思		電気に2種類の性質があるのは、-の電気の移動が静電気力の原因であることを知り、このことによって+と-ができ、引き合ったりはなれ合ったりすることを表現している。 [発言分析・記述分析]	電気の性質について、-の電気の移動が静電気力の原因であり、引き合ったりはなれ合ったりすることを見だし、適切に表現している。	電気の性質について、-の電気の移動が静電気力の原因であり、引き合ったりはなれ合ったりすることを確認させ、自分の考えを表現できるよう助言・指導する。

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
4	<p>第2節 電流の正体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「レッツ スタート！」放電が一瞬で起こることを確認する。 ・「?課題」電流とは、何が流れているものなのだろうか。 ・真空放電を観察し、真空放電についての説明を聞く。 ・真空放電が起こる条件が高電圧、真空に近いことなどに気づく。 ・陰極線を観察し、陰極線について説明を聞く。 	236～237	知		<p>真空放電や陰極線の観察から、放電が起こる条件や、陰極線は-の電気を帯びたものの流れであることを理解している。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>真空放電や陰極線の観察から、放電が起こる条件や、陰極線は-の電気を帯びたものの流れであることなどを理解し、適切に説明している。</p>	<p>真空放電や陰極線の観察から、放電が起こる条件や、陰極線は-の電気を帯びたものの流れであることなどを確認させ、自分の考えを説明できるよう助言・指導する。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・電子や電流の正体について説明を聞き、理解する。 ・「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「ここがポイント」電流と電子の流れの向きが逆であることを確認する。 	238～239	思	○	<p>電流は+から-に流れるものであることをおさえたうえで、電流の正体である電子は-から+に流れることを見だし、区別して表現している。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>電子は-から+に流れていることに気づいたうえで、科学の進歩の歴史的経緯から、電流は+から-に流れるものとして理解し、電子の移動と電流の向きを区別して適切に表現している。</p>	<p>電流は+から-に流れるものとしておさえ、電流の正体は-から+に流れる電子の流れであることと区別して考えるよう助言・指導する。</p>
6	<p>第3節 放射線の性質と利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「レッツ スタート！」身のまわりには放射線が利用されているものがあり、放射線には複数の種類があることを確認する。 ・「?課題」放射線には、どのような性質があり、どのように利用されているだろうか。 ・p.240 図2やp.241 図3を参考に、放射線の種類、放射線の性質とその利用について調べてまとめる。 ・「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。 ・「学んだことをチェックしよう」各節で学んだことを確認する。 ・「Before & After」この章で学んだことをもとに自分の考えを記述し、話し合う。 	240～242	態	○	<p>放射線の存在を知り、その性質と利用について、まとめようとしている。</p> <p>[発言分析・行動観察]</p>	<p>放射線の存在を知り、その性質と利用について、話し合いながら有用性と人体への影響が出る可能性の両方をふくめてまとめようとしている。</p>	<p>放射線の存在を知り、その性質と利用について例をあげて確認し、まとめられるよう助言・指導する。</p>

【単元4】第2章 電流の性質 (教科書 p.243~266)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
<ul style="list-style-type: none"> 電気に関する観察、実験を通じて、回路の各点に流れる電流や、各部分の電圧について調べる技能を身につけるとともに、電流、電圧のはたらきを理解する。(知識・技能) 電気に関する観察、実験を見通しをもって行い、電流と電圧に関する規則性や関係性を見いだして表現する。(思考・判断・表現) 電気に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、日常生活と関連づけて考察できるようにする。(主体的に学習に取り組む態度) 	電流に関する事物・現象を日常生活や社会と関連づけながら、回路と電流・電圧、電流・電圧と抵抗、電気とそのエネルギーについての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	電流に関する現象について、見通しをもって解決する方法を立案して実験などを行い、その結果を分析して解釈し、電流のはたらきを理解して、電流と電圧の規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	電流に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

重点…重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録…記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
1	<ul style="list-style-type: none"> 「Before & After」 これまでに学んだことや生活経験をもとに自分の考えを記述し、話し合う。 第1節 回路のつなぎ方 「レッツスタート！」豆電球2個、乾電池2個と導線を準備して、さまざまなつなぎ方を考えてノートにかき出し、発表する。 p.244「これまでに学んだこと」を参考に、乾電池のつなぎ方を確認する。 「ここがポイント」電気器具は大きく分けると、3つの部分からなり立つという共通の特徴があることを確認する。 p.245 図2を参考に、豆電球やモーター、電子オルゴール、LEDなどに乾電池をつなげ、乾電池の向きによってはたらきが異なるものがあることを確認する。 「?課題」回路に電流が流れるためには、どのような条件が必要だろうか。 	243~245	知		豆電球と乾電池と導線をどのようにつないだらよいかについて考え、ノートにかき出す活動を通じて、さまざまなつなぎ方があることに気づき、異なる回路や同じ回路について整理し、説明している。 [発言分析・記述分析]	回路を複数かいたり、つないだりすることができ、異なる回路と同じ回路を区別して説明している。また、回路に電流が流れていない場合の原因を分析できている。	回路を正しくかいたり、つないだりできない場合には、ほかの生徒の発表などを聞いて、考え方を学ばせ、再度、回路をかいたり、つないだりする活動を行うよう助言・指導する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 豆電球2個の回路について確認し、直列回路や並列回路について理解する。 「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 p.246 表1をもとに、電気用図記号や回路図について確認する。 「基礎操作」電流計の使い方について確認し、p.247の写真にあるような回路を実際につくり、電流値を読みとる。 	245~247	知		豆電球2個で、直列回路と並列回路をそれぞれ組み立てることができ、明るさのちがいや、豆電球を1つ外したらどうなるかについて調べ、説明している。 [行動観察・記述分析]	豆電球2個の直列回路と並列回路を理解しており、明るさのちがいや豆電球を1つ外した場合について調べ、回路図で適切に説明している。	回路を正しく組み立てられていない場合は、電球を外す、または電池を入れていない状態において、回路を生徒に再度組ませてみて、どの理解の段階にあるかを見極めて助言・指導する。

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
3	<p>第2節 回路に流れる電流</p> <ul style="list-style-type: none"> 「レッツスタート!」豆電球1個の回路で、豆電球の前後の電流値を測定し、ちがいが無いことを確かめる。 p.247「基礎操作」電流計の使い方を復習し、電流の単位はアンペア(記号A)であることの説明を聞く。 「?課題」直列回路と並列回路の各点を流れる電流の大きさは、どのようになるだろうか。 p.248「レッツスタート!」とp.248図2をもとに、直列回路、並列回路の各点の電流値の予想とその結果を考える。 	248	態		<p>豆電球1個の回路で、豆電球の前後での電流値を測定し、その結果をもとに、直列回路と並列回路の各点を流れる電流について予想し、その理由を考えようとしている。</p> <p>[発言分析・行動観察]</p>	<p>直列回路と並列回路の各点を流れる電流値について、話し合いながらねばり強く考えようとしている。</p>	<p>豆電球の前後の電流値が異なる予想をしている場合は、その理由をたずね、どのような考え方をしているかを把握して、「レッツスタート!」の結果のふり返りをさせるなど助言・指導する。</p>
4	<p>【実験2】直列回路と並列回路を流れる電流</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験2を行い、豆電球2個を用いた直列回路、並列回路の各点の電流値を測定し、各点の電流値の関係性を調べる。 「モデルを使って考えよう」回路の中で電流は分かれたり合流したりするが、増えたり減ったりすることはないことを確認する。 「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 「例題」回路図を流れる電流の大きさを求める。 	249~251	思	○	<p>直列回路と並列回路の各点を流れる電流値を測定して、その関係性を見いだしている。</p> <p>[行動観察・記述分析]</p>	<p>直列回路と並列回路の各点を流れる電流値を測定して、その関係性を見だし、適切に表現している。</p>	<p>直列回路と並列回路の各点を流れる電流値を測定したうえで、その関係性を見いだせていない場合は、測定値のふり返りをさせたり、どのような関係性を見いだせるか、再度考察させたりするなど助言・指導する。</p>
5	<p>第3節 回路に加わる電圧</p> <ul style="list-style-type: none"> p.252図1をもとに乾電池のはたらきについて考え、乾電池に書かれている数値のちがいで、豆電球の明るさについて話し合う。また、乾電池に書いてある「1.5V」が回路に電流を流そうとするはたらきの電圧を表していることを確認する。 「基礎操作」電圧計の使い方について確認する。 「?課題」直列回路や並列回路の各区間に加わる電圧は、どのようになるだろうか。 	252~253	知		<p>電圧計の使い方を理解して、直列回路と並列回路の電圧の値を調べ、記録している。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>電圧計の使い方を理解し、直列回路、並列回路の電圧値を予想したうえで、豆電球1個と乾電池1個を使って、回路の中で電圧がどのように変化するか調べ、結果をもとにその理由を説明している。</p>	<p>電圧計の使い方の理解が不十分な場合は、基礎操作の内容を再読させるなど助言・指導する。どの区間の電圧を調べようとしているかを明確にする。</p>
6	<p>【実験3】直列回路と並列回路に加わる電圧</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験3を行い、豆電球2個を用いた直列回路、並列回路の各区間の電圧値を測定し、各区間の電圧値の関係性を調べる。 	253	態	○	<p>直列回路と並列回路の各区間の電圧を測定して、その関係性について考えようとしている。</p> <p>[行動観察・記述分析]</p>	<p>直列回路と並列回路の各区間の電圧を測定して、その関係性を見いだすために話し合いながらねばり強く考えようとしている。</p>	<p>直列回路と並列回路の各区間の電圧を測定したうえで、その関係性を見いだせていない場合は、測定値のふり返りをさせたり、どのような関係性を見いだせるか、再度考察させたりするなど助言・指導する。既に完成している回路に対して、はかりたい区間に電圧計を並列につなぎ足すように指導する。</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> 「モデルを使って考えよう」水流モデルを用いて、抵抗の直列回路と並列回路における電圧の関係を理解する。 「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 「例題」回路図に加わる電圧の大きさを求める。 	254~255	思		<p>豆電球の直列回路と並列回路のそれぞれの回路図と、水流モデルの対応関係を理解している。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>水流モデルを用いて抵抗の直列回路と並列回路におけるそれぞれの電圧の関係を見だし、電圧は水流モデルの高低差に相当することと関連させて、適切に説明している。</p>	<p>豆電球の直列回路と並列回路におけるそれぞれの電圧の関係を、水流モデルと関連させて理解できていない場合は、どのように考えているかを問い、必要な助言・指導を行う。</p>
8	<p>第4節 電圧と電流の関係</p> <ul style="list-style-type: none"> 「導入」p.256図1をもとに抵抗器や電熱線に流れる電流とそのときに加わる電圧を調べる。 	256~257	思	○	<p>電圧と電流の関係を調べる実験を見通しをもって行い、その結果を記録して、関係性を見いだ</p>	<p>電圧と電流の関係性を調べる実験計画を立てている。その際、変化させる量、変化させ</p>	<p>実験への見通しが立っていない場合は、何を変化させて、何を測定しようとしているかを問</p>

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
	<ul style="list-style-type: none"> ・「?課題」抵抗器に加える電圧とそのときに流れる電流の大きさには、どのような関係があるだろうか。 ・「調べ方を考えよう」これまでの学習から電圧と電流が無関係ではないことを予想し、電圧と電流の関係性を調べる実験計画を立てる。 【実験 4】電圧と電流の関係 <ul style="list-style-type: none"> ・実験 4 を行い、抵抗器に加える電圧を変化させたときの電流の大きさを調べ、結果をグラフにかく。 				して表現している。 [行動観察・記述分析]	ない量とそれにとまって変化する量を明確にし、見通しをもって実験を行っている。また、その結果を正しく記録し、電圧と電流の関係性を見だし、適切に表現している。	い、状況を整理させるなど助言・指導する。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の結果から、電圧と電流の規則性を見だし、電流は電圧に比例するという結論を得る。 ・実験結果を電圧を表す式に変形し、その傾きが 1 A の電流を流すために必要な電圧であることを確認する。その値を抵抗といい、電流の流れにくさを表す数値であることを理解する。 ・「ここがポイント」オームの法則の関係式を理解する。 ・導体、不導体について、説明を聞く。 	258～259	思		実験結果から、電圧と電流が比例関係にあることを見だししている。 [発言分析・記述分析]	実験結果から、電圧と電流が比例関係にあることを見だし、実験結果から得られた電流を表す式を電圧を表す式に変形して、 $V=RI$ の関係を見だし、抵抗が電流の流れにくさを表す量であることを適切に表現している。	電圧を表す式への変形ができない場合は、グラフの縦軸と横軸を入れかえさせ、入れかえた後のグラフの形がどうなっているかについて考えさせたりするなど助言・指導する。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・直列回路においては全体の抵抗値は和になること、並列回路においては全体の抵抗値は各抵抗値よりも小さくなることを p.249 実験 2、p.253 実験 3 の具体的な数値でそれぞれ確認し、その理由を考える。 ・「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「例題」抵抗の大きさを求めるために必要な値をグラフ (p.258 図 1) から読みとり、オームの法則の式に代入して求める。 	259	思	○	抵抗の直列回路と並列回路において、抵抗値の関係性を見だししている。 [発言分析・記述分析]	2つの抵抗の直列回路における全体の抵抗値と、それぞれの抵抗値の関係性を見だし、並列回路における全体の抵抗値が、それぞれの抵抗値よりも小さいことを適切に表現している。	抵抗値の関係性を見出すことができない場合は、それぞれの抵抗値と全体の抵抗値には、どのような関係がありそうかなど、再度、注目すべき点を明確にさせるための助言・指導を行う。
11	第 5 節 電気エネルギー <ul style="list-style-type: none"> ・「レッツ スタート！」教室や理科室にある電気製品はコンセントプラグにさすと何ができるかについて考え、意見を出し合う。 ・「考えよう」ドライヤーは電気エネルギーを何のエネルギーに変えているか意見を出し合う。 ・「?課題」電熱線に電圧を加えたときに発生する熱の量は、何によって変化するだろうか。 ・「?に対する自分の考えは？」異なる種類の電熱線を用意して、同じ電圧を加えたときに、どの電熱線から発生する熱の量が最も大きくなるか、理由とともに考え、意見を出し合う。 	260～261	態	○	異なる種類の電熱線に同じ電圧を加えたときに発生する熱の量の大小関係について理由とともに考えようとしている。 [行動観察・記述分析]	理由とともに自分の仮説を検討し、わかりやすく説明している。また、他の考えも参考にし、自分の考えを再構成しながらねばり強く考えようとしている。	発生する熱の量は、何の大きさが要因(原因)になっていそうかを、教科書を再読させたり、学習のふり返りをさせたりするなどして、助言、指導する。
12	<ul style="list-style-type: none"> ・「調べ方を考えよう」異なる種類の電熱線に、同じ電圧を加えたときに発生する熱の量を比較するためには、どのような条件で実験を行えばよいか、方法を検討する。 	261	思	○	発生する熱の量の大きさを比較するために、そろえる条件と、変える条件を区別しながら、実験方法を検討している。 [発言分析・記述分析]	発生する熱の量を測定するための方法を見だし、何の量をはかればよいかを明確にし、実験の方法を立案している。	実験方法を図やことばで書き出して、変化する可能性がありそうな量を明確にさせ、それと測定するための方法の見通しがもてるように助言、指導を行う。
13	【実験 5】電熱線の発熱と電流の大きさの関係 <ul style="list-style-type: none"> ・実験 5 を行い、電熱線に同じ電圧を加えたときの、水の上昇温 	262～263	思	○	同じ電圧を加えたときに、変化した条件を見つけ、上昇温度の	電流の大きさと上昇温度の関係を実験結果から見だし、	実験結果から、適切な結論が得られない場合は、実験の方法や

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
	度を測定する。				結果と結びつけて結果を整理している。 [行動観察・記述分析]	適切に表現している。異なる考えが出た場合、自分やほかの生徒の考えを十分に検討して改善し、適切に表現している。	注意点についてふり返りをさせ、必要に応じて、再度、実験を行わせるなど助言・指導する。
14	<ul style="list-style-type: none"> ・「考察しよう」それぞれの電熱線に流した電流の時間と上昇温度の関係、流れた電流の大きさと上昇温度の関係を比較する。結果が予想と異なった場合は、その理由を考察する。 ・「ここがポイント」電力と熱量、電力量についての説明を聞く。 ・「解決方法を考えよう」電力量>熱量となる理由と、少しでも等しくなるための工夫を検討する。 ・「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。 ・「学んだことをチェックしよう」各節で学んだことを確認する。 ・「Before & After」この章で学んだことをもとに自分の考えを記述し、話し合う。 	264～266	知		発生する熱の量が電熱線を通る電流の大きさや電流を流す時間に関係していることを理解している。 [発言分析・記述分析]	水の上昇温度は電流を流す時間と電力の両方に比例していることが実験結果をもとに説明している。	p.264 の表 1 のように結果を整理させ、何の値と、何の値がそれぞれ関係をもっているかを検討し、水の上昇温度は何の大きさに関係しているのかを明確にできるように助言・指導を行う。

【単元4】第3章 電流と磁界 (教科書 p. 267~283)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
<ul style="list-style-type: none"> 磁界と磁力線との関係、電流の磁気作用に関する基本的な概念を観察、実験を通して理解するとともに、それらの観察、実験の技能を身につける。(知識・技能) 電流と磁界に関する観察、実験を見通しをもって行い、実験結果を分析して解釈し、電流と磁界の規則性や関係性を見いだして表現する。(思考・判断・表現) 電流と磁界に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようにする。(主体的に学習に取り組む態度) 	<p>電流と磁界に関する事物・現象を日常生活や社会と関連づけながら、磁界と磁力線との関係、電流の磁気作用に関する基本的な概念を観察、実験を通して理解しているとともに、科学的に探究するために必要な基礎操作や記録などの基本的な技能を身につけている。</p>	<p>電流と磁力線との関係、電流の磁気作用について見通しをもって観察、実験などを行い、実験結果を分析して解釈し、電流と磁界の関係性を見いだして表現するなど、科学的に探究している。</p>	<p>電流と磁界に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>

重点...重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録...記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
1	<ul style="list-style-type: none"> 「Before & After」 これまでに学んだことや生活経験をもとに自分の考えを記述し、話し合う。 第1節 電流がつくる磁界 「導入」 磁石のまわりの磁界をまわりに置いた方位磁針の向きや鉄粉の模様で調べる。 「これまでに学んだこと」 小学校で電磁石をつくったことを確認する。 磁界や磁力線について説明を聞き、p.268 図1、「ここがポイント」をもとに、磁界の向きや磁力線について理解する。 「?課題」 コイルのまわりの磁界のようすは、どのようになっているのだろうか。 「?に対する自分の考えは?」 電磁石は鉄しんをぬいてコイルだけにすると、コイルの内側の磁界はどうなるかを予想する。 	267~268	知		<p>磁石や電磁石について、これまでに学んだことや生活経験をもとに自分の考えを説明している。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>磁界や磁力線が表していることを正しく理解し、説明している。</p>	<p>これまでの経験や学んだことから、磁界には、方位磁針が示すような方向性と、磁石から遠ざかると磁力が弱くなるような強弱があることを確認する。これらのようすを表す線が磁力線であることを写真や図を使って確認させ、磁界や磁力線が表していることを正しく理解できるよう助言・指導する。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> 【実験6】 コイルを流れる電流がつくる磁界 実験6を行い、コイルがつくる磁界を観察し、電流による磁界のでき方について調べる。 	269	知	○	<p>コイルがつくる磁界の観察を正しく行い、電流による磁界のでき方を記録している。</p> <p>[行動観察・記述分析]</p>	<p>コイルがつくる磁界の観察を正しく行い、電流による磁界のでき方を記録して、適切に説明している。</p>	<p>コイルがつくる磁界の観察方法を確認し、電流による磁界のでき方を記録できるよう助言・指導する。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> 実験結果から、方位磁針の向きと鉄粉の模様から磁界のでき方の規則性を見いだす。 実験結果やp.270 図1、2、3を参考にして、コイルのまわりやコイルの内部の磁界、直線状の1本の導線のまわりにできる磁界について説明を聞き、電流による磁界のでき方を知る。 「!結論」 自分の考えをまとめ、確認する。 「ここがポイント」 電流のまわりの磁界の向きについて説明を聞き、理解する。 	270~271	思	○	<p>実験結果から、電流の向きと磁界の向きの関係を見いだしている。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>実験結果から、電流の向きと磁界の向きの関係をまとめ、適切に表現している。また、コイルがつくる磁界を強くする方法について、自分の考えを適切に表現している。</p>	<p>実験結果をふり返りながら電流の向きと磁界の向きの関係を確認し、コイルがつくる磁界を強くする方法について、実験をふり返ることで考えを表現できるよう助言・指導する。</p>

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
4	<p>第2節 電流が磁界から受ける力</p> <ul style="list-style-type: none"> 「レッツ スタート！」モーターのコイルが動く理由を身近なものでモーターをつかって動かして考える。 p.272 図 1、2 からモーターやスピーカーの中にコイルと磁石が入っていることを知る。 「?課題」磁界の中に入れたコイルに電流を流すと、コイルはようになるだろうか。 「?に対する自分の考えは？」 p.272 図 3 や「レッツ スタート！」をもとに、磁界の中のコイルに電流を流すとどうなるか考える。 	272	知		<p>磁石やクリップなど、身のまわりにある物を使ってモーターをつくり、コイルを回転させることができている。</p> <p>[行動観察・記述分析]</p>	<p>磁石やクリップなど、身のまわりにある物を使ってモーターをつくり、コイルを回転させることができている。また、磁界の中にあるコイル(導線)に電流を流すと、コイル(導線)が動くことを予想できている。</p>	<p>モーターの中にコイルと磁石が入っていることと、回転部が金属板に接触している部分(整流子とブラシ)があることを見つけられるよう助言する。</p>
5	<p>【実験7】磁界の中で電流を流したコイルのようす</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験7を行い、磁界の中においたコイルに電流を流すとどうなるか調べる。 磁界の向き、電流の向き、コイルが力を受ける向きを確認し、それぞれの関連性について考える。 	273	知	○	<p>磁界の中においた導線に電流を流すとどうなるか観察して、磁界の向き、電流の向き、力を受ける向きを記録している。</p> <p>[行動観察・記述分析]</p>	<p>磁界の中においた導線に電流を流すとどうなるか観察して、磁界の向き、電流の向き、力を受ける向きを正しく記録し、適切に説明している。</p>	<p>磁界の中においた導線に電流を流すとどうなるか、磁界の向き、電流の向き、力を受ける向きを確認して記録できるよう助言・指導する。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> 実験結果から、磁界の向き、電流の向き、コイルが受ける力の向きの関係をまとめる。 p.274 図 1 をもとに、磁界の中の電流が受ける力の規則性についての説明を聞く。 モーターのしくみについて、磁界の向き、電流の向き、力の向きの関係と関連づけながら説明を聞く。 「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 「学びをいかして考えよう」について考える。 	274~275	思	○	<p>コイルを流れる電流の向きと磁界の向きに関する実験結果をもとに、磁界の向き、電流の向き、力の向きの関係を見いだしている。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>モーターについて、連続的に回転するように力をはたかせるために、磁界の向き、電流の向き、力の向きの関係を利用して、整流子とブラシを使って電流の向きを変えていることを見いだして、適切に表現している。</p>	<p>磁界の向き、電流の向き、力の向きの関係を適切に表現できるよう助言する。また、それらの関係を利用して連続的にモーターが回転するように、整流子とブラシを使って電流の向きを変えていることに気づけるよう助言・指導する。</p>
7	<p>第3節 発電のしくみ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「導入」 p.276 図 1、2 を参考に、発電機にはモーターのようにコイルと磁石が使われていることを確認する。 「?課題」コイルと磁石で電流をつくり出すにはどのようにすればよいだろうか。 「調べ方を考えよう」磁界の中で電流を流すと力が発生することから、逆に磁界の中で力をはたかせるとどうなるか考える。 	276	思		<p>発電式懐中電灯では、コイルの中と磁石を近づけたり遠ざけたりすると電流をつくり出すことができることから、磁界の中で力をはたかせると電流が発生するのではないかと推測している。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>磁界の中でコイルを動かしたときに、電流が発生するのではないかと推測しているとともに、その調べ方について自分の考えを適切に表現している。</p>	<p>手回し発電機などでモーターを回せば電流をつくり出すことができることを確認させて、磁界の中で力をはたかせると電流が発生するのではないかと推測できるよう助言・指導する。</p>
8	<p>【実験8】コイルと磁石による電流の発生</p> <ul style="list-style-type: none"> 「基礎操作」検流計の使い方を確認する。 実験8を行い、コイルに棒磁石を近づけたり遠ざけたりすることで、電流が流れるか調べる。また、電流を大きくするにはどうしたらよいか調べる。 	277	知	○	<p>コイルに棒磁石を近づけたり遠ざけたりすることで、電流が流れることや、その電流を大きくする方法について調べ、記録している。</p> <p>[行動観察・記述分析]</p>	<p>コイルに棒磁石を近づけたり遠ざけたりすることで電流が流れることや、その電流を大きくする方法について調べ、適切に記録し、説明している。</p>	<p>コイルに棒磁石を近づけたり遠ざけたりすることで、電流が流れることを確認させ、その電流を大きくする方法を考えられるよう助言・指導する。</p>
9	<ul style="list-style-type: none"> 実験結果から、磁石とコイルが近づくときとはなれるときでは、電流の向きが変わることや、コイルの巻き数が多いほど、また磁界の変化が大きいほど誘導電流は大きくなることを確認する。 「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 「学びをいかして考えよう」について考える。 	278~279	思	○	<p>電磁誘導と誘導電流について理解し、磁石とコイルが近づくときとはなれるときでは、電流の向きが変わることを見いだしている。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>電磁誘導と誘導電流について正しく理解し、磁石とコイルが近づくときとはなれるときでは、電流の向きが変わることを見だし、それらの関係を適切に表現している。</p>	<p>電磁誘導と誘導電流の説明を再度行うなど、磁石とコイルが近づくときとはなれるときでは電流の向きが変わることを確認させ、それらの関係を表現できるよう助言・指導する。</p>

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
10	<p>第4節 直流と交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「レッツ スタート！」p.280 図1、2から乾電池から得られる電流と、家庭用のコンセントから得られる電流のちがいを考える。 ・「?課題」乾電池からの電流とコンセントからの電流は、どのようにちがうのだろうか。 ・「?に対する自分の考えは?」発光ダイオードを直流、交流それぞれの電源につなぎ、点灯のようすのちがいについて考える。 ・直流は電流が一定の向きに流れていること、交流は電流の向きが連続的に交互に変化していることを知る。 	280~281	思		<p>直流と交流のちがいについて実験を行い、交流は電流の向きが連続的に交互に変化している電流であることを見いだしている。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>発光ダイオードの点灯のちがいやオシロスコープの観察から、交流は電流の向きが連続的に交互に変化している電流であることを見いだして適切に表現している。</p>	<p>発光ダイオードの点灯のちがいやオシロスコープの画像のちがいを説明し、交流は電流の向きが連続的に交互に変化している電流であることを表現できるよう助言・指導する。</p>
11	<ul style="list-style-type: none"> ・発電所から家庭までの送電のしくみや工夫についての説明を聞く。 ・「!結論」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。 	282	知	○	<p>発電所から家庭までの送電のしくみと、エネルギー損失を小さく送電するために、交流の特徴を利用していることを例をあげて説明することができる。</p> <p>[発言分析・記述分析]</p>	<p>発電所からの高電圧を変圧器で電圧を下げて家庭には配電していることや抵抗を小さくするための送電線の工夫などを理解し、説明することができる。</p>	<p>発電所から家庭に電気が届くまでの送電のしくみをおさえて、交流の利点を説明するなど助言・指導する。</p>
12	<ul style="list-style-type: none"> ・「学んだことをチェックしよう」各節で学んだことを確認する。 ・「学びを生活や社会に広げよう」学習した内容を、生活や社会と結びつけて考える。 ・「Before & After」この章で学んだことをもとに自分の考えを記述し、話し合う。 	283	態	○	<p>学習したことをふり返り、学習したことが私たちの生活にどのように役に立っているか具体例をもとに考えようとしている。</p> <p>[発言分析・行動観察]</p>	<p>学習したことをふり返り、電流によって磁界ができることや、磁界の変化によって電流が流れることが、私たちの生活にどのように役に立っているか具体的な例を挙げながら話し合い、ねばり強く考えようとしている。</p>	<p>ほかの生徒の意見を参考にし、自分の考えがもてるように、学習したことをふり返り、具体的な例を参考にし、考えることができるよう助言・指導する。</p>

**令和7年度 沖縄県立八重山特別支援学校 中学部 I 課程
2 学年 音楽科 年間指導計画**

配当時数：35 時間 担当者：

月	学期	題材	時数	教材名	学習指導要領の内容	教科書のページ	
4	1 学期(12時間) 前期(8時間)	曲想と音楽の構造との関わりを理解して合唱しよう	3	明日を向いて	歌唱—ア, イ, ウ	p10	
				翼をください		p14	
My Voice!							
5		言葉の抑揚を生かして、創作表現を工夫しよう	3	リズムゲーム、リズムアンサンブル、リズムチャレンジ	創作—ア, イ, ウ	p32	
				My Melody		p30	
6		曲想と音楽の構造との関わりを理解して、その魅力を味わおう	3	◎フーガ ト短調	鑑賞—ア, イ	p36	
7		リコーダーの音色と奏法との関わりを理解して、器楽表現を工夫しよう	3	◆リコーダー LESSON2、3 * 適宜教材を選択して扱ってもよい。	器楽—ア, イ, ウ		
9		2 学期(13時間)	曲想と歌詞の内容との関わりを理解して、歌唱表現を工夫しよう	4	夏の思い出(共通教材)	歌唱—ア, イ, ウ	p18
					サンタ ルチア		p26
					My Voice!		
10			オペラに親しみ、その魅力を味わおう	2	◎「アイーダ」から 指揮をしてみよう!	鑑賞—ア, イ	p48
							p46
11	日本の歌のよさや美しさを感じ取って、歌唱表現を工夫しよう		2	歌い継ごう 日本の歌 * 適宜教材を選択して扱う。	歌唱—ア, イ, ウ		
12	後期(7時間)	歌舞伎に親しみ、その魅力を味わおう	5	◎歌舞伎「勧進帳」	鑑賞—ア, イ	p56	
				長唄「勧進帳」から		p58	
				◆「寄せの合方」によるリズムアンサンブル			
1		3 学期(10時間)	世界の諸民族の音楽の特徴を理解して、その魅力を味わおう	2	◎世界の諸民族の音楽	鑑賞—ア, イ	p70
					Let's Create!		創作—ア, イ, ウ
2			音の重なり方や反復、変化を生かして、創作表現を工夫しよう	4	◆Session I	器楽—ア, イ, ウ	
3	仲間とともに、表情豊かに合唱しよう		4	心通う合唱 * 適宜教材を選択して扱う。	歌唱—ア, イ, ウ		
合計			35				

※国歌「君が代」の指導については、各校の実態に応じて学習内容や扱い時数をご設定ください。

令和7年度中学部2学年（I 課程）美術年間指導計画（時数：35）

教科・領域名		美術		学年・教育課程（課程）					
作成責任者				2年 I 課程					
指導目標		<ul style="list-style-type: none"> ・造形的な視点について理解し、ICT機器を含め自分が使いやすい道具を知り、使い方を身に着け、表したいことに合わせて工夫できるようにする。 ・表したいことを考えたり、美術に対する見方や感じ方を深めることができるようにする。 ・美術に親しみ、前向きに活動に参加できるようにする。 							
評価の観点									
a 知識・技能		b 思考・判断・表現		c 主体的に学習に取り組む態度					
・形や色彩の違いに気づき、材料や用具を使い、表したいことに合わせて表し方を工夫してつくることができる。		・日常生活の中で経験したことや感じたことから表したいことを思いついたり、作品の面白さを感じ取ったりすることができる。		・つくりだす喜びを味わうとともに、自分の見方や感じ方をを広げることができる。美術で学んだことを生活や学習に活用することができる。					
学期	月	時数 配当	単元名	単元の目標	学習内容	評価の観点			評価方法
						a	b	c	
1 学期	4 月 7 月	13	動画（映像メディア） 絵（想像画） 写真・絵（写真に描く） 香りを表す（貼り絵） 鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的操作方法を知り、構成や効果を試みながら作る。 ・テーマに応じて想像を広げて描く ・基礎的操作方法を知り想像を広げて構成を考え、写真や加工を工夫して表す。 ・香りをテーマに造形要素が与える印象を考えて表す。 ・作品を掲示し鑑賞し自分の作品に愛着を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・iPadを用いて、テーマに応じた動画制作をする。 ・物語を鑑賞し、想像を広げて絵に表す。 ・iPadの写真アプリのマークアップ機能を用いて絵や写真をもとに絵を描き加える。 ・香りをテーマに貼り絵に表す。 ・自分の作品の掲示の仕方を考え鑑賞する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート ・作品
2 学期	9 月 1 月	15	絵の具について 絵本 陶芸 鑑賞 デザイン（フォントやレイアウト）	<ul style="list-style-type: none"> ・絵の具のよさ、色世界の広がりを楽しむ。 ・物語を想像し、造形要素や言葉を効果的に用いて構成する。 ・粘土に親しみながら扱い方を知り、陶芸文化にふれる。 ・様々な社会資源へアクセスする方法を知り美術文化に親しむ。 ・自作した詩などに合った造形イメージを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵の具のにじみを味わう描画を制作する。色について学習する。 ・iPadを用いて物語を制作する。 ・粘土で作りたいものを作る。平面的な陶芸を制作。 ・美術館のオンラインサービスなどを用いて鑑賞、お気に入りのコレクションする。 ・自作した詩をフォントやレイアウト、挿絵などを工夫し印刷物をつくる。 	○	○	○	
3 学期	1 月 3 月	7	暮らしと美術 立体 染色 美術とテクノロジー	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用して表現する事例を知る。 ・ダンボールに親しみ、簡単な立体を制作する。 ・染色について知り、絞り染めを体験し親しむ。 ・写真やiPadに親しみ、造形方法として楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用して表現している事例を調べる。 ・ダンボールを使って立体物を制作する。 ・染についての基礎的学習。絞り染め技法で手ぬぐいを制作する。 ・iPadによる絵を動かす活動に取り組む。 	○	○	○	

年間授業時数 (評価) A：達成できた B：やや達成できた C：達成できなかった

35

令和7年度 沖縄県立八重山特別支援学校 中学部 I 課程
2学年 保健体育科 年間指導計画

配当時数：105時間 担当者：

月	学期	単元・領域及び内容	時数	単元及び領域の目標	単元・領域の評価基準
4	1 学期 (39時間)	体づくり運動 ア 体ほぐしの運動 イ 体の動きを高める運動	6	(知・技)体づくり運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などを理解し、目的に適した運動を身に付け、組み合わせること。 (思・判・表)自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 (学・人)体づくり運動に積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする事、一人一人の違いに応じた動きなどを認めようとする事、話し合いに参加しようとする事などや、健康・安全に気を配ること。	(知・技)体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などについて理解している。 (思・判・表) 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (学・人)体づくり運動に積極的に取り組もうとする事とともに、話し合いに参加しようとする事などをしたり、健康・安全に気を配ったりしている。
5					
6		3	(知・技)運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について理解すること。 (思・判・表)運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えること。 (学・人)運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての学習に積極的に取り組むこと。	(知・技)運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について理解している。 (思・判・表)運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断しているとともに、他者に伝えている。 (学・人)運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての学習に積極的に取り組もうとしている。	
7	水泳	30	(知・技)水泳について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解すること。 (思・判・表)泳法などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。 (学・人)水泳に積極的に取り組むとともに、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする事などや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全に気を配ること。	(知・技)水泳について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。 (思・判・表)泳法などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫しているとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。 (学・人)水泳に積極的に取り組もうとするとともに、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする事などをしたり、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全に気を配ったりしている。	

9		ダンス ア 創作ダンス ウ 現代的なリズムのダンス	12	<p>(知・技)ダンスについて、感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの特性や由来、表現の仕方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、イメージを捉えた表現や踊りを通じた交流をすること。</p> <p>(思・判・表)表現などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>(学・人)ダンスに積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、交流などの話合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ること。</p>	<p>(知・技)ダンスについて、感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの特性や由来、表現の仕方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。</p> <p>(思・判・表)表現などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p> <p>(学・人)ダンスに積極的に取り組もうとするとともに、仲間の学習を援助しようとする、交流などの話合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ったりしている。</p>
10	2 学期 (42 時間)	<p>健康な生活と病気の予防</p> <p>1 生活習慣病とその予防</p> <p>2 がんとその予防</p> <p>3 喫煙と健康</p> <p>4 飲酒と健康</p> <p>5 薬物乱用と健康</p> <p>6 喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけ</p>	8	<p>(知・技)健康な生活と疾病の予防について理解を深めること。</p> <p>(思・判・表)健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。</p> <p>(学・人)生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。</p>	<p>(知・技)健康な生活と疾病の予防について、個人生活を中心として科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。</p> <p>(思・判・表)健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。</p> <p>(学・人)健康な生活と疾病の予防についての学習に自主的に取り組もうとしている。</p>
11		陸上競技 ア 短距離走・リレー	7	<p>(知・技)陸上競技について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けること。</p> <p>(思・判・表)動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>(学・人)陸上競技に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ること。</p>	<p>(知・技)陸上競技について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。</p> <p>(思・判・表)動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫しているとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。</p> <p>(学・人)陸上競技に積極的に取り組もうとするとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ったりしている。</p>

12		球技 ア ゴール型	15	<p>(知・技)球技について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開すること。</p> <p>(思・判・表)攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>(学・人)球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ること。</p>	<p>(知・技)球技について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。</p> <p>(思・判・表)攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p> <p>(学・人)球技に積極的に取り組もうとするとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどをしたり、健康・安全に気を配ったりしている。</p>
1		<p>傷害の防止</p> <p>1 傷害の原因と防止</p> <p>2 交通事故の現状と原因</p> <p>3 交通事故の防止</p> <p>4 犯罪被害の防止</p> <p>5 自然災害に備えて</p> <p>6 応急手当の意義と基本</p>	8	<p>(知・技)傷害の防止について理解を深めるとともに、応急手当をすること。</p> <p>(思・判・表)傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現すること。</p> <p>(学・人)生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。</p>	<p>(知・技)傷害の防止について、個人生活を中心として科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。</p> <p>(思・判・表)傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。</p> <p>(学・人)傷害の防止についての学習に自主的に取り組もうとしている。</p>
2	3 学期 (24 時間)	球技 ウ ベースボール型	16	<p>(知・技)球技について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開すること。</p> <p>(思・判・表)攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>(学・人)球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ること。</p>	<p>(知・技)球技について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。</p> <p>(思・判・表)攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p> <p>(学・人)球技に積極的に取り組もうとするとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどをしたり、健康・安全に気を配ったりしている。</p>
3					
合計			105		

令和7年度 八重山特別支援学校 中学部 技術家庭 技術分野 2年 年間指導計画

配当時間：35時間

対象生徒2年

担当者：

- * (知) …知識・技能 (思) …思考・判断・表現 (態) …主体的に学習に取り組む態度
- * ★…「主体的に学習に取り組む態度」は、複数の学習内容にまたがる長期的な評価規準となる。

	4月			5月			6月			7月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
第1学年	題材	技術分野のガイダンス			A(1)アイ 材料と加工の技術の原理・法則と仕組み			A(2)アイ 材料と加工の技術による問題解決			A(3)アイ 社会の発展と材料と加工の技術			B(1)アイ 生物育成の技術の原理・法則と仕組み			B(2)アイ 生物育成の技術による問題解決			B(3)アイ 社会の発展と生物育成の技術														
	時数	2			5			13			2			4			7			2														
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・技術分野の学習の見直し ・学習内容の紹介 			<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの材料と加工の技術 ・木材、金属、プラスチックの特性 ・材料に適した加工方法 ・丈夫な製品を作るために ・材料と加工の技術の工夫の読み取り 			<ul style="list-style-type: none"> ・問題の発見、課題の設定 ・製作品の構想、設計 ・製図 ・製作の計画 ・作業手順を考えた製作 ・問題解決の評価、改善・修正 			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;">身の回りの整理を整理しよう</div>			<ul style="list-style-type: none"> ・材料と加工の技術の最適化 ・これからの材料と加工の技術 			<ul style="list-style-type: none"> ・生物育成の技術とは ・作物の育成環境を調節する技術 ・作物の成長を管理する技術 ・動物を育てる技術 ・水産生物を育てる技術 ・生物育成の技術の工夫の読み取り 			<ul style="list-style-type: none"> ・問題の発見、課題の設定 ・生物の育成計画 ・成長に合わせた適切な育成 ・問題解決の評価、改善・修正 			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;">行事を彩る草花を育てよう</div>			<ul style="list-style-type: none"> ・生物育成の最適化 ・これからの生物育成の技術 									
第2学年	題材	D(1)アイ,D(2)アイ 情報の技術の原理・法則と仕組み			D(2)アイ 双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決			C(1)アイ エネルギー変換の技術の原理・法則と仕組み			C(2)アイ エネルギー変換の技術による問題解決			C(3)アイ 社会の発展とエネルギー変換の技術																				
	時数	5			10			5			13			2																				
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の技術とは ・情報のデジタル化 ・情報通信ネットワークの仕組み ・安全に利用するための情報モラル ・安全に利用するための情報セキュリティ ・情報の技術の工夫の読み取り 			<ul style="list-style-type: none"> ・双方向性のあるコンテンツとは ・問題の発見、課題の設定 ・コンテンツの構想 ・コンテンツのプログラムの制作 ・問題解決の評価、改善・修正 			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;">パン屋さんのホームページ作り (Life is tech!を活用)</div>			<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー変換の技術とは ・発電の仕組みと特徴 ・電気を供給する仕組み ・電気回路について考えよう ・電気機器を安全に使用するための技術 ・運動エネルギーへの変換と利用 ・回転運動を伝える仕組み ・機械が動く仕組み ・機械の共通部品と保守点検の大切さ ・エネルギー変換の技術の工夫の読み取り 			<ul style="list-style-type: none"> ・問題の発見、課題の設定 ・電気回路または機構モデルの設計・製作 ・問題解決の評価、改善・修正 			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;">停電時の防災ライトが欲しい (ラジオライト製作)</div>			<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー変換の最適化 ・これからのエネルギー変換の技術 															
第3学年	題材	D(3)アイ 計測・制御のプログラミングによる問題解決 ★統合的な問題解決			D(4)アイ 社会の発展と情報の技術																													
	時数	15			2.5																													
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・計測・制御システムとは ・問題の発見、課題の設定 ・計測・制御システムの構想 ・計測・制御システムのプログラムの制作 ・問題解決の評価、改善・修正 			<ul style="list-style-type: none"> ・情報の技術の最適化 ・これからの情報の技術 																														
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;">ライントレースを使って自動運転をしよう (microbit・Maqeenを活用して)</div>																																	
配当時数	A	B	C	D	計																													
	22	13	20	32.5	87.5																													

- 備考
- ・「技術の見方・考え方」を働かせた深い学びになるように配慮する。
 - ・生物育成の技術による問題解決については、年間を通して適切な時期に実施する。

1 5	4 編1章 情報の技術の原理・法則と仕組み	①情報の技術とは何だろう	D(1) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 生活や社会、産業のさまざまな場面でコンピュータなどの情報の技術が利用されていることを知る。 コンピュータを構成するハードウェアとソフトウェアについてまとめる。 <p>[他教科]</p> <ul style="list-style-type: none"> (小) 社会5年：我が国の情報と産業との関わり (小) 理科6年：電気の利用 数学2年：データの分布の比較 	<ul style="list-style-type: none"> 家や学校、工場などの場면을例示して、コンピュータなどの情報の技術が利用されていることを確認する。 身の回りにあるコンピュータの種類や形状、機能などをまとめさせる。 アナログ情報とデジタル情報の違いについて考えさせる。 情報の技術によって実現できることを挙げさせる。 小学校では、どのようなプログラミング体験を行ったか思い出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の表現や記録ができる仕組みを理解している。(知) ★主体的に情報の技術について考えようとしている。(態)。
		②情報のデジタル化	D(1) アイ	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータは全ての情報を数値化して処理していることを知る。 情報のデジタル化の方法をまとめる。 画像をデジタル化する方法やデータ量との関係についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字情報のデジタル化を例にデジタル化の方法を確認させる。 画像のデジタル化を例に、デジタル化とデータ量について確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報のデジタル化の仕組み、デジタル化の方法とデータ量の関係について理解している。(知)
		③情報通信ネットワークの仕組み	D(1) アイ D(2) ア	<ul style="list-style-type: none"> 情報通信ネットワークの仕組みについてまとめる。 情報通信ネットワークを使って、情報をやりとりする仕組みについて知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭や学校におけるLANを例に、情報通信ネットワークを構成するために必要な機器や接続できる情報機器について説明する。 電子メールやSNSなど身近な例を取り上げ、情報通信ネットワークを使って、情報をやりとりする仕組みについて説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報通信ネットワークの構成について理解している。(知) 情報通信ネットワーク上での情報を利用する仕組みについて理解している。(知)
		④安全に利用するための情報モラル	D(1) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 情報の特性について考え、情報が社会に与える影響について調べる。 望ましい情報社会のための態度について考える。 <p>[家庭分野]</p> <ul style="list-style-type: none"> 消費生活・環境 <p>[他教科]</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語1年：情報の整理（引用の仕方） 道徳：情報モラル 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル化された情報のプラス面、マイナス面について考えさせ、マイナス面への対策として、どのような仕組みや態度が必要かを考えさせる。 著作権を含めた知的財産権の保護の必要性を伝え、知的な創造活動や発明のためにも、必要な権利であることを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の特性を理解して、情報を安全に利用することができる技能を身に付けている。(知) ★情報が社会に与える影響を理解して、望ましい情報社会のために取るべき態度を身に付けようとしている。(態)
		⑤安全に利用するための情報セキュリティ	D(1) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティを実現するための3つの要素を知る。 <ul style="list-style-type: none"> 機密性 完全性 可用性 <ul style="list-style-type: none"> 情報通信ネットワークにおけるサイバーセキュリティの重要性について考える。 セキュリティ対策のためのソフトウェアやシステムがあることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティに関するトラブルの例から、危険性について確認させる。 身の回りにあるコンピュータやスマートフォンなどのセキュリティ対策について調べさせる。 情報通信ネットワークへの不正侵入やデータの改ざんなどを防ぐサイバーセキュリティの重要性について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティの基本的な知識について理解している。(知) ★情報の安全を確保するために必要な判断や対応をする力を身に付けようとしている。(態)
		⑥情報の技術の工夫を読み取ろう	D(1) イ	<ul style="list-style-type: none"> 情報の技術に込められた問題解決の工夫について考える。 身近なシステムや自動化の技術の問題解決の工夫などから、「技術の見方・考え方」について気付いたことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の技術に込められた問題解決の工夫について、社会からの要求、安全性、環境への負荷、経済性などに着目させ、技術が最適化されてきたことに気付かせる。 利用者の視点だけでなく、開発者の視点でも考えられるように配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の技術に込められた工夫を読み取り、「技術の見方・考え方」に気付くことができる。(思)

6 5 1 5	4 編 2 章 双 方 向 性 の あ る コ ン テ ン ツ の プ ロ グ ラ ミ ン グ に よ る 問 題 解 決	① 双方向性のあるコンテンツのプログラミングとは何だろう	D(2) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 双方向性のあるコンテンツにはどのようなものがあるか調べる。 双方向性のあるコンテンツの基本的な仕組みについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> コンテンツに利用されているメディアの例とその特徴を整理させる。 情報処理の手順を表現する図として、アクティビティ図やフローチャートについて説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 双方向性のあるコンテンツの基本的な仕組みを理解している。(知) ★主体的に情報の技術について考え、理解しようとしている。(態)
		② 問題を発見し、課題を設定しよう	D(2) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 双方向性のあるコンテンツのプログラミングによって解決できる問題を見つける。 発見した問題を解決するための課題を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「技術の見方・考え方」を働かせて問題を見いだすことができるように配慮する。 身近なコンテンツが解決している問題を参考に、必要な機能、対象者、使用する環境、使用時の安全性などについても考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「技術の見方・考え方」を働かせて、問題を発見し、自分なりの課題を設定する力を身に付けている。(思)
		③ コンテンツを構想しよう	D(2) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 問題を解決するためのコンテンツに必要な情報を収集し、解決策を具体化する。 <ul style="list-style-type: none"> 構想の具体化 情報処理の手順の整理 必要な機能の整理 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の立場を意識し、メディアの特徴を生かして、利用しやすい構成になるように考えさせる。 アクティビティ図を用いることで、複数の情報処理の手順を統合して全体の構想を確認できることを伝える。 グループでコンテンツを制作する場合は、役割分担と制作計画を立てさせる。 制作環境や制作時間を考慮させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 使用するメディアを複合する方法とその効果的な利用方法を構想する力を身に付けている。(思) ★自分なりの新しい考え方や捉え方によって、知的財産を創造するとともに、他者のアイデアを尊重し、それらを保護・活用しようとしている。(態)
		④ コンテンツのプログラムを制作しよう	D(2) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 安全で適切なプログラムの制作と動作の確認、デバッグを行う。 使用する人のことを考えてプログラムを制作する。 <p>[他教科]</p> <ul style="list-style-type: none"> (小) 算数5年：正多角形をかく手順を考えよう(プログラミング体験) 美術：表現(コンピュータにおける映像メディアの活用) 	<ul style="list-style-type: none"> 文字、音声、静止画、動画などコンテンツの制作に必要な素材を準備させる。 アクティビティ図を確認しながらプログラムを制作させる。 完成したプログラムを実行して、目的の動作をしているか確かめさせる。異なる場合は理由を考えさせ、デバッグさせる。 著作権や個人情報の扱いなど情報モラルの重要性を考えながら制作させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全で適切なプログラムの制作と動作の確認、デバッグができる技能を身に付けている。(知) 情報処理の手順を具体化する力を身に付けている。(思) ★他者と協働して、粘り強く取り組もうとしている。(態)
		⑤ 問題解決の評価、改善・修正	D(2) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決を振り返り、解決結果及び解決過程を評価し、改善・修正する方法について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の評価の観点を決め、その評価の観点に基づいて評価させる。 <ul style="list-style-type: none"> 見やすさ 操作のしやすさ 制作工程が適切か 誤りが少ないか 著作権への配慮 など 	<ul style="list-style-type: none"> コンテンツのプログラムの制作の過程や問題解決の結果を評価し、改善及び修正する力を身に付けている。(思) ★自らの問題解決を振り返り、よりよいものとなるように改善・修正しようとしている。(態)

1 6 5 2 0	3 編 1 章 エ ネ ル ギ ー 変 換 の 技 術 の 原 理 ・ 法 則 と 仕 組 み	①エネルギー変換の技術とは何だろう	C(1) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 生活や社会の中で利用されているエネルギー変換の技術について調べる。 エネルギー変換効率について知る。 <p>[家庭分野]</p> <ul style="list-style-type: none"> 消費生活・環境 <p>[他教科]</p> <ul style="list-style-type: none"> (小) 理科6年：電気の利用 社会(地理)：資源・エネルギーと産業 理科2年：電気エネルギー 理科3年：エネルギーと物質 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの製品のエネルギー変換の流れを考えさせる。 身の回りの製品のエネルギー損失に気付かせる。 エネルギー変換効率を高めることは、環境への負荷を減らすことにつながることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活や社会の中で利用されているエネルギー変換の技術について理解している。(知) ★主体的にエネルギー変換の技術について考えようとしている。(態)
		②発電の仕組みと特徴	C(1) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 発電の仕組みと特徴についてまとめる。 さまざまな発電方法のプラス面、マイナス面について調べ、適切な発電構成割合について自分なりに考える。 <p>[他教科]</p> <ul style="list-style-type: none"> (小) 理科5年：電流がつくる磁力 (小) 理科6年：電気の利用 理科2年：電流、電流と磁界 理科2年：電磁誘導と発電 理科3年：自然環境の保全と科学技術の利用 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな発電方式の特徴、エネルギー変換効率、二酸化炭素排出量、発電にかかる費用などを比較しながら、適切な発電方法について自分なりに考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発電の仕組みと特徴について理解している。(知) さまざまな発電方法に込められた技術の工夫について考えている。(思)
		③電気を供給する仕組み	C(1) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 電源の種類と特徴についてまとめる。 送電・配電について調べる。 <p>[他教科]</p> <ul style="list-style-type: none"> 理科2年：電流とその利用 理科3年：化学変化と電池 	<ul style="list-style-type: none"> コンセントや電池を例に、電源の種類を調べさせる。 発電所からの送電・配電の仕組みについて調べさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 電源の種類と特徴や、送電・配電の仕組みを理解している。(知) 送電・配電の技術の工夫について考えている。(思)
		④電気回路について考えよう	C(1) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 電気エネルギーを利用する仕組みを調べる。 電気回路について、電気用図記号を用いた回路図で表す。 <p>[他教科]</p> <ul style="list-style-type: none"> (小) 理科3年：電気の通り道 (小) 理科4年：電流の働き (小) 理科6年：電気の利用 理科2年：電流 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにある電気機器を調べさせ、電気エネルギーを利用する仕組みをまとめさせる。 身の回りの機器の回路を調べさせ、回路図にまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 電気回路の仕組みについて理解している。(知) 簡単な電気回路を回路図で表すことができる技能を身に付けている。(知)
		⑤電気機器を安全に使用するための技術	C(1) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 電気を安全に使うための技術の工夫について調べ、まとめる。 ・漏電 ・感電 電気機器の安全な使い方について考える。 <p>[家庭分野]</p> <ul style="list-style-type: none"> 消費生活・環境 <p>[他教科]</p> <ul style="list-style-type: none"> 理科2年：電流 	<ul style="list-style-type: none"> 電気機器の構造や安全に関する表示を観察して、その意味を調べさせ、適切な使用方法についてまとめさせる。 電気による事故を防ぐ方法を具体的にまとめさせる。 漏電・感電の危険性について知らせ、電気機器を安全に使用するための技術の工夫についてまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 電気機器の安全な使い方について理解している。(知) 電気による事故を防ぐ方法について考えている。(思)

		⑥運動エネルギーへの変換と利用	C(1)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 機械が運動を伝える仕組みについて調べる。 機械の運動の種類とエネルギー変換についてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> 直線運動 回転運動 揺動運動 <p>[他教科]</p> <ul style="list-style-type: none"> (小) 理科 6 年：てこの規則性 理科 3 年：力学的エネルギー 	<ul style="list-style-type: none"> 自転車や身の回りの機器などに使用されている運動を伝える仕組みや部品を調べさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 機械が運動を伝える仕組みについて理解している。(知) 運動の種類とエネルギー変換について理解している。(知)
		⑦回転運動を伝える仕組み	C(1)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 回転運動を伝える仕組みの特徴と用途を調べる。 回転速度と回転力の関係を調べる。 <p>[他教科]</p> <ul style="list-style-type: none"> 理科 3 年：運動の規則性 	<ul style="list-style-type: none"> 自転車を例に、回転運動を伝える仕組みを調べ、回転速度と回転力の関係についてまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 回転運動を伝える仕組みの特徴と用途を理解している。(知)
		⑧機械が動く仕組み	C(1)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 往復直線運動や揺動運動などを伝えるリンク機構やカム機構の仕組みを調べる。 流体を用いて動く機械や熱エネルギーで動く機械を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自転車や身の回りの機器などに使われている往復直線運動や揺動運動を伝えるためのリンク機構やカム機構の仕組みと利用例を調べさせる。 油圧ショベルやパワーアシストロボットなどの流体を用いて動く機械や、蒸気機関などの熱エネルギーで動く機械の仕組みについて調べさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> リンク機構やカム機構について理解している。(知) 熱や水、空気などの流体を用いたエネルギー変換の特性について理解している。(知)
		⑨機械の共通部品と保守点検の大切さ	C(1)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 機械の共通部品について知る。 機械を安全に利用するために保守点検が必要であることを知る。 身近な機械の保守点検をする。 <p>[他教科]</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健体育：交通事故などによる傷害の防止 	<ul style="list-style-type: none"> 機械の共通部品があることで作業効率が上がることに気付かせる。 飛行機や自転車の点検などから、保守点検（メンテナンス）の大切さに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 機械の共通部品と保守点検の大切さについて理解している。(知)
		⑩エネルギー変換の技術の工夫を読み取ろう	C(1)イ	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー変換の技術に込められた問題解決の工夫について考える。 身近な製品の問題解決の工夫などから、「技術の見方・考え方」について気付いたことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー変換の技術に込められた問題解決の工夫について、社会からの要求、安全性、環境への負荷、経済性などに着目させ、技術が最適化されてきたことに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー変換の技術に込められた工夫を読み取り、「技術の見方・考え方」に気付くことができる。(思)
2 1 3 3	3 編 2 章 エネルギー変換 の技術による問題解決	①問題を発見し、課題を設定しよう	C(2)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 生活や社会における光、熱、動力などのエネルギー変換の技術によって解決できる問題を見つける。 発見した問題を解決するための課題を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「技術の見方・考え方」を働かせて問題を見いだすことができるように配慮する。 「あったらいいな」「不便だな」の視点で問題を見つけさせる。 問題発見・課題設定のために、5W1Hを用いて整理させる。 <ul style="list-style-type: none"> いつ ・ 誰が ・ どこで 何を ・ 何のために どのように 	<ul style="list-style-type: none"> 「技術の見方・考え方」を働かせて、問題を発見し、自分なりの課題を設定する力を身に付けている。(思)

		②電気回路を設計・製作しよう	C(2)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 設計要素を検討する。 <ul style="list-style-type: none"> 電源 制御 負荷 構想をまとめ、製作に必要な図を描く。 プロトタイプ（試作）、シミュレーションを行う。 目的の電気回路が決まったら、安全に配慮し、製作、実装、点検・調整を行う。 <p>[他教科]</p> <ul style="list-style-type: none"> (小) 理科3年：電気の通り道 (小) 理科4年：電流の働き (小) 理科6年：電気の利用 理科2年：電流 	<ul style="list-style-type: none"> 使用目的・使用条件に合わせて設計要素を検討させる。 機能面だけでなく、安全性や環境への負荷についても考えさせる。 適切な工具の使い方を指導し、製作、実装、点検・調整を行わせる。 知的財産を創造、保護及び活用することの大切さや技術に関わる倫理観について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 構想に基づいて設計し、電気回路の回路図や組立図にまとめることができる技能を身に付けている。(知) 構想に基づいて、製作の計画を立てる力を身に付けている。(思) ★自分なりの新しい考え方や捉え方によって、知的財産を創造するとともに、他者のアイデアを尊重し、それらを保護・活用しようとしている。(態) ★他者と協働して、粘り強く取り組もうとしている。(態)
		③機構モデルを設計・製作しよう	C(2)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 設計要素を検討する。 <ul style="list-style-type: none"> 動力源 運動を伝える仕組み 仕事をする仕組み 構想をまとめ、製作に必要な図を描く。 プロトタイプ（試作）、シミュレーションを行う。 目的の機構の動きが決まったら、安全に配慮し、製作、実装、点検・調整を行う。 <p>[他教科]</p> <ul style="list-style-type: none"> (小) 理科6年：てこの規則性 理科3年：力学的エネルギー 理科3年：運動の規則性 	<ul style="list-style-type: none"> 使用目的・使用条件に合わせて設計要素を検討させる。 機能面だけでなく、安全性や環境への負荷についても考えさせる。 適切な工具の使い方を指導し、製作、実装、点検・調整を行わせる。 知的財産を創造、保護及び活用することの大切さや技術に関わる倫理観について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 構想に基づいて設計し、機構モデルの回路図や組立図にまとめることができる技能を身に付けている。(知) 構想に基づいて、製作の計画を立てる力を身に付けている。(思) ★自分なりの新しい考え方や捉え方によって、知的財産を創造するとともに、他者のアイデアを尊重し、それらを保護・活用しようとしている。(態) ★他者と協働して、粘り強く取り組もうとしている。(態)
		④問題解決の評価、改善・修正	C(2)アイ	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー変換の技術による問題解決を振り返り、解決結果及び解決過程を評価し、改善・修正する方法について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の評価の観点を決め、その評価の観点に基づいて評価させる。 <ul style="list-style-type: none"> 機能 利便性（使いやすさ） 安全性 環境への配慮 費用 など 	<ul style="list-style-type: none"> 製作の過程や問題解決の結果を評価し、改善及び修正する力を身に付けている。(思) ★自らの問題解決を振り返り、よりよいものとなるように改善・修正しようとしている。(態)
34 ～ 35	3編 3章 社会の発展とエネルギー変換の技術	①エネルギー変換の技術の最適化	C(3)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 自分の問題解決における最適化の場面を振り返り、社会の問題解決における最適化と比較する。 <ul style="list-style-type: none"> 社会からの要求 安全性 環境への負荷 経済性 エネルギー変換の技術のプラス面、マイナス面について考え、これからどのように技術の最適化を図っていくとよいかをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会におけるエネルギー変換の技術は、さまざまな制約条件の基で折り合いをつけ、効果が最も目的に合ったものになるように工夫されていることに気付かせる。 エネルギー変換の技術は、生活や社会を豊かにする光の側面がある一方で、環境への負荷や事故の危険性などの影の側面があることも伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー変換の技術の概念について理解している。(知) エネルギー変換の技術の最適化について考えている。(思)
		②これからのエネルギー変換の技術	C(3)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会の構築のために、これからのエネルギー変換の技術について考える。 <p>[他教科]</p> <ul style="list-style-type: none"> 理科3年：自然環境の保全と科学技術の利用 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、技術の評価し、選択、管理・運用、改良・応用していくことの大切さについて考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、エネルギー変換の技術の評価し、適切な選択、管理・運用、改良、応用について考えている。(思) ★よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、エネルギー変換の技術を工夫し創造しようとしている。(態)

令和7年度 八重山特別支援学校 中学部 技術家庭 家庭科分野 2年
年間指導計画

配当時間：35時間 担当者：対象生徒
* (知) …知識・技能 (思) …思考・判断・表現 (態) …主体的に学習に取り組む態度

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
8	2編1章 衣服の選択と手入れ				
	① どうして衣服を着るのだろう	B(4)ア	・衣服の目的に応じた着方や個性を生かした着方を考えながら、衣服の働きをまとめる。	・目的に応じて衣服の着方が違う点に着目させ、衣服の社会生活上の働きを考えさせる。 [小]衣服の保健衛生上や生活活動上の働き	・衣服と社会生活との関わりについて理解している。(知) ・目的に応じた着用について理解している。(知)
	② 私らしさとT.P.O.～着方の工夫～	B(4)ア	・個性を生かした服装について知り、自分らしい着方を考える。	・色や形などの調和や自分らしさを考えた着方を工夫させる。	・個性を生かす着用について理解している。(知) ・自分らしい着方について考え、工夫している。(思) ・目的に応じた着用を踏まえた自分らしい着方について、工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
	③ 日本の衣文化	B(4)ア	・日本の伝統的な衣文化について知り、和服と洋服の構成や着方の違いに気付く。	・和服の構成やたたみ方から、和服の特徴や文化について理解させる。	・衣服と社会生活との関わり(和服)について理解している。(知) ・衣文化の継承について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。(態)
	④ 衣服計画と必要な衣服の選択	B(4)アイ	・衣服調べをして、必要な衣服の数量を把握し、過不足や処分の仕方を考える。 ・手持ちの衣服の活用を考えながら、表示や縫製の良否、手入れの方法や価格など、既製服の適切な選択方法を知る。	・衣服の入手については、購入するだけでなく、環境に配慮する視点から、譲り受けたり、リフォームしたりする方法にも触れる。 ・衣服を自分で管理する大切さを知らせ、既製服の適切な選択方法を理解させる。	・衣服の適切な選択について理解している。(知) ・衣服の計画的な活用必要性について理解している。(知) ・衣服の選択について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思)
⑤ 衣服の手入れ	B(4)アイ	・衣服の洗濯や補修などの手入れの必要性を理解し、衣服の材料や状態に応じた手入れの方法を知る。	・衣服を快適に着用するために手入れが必要であることに気付かせ、手入れの実習をさせる。 ・洗濯については、手洗いを基礎とし、洗濯機を適切に使用できるようにする。 [小]手洗いによる洗濯	・衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解しているとともに、適切にできる。(知) ・材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方(洗濯、収納、補修、アイロンなど)について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) ・材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方(洗濯、収納、補修、アイロンなど)について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)	

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
9	2編2章 生活を豊かにするために	①作って楽しい布作品	B(5)アイ, C(2) ・生活の中で、あるといいなと思うものを考えさせる。 ・製作に必要な材料や用具、製作手順や時間などの見通しを持つ。 ・身の回りの生活を快適にしたり、資源や環境に配慮したりするなど、自分や家族、地域の人々の生活を豊かにする具体的な物を製作する。	・補修の技能を生かした製作品を考えさせる。 ・計画内容を確認し、安全で能率よく実践できるよう、今後の学習の見通しを持たせる。 ・手縫いやミシン縫い、アイロンなど基礎的・基本的な知識や技能を活用させる。 ・完成後の製作品や、それを活用している姿を想像しながら製作に臨ませると、学習意欲が高まる。 ・製作を通して、自分や家族の生活を豊かにすることの大切さを実感させる。 [小]布を用いた製作	・製作する物に適した材料や縫い方について理解している。(知) ・用具を安全に取り扱い、製作が適切にできる。(知) ・資源や環境に配慮し、生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) ・資源や環境に配慮し、生活を豊かにするための布を用いた物の製作について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
	②持続可能な衣生活を目指して	B(4), (5), C(2)	・持続可能な衣生活を目指して、衣服計画を立て、衣服の活用や管理の方法を工夫する。	・衣生活の自立に向けて、自分にできることを具体的に考えさせる。	・持続可能な衣生活を目指して、課題とその解決方法について考え、工夫している。(思) ・よりよい衣生活を目指して、衣服の選択と手入れや生活を豊かにするための布を用いた製作について、工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
5	3編1章 住まいの役割と安全な住まい方	①もしも住まいがなかったら	B(6)ア ・住まいの役割や基本的な機能について考える。 ・自分や家族の生活と住まい方との関わりを考える。	・住空間と生活行為との関係を理解させ、家族がどのような生活を重視するかで住まい方が異なることに気付かせる。	・家族の生活と住空間との関わりについて理解している。(知) ・住居の基本的な機能について理解している。(知)
		②住まいと気候風土の関わり	B(6)ア ・和式の住まい方が現代にも受け継がれていることを理解する。 ・日本では各地の気候に合わせた住まいの特徴があることに気付く。	・住まいや住まい方は気候風土や文化によって異なり、日本国内でも違いがあることに気付かせる。	・和式の住まい方や日本各地の住まいの特徴などと住空間の関わりについて理解している。(知) ・住文化の継承について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。(態)
		③健康で快適な室内環境	B(6)アイ ・健康で快適な室内環境の条件を知り、改善方法を考える。	・室内の空気の汚染が及ぼす影響を取り上げ、室内環境を整える必要性に気付かせ、改善方法を考えさせる。 [小]整理・整頓や清掃の仕方、暑さ・寒さ、通風・換気、採光、音	・室内の空気環境など、家族の健康・快適・安全を考えた住空間の整え方について理解している。(知) ・室内の空気環境など、家族の健康・快適・安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫している。(思) ・室内の空気環境など、家族の健康・快適・安全を考えた住空間の整え方について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。(態)

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点	
	④家族の住まいを安全・安心に	B(6) アイ	・家庭内事故とその原因について知り、安全に住むために改善できることを考える。	・家庭内事故の具体例から、安全管理の方法を考えさせる。	・家庭内の事故の予防や対策など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。(知) ・家庭内の事故の予防や対策など家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫している。(思) ・家庭内の事故の予防や対策など家族の安全を考えた住空間の整え方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)	
	⑤災害への対策	B(6) アイ	・住まいの災害対策について知り、災害に備えてできることを考える。	・災害の特徴を知らせ、住まいの災害対策を具体的に考えさせる。	・自然災害への備え方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。(知) ・自然災害への備え方など家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫している。(思) ・自然災害への備え方など家族の安全を考えた住空間の整え方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)	
	⑥持続可能な住生活を目指して	B(6), C(2)	・持続可能な住生活のために、課題を見つけ、改善方法を考える。	・具体例を挙げて、持続可能に住まうためにできることを考えさせる。	・持続可能な住生活を目指して、課題とその解決方法について考え、工夫している。(思) ・よりよい住生活を目指して、住居の機能と安全な住まい方について、工夫し創造し、実践しようとしている。(態)	
5	4 編 1 章 私 た ち の 消 費 生 活	①消費者としての自覚	C(1) ア	・自分や家族の消費生活を振り返り、適切な消費行動について考える。 ・契約の意味について理解する。	・自分の消費に使える金銭には限りがあることや優先順位を考えた計画的な支出が必要であることを気付かせる。 [小]物や金銭の大切さ、計画的な使い方、買い物の仕組み	・物資・サービスについて理解している。(知) ・売買契約の仕組みについて理解している。(知)
		②購入方法と支払い方法	C(1) ア	・具体的な買い物の場面を取り上げ、購入方法や支払い方法について考える。	・購入方法や支払い方法について理解させる。 [小]買い物の仕組み	・購入方法や支払い方法の特徴を理解している。(知)
		③バランス良く計画的な金銭の管理	C(1) ア	・計画的な金銭管理の必要性を理解する。 ・三者間契約の仕組みについて理解する。	・バランスの良い金銭管理のために、自分や家族の中での優先順位について考えさせる。 ・社会(公民)とも関連させながら、三者間契約の仕組みや特徴について理解させる。 [小]物や金銭の計画的な使い方	・計画的な金銭管理の必要性について理解している。(知) ・自分に合った金銭管理の方法を考え、工夫している。(思) ・計画的な金銭管理について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点	
	④消費者トラブルとその対策	C(1)ア	<ul style="list-style-type: none"> 消費者に関わるトラブルなどの実際の例を取り上げ、その解決方法について考える。 消費者トラブルの解決方法をグループで話し合い、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生に関わりの深いトラブル事例を取り上げて、調べさせるなど、生徒が主体的に学習できるように工夫する。 消費生活センターやクーリング・オフ制度などについて理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 消費者トラブルの事例とその対応について理解している。(知) 消費者トラブルを未然に防いだり解決したりするための方法を考え、工夫している。(思) 消費者トラブルの対応について、課題の解決に主体的に取り組み、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態) 	
	⑤何を考えて決めますか～意思決定のプロセス～	C(1)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 商品（物資やサービス）を適切に選択、購入する方法について考える。 商品の選択、購入をするときに必要な情報を収集し、整理する。 商品の活用方法についても考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 意思決定のプロセスを用いて商品購入についてシミュレーションさせる。 本当に必要かどうか判断することの大切さに気付かせる。 商品の表示やマークについて知らせる。 多くの情報の中から適切な情報を収集・整理し、物資やサービスの適切な選択ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 商品（物資・サービス）の選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。(知) 商品（物資・サービス）の選択について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) 商品（物資・サービス）の選択について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態) 	
5	4編2章 責任ある消費者になるために	C(2)アイ	①消費者としてできること～権利と責任～	<ul style="list-style-type: none"> 実際の消費生活と結び付け、消費者の権利や責任について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 消費者の権利と責任については、中学生の消費行動や具体的な事例と関わらせて考えさせる。 消費者基本法の趣旨を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 消費者の基本的な権利と責任について理解している。(知) 自立した消費者としての消費行動について考え、工夫している。(思) 消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組み、工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
	②省エネルギーと持続可能な社会		C(2)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 自分や家族のエネルギー消費が環境に与える影響について知らせ、エネルギー消費を減らす方法について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭でできる省エネルギーについて具体的に考えさせる。 自分や家族の生活の仕方が身近な環境に与える影響について考えやすくするために、具体的な事例などを提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。(知) 自立した消費者としての環境に配慮した生活について考え、工夫している。(思) 自立した消費者としての環境に配慮した生活について、課題の解決に主体的に取り組み、工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
	③持続可能な消費生活を目指して	C(1),(2)	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会を目指して、自分や家族ができることを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会を目指して、自分の生活の在り方を考え、工夫し実践することの大切さを理解させる。 環境に配慮した消費生活が持続可能な社会を形成する基盤であることに気付かせる。 これからの生活を展望して、1人1人が環境に配慮した生活を送る必要性に気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な消費生活を目指して、課題とその解決方法について考え、工夫している。(思) 自立した消費者としての社会や環境について、課題の解決に主体的に取り組み、工夫し創造し、実践しようとしている。(態) 	

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
3	5編1章 家族・家庭と地域	①私たちの生活と家族・家庭の機能	A(1) ア ・家庭や家族の基本的な機能について考える。 ・家庭や家族の大切さについて考える。 ・自分の成長を振り返る。	・家庭や家族の機能として、子どもを育てる機能や心の安らぎなどの精神的な機能があることを取り上げ、それらは衣食住などの生活の営みによって支えられていることに気付かせる。	・家族や家庭生活との関わりについて理解している。(知) ・家族・家庭の基本的な機能について理解している。(知) ・家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付いている。(知) ・自分や家族がになう家族・家庭の基本的な機能を考え、生活を工夫している。(思)
	②中学生としての自立	A(1) ア ・自分と家族との生活を振り返り、中学生としての自立について考える。	・中学生になった自分と家族の生活を振り返り、家庭における自分の役割に気付かせる。その際、小学校での学習内容や、家庭分野のガイダンスのページを活用するなど、家族や地域の一員としてできることを具体的に考えられるように工夫する。 [小]家庭の仕事	・自分の成長と家族や家庭生活との関わりについて理解している。(知) ・家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付いている。(知) ・自立に向けて中学生の自分にできることを考え、工夫している。(思)	
	③家庭生活と地域との関わり	A(1) ア ・地域の活動などを調べ、自分や家族がどのように関わっているか考える。	・家庭生活は、地域の人々とのつながりの中で成り立っており、相互の関わりによって生活をよりよくできることに気付かせる。 ・日常生活から、具体的な事例を挙げさせ、地域の人々との関わりを考えさせる。	・地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付いている。(知) ・地域の幼児や高齢者など、自分と異なる立場の存在に気付いている。(知)	

学年目標

生活に密接する話題について、課題を解決するために、相手に考えが伝わるように配慮しながら、説明や質問ができる。

2学期制	3学期制	月	配当 時数	単元名	言語材料	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前 期 中 間	1 学 期 中 間	4 月	4	Program 1 New Start	未来表現 動名詞	<p>【知識】 ・未来表現や動名詞の意味や働きを理解している。</p> <p>【技能】 ・未来表現や動名詞の意味や働きの理解をもとに、予定や楽しんだことなどについて伝え合う技能を身に付けている。</p>	・自分の考えや気持ちを相手にわかってもらうために、誘いたい遊びやイベントについて、具体的な内容とともに伝えている。	・自分の考えや気持ちを相手にわかってもらうために、誘いたい遊びやイベントについて、具体的な内容とともに伝えようとしている。
		4 月	1	Step 1 簡単な表現で 言いかえよう	言い方がわからない単語を自分の知っている単語で言いかえるためのポイント	<p>【知識】 ・言い方がわからない単語を自分が知っている表現を使って説明する方法を理解している。</p> <p>【技能】 ・言い方がわからない単語を自分が知っている表現を使って説明する方法を理解し、伝える技能を身に付けている。</p>		
		5 月	8	PROGRAM 2 Koshien Project in Africa	接続詞 that 接続詞 when 接続詞 if	<p>【知識】 ・接続詞の意味や働きを理解している。</p> <p>【技能】 ・接続詞の意味や働きの理解をもとに、自分が思っていることや過去のある時点にしたことなどについて伝え合う技能を身に付けている。</p>	・自分の小さなころの思い出を相手に伝えるために、当時したことや自分の考えなどを具体的な内容とともに伝えている。	・自分の小さなころの思い出を相手に伝えるために、当時したことや自分の考えなどを具体的な内容とともに伝えようとしている。
		5 月	1	Power-Up 1 天気予報を聞 こう	willなど（復習）	<p>【知識】 ・天気予報で使う語句や表現を理解している。</p> <p>【技能】 ・天気予報で使う語句や表現の理解をもとに、内容を聞き取る技能を身に付けている。</p>	・カナダの天気を知るために、天気予報を聞いて、地名、天気、気温など必要な情報を捉えている。	・カナダの天気を知るために、天気予報を聞いて、地名、天気、気温など必要な情報を捉えようとしている。
		6 月	1	Step 2 魅力を伝える ためのコツを 知ろう	魅力を効果的に伝える ポイント	<p>【知識】 ・おすすめのものの魅力について、効果的な伝え方を理解している。</p> <p>【技能】 ・おすすめのものの魅力について、効果的に伝える技能を身に付けている。</p>		
		6 月	8	Program 3 Taste of Culture	不定詞	<p>【知識】 ・不定詞（名詞的・副詞的・形容詞的用法）の意味や働きを理解している。</p> <p>【技能】 ・不定詞（名詞的・副詞的・形容詞的用法）の意味や働きの理解をもとに、したいことや行動の目的などについて伝え合う技能を身に付けている。</p>	・地域のイベントで売りたいものについて、自分の考えを相手にわかってもらうために、その目的や具体的な内容とともに伝えている。	・地域のイベントで売りたいものについて、自分の考えを相手にわかってもらうために、その目的や具体的な内容とともに伝えようとしている。
前 期 末	1 学 期 末	7 月	4	Our Project 4 海外でヒット するラーメン のCMを作ろう	（これまでの復習）	<p>【知識】 ・既習の言語材料の意味や働きを理解している。</p> <p>【技能】 ・既習の言語材料の意味や働きの理解をもとに、「ラーメンの魅力伝える」というプレゼンテーションを行なう技能を身に付けている。</p>	・グループで考えたラーメンの魅力が相手に伝わるように、考えや情報を整理して効果的にプレゼンテーションを行っている。	・グループで考えたラーメンの魅力が相手に伝わるように、考えや情報を整理して効果的にプレゼンテーションを行おうとしている。

2学期制	3学期制	月	配当 時数	単元名	言語材料	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期期末 (続き)	1学期期末 (続き)	7月	4	Reading 1 The Three Dolls	(これまでの復習)	【知識】 ・場面や登場人物の心情を表す表現を理解している。 【技能】 ・場面や登場人物の心情を表す表現を理解し、読み取る技能を身に付けている。	・物語について自分の考えを伝えるために、The Three Dollsの物語を読んで、その概要や登場人物の心情を捉えている。 ・物語について自分の考えを伝えるために、3つの人形の特徴を読み取り、そのよい点について説明している。	・物語について自分の考えを伝えるために、The Three Dollsの物語を読んで、その概要や登場人物の心情を捉えようとしている。 ・物語について自分の考えを伝えるために、3つの人形の特徴を読み取り、そのよい点について説明しようとしている。
		7月	1	Power-Up 2 電話をかけよう	電話で使う表現	【知識】 ・電話で使う語句や表現を理解している。 【技能】 ・電話で使う語句や表現を理解し、用件を聞き取ったり情報を伝えたりする技能を身に付けている。	・電話の相手に遠足に持ってくるべきものがわかるように、理由も含めて伝えている。 ・困っている友だちを助けるために、必要な情報を整理して伝えている。	・電話の相手に遠足に持ってくるべきものがわかるように、理由も含めて伝えようとしている。 ・困っている友だちを助けるために、必要な情報を整理して伝えようとしている。
2学期中間		9月	8	PROGRAM 4 Leave Only Footprints	感情の原因を表す不定詞 must have to ~	【知識】 ・感情の原因を表す不定詞、mustやhave to ~の意味や働きを理解している。 【技能】 ・感情の原因を表す不定詞、mustやhave to ~の意味や働きの理解をもとに、うれしかったことやしなければならないことなどについて伝え合う技能を身に付けている。	・修学旅行を快適に過ごすために、クラスメートが納得できるようなルールを書いている。	・修学旅行を快適に過ごすために、クラスメートが納得できるようなルールを書こうとしている。
		9月	1	Power-Up 3 レストランで食事をしよう	レストランでの対話表現 (I'd like to have ~. / Anything else?)	【知識】 ・レストランへの入店から注文までを使う表現を理解している。 【技能】 ・レストランへの入店から注文までを使う表現を理解し、おすすめメニューなどを聞き取る技能を身に付けている。	・レストランで食事をするために、自分が食べたいものやおすすめのメニューなどについて、伝えたり、たずねたりしている。	・レストランで食事をするために、自分が食べたいものやおすすめのメニューなどについて、伝えたり、たずねたりしようとしている。
後期中間		10月	1	Step 3 わかりやすい見出しをつけよう	パンフレットやポスターにわかりやすい見出しをつけるポイント	【知識】 ・読み手にわかりやすい見出しをつけるための具体的な方法を理解している。 【技能】 ・読み手にわかりやすい見出しにするための具体的な方法を理解し、表現する技能を身に付けている。		
		10月	8	PROGRAM 5 Work Experience	how to ~ 動詞 (lookなど) + 形容詞 [名詞] 動詞 (giveなど) + 人 + もの	【知識】 ・how to ~、<look + 形容詞>、<give + 人 + もの>の意味や働きを理解している。 【技能】 ・how to ~、<look + 形容詞>、<give + 人 + もの>の意味や働きの理解をもとに、やり方、人やものの様子などについて伝え合う技能を身に付けている。	・相談にきた人の悩みを解決するために、悩んでいる内容を理解し、実行しやすいアドバイスを伝えている。	・相談にきた人の悩みを解決するために、悩んでいる内容を理解し、実行しやすいアドバイスを伝えようとしている。
2学期期末		11月	8	PROGRAM 6 High-Tech Nature	比較級 最上級 as ~ as ...	【知識】 ・比較表現の意味や働きを理解している。 【技能】 ・比較表現の意味や働きの理解をもとに、身近な事柄について自分の考えを伝え合う技能を身に付けている。	・自分の考えや気持ちが相手に伝わるように、自分が取り組みそうな省エネ対策について、現状と比較しながらわかりやすく伝えている。	・自分の考えや気持ちが相手に伝わるように、自分が取り組みそうな省エネ対策について、現状と比較しながらわかりやすく伝えようとしている。

2学期制	3学期制	月	配当 時数	単元名	言語材料	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後 期 中 間 （ 続 き）	2 学 期 期 末 （ 続 き）	11 月	1	Power-Up 4 メールで近況 報告をしよう	メールで使う表現 （過去形）	【知識】 ・メール文で使う表現や時間制を理解している。 【技能】 ・メール文で使う表現や時間制の理解をもとに、受信したメールの概要を読み取る技能を身に付けている。	・自分の近況を相手に伝えるために、最近の出来事について自分の感想などを含めながら、簡単な語句や文などを用いてまとまりのある文章を書いている。	・自分の近況を相手に伝えるために、最近の出来事について自分の感想などを含めながら、簡単な語句や文などを用いてまとまりのある文章を書こうとしている。
		12 月	1	Step 4 相手にわかり やすい説明を しよう	相手が知らない事柄についてわかりやすく説明するためのポイント	【知識】 ・わかりやすい説明に必要な要素や、説明する順序を理解している。 【技能】 ・わかりやすい説明に必要な要素や、説明する順序を理解し、相手が知らない事柄について簡単な語句や文を用いて伝える技能を身に付けている。		
		12 月	4	Our Project 5 日本のおすす めスポットを 紹介しよう	（これまでの復習）	【知識】 ・既習の言語材料の意味や働きを理解している。 【技能】 ・既習の言語材料の意味や働きの理解をもとに、日本のおすすめスポットについて書く技能を身に付けている。	・日本に住む外国人の人たちにおすすめスポットの魅力が伝わるように、効果的な見出しをつけたり、説明文の順序に工夫をしたりしながらグループでポスターを作成している。	・日本に住む外国人の人たちにおすすめスポットの魅力が伝わるように、効果的な見出しをつけたり、説明文の順序に工夫をしたりしながらグループでポスターを作成しようとしている。
		12 月	4	Reading 2 Friendship beyond Time and Borders	（これまでの復習）	【知識】 ・時間の経過や人物の心情を表す表現を理解している。 【技能】 ・時間の経過や人物の心情を表す表現の理解をもとに、トルコと日本の友情関係について、概要や要点を読み取る技能を身に付けている。	・トルコと日本間の友好関係について理解するために、トルコと日本に関する英文を読んで、概要や要点を捉えている。 ・自分の考えを伝えるために国と国が友好関係を築くために大切なことについて理由も含めて簡単な語句や文などを用いて書いている。	・トルコと日本間の友好関係について理解するために、トルコと日本に関する英文を読んで、概要や要点を捉えようとしている。 ・自分の考えを伝えるために国と国が友好関係を築くために大切なことについて理由も含めて簡単な語句や文などを用いて書こうとしている。
後 期 期 末	学 年 末	1 月	8	PROGRAM 7 Unique Animals	likeを使う比較表現 teach [tell] +人+how to ~	【知識】 ・likeを使う比較表現や<teach [tell] +人+how to ~>の意味や働きを理解している。 【技能】 ・likeを使う比較表現や<teach [tell] +人+how to ~>の意味や働きの理解をもとに、自分の考えを伝えたり、何かの仕方をたずねたりする技能を身に付けている。	・クイズ大会で高得点を得るために、動物の特徴についてわかりやすい語句や表現を使って順序も考慮しながら書いている。	・クイズ大会で高得点を得るために、動物の特徴についてわかりやすい語句や表現を使って順序も考慮しながら書こうとしている。
		2 月	8	PROGRAM 8 A Hope for Lasting Peace	受け身	【知識】 ・受け身の意味や働きを理解している。 【技能】 ・受け身の意味や働きの理解をもとに、身の回りのものについて伝える技能を身に付けている。	・自分が好きなキャラクターについて相手にわかってもらえるように、由来や好きな理由など、さまざまな情報をまとめて詳しく伝えている。	・自分が好きなキャラクターについて相手にわかってもらえるように、由来や好きな理由など、さまざまな情報をまとめて詳しく伝えようとしている。
		2 月	1	Power-Up 5 飛行機のアナ ウンスを聞こ う	空港や飛行機内での英語表現	【知識】 ・空港アナウンスで使われる表現や、運行状況や到着地の天候についての表現を理解している。 【技能】 ・空港アナウンスで使われる表現や、運行状況や到着地の天候についての表現を聞き取る技能を身に付けている。		

2学期制	3学期制	月	配当 時数	単元名	言語材料	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後 期 期 末 （ 続 き）	学 年 末 （ 続 き）	2 月	1	Step 5 説得力のある 説明をしよう	客観的な事実や具体的 な理由をまじえた説明 のポイント	【知識】 ・客観的事実や具体的な理由を述べ るなど、説得力のある説明の仕方を 理解している。 【技能】 ・客観的事実や具体的な理由を述べ るなど、説得力のある説明をする技 能を身に付けている。		
		3 月	4	Our Project 6 My Heroの 魅力を 伝えよう	（これまでの復習）	【知識】 ・既習の言語材料の意味や働きを理 解している。 【技能】 ・既習の言語材料の意味や働きの理 解をもとに、自分が尊敬する人物に ついてのスピーチ原稿を書く技能を 身に付けている。	・自分が尊敬する人物の魅力を伝える ために、その人物に関する情報を 簡単な語句や文を用いて書してい る。	・自分が尊敬する人物の魅力を伝える ために、その人物に関する情報を 簡単な語句や文を用いて書こうとし ている。
		3 月	4	Reading 3 Apollo 13	（これまでの復習）	【知識】 ・場面や登場人物の心情を表す表現 を理解している。 【技能】 ・場面や登場人物の心情を表す表現 の理解をもとに、アポロ13号が当時 おかれていた状況と乗組員の心情を 時系列にそって読み取る技能を身に 付けている。	・アポロ13号の帰還を可能にしたも のは何かを理解するために、アポロ 13号に関する英文を読んで、概要や 要点をとらえている。 ・アポロ13号に関する英文を読んで 自分が感じたり、考えたりしたこ とを相手に伝えるために、理由も含 めて簡単な語句や文で書いている。	・アポロ13号の帰還を可能にしたも のは何かを理解するために、ア +C13:128ポロ13号に関する英文を読 んで、概要や要点をとらえようと している。 ・アポロ13号に関する英文を読んで 自分が感じたり、考えたりしたこ とを相手に伝えるために、理由も含 めて簡単な語句や文で書こうとし ている。

合計 98 時間

令和7年度 八重山特別支援学校 中学部 特別の教科 道徳 2学年 年間指導計画

配当時間：35時間 担当者： 対象生徒

学校の教育目標:幼児児童生徒一人一人の特性や発達段階に応じた教育を行い、学びの連続性を重視し、個々の能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し社会参加できる人間の育成を目指す。

中学部目標:①決まりを守り最後まで頑張る生徒。 ②素直で思いやりを持ち、みんなと協力する生徒。 ③健康で明るく、すすんで挨拶ができる生徒。

月	教材名		内容項目		主題名	ねらい	主な発問(◎は中心発問)	評価のポイント (□ねらいについて、◇指導方法について)	各教科等
4月 (3時間)	1	自分の弱さと戦え	D-(22)	よりよく生きる喜び	自分の弱さの克服	自らの弱さを自覚し、それを克服しようとする強さをもって、人間として気高く生きようとする態度を育む。	○「自分の弱さと戦え」とはということだと思うか。 ○国枝さんが当初、勝てなかったのはなぜだろう。 ○クインさんは、なぜ「俺は最強だ！」と叫ばせたのだろう。 ◎国枝さんが、精神面で殻を破るために必要だったことはなんだろう。 ○自分の弱さを克服するために、どんなことが大切か考えてみよう。	□自分の弱さや醜さを克服し、強さや気高さに変える思いをもとうとする発言や記述が見られたか。 ◇教材をとおして多面的・多角的な視点で議論させることができたか。	保健体育, 総合的な学習の時間
	2	おばちゃんのがくれた「おまじない」	C-(13)	勤労	働くということ	働く喜びを得て自分の仕事に誇りをもつことが充実した生き方につながることを理解して、主体的に将来の生き方を考えようとする実践意欲を育てる。	○「働く」と聞いて、どんなことをイメージするか。 ○今まで雑に仕事をしてきたことに愕然としたとき、「私」はどんなことを考えただろう。 ○おばちゃんがなくなり、病院中に響き渡るほど大声で泣いたとき、「私」はどんな思いだっただろう。 ◎「私」は、おばちゃんがかけてくれたおまじないはどう向き合ってきたのだろう。 ○将来就くであろう職業に、どんなことを求めているのかを考えてみよう。	□働く喜びや自分の仕事への誇り、充実感の面から仕事について理解し、自分なりに将来の生き方を考えようとする発言や記述が見られたか。 ◇「私」の心情の変化と生徒の勤労観とが結びつくように問かけ、将来の生き方について多面的・多角的に考えさせることができたか。	総合的な学習の時間, 特別活動
	3	挨拶は言葉のスキンシップ	B-(7)	礼儀	心を形に	心と形が一つになった礼儀や作法の意義に気づき、相手を尊重する心を込めて、形に表していこうとする態度を養う。	○「私」はどうして職場体験学習に積極的になれなかったのだろう。また、「私」はどんな気持ちで職場体験学習に臨んでいたのだろう。 ○店長さんに「お客様にどんなときに喜んでもらったの？」と聞かれ、なぜ「私」は答えることができなかったのだろう。 ◎店長さんが「私」たち二人に伝えたかったのは、どんな思いだろう。 ○心の込もった挨拶をすることがなぜ大切なのだろう。 ○挨拶に込められている心について考えてみよう。	□礼儀が、相手を尊重し敬愛する気持ちにつながり、コミュニケーションの基本になることを理解し、「…の気持ちで挨拶したい。」「形式だけの挨拶にならないように気をつける。」のような今後の実践につながる前向きな発言や記述が見られたか。 ◇ふだんの自分の挨拶を振り返り、礼儀の意義について深く考えさせることができたか。	国語, 総合的な学習の時間, 特別活動
5月 (3時間)	4	最後のパートナー	D-(19)	生命の尊さ	支え合う生命	生命がかけがえのないものであることを理解し、自他の生命を尊重する心を育て、周りの人と支え合って生きること感謝する心情を養う。	○盲導犬はどのように育てられるか、知っているか。 ○「もうすぐ死ぬとわかっている犬をなぜ預かるの。」と尋ねられたとき、西田さんはどんなことを考えたのだろう。 ○西田さんは、松尾さんの手紙からどんな気持ちを受け取ったのだろう。 ◎「もう、引退犬には関わりたくない。」と思っていた西田さんが、ボランティアを続けていこうと思ったのは、なぜだろう。 ○自分の周りにある支え合う生命について、考えたことをまとめてみよう。	□周りの人たちや動植物が互いに支え合っているといった生命の尊さに関わる発言や記述が見られたか。 ◇生命の尊さ、生命のつながりや支え合い、人間や動植物なども同じ生命であるということを、教材提示や発問によって多面的・多角的に考えさせることができたか。	理科, 総合的な学習の時間
	5	五月の風—カナ—	A-(1)	自主, 自律, 自由と責任	自分を信じて	周囲に惑わされず、自分で考え決めたことを大切にし、誠実に実行していこうとする判断力を育成する。	○「五月の風」と聞いて、どんな風をイメージするか。 ○カナは一人でミカたちを待っているとき、どんな気持ちだっただろう。 ○カナはその日の夜、部屋で一人になったとき、どんなことを考えていただろう。 ◎カナはペランダにいたとき、次の日ミカに会って、何を伝えようと考えていたのだろう。 ○自分で考え行動するとき、大切なことについて考えてみよう。	□周囲に惑わされず、自分で考え決めたことを大切にし、誠実に実行することについて、自分なりに考えた発言や記述が見られたか。 ◇共感的に考えさせながら、自分の意思に従って行動しようとするカナの考え方に気づかせることができたか。	技術・家庭, 特別活動

月	教材名		内容項目		主題名	ねらい	主な発問(◎は中心発問)	評価のポイント (□ねらいについて、◇指導方法について)	各教科等
	6	五月の風—ミカ—	B-(8)	友情, 信頼	本当の友達	友達からの信頼に対して誠実に応え, 互いに励まし合い, 高め合う本当の友達になろうとする実践意欲を育てる。	○ミカがカナに連絡しなかったことについて, どんな問題が考えられるだろう。 ○カナからの電話で, ミカの胸がドキドキして, カナの心細そうな声が耳から離れなかったのはなぜだろう。 ◎ミカが「私はカナの信頼に応えていない。」と思ったのはなぜなのかを話し合おう。 ○相手にとって本当の友達になるためには, どんなことが大切だと思うか, まとめてみよう。	□信頼し合える本当の友達とはどんな友達かを考え, よりよい友人関係を築いていこうとする発言や記述が見られたか。 ◇問題解決的な学習をとおして, 互いに励まし合い, 高め合う本当の友達について考えさせることができたか。	技術・家庭, 総合的な学習の時間, 特別活動
6 月 (4 時間)	7	リスペクト アザース	C-(11)	公正, 公平, 社会正義	個性を尊重する社会	他者の個性と人権を尊重する大切さに気づき, 差別や偏見のない社会の実現に努めようとする実践意欲を育む。	○「食のタブー(牛)(豚)」について知っているか。 ○人間関係のトラブルが起こり, 行動への注意ではなく「他の人のことを尊重しなさい」と言われたとき, 「僕」はどんなことを考えただろう。 ○日本に来て, これまでのサンディエゴでの常識が通用しなかったとき, 「僕」はどう考えたのだろう。 ◎「僕」はどんな思いから「人権尊重の社会を作っていくのは, 僕たちひとりひとりの考え方による」と言うのだろう。 ○差別や偏見を生む原因はどんなところにあるだろう。いろいろな角度から考えてみよう。	□「他の人のことを尊重する」という考え方をとおして, 歴史的な背景, 風土などを踏まえてアメリカと日本の考え方を比べ, 公正, 公平な社会をめざし, よりよい生き方, 考え方を模索するような発言や記述が見られたか。 ◇考え方の違いを比較, 整理することをおして, 生徒一人ひとりのよりよい生き方につながるように考えさせることができたか。	社会, 特別活動
	8	名乗り出なかった友	B-(6)	思いやり, 感謝	さりげない優しさ	相手の立場を尊重したさりげない親切やいたわりの行動が多様な感謝を生むことを理解し, 潤いのある温かな人間関係を築こうとする態度を養う。	○地域の高齢者などに, 思いやりのある行動をとった経験はあるか。 ○全校集会で友達三人の顔を見ることができなかった「僕」の心の内は, どんなものだろう。 ◎一か月後の朝会で, 初めて「僕」の胸に熱いものが込み上げてきたのは, どうしてだろう。 ○「僕」が「今度は僕の番だ。」と思ったのは, 何を感じたからだろう。 ○思いやりのある行動をするために, 大切なことはなんだろう。	□さりげない思いやりの心と感謝の心をもつ大切さについて発言や記述が見られたか。 ◇「僕」の思いだけでなく, お年寄りの女性や多くの人の思いから多面的・多角的に考えさせることができたか。	社会, 総合的な学習の時間, 特別活動
	9	戦争取材する	A-(5)	真理の探究, 創造	真実を追い求める	真理や真実を求めることでよりよい社会が実現されることを理解し, 理想の実現をめざして, よりよく生きようとする実践意欲を育てる。	○「戦争」や「紛争地」と聞いてどんな状況を思い浮かべるか。また, 山本さんの写真を見てどんなことを感じるか。 ○ジャーナリストの仕事を選んだ山本さんに対して, あなたはどう感じただろう。 ○医師の活躍を見て, 山本さんが自分をちっぽけな存在だと感じたのはどうしてだろう。 ○息子をなくした父親からの感謝の言葉を聞いて, 山本さんはどんなことに気づいたのだろう。 ◎山本さんが厳しい紛争地帯で仕事を続けたのは, どんな思いからだろう。 ○真実を追い求めようとするとき, どんなことが大切だろう。	□山本さんの悩みを自分との関わりで考え, 真実を明らかにし, 理想の実現に向かってよりよく生きようとする発言や記述が見られたか。 ◇問い返しの発問などから, 真実を明らかにする価値を深く考えさせることができたか。	社会, 総合的な学習の時間
	10	海と空—樫野の人々—	C-(18)	国際理解, 国際貢献	国際社会の一員	同じ世界に生きる人間として, 国や時代を超えて助け合う重要性を理解し, 世界平和と人類の発展に貢献しようとする実践意欲を育てる。	○トルコは, どんな国なのだろう。 ○「私」がどうしても樫野に行きたかったのは, なぜだろう。 ○エルトゥールル号の人々を救助した樫野の人々の思いは, どんなものだったのだろう。 ◎「海と空」をつなぐ水平線と同じように, 二つの救援活動をつなぐものとはなんだろう。 ○国際人として生きていくために, 私たちはどんなことを大切にすればよいだろう。	□「同じ人間として他国と尊重し合うことが大切である。」「国際人としてこんな生き方をしたい。」といった発言や記述が見られたか。 ◇板書や発問などから教材中の行為や心情について深く考えさせることができたか。	社会, 総合的な学習の時間

月	教材名		内容項目		主題名	ねらい	主な発問(◎は中心発問)	評価のポイント (□ねらいについて、◇指導方法について)	各教科等
7月 (2時間)	11	美しい鳥取砂丘	C-(10)	遵法精神, 公德心	規則の役割	互いに住みよい社会をめざす精神の大切さを理解し, 調和と規律を保つための法やきまりを進んで守ろうとする態度を育てる。	○私たちはなぜ, 何を求めて観光をするのだろうか。 ○「美しい鳥取砂丘」では何が問題になっているのか, 考えてみよう。 ○落書きをしている人は, どんな気持ちで落書きをしているのだろうか。 ◎落書きの問題を解決するためには, どんな考え方が大切だろう。そう考えた理由も含めてグループで話し合おう。 ○公共の施設や場所を大切にするために, 私たちにはどんなことができるか考えてみよう。	□社会には法やきまりが守られない状況があるが, 知恵を出し合って粘り強くよい方向に改善していこうとする視点での発言や記述が見られたか。 ◇話し合いを深めるなかで, 「なぜ規則が守られないのか。」「どうすれば少しでもよいほうに改善できるのか。」といった意見を, 多面的・多角的な視点から出させることができたか。	社会, 理科, 特別活動
	12	和樹の夏祭り	C-(16)	郷土の伝統と文化の尊重, 郷土を愛する態度	地域の伝統の大切さ	地域の伝統と文化を形成, 維持するのは自分たちであるという自覚をもって, 郷土の発展に努めようとする実践意欲を育てる。	○みんなが考える「この町の誇り」とはなんだろう。 ○和樹は, なぜ祭りが大好きなのだろう。 ○地域の夏祭りの中止を聞いて, 和樹はどんなことを考えただろう。 ○「楽しんでるか?」という剛に「それは, こっちのセリフじゃ。」と返した和樹は, どんなことを考えていただろう。 ◎「俺らの祭り」という一言が, 和樹の心に引っかかったのはなぜだろう。 ○地域の伝統を絶やさないために必要なことはなんだろう。	□地域社会の一員として, 郷土の発展に努めようとする発言や記述があったか。 ◇生徒自身が生活する地域社会を想起させ, その中での自己の生き方を考えさせることができたか。	社会, 総合的な学習の時間, 特別活動
9月 (4時間)	13	ハイタッチがくれたもの	C-(15)	よりよい学校生活, 集団生活の充実	私たちがつくる校風	集団で協力し合う大切さに気づき, 狭い仲間意識を超え, よりよい校風をつくらうとする実践意欲を育てる。	○「いじめゼロサミット」とは, どんな取り組みなのだろう。 ○生徒会のみんなへ呼びかけても誰も賛成してくれなかったとき, 裕司はどんな気持ちになっただろう。 ○「みんな大切な仲間だ。」と感じた裕司は, どんなことに気づいたのだろうか。 ◎裕司が, もう一度, ハイタッチを提案しようと決心できたのは, どんな思いからだろう。 ○学校のおよさや伝統を後輩たちに伝えていくには, どうしたらよいだろう。	□自己中心的な考えや狭い仲間意識を超え, 互いに理解し協力し合ってよい学校をつくるのが大切だといった発言や記述が見られたか。 ◇問い返しや補助発問などから, 多面的・多角的に深く考えさせることができたか。	特別活動
	14	ヨシト	C-(11)	公正, 公平, 社会正義	いじめへの公正な態度	同調圧力に流され差別や偏見を傍観してしまう人間の弱さに気づき, 集団の一人として差別や偏見を許さず正義を実現しようとする態度を育てる。	○「空気が読めない」という表現を, どんなときに使っているか。 ○「ヨシト」では何が問題になっているのか, 考えてみよう。 ○タカフミに言えなかったときの「僕」と, ヨシトにティッシュを渡したときの「僕」の違いを考えてみよう。 ◎人はなぜ, 自分と異なる人を排除しようとすることがあるのだろうか。上で考えたことをもとに, どんな考え方が大切かグループで話し合おう。 ○公正な態度を貫くために大切なことについてまとめてみよう。	□自分の学校生活などを振り返って, 偏った見方や考え方によって生じている不公平に気づき, それらをなくすよう努力していこうとする発言や記述が見られたか。 ◇発問構成や問題解決的な学習によって, 正義と公正さを重んじ, 不公平を許さない「僕」の姿に共感させることができたか。	特別活動
	15	ネット将棋	A-(1)	自主, 自律, 自由と責任	責任ある言動	誠実に行動することの大切さを理解し, 自主的に行動して, その結果に責任をもとうとする態度を育てる。	○将棋の終わり方を知っているか。 ○いやそうな顔もせず駒を片づける敏和を見て, 「僕」はどんなことを思っていただろう。 ○「僕」がネット将棋からいきなりログアウトしたのは, どうしてだろう。 ◎敏和のツッコミに笑えなかった「僕」は, どんなことを考えたのだろうか。 ○インターネット上の責任について考えてみよう。	□善悪の判断を正しく行い, 目には見えない相手であっても誠実に行動しようとする発言や記述が見られたか。 ◇発問や補助発問などから, 多面的・多角的に考えさせることができたか。	保健体育, 技術・家庭, 総合的な学習の時間

月	教材名		内容項目		主題名	ねらい	主な発問(◎は中心発問)	評価のポイント (□ねらいについて、◇指導方法について)	各教科等
	16	樹齢七千年の杉	D-(21)	感動, 畏敬の念	自然の偉大さ	自然の美しさや神秘さ, 偉大さを感じ, 人間の力をはるかに超えたものをおそれ敬おうとする心情を育てる。	<p>○これまで山や海などで「美しいな。大きいな。」と心を打たれた経験はあるか。</p> <p>○樹齢七千年の杉の存在を聞いた「私」は, どう思っただろう。</p> <p>○縄文杉が「七千年の命」を育んできているということから, 「私」はどんなことを思っただろう。</p> <p>◎「死の瞬間まで, 命の火を, ほうほうと燃やす。美しい生き方」とはどんな生き方だろう。</p> <p>○自然の美しさや偉大さに接したとき, どんな思いになるか, 考えてみよう。</p>	<p>□自然のかけがえのなさや偉大さを感じとり, 畏敬の念を深めているような発言や記述があったか。</p> <p>◇感動した体験を想起させたり写真を活用したりすることで, 生徒自身に関わりのあることとして考えさせることができたか。</p>	理科
	17	「自分」ってなんだろう	A-(3)	向上心, 個性の伸長	自己を見つめる	人それぞれにかならず固有のよさがあることを理解し, その発見と自己受容, 自己理解に努め, 自分らしく生きようとする態度を育む。	<p>○あなたのよいところを考えてみよう。</p> <p>○グループになって, 自分以外の人のよいところを「言葉のプレゼント」として書こう。</p> <p>○自分への「言葉のプレゼント」を, みんなから言ってもらおう。</p> <p>○『「自分」ってなんだろう』を読み, 自分が「宝石になる」ために大切にしたいことを書き出してみよう。</p> <p>◎自分が「宝石になる」ために大切にしたいことはなんだろう。</p> <p>意見を発表し合い, 話し合ってみよう。</p> <p>○自分自身のよさを知ること, これからの自分がどう変わっていきそうか, 考えてみよう。</p>	<p>□自分には自分のよさがあり, 他人にもよさがあることを発見して, 自分に自信をもとうとする発言や記述が見られたか。</p> <p>◇互いのよさを伝え合うことで, 将来に向けて社会に役立つ自分の姿を発見できるように促すことができたか。</p>	美術, 総合的な学習の時間, 特別活動
10月 (4時間)	18	小さな工場の大きな仕事	C-(13)	勤労	社会への貢献	それぞれの職業が社会の発展に貢献していることを理解し, 将来の生き方について考えを深めようとする実践意欲を養う。	<p>○将来, どんな職業に就きたいか。</p> <p>○「僕」は, 自分の家の仕事についてどのように思っていたのだろうか。</p> <p>○職場体験のとき, 「僕」はどんな気持ちで弁当を置いていったのだろうか。</p> <p>◎父の「黒い手が, 誇らしく見えました。」と「僕」が感じたのは, どうしてだろう。</p> <p>○あなたにとって, 「働く」とはどんなことかを考えてみよう。</p>	<p>□自己の資質・能力を生かして社会に貢献することに意味があるといった職業観に関わる発言や記述が見られたか。</p> <p>◇友達との話し合いをとおして「僕」の心情の変化に気づかせ, 深く考えさせることができたか。</p>	理科, 総合的な学習の時間, 特別活動
	19	体験ナースをとおして	D-(19)	生命の尊さ	輝く生命	かけがえのない生命を与えられていることに気づいて感謝し, 自他の生命を尊重しようとする心情を培う。	<p>○「命」とはどんなものか。どんなときに感じるか。</p> <p>○緊張した「私」が病院でナースキャップをつけてもらったとき, 気持ちがキュッと引き締まった。どんな気持ちだったのだろうか。</p> <p>○「私」は赤ちゃんにミルクを与えながら, どんなことを感じたのだろうか。</p> <p>○「私」は, 初めての出産で心細いはずの母親の満面の笑みを見て, どんなことを考えたのだろうか。</p> <p>◎「私」が母から出生の様子を聞いたときの, 胸が「ギュッと締めつけられるような思い」とは, どんな思いだろう。</p> <p>○生命の重さや尊さについて, 考えたことをまとめてみよう。</p>	<p>□生命の尊さを理解し, 生命の尊厳について理解を深めた発言や記述が見られたか。</p> <p>◇発問構成から, 「私」の生命に対する思いに共感させることができたか。</p>	保健体育, 総合的な学習の時間
	20	行動する建築家 坂 茂	C-(12)	社会参画, 公共の精神	社会のためにできること	社会参画の意識を高め, 公共の精神をもってよりよい社会の実現のために貢献しようとする態度を育む。	<p>○東日本大震災後の避難所では, どんな生活が送られていたと思うか。</p> <p>○坂さんは, どんな思いから間仕切りシステムを考案したのだろうか。</p> <p>○建築家としての評価が高まったにもかかわらず, 坂さんの心が晴れなかったのはなぜだろう。</p> <p>◎坂さんは, どんな思いから被災地を飛び回り, ボランティアとして支援活動をしたのだろうか。</p> <p>○あなたはどんなことで社会に貢献しようと思っているだろうか。</p>	<p>□社会に参画することの意義を理解し, 積極的に社会に関わっていこうとする発言や記述が見られたか。</p> <p>◇よりよい社会の実現のためにどのように社会に参画すればよいか, 多面的・多角的に考えさせることができたか。</p>	社会, 数学, 美術, 総合的な学習の時間, 特別活動

月	教材名		内容項目		主題名	ねらい	主な発問(◎は中心発問)	評価のポイント (□ねらいについて、◇指導方法について)	各教科等
11月 (4時間)	21	さよなら, ホストファミリー	C-(17)	我が国の伝統と文化の尊重, 国を愛する態度	私の中の日本	国際社会に生きる日本人としての自覚や, 我が国の伝統と文化への誇りをもち, そのよさを発展させ, 発信していこうとする実践意欲を育てる。	○ニュージーランドについて知っているか。 ○ソニアがニュージーランドに誇りをもっているのは, どうしてだろう。 ○知子が, ソニアに対抗するように日本を大切に思うようになったのは, どんな気持ちからだろう。 ◎ソニアの考え方に触れ, 知子が日本人としての意識を深めていったのはなぜだろう。 ○生活の中にある日本の伝統や文化を伝えていくためには, どんなことが大切だろう。	□国際社会に生きる日本人としての自覚を深め, 日本のよさの理解や伝統と文化の継承に努めようとする発言や記述が見られたか。 ◇知子と生徒自身の姿が重ね合わさるように, 知子の生き方をおして深く考えさせることができたか。	社会, 外国語, 総合的な学習の時間
	22	夜のくだもの屋	B-(6)	思いやり, 感謝	思いやりへの感謝	人間は多くの人々のさりげない善意や思いやりによって支えられ, 守られていることに気づき, それに感謝しようとする態度を育てる。	○暗い夜道を一人で歩くときはどんな気持ちだろう。 ○くだもの屋のあかりを見たときの少女は, どんな気持ちだっただろう。 ○見舞いの品を買いに行ったときに, 少女が思わず息をのんだのはどうしてだろう。 ◎少女が, 「ふたたび, 声もなかった。」のはどうしてだろう。 ○人の思いやりに気づくには何が大切だろう。	□周りの人の優しさや思いやりに気づき, それに感謝する発言や記述があったか。 ◇登場人物の思いを多面的・多角的に深く考えさせることができたか。	国語, 音楽, 特別活動
	23	初心	A-(4)	希望と勇気, 克己と強い意志	初心に戻る	目標や希望をもった当初の志の大切さを理解し, その達成をめざして, 困難などがあっても強い意志でやり遂げようとする実践意欲を育てる。	○井上康生さんについて知っていることを挙げよう。 ○父に「僕は柔道をするために生まれてきたと思う。」と言った康生さんは, どのような気持ちだったのだろう。 ○大会で畳にたたきつけられたとき, 康生さんはどのような気持ちだったのだろう。 ○康生さんはどのような思いで「これからの康生を見てください。」と心の中で答えたのだろう。 ◎表彰台で母の遺影を掲げたとき, 康生さんはどんなことを考えていたのだろう。 ○「初心に戻る」ためには, どんなことが大切なのだろう。	□目標達成のために努力したり困難を乗り越えたりすることの意義について, 発言や記述が見られたか。 ◇問い返しの発問などから, 多面的・多角的に深く考えさせることができたか。	社会, 保健体育, 特別活動
	24	ライバル	B-(8)	友情, 信頼	真の友情	生涯にわたる尊敬と信頼に支えられた真の友情について深く理解し, 互いに認め, 高め合う友情を育もうとする態度を育てる。	○ライバルとは, どういう存在だろう。 ○啓介が康夫の見舞いになかなか行けなかったのは, どんな気持ちだったからだろう。 ○見舞いに来た啓介に対し, 康夫がつらくあたってしまったのはなぜだろう。 ◎「このままではいけない」と考えた康夫が, 啓介に対して伝えたかった思いとは, どんなことだろう。 ○康夫からの手紙を読んだ啓介は, どんな内容の返事を書いただろう。 ○真の友情とは, どんなものだろう。	□啓介と康夫の心の葛藤に共感し, 真の友情について深く考えているような姿勢が, 発言や記述に見られたか。 ◇ロールレタリング(役割を交換して手紙を書く手法)などを効果的に取り入れて, 啓介と康夫の葛藤に共感させることができたか。	保健体育, 特別活動
12月 (2時間)	25	オーストリアのマス川	C-(10)	遵法精神, 公德心	規則を守る	規則は幸福な社会を実現するためにあることを理解し, それを遵守しようとする判断力を育む。	○世の中には, どんな規則があるか。また, そのきまりは必要だと思うか。 ○最初にニジマスが釣れたときの「僕」は, どんな気持ちだっただろう。 ○グレーリングを釣ったときの「僕」は, どんな気持ちだっただろう。 ◎釣った魚を川に放つとき, 「僕」はどんなことを考えたのだろう。 ○なぜ規則を守らなければならないのだろう。	□規則の必要性や守らないことによる影響を, 自分の生活の問題として考えているような発言や記述が見られたか。 ◇「僕」のさまざまな心情や葛藤する気持ちに共感させながら, 「私」を大切にしながらも「公」を多面的・多角的に考えさせることができたか。	社会, 外国語, 特別活動

月	教材名		内容項目		主題名	ねらい	主な発問(◎は中心発問)	評価のポイント (□ねらいについて、◇指導方法について)	各教科等
	26	よみがえれ、えりもの森	D-(20)	自然愛護	自然環境を守る	人間は自然界のつながりの中で多くの恩恵を受けていることを理解し、そのありがたさに感謝するとともに、自然を守り大切にしようとする態度を育む。	○自然のすごさや素晴らしさを感じたことがあるか。 ○「おれたちの手で、海とふるさとを、よみがえらせるべ。」と常雄さんが決意したのはなぜだろう。 ○さまざまな困難に直面したとき、常雄さんたちはどんなことを思っただろう。 ◎「えりもの人たちの森づくりは、おわらない。」に込められた筆者の思いを考えてみよう。 ○自然とどう関わっていくことが大切だろうか。自分にできることを具体的に考えてみよう。	□人間が自然界のつながりの中で生かされていることに気づき、自然を守り行動しようとする発言や記述が見られたか。 ◇問い返しの発問などから自然と人間の関係について深く考えさせることができたか。	理科, 総合的な学習の時間
1月 (3時間)	27	ダショー・ニシオカ	C-(18)	国際理解, 国際貢献	真の国際協力	それぞれの国の伝統と文化に各国民が誇りをもっていることを理解し、日本人として国際協力を積極的に行おうとする実践意欲を培う。	○西岡さんはどんな思いで、ヒマラヤの国々で仕事をすることを希望したのだろう。 ○ブータンの人々に新しい農業のやり方が受け入れられなかったとき、西岡さんはどんなことを考えていたのだろう。 ○シテムガンの開発のために、八百回もの話し合いを重ねた西岡さんの粘りは、どこからきたのだろう。 ◎西岡さんはどんな思いで「国際協力とは、一時的な物の援助であってはならない。」と考えたのだろう。 ○国際協力を行うには、どんな姿勢が必要だろう。	□国際協力とは、一時的な物資の援助ではなく、その国が自立して成長していけるように継続的かつ相互理解に基づいた双方向的なものでなければならないことについて考え、日本人として国際協力を積極的に行おうとする発言や記述が見られたか。 ◇異文化を理解する・理解してもらうには時間と労力が必要であり、相手の立場で考えることが不可欠であることに気づくよう指導できたか。	社会, 外国語
	28	コトコの涙	B-(9)	相互理解, 寛容	わかり合うこと	人にはさまざまな考え方があることを理解し、自分の考えを伝えつつ、わかり合い、他者に学ぼうとする謙虚な態度を育てる。	○高齢化や少子高齢社会について知っているか。 ○コトコが笹岡さんに声をかけたのは、どんな考えからだろう。 ○マサシが怒ったことに対し田島さんから慰められ、涙をぬぐったコトコはどんな気持ちだったのだろう。 ◎しばらく止まることがなかったコトコの涙には、どんな意味があるのだろう。 ○田島さんの話を聞いたコトコは、今後、笹岡さんにどのように接するだろう。 ○人とわかり合うために、大切にすべきことはなんだろう。	□自分の考えを伝えつつ、わかり合い、他者に学ぼうとする大切さに気づいているような発言や記述があったか。 ◇生徒の意見を取り上げて問い返すことによって、話し合いを深めることができたか。	総合的な学習の時間
	29	門掃き	C-(12)	社会参画, 公共の精神	美しいしきたり	社会連帯の根底にある相互扶助や思いやりの心を理解し、よりよい社会を生み出す主体者として行動しようとする態度を養う。	○地域に、風習やしきたりがあるか。どのようなものか。 ○「ちゃんとお隣さんとの境も掃くんやで！ 挨拶もしてな！」と母から言われたときの「僕」の気持ちを考えよう。 ○加藤さんの凛とした姿を見て、「僕」はどんなことを考えただろう。 ◎「僕」が「門掃き」とおして気づいたのはどんなことだったのだろう。 ○身近にできる目配り、気配りにどんなものがあるだろう。	□「門掃き」に込められた社会連帯の大切さについて深く考えているような発言や記述が見られたか。 ◇他者との助け合い、目配り、気配り、社会連帯についての発言や感想を引き出すことができたか。	社会, 数学, 特別活動
2月 (4時間)	30	避難所にて	A-(2)	節度, 節制	調和のある生活	調和のある生活や節制を心がけるために、周りの人の生活を見つめることで自分の生活を見直し、思慮深く内省しようとする実践意欲を養う。	○(震災時の避難所の写真を見せて)これはなんの写真だと思うか。 ○「よろずボランティア相談所」に居づらくなって、「私」たちがその場を離れたのはなぜだろう。 ○弟がポリタンクを運んでいる姿に、「私」が心を揺さぶられたのはなぜだろう。 ◎「私」たち三人が避難所の皆さんへの貼り紙で伝えたかったのはどんなことだろう。 ○調和のある充実した生活を送るために、大切なことをまとめよう。 ○「しあわせ運べるように」にはどのようなメッセージが込められているだろう。	□周りの人たちが困難な状況を乗り越え生活するために力を合わせていることに気づき、自分もそうした生き方を大切にしていこうとする発言や記述が見られたか。 ◇写真や動画などを提示することで、当時は幼くて何もできなかった人々や、ボランティア活動に従事した人々の思いに共感させることができたか。	技術・家庭, 総合的な学習の時間, 特別活動

月	教材名		内容項目		主題名	ねらい	主な発問(◎は中心発問)	評価のポイント (□ねらいについて、◇指導方法について)	各教科等
3月 (2時間)	31	命を見つめて—猿渡瞳さんの六百四十六日—	D-(19)	生命の尊さ	懸命に生きる	限りある生命を懸命に生きることの大切さを理解し、互いに支え合って生きようとする実践意欲を育てる。	○「生きている」と感じるのは、どんなときか。 ○直美さんから病気のことを聞かされた瞳さんは、どんな気持ちだったろう。 ○医師と治療方針を話し合う瞳さんは、どんなことを考えていたのだろう。 ◎瞳さんの命を支え続けたのは、どんな思いだったのだろう。 ○限りある命を懸命に生きることの素晴らしさについて考えてみよう。	□かけがえのない生命を大切にし、互いに支え合って生きること感謝しようとする発言や記述が見られたか。 ◇瞳さんの状況や作文をもとに、問い返しや深める発問を行い、生命の尊さについて深く考えさせることができたか。	保健体育, 総合的な学習の時間
	32	足袋の季節	D-(22)	よりよく生きる喜び	強く気高く生きる	人間にある弱さや醜さを自覚しながらも、強く気高く、人間として生きる喜びを見いだそうとする態度を深める。	○「私」は日々どのような生活をしていたのだろう。 ○「私」の弱さや醜さが表れている場面を挙げてみよう。 ○上で挙げた場面には、「私」のどんな弱さや醜さが表れているのだろう。 ◎弱さや苦しみを乗り越えていこうとする「私」の生き方から、「人が強く気高く生きる」ということについて考えてみよう。グループで話し合い、自分の考えをまとめよう。 ○おばあさんが「私にくれた心」とはなんだろう。 ○今日の学習から、自分の生き方に今後生かしていきたいことはなんだろう。	□おばあさんの死から、「許しを得られない失敗は人間としてけっしてしない」と考え生きてきた「私」の思いと深い人間性に共感するような発言や記述が見られたか。 ◇問題解決的な学習や心情に共感させる展開によって、前向きに生きようとする考えを深めさせ、人間として後悔はけっしてしないと考えさせる授業構想であったか。	国語
	33	恋する涙	B-(8)	友情, 信頼	友情と好意	真の友情は悩みや葛藤を乗り越えることで培われるものであることを理解し、相手に信頼される自分になろうとする実践意欲を高める。	○恋と聞いて何を思い浮かべるか。 ○友達にうちあげられた「私」の心の中は、どのようなだったのだろう。 ◎●●くんへの思いが「潮がひくようにさめてしまった」という「私」をどう思うか。 ◎「私」が「恋はつぎつぎにミステリーを解きあかしてくれるステキな冒険」と言っている意味を考えてみよう。 ○友達とよりよい関係を築いていくために、どんなことが大切だろう。	□冷静に自分を見つめることで、友情を深めていこうとする発言や記述が見られたか。 ◇受容的な態度で生徒の意見を聞き、心情円盤などを活用することで、全員が参加できる授業を構築できたか。	保健体育, 特別活動
3月 (2時間)	34	包む	C-(17)	我が国の伝統と文化の尊重, 国を愛する態度	日本文化の心	我が国の優れた伝統と文化についての理解を深め、そこに込められた「日本人の心」に気づき、大切にしようとする心情を育てる。	○「ふろしき」はどんなことに使うか、知っているか。 ○筆者は「包む」ということに対して、どのような思いをもっているだろう。 ○筆箱をハンカチで包んでみよう。 ○包めたら近くの人のところへ持っていき、包みをほどいてから、心を込めて渡してみよう。 ◎「包む」という行為は、どんな心の表れなのだろう。包んで渡した体験をもとに話し合おう。 ○包むことを大切に作るほかに、日本の文化の特質として何があるか考えてみよう。	□我が国の伝統と文化のよさに興味をもち、「日本人の心」の奥深さに気づく発言や記述があったか。 ◇ふろしき包みの体験などをとおして、ふろしきのよさを伝統と文化の観点から見つめさせることができたか。	社会, 技術・家庭, 総合的な学習の時間, 特別活動
	35	きいちゃん	C-(14)	家族愛, 家庭生活の充実	家族のきずな	自分も家族にとってかけがえのない存在であることに気づき、家族の一員としての役割を果たそうとする心情を育てる。	○家族は、あなたにとってどんな存在か。 ○きいちゃんがいつもさびしうだったのは、どうしてだろう。 ○きいちゃんは、なぜ「生まれてこなければよかったのに…」と言ったのだろう。 ○結婚式に出られなくなったきいちゃんは、どんな思いでゆかたをぬい続けたのだろう。 ◎きいちゃんが「生んでくれてありがとう。」とお母さんに話したのは、なぜだろう。 ○家族を大切にすると、どういうことだろう。	□きいちゃんの心の変化や言動をとおして、きいちゃんの家族のそれぞれの思いを感じとるだけでなく、生徒自身の家族への思いや、将来の家庭生活の在り方に思いをはせている発言や記述があったか。 ◇きいちゃんの心の変化が生き方の変容につながっていったことについて、十分に意見を交換させることができたか。	社会, 技術・家庭

令和7年度 中学部 2年（I課程） 総合的な学習の時間 年間指導計画

単位数 /配当時数	児童生徒	担当者	教科書／副教材
1/35			なし/ワークシート 視覚的教材（写真、PPなど） ICT機器

目標：(知及技)知識及び技能 (思判表力)思考力、判断力、表現力等 (学・人)学びに向かう力・人間性等
 評価：(知・技)知識・技能 (思・判・表)思考・判断・表現 (主学)主体的に学習に取り組む態度

年間目標		(知及技) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題を探究することができる。 (思判表力) 実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。 (学・人) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組み、互いのよさを生かしながら積極的に社会に参画しようとする			
学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期	13	(知及技) 体験的な活動を通して、課題の解決に必要な知識及び技能を身につける。 (思判表力) 身近な生活の中にある課題に気づき、自分なりに考えたり、それをまとめて表現したりできるようにする。	(知・技) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題を探究することができる。 (思・判・表) 実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。	【総合開き】 【クリーンデイ】 【避難訓練】 【交流・共同学習】 【プール清掃】 【キャリアパスポート】 【職場見学・体験】	・総合学習活動に意欲や目標をもつ。 ・清掃活動を通して将来の職業観を養う。 ・防災時の基礎知識や避難方法を理解する。 ・同年代の友達と交流を深める。 ・プールを綺麗にしてプール学習の意欲を高める。 ・自分の将来へ向けて考え、体験する。
2 学期	15	(学・人) 主体的・協働的に取り組む中で、互いの良さに気づき、自ら積極的に他者と関わり合って社会に参画しようとする態度を養う。	(主学) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組み、互いのよさを生かしながら積極的に社会に参画しようとする。	【宿泊学習の事前学習】 【運動会事前・事後学習】 【中高体育校外学習】 【性教育】 【職場見学・体験】 【キャリアパスポート】 【クリーンデイ】	・宿泊学習の日程について見通しをもつ。 ・運動会に向けて日程や内容、自分の役割を知る。 ・学習を振り返り達成感を味わう。 ・自分の将来へ向けて考え、体験する。 ・清掃活動を通して将来の職業観を養う。
3 学期	7			【クリーンデイ】 【職場見学】 【交流共同学習】 【キャリアパスポート】	・清掃活動を通して将来の職業観を養う。 ・就業への興味や関心を持ち、意欲を育てる。 ・同年代の友達と交流を深める。 ・自分の将来へ向けて考えることができる。
留意 点 引継ぎ等					

令和7年度 八重山特別支援学校 中学部 特定の教科 道徳 2学年 年間指導計画

配当時間：35時間 担当者： 対象生徒

学校の教育目標:幼児児童生徒一人一人の特性や発達段階に応じた教育を行い、学びの連続性を重視し、個々の能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し社会参加できる人間の育成を目指す。

中学部目標:①決まりを守り最後まで頑張る生徒。 ②素直で思いやりを持ち、みんなと協力する生徒。 ③健康で明るく、すすんで挨拶ができる生徒。

月	教材名	内容項目	主題名	ねらい	主な発問(◎は中心発問)	評価のポイント (□ねらいについて、◇指導方法について)	各教科等		
4月 (3時間)	1	自分の弱さと戦え	D-(22)	よりよく生きる喜び	自分の弱さの克服	自らの弱さを自覚し、それを克服しようとする強さをもって、人間として気高く生きようとする態度を育む。	○「自分の弱さと戦え」とはということだと思うか。 ○国枝さんが当初、勝てなかったのはなぜだろう。 ○クインさんは、なぜ「俺は最強だ！」と叫ばせたのだろう。 ◎国枝さんが、精神面で殻を破るために必要だったことはなんだろう。 ○自分の弱さを克服するために、どんなことが大切か考えてみよう。	□自分の弱さや醜さを克服し、強さや気高さに変える思いをもとうとする発言や記述が見られたか。 ◇教材をとおして多面的・多角的な視点で議論させることができたか。	保健体育, 総合的な学習の時間
	2	おばちゃんのがくれた「おまじない」	C-(13)	勤労	働くということ	働く喜びを得て自分の仕事に誇りをもつことが充実した生き方につながることを理解して、主体的に将来の生き方を考えようとする実践意欲を育てる。	○「働く」と聞いて、どんなことをイメージするか。 ○今まで雑に仕事をしてきたことに愕然としたとき、「私」はどんなことを考えただろう。 ○おばちゃんがなくなり、病院中に響き渡るほど大声で泣いたとき、「私」はどんな思いだっただろう。 ◎「私」は、おばちゃんがかけてくれたおまじないはどう向き合ってきたのだろう。 ○将来就くであろう職業に、どんなことを求めているのかを考えてみよう。	□働く喜びや自分の仕事への誇り、充実感の面から仕事について理解し、自分なりに将来の生き方を考えようとする発言や記述が見られたか。 ◇「私」の心情の変化と生徒の勤労観とが結びつくように問かけ、将来の生き方について多面的・多角的に考えさせることができたか。	総合的な学習の時間, 特別活動
	3	挨拶は言葉のスキンシップ	B-(7)	礼儀	心を形に	心と形が一つになった礼儀や作法の意義に気づき、相手を尊重する心を込めて、形に表していこうとする態度を養う。	○「私」はどうして職場体験学習に積極的になれなかったのだろう。また、「私」はどんな気持ちで職場体験学習に臨んでいたのだろう。 ○店長さんに「お客様にどんなときに喜んでもらったの？」と聞かれ、なぜ「私」は答えることができなかったのだろう。 ◎店長さんが「私」たち二人に伝えたかったのは、どんな思いだろう。 ○心の込もった挨拶をすることがなぜ大切なのだろう。 ○挨拶に込められている心について考えてみよう。	□礼儀が、相手を尊重し敬愛する気持ちにつながり、コミュニケーションの基本になることを理解し、「…の気持ちで挨拶したい。」「形式だけの挨拶にならないように気をつける。」のような今後の実践につながる前向きな発言や記述が見られたか。 ◇ふだんの自分の挨拶を振り返り、礼儀の意義について深く考えさせることができたか。	国語, 総合的な学習の時間, 特別活動
5月 (3時間)	4	最後のパートナー	D-(19)	生命の尊さ	支え合う生命	生命がかけがえのないものであることを理解し、自他の生命を尊重する心を育て、周りの人と支え合って生きること感謝する心情を養う。	○盲導犬はどのように育てられるか、知っているか。 ○「もうすぐ死ぬとわかっている犬をなぜ預かるの。」と尋ねられたとき、西田さんはどんなことを考えたのだろう。 ○西田さんは、松尾さんの手紙からどんな気持ちを受け取ったのだろう。 ◎「もう、引退犬には関わりたくない。」と思っていた西田さんが、ボランティアを続けていこうと思ったのは、なぜだろう。 ○自分の周りにある支え合う生命について、考えたことをまとめてみよう。	□周りの人たちや動植物が互いに支え合っているといった生命の尊さに関わる発言や記述が見られたか。 ◇生命の尊さ、生命のつながりや支え合い、人間や動植物なども同じ生命であるということを、教材提示や発問によって多面的・多角的に考えさせることができたか。	理科, 総合的な学習の時間
	5	五月の風—カナ—	A-(1)	自主, 自律, 自由と責任	自分を信じて	周囲に惑わされず、自分で考え決めたことを大切に、誠実に実行していこうとする判断力を育成する。	○「五月の風」と聞いて、どんな風をイメージするか。 ○カナは一人でミカたちを待っているとき、どんな気持ちだっただろう。 ○カナはその日の夜、部屋で一人になったとき、どんなことを考えていただろう。 ◎カナはペランダにいたとき、次の日ミカに会って、何を伝えようと考えていたのだろう。 ○自分で考え行動するとき、大切なことについて考えてみよう。	□周囲に惑わされず、自分で考え決めたことを大切に、誠実に実行することについて、自分なりに考えた発言や記述が見られたか。 ◇共感的に考えさせながら、自分の意思に従って行動しようとするカナの考え方に気づかせることができたか。	技術・家庭, 特別活動

月	教材名		内容項目		主題名	ねらい	主な発問(◎は中心発問)	評価のポイント (□ねらいについて、◇指導方法について)	各教科等
	6	五月の風—ミカ—	B-(8)	友情, 信頼	本当の友達	友達からの信頼に対して誠実に応え, 互いに励まし合い, 高め合う本当の友達になろうとする実践意欲を育てる。	○ミカがカナに連絡しなかったことについて, どんな問題が考えられるだろう。 ○カナからの電話で, ミカの胸がドキドキして, カナの心細そうな声が耳から離れなかったのはなぜだろう。 ◎ミカが「私はカナの信頼に応えていない。」と思ったのはなぜなのかを話し合おう。 ○相手にとって本当の友達になるためには, どんなことが大切だと思うか, まとめてみよう。	□信頼し合える本当の友達とはどんな友達かを考え, よりよい友人関係を築いていこうとする発言や記述が見られたか。 ◇問題解決的な学習をとおして, 互いに励まし合い, 高め合う本当の友達について考えさせることができたか。	技術・家庭, 総合的な学習の時間, 特別活動
6 月 (4 時間)	7	リスペクト アザース	C-(11)	公正, 公平, 社会正義	個性を尊重する社会	他者の個性と人権を尊重する大切さに気づき, 差別や偏見のない社会の実現に努めようとする実践意欲を育む。	○「食のタブー(牛)(豚)」について知っているか。 ○人間関係のトラブルが起こり, 行動への注意ではなく「他の人のことを尊重しなさい」と言われたとき, 「僕」はどんなことを考えただろう。 ○日本に来て, これまでのサンディエゴでの常識が通用しなかったとき, 「僕」はどう考えたのだろう。 ◎「僕」はどんな思いから「人権尊重の社会を作っていくのは, 僕たちひとりひとりの考え方による」と言うのだろう。 ○差別や偏見を生む原因はどこにあるだろう。いろいろな角度から考えてみよう。	□「他の人のことを尊重する」という考え方をとおして, 歴史的な背景, 風土などを踏まえてアメリカと日本の考え方を比べ, 公正, 公平な社会をめざし, よりよい生き方, 考え方を模索するような発言や記述が見られたか。 ◇考え方の違いを比較, 整理することをおして, 生徒一人ひとりのよりよい生き方につながるように考えさせることができたか。	社会, 特別活動
	8	名乗り出なかった友	B-(6)	思いやり, 感謝	さりげない優しさ	相手の立場を尊重したさりげない親切やいたわりの行動が多様な感謝を生むことを理解し, 潤いのある温かな人間関係を築こうとする態度を養う。	○地域の高齢者などに, 思いやりのある行動をとった経験はあるか。 ○全校集会で友達三人の顔を見ることができなかった「僕」の心の内は, どんなものだろう。 ◎一か月後の朝会で, 初めて「僕」の胸に熱いものが込み上げてきたのは, どうしてだろう。 ○「僕」が「今度は僕の番だ。」と思ったのは, 何を感じたからだろう。 ○思いやりのある行動をするために, 大切なことはなんだろう。	□さりげない思いやりの心と感謝の心をもつ大切さについて発言や記述が見られたか。 ◇「僕」の思いだけでなく, お年寄りの女性や多くの人の思いから多面的・多角的に考えさせることができたか。	社会, 総合的な学習の時間, 特別活動
	9	戦争取材する	A-(5)	真理の探究, 創造	真実を追い求める	真理や真実を求めることでよりよい社会が実現されることを理解し, 理想の実現をめざして, よりよく生きようとする実践意欲を育てる。	○「戦争」や「紛争地」と聞いてどんな状況を思い浮かべるか。また, 山本さんの写真を見てどんなことを感じるか。 ○ジャーナリストの仕事を選んだ山本さんに対して, あなたはどう感じただろう。 ○医師の活躍を見て, 山本さんが自分をちっぽけな存在だと感じたのはどうしてだろう。 ○息子をなくした父親からの感謝の言葉を聞いて, 山本さんはどんなことに気づいたのだろう。 ◎山本さんが厳しい紛争地帯で仕事を続けたのは, どんな思いからだろう。 ○真実を追い求めようとするとき, どんなことが大切だろう。	□山本さんの悩みを自分との関わりで考え, 真実を明らかにし, 理想の実現に向かってよりよく生きようとする発言や記述が見られたか。 ◇問い返しの発問などから, 真実を明らかにする価値を深く考えさせることができたか。	社会, 総合的な学習の時間
	10	海と空—樫野の人々—	C-(18)	国際理解, 国際貢献	国際社会の一員	同じ世界に生きる人間として, 国や時代を超えて助け合う重要性を理解し, 世界平和と人類の発展に貢献しようとする実践意欲を育てる。	○トルコは, どんな国なのだろう。 ○「私」がどうしても樫野に行きたかったのは, なぜだろう。 ○エルトゥールル号の人々を救助した樫野の人々の思いは, どんなものだったのだろう。 ◎「海と空」をつなぐ水平線と同じように, 二つの救援活動をつなぐものとはなんだろう。 ○国際人として生きていくために, 私たちはどんなことを大切にすればよいだろう。	□「同じ人間として他国と尊重し合うことが大切である。」「国際人としてこんな生き方をしたい。」といった発言や記述が見られたか。 ◇板書や発問などから教材中の行為や心情について深く考えさせることができたか。	社会, 総合的な学習の時間

月	教材名		内容項目		主題名	ねらい	主な発問(◎は中心発問)	評価のポイント (□ねらいについて、◇指導方法について)	各教科等
7月 (2時間)	11	美しい鳥取砂丘	C-(10)	遵法精神, 公德心	規則の役割	互いに住みよい社会をめざす精神の大切さを理解し, 調和と規律を保つための法やきまりを進んで守ろうとする態度を育てる。	○私たちはなぜ, 何を求めて観光をするのだろうか。 ○「美しい鳥取砂丘」では何が問題になっているのか, 考えてみよう。 ○落書きをしている人は, どんな気持ちで落書きをしているのだろうか。 ◎落書きの問題を解決するためには, どんな考え方が大切だろう。そう考えた理由も含めてグループで話し合おう。 ○公共の施設や場所を大切にするために, 私たちにはどんなことができるか考えてみよう。	□社会には法やきまりが守られない状況があるが, 知恵を出し合って粘り強くよい方向に改善していこうとする視点での発言や記述が見られたか。 ◇話し合いを深めるなかで, 「なぜ規則が守られないのか。」「どうすれば少しでもよいほうに改善できるのか。」といった意見を, 多面的・多角的な視点から出させることができたか。	社会, 理科, 特別活動
	12	和樹の夏祭り	C-(16)	郷土の伝統と文化の尊重, 郷土を愛する態度	地域の伝統の大切さ	地域の伝統と文化を形成, 維持するのは自分たちであるという自覚をもって, 郷土の発展に努めようとする実践意欲を育てる。	○みんなが考える「この町の誇り」とはなんだろう。 ○和樹は, なぜ祭りが大好きなのだろう。 ○地域の夏祭りの中止を聞いて, 和樹はどんなことを考えただろう。 ○「楽しんでるか?」という剛に「それは, こっちのセリフじゃ。」と返した和樹は, どんなことを考えていただろう。 ◎「俺らの祭り」という一言が, 和樹の心に引っかかったのはなぜだろう。 ○地域の伝統を絶やさないために必要なことはなんだろう。	□地域社会の一員として, 郷土の発展に努めようとする発言や記述があったか。 ◇生徒自身が生活する地域社会を想起させ, その中での自己の生き方を考えさせることができたか。	社会, 総合的な学習の時間, 特別活動
9月 (4時間)	13	ハイタッチがくれたもの	C-(15)	よりよい学校生活, 集団生活の充実	私たちがつくる校風	集団で協力し合う大切さに気づき, 狭い仲間意識を超え, よりよい校風をつくらうとする実践意欲を育てる。	○「いじめゼロサミット」とは, どんな取り組みなのだろう。 ○生徒会のみんなへ呼びかけても誰も賛成してくれなかったとき, 裕司はどんな気持ちになっただろう。 ○「みんな大切な仲間だ。」と感じた裕司は, どんなことに気づいたのだろうか。 ◎裕司が, もう一度, ハイタッチを提案しようと決心できたのは, どんな思いからだろう。 ○学校のおよさや伝統を後輩たちに伝えていくには, どうしたらよいだろう。	□自己中心的な考えや狭い仲間意識を超え, 互いに理解し協力し合ってよい学校をつくるのが大切だといった発言や記述が見られたか。 ◇問い返しや補助発問などから, 多面的・多角的に深く考えさせることができたか。	特別活動
	14	ヨシト	C-(11)	公正, 公平, 社会正義	いじめへの公正な態度	同調圧力に流され差別や偏見を傍観してしまう人間の弱さに気づき, 集団の一人として差別や偏見を許さず正義を実現しようとする態度を育てる。	○「空気が読めない」という表現を, どんなときに使っているか。 ○「ヨシト」では何が問題になっているのか, 考えてみよう。 ○タカフミに言えなかったときの「僕」と, ヨシトにティッシュを渡したときの「僕」の違いを考えてみよう。 ◎人はなぜ, 自分と異なる人を排除しようとすることがあるのだろうか。上で考えたことをもとに, どんな考え方が大切かグループで話し合おう。 ○公正な態度を貫くために大切なことについてまとめてみよう。	□自分の学校生活などを振り返って, 偏った見方や考え方によって生じている不公平に気づき, それらをなくすよう努力していこうとする発言や記述が見られたか。 ◇発問構成や問題解決的な学習によって, 正義と公正さを重んじ, 不公平を許さない「僕」の姿に共感させることができたか。	特別活動
	15	ネット将棋	A-(1)	自主, 自律, 自由と責任	責任ある言動	誠実に行動することの大切さを理解し, 自主的に行動して, その結果に責任をもとうとする態度を育てる。	○将棋の終わり方を知っているか。 ○いやそうな顔もせず駒を片づける敏和を見て, 「僕」はどんなことを思っていただろう。 ○「僕」がネット将棋からいきなりログアウトしたのは, どうしてだろう。 ◎敏和のツッコミに笑えなかった「僕」は, どんなことを考えたのだろうか。 ○インターネット上の責任について考えてみよう。	□善悪の判断を正しく行い, 目には見えない相手であっても誠実に行動しようとする発言や記述が見られたか。 ◇発問や補助発問などから, 多面的・多角的に考えさせることができたか。	保健体育, 技術・家庭, 総合的な学習の時間

月	教材名		内容項目		主題名	ねらい	主な発問(◎は中心発問)	評価のポイント (□ねらいについて、◇指導方法について)	各教科等
	16	樹齢七千年の杉	D-(21)	感動, 畏敬の念	自然の偉大さ	自然の美しさや神秘さ, 偉大さを感じ, 人間の力をはるかに超えたものをおそれ敬おうとする心情を育てる。	<p>○これまで山や海などで「美しいな。大きいな。」と心を打たれた経験はあるか。</p> <p>○樹齢七千年の杉の存在を聞いた「私」は, どう思っただろう。</p> <p>○縄文杉が「七千年の命」を育んできているということから, 「私」はどんなことを思っただろう。</p> <p>◎「死の瞬間まで, 命の火を, ほうほうと燃やす。美しい生き方」とはどんな生き方だろう。</p> <p>○自然の美しさや偉大さに接したとき, どんな思いになるか, 考えてみよう。</p>	<p>□自然のかけがえのなさや偉大さを感じとり, 畏敬の念を深めているような発言や記述があったか。</p> <p>◇感動した体験を想起させたり写真を活用したりすることで, 生徒自身に関わりのあることとして考えさせることができたか。</p>	理科
	17	「自分」ってなんだろう	A-(3)	向上心, 個性の伸長	自己を見つめる	人それぞれにかならず固有のよさがあることを理解し, その発見と自己受容, 自己理解に努め, 自分らしく生きようとする態度を育む。	<p>○あなたのよいところを考えてみよう。</p> <p>○グループになって, 自分以外の人のよいところを「言葉のプレゼント」として書こう。</p> <p>○自分への「言葉のプレゼント」を, みんなから言ってもらおう。</p> <p>○『「自分」ってなんだろう』を読み, 自分が「宝石になる」ために大切にしたいことを書き出してみよう。</p> <p>◎自分が「宝石になる」ために大切にしたいことはなんだろう。</p> <p>意見を発表し合い, 話し合ってみよう。</p> <p>○自分自身のよさを知ること, これからの自分がどう変わっていきそうか, 考えてみよう。</p>	<p>□自分には自分のよさがあり, 他人にもよさがあることを発見して, 自分に自信をもとうとする発言や記述が見られたか。</p> <p>◇互いのよさを伝え合うことで, 将来に向けて社会に役立つ自分の姿を発見できるように促すことができたか。</p>	美術, 総合的な学習の時間, 特別活動
10月 (4時間)	18	小さな工場の大きな仕事	C-(13)	勤労	社会への貢献	それぞれの職業が社会の発展に貢献していることを理解し, 将来の生き方について考えを深めようとする実践意欲を養う。	<p>○将来, どんな職業に就きたいか。</p> <p>○「僕」は, 自分の家の仕事についてどのように思っていたのだろうか。</p> <p>○職場体験のとき, 「僕」はどんな気持ちで弁当を置いていったのだろうか。</p> <p>◎父の「黒い手が, 誇らしく見えました。」と「僕」が感じたのは, どうしてだろう。</p> <p>○あなたにとって, 「働く」とはどんなことかを考えてみよう。</p>	<p>□自己の資質・能力を生かして社会に貢献することに意味があるといった職業観に関わる発言や記述が見られたか。</p> <p>◇友達との話し合いをとおして「僕」の心情の変化に気づかせ, 深く考えさせることができたか。</p>	理科, 総合的な学習の時間, 特別活動
	19	体験ナースをとおして	D-(19)	生命の尊さ	輝く生命	かけがえのない生命を与えられていることに気づいて感謝し, 自他の生命を尊重しようとする心情を培う。	<p>○「命」とはどんなものか。どんなときに感じるか。</p> <p>○緊張した「私」が病院でナースキャップをつけてもらったとき, 気持ちがキュッと引き締まった。どんな気持ちだったのだろうか。</p> <p>○「私」は赤ちゃんにミルクを与えながら, どんなことを感じたのだろうか。</p> <p>○「私」は, 初めての出産で心細いはずの母親の満面の笑みを見て, どんなことを考えたのだろうか。</p> <p>◎「私」が母から出生の様子を聞いたときの, 胸が「ギュッと締めつけられるような思い」とは, どんな思いだろう。</p> <p>○生命の重さや尊さについて, 考えたことをまとめてみよう。</p>	<p>□生命の尊さを理解し, 生命の尊厳について理解を深めた発言や記述が見られたか。</p> <p>◇発問構成から, 「私」の生命に対する思いに共感させることができたか。</p>	保健体育, 総合的な学習の時間
	20	行動する建築家 坂 茂	C-(12)	社会参画, 公共の精神	社会のためにできること	社会参画の意識を高め, 公共の精神をもってよりよい社会の実現のために貢献しようとする態度を育む。	<p>○東日本大震災後の避難所では, どんな生活が送られていたと思うか。</p> <p>○坂さんは, どんな思いから間仕切りシステムを考案したのだろうか。</p> <p>○建築家としての評価が高まったにもかかわらず, 坂さんの心が晴れなかったのはなぜだろう。</p> <p>◎坂さんは, どんな思いから被災地を飛び回り, ボランティアとして支援活動をしたのだろうか。</p> <p>○あなたはどんなことで社会に貢献しようと思っているだろうか。</p>	<p>□社会に参画することの意義を理解し, 積極的に社会に関わっていこうとする発言や記述が見られたか。</p> <p>◇よりよい社会の実現のためにどのように社会に参画すればよいか, 多面的・多角的に考えさせることができたか。</p>	社会, 数学, 美術, 総合的な学習の時間, 特別活動

月	教材名		内容項目		主題名	ねらい	主な発問(◎は中心発問)	評価のポイント (□ねらいについて、◇指導方法について)	各教科等
11月 (4時間)	21	さよなら、ホストファミリー	C-(17)	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	私の中の日本	国際社会に生きる日本人としての自覚や、我が国の伝統と文化への誇りをもち、そのよさを発展させ、発信していこうとする実践意欲を育てる。	○ニュージーランドについて知っているか。 ○ソニアがニュージーランドに誇りをもっているのは、どうしてだろう。 ○知子が、ソニアに対抗するように日本を大切に思うようになったのは、どんな気持ちからだろう。 ◎ソニアの考え方に触れ、知子が日本人としての意識を深めていったのはなぜだろう。 ○生活の中にある日本の伝統や文化を伝えていくためには、どんなことが大切だろう。	□国際社会に生きる日本人としての自覚を深め、日本のよさの理解や伝統と文化の継承に努めようとする発言や記述が見られたか。 ◇知子と生徒自身の姿が重ね合わさるように、知子の生き方をおして深く考えさせることができたか。	社会、外国語、総合的な学習の時間
	22	夜のくだもの屋	B-(6)	思いやり、感謝	思いやりへの感謝	人間は多くの人々のさりげない善意や思いやりによって支えられ、守られていることに気づき、それに感謝しようとする態度を育てる。	○暗い夜道を一人で歩くときはどんな気持ちだろう。 ○くだもの屋のあかりを見たときの少女は、どんな気持ちだっただろう。 ○見舞いの品を買いに行ったときに、少女が思わず息をのんだのはどうしてだろう。 ◎少女が、「ふたたび、声もなかった。」のはどうしてだろう。 ○人の思いやりに気づくには何が大切だろう。	□周りの人の優しさや思いやりに気づき、それに感謝する発言や記述があったか。 ◇登場人物の思いを多面的・多角的に深く考えさせることができたか。	国語、音楽、特別活動
	23	初心	A-(4)	希望と勇気、克己と強い意志	初心に戻る	目標や希望をもった当初の志の大切さを理解し、その達成をめざして、困難などがあっても強い意志でやり遂げようとする実践意欲を育てる。	○井上康生さんについて知っていることを挙げよう。 ○父に「僕は柔道をするために生まれてきたと思う。」と言った康生さんは、どのような気持ちだったのだろう。 ○大会で畳にたたきつけられたとき、康生さんはどのような気持ちだったのだろう。 ○康生さんはどのような思いで「これからの康生を見てください。」と心の中で答えたのだろう。 ◎表彰台で母の遺影を掲げたとき、康生さんはどんなことを考えていたのだろう。 ○「初心に戻る」ためには、どんなことが大切なのだろう。	□目標達成のために努力したり困難を乗り越えたりすることの意義について、発言や記述が見られたか。 ◇問い返しの発問などから、多面的・多角的に深く考えさせることができたか。	社会、保健体育、特別活動
	24	ライバル	B-(8)	友情、信頼	真の友情	生涯にわたる尊敬と信頼に支えられた真の友情について深く理解し、互いに認め、高め合う友情を育もうとする態度を育てる。	○ライバルとは、どういう存在だろう。 ○啓介が康夫の見舞いになかなか行けなかったのは、どんな気持ちだったからだろう。 ○見舞いに来た啓介に対し、康夫がつかうあたってしまったのはなぜだろう。 ◎「このままではいけない」と考えた康夫が、啓介に対して伝えたかった思いとは、どんなことだろう。 ○康夫からの手紙を読んだ啓介は、どんな内容の返事を書いただろう。 ○真の友情とは、どんなものだろう。	□啓介と康夫の心の葛藤に共感し、真の友情について深く考えているような姿勢が、発言や記述に見られたか。 ◇ロールレタリング(役割を交換して手紙を書く手法)などを効果的に取り入れて、啓介と康夫の葛藤に共感させることができたか。	保健体育、特別活動
12月 (2時間)	25	オーストリアのマス川	C-(10)	遵法精神、公德心	規則を守る	規則は幸福な社会を実現するためにあることを理解し、それを遵守しようとする判断力を育む。	○世の中には、どんな規則があるか。また、そのきまりは必要だと思うか。 ○最初にニジマスが釣れたときの「僕」は、どんな気持ちだっただろう。 ○グレーリングを釣ったときの「僕」は、どんな気持ちだっただろう。 ◎釣った魚を川に放つとき、「僕」はどんなことを考えたのだろう。 ○なぜ規則を守らなければならないのだろう。	□規則の必要性や守らないことによる影響を、自分の生活の問題として考えているような発言や記述が見られたか。 ◇「僕」のさまざまな心情や葛藤する気持ちに共感させながら、「私」を大切にしながらも「公」を多面的・多角的に考えさせることができたか。	社会、外国語、特別活動

月	教材名		内容項目		主題名	ねらい	主な発問(◎は中心発問)	評価のポイント (□ねらいについて、◇指導方法について)	各教科等
	26	よみがえれ、えりもの森	D-(20)	自然愛護	自然環境を守る	人間は自然界のつながりの中で多くの恩恵を受けていることを理解し、そのありがたさに感謝するとともに、自然を守り大切にしようとする態度を育む。	○自然のすごさや素晴らしさを感じたことがあるか。 ○「おれたちの手で、海とふるさとを、よみがえらせるべ。」と常雄さんが決意したのはなぜだろう。 ○さまざまな困難に直面したとき、常雄さんたちはどんなことを思っただろう。 ◎「えりもの人たちの森づくりは、おわらない。」に込められた筆者の思いを考えてみよう。 ○自然とどう関わっていくことが大切だろうか。自分にできることを具体的に考えてみよう。	□人間が自然界のつながりの中で生かされていることに気づき、自然を守り行動しようとする発言や記述が見られたか。 ◇問い返しの発問などから自然と人間の関係について深く考えさせることができたか。	理科, 総合的な学習の時間
1月 (3時間)	27	ダショー・ニシオカ	C-(18)	国際理解, 国際貢献	真の国際協力	それぞれの国の伝統と文化に各国民が誇りをもっていることを理解し、日本人として国際協力を積極的に行おうとする実践意欲を培う。	○西岡さんはどんな思いで、ヒマラヤの国々で仕事をすることを希望したのだろう。 ○ブータンの人々に新しい農業のやり方が受け入れられなかったとき、西岡さんはどんなことを考えていたのだろう。 ○シテムガンの開発のために、八百回もの話し合いを重ねた西岡さんの粘りは、どこからきたのだろう。 ◎西岡さんはどんな思いで「国際協力とは、一時的な物の援助であってはならない。」と考えたのだろう。 ○国際協力を行うには、どんな姿勢が必要だろう。	□国際協力とは、一時的な物資の援助ではなく、その国が自立して成長していけるように継続的かつ相互理解に基づいた双方向的なものでなければならないことについて考え、日本人として国際協力を積極的に行おうとする発言や記述が見られたか。 ◇異文化を理解する・理解してもらうには時間と労力が必要であり、相手の立場で考えることが不可欠であることに気づくよう指導できたか。	社会, 外国語
	28	コトコの涙	B-(9)	相互理解, 寛容	わかり合うこと	人にはさまざまな考え方があることを理解し、自分の考えを伝えつつ、わかり合い、他者に学ぼうとする謙虚な態度を育てる。	○高齢化や少子高齢社会について知っているか。 ○コトコが笹岡さんに声をかけたのは、どんな考えからだろう。 ○マサシが怒ったことに対し田島さんから慰められ、涙をぬぐったコトコはどんな気持ちだったのだろう。 ◎しばらく止まることがなかったコトコの涙には、どんな意味があるのだろう。 ○田島さんの話を聞いたコトコは、今後、笹岡さんにどのように接するだろう。 ○人とわかり合うために、大切にすべきことはなんだろう。	□自分の考えを伝えつつ、わかり合い、他者に学ぼうとする大切さに気づいているような発言や記述があったか。 ◇生徒の意見を取り上げて問い返すことによって、話し合いを深めることができたか。	総合的な学習の時間
	29	門掃き	C-(12)	社会参画, 公共の精神	美しいしきたり	社会連帯の根底にある相互扶助や思いやりの心を理解し、よりよい社会を生み出す主体者として行動しようとする態度を養う。	○地域に、風習やしきたりがあるか。どのようなものか。 ○「ちゃんとお隣さんとの境も掃くんやで！ 挨拶もしてな！」と母から言われたときの「僕」の気持ちを考えよう。 ○加藤さんの凛とした姿を見て、「僕」はどんなことを考えただろう。 ◎「僕」が「門掃き」とおして気づいたのはどんなことだったのだろう。 ○身近にできる目配り、気配りにどんなものがあるだろう。	□「門掃き」に込められた社会連帯の大切さについて深く考えているような発言や記述が見られたか。 ◇他者との助け合い、目配り、気配り、社会連帯についての発言や感想を引き出すことができたか。	社会, 数学, 特別活動
2月 (4時間)	30	避難所にて	A-(2)	節度, 節制	調和のある生活	調和のある生活や節制を心がけるために、周りの人の生活を見つめることで自分の生活を見直し、思慮深く内省しようとする実践意欲を養う。	○(震災時の避難所の写真を見せて)これはなんの写真だと思うか。 ○「よろずボランティア相談所」に居づらくなって、「私」たちがその場を離れたのはなぜだろう。 ○弟がポリタンクを運んでいる姿に、「私」が心を揺さぶられたのはなぜだろう。 ◎「私」たち三人が避難所の皆さんへの貼り紙で伝えたかったのはどんなことだろう。 ○調和のある充実した生活を送るために、大切なことをまとめよう。 ○「しあわせ運べるように」にはどのようなメッセージが込められているだろう。	□周りの人たちが困難な状況を乗り越え生活するために力を合わせていることに気づき、自分もそうした生き方を大切にしていこうとする発言や記述が見られたか。 ◇写真や動画などを提示することで、当時は幼くて何もできなかった人々や、ボランティア活動に従事した人々の思いに共感させることができたか。	技術・家庭, 総合的な学習の時間, 特別活動

月	教材名		内容項目		主題名	ねらい	主な発問(◎は中心発問)	評価のポイント (□ねらいについて、◇指導方法について)	各教科等
	31	命を見つめて—猿渡瞳さんの六百四十六日—	D-(19)	生命の尊さ	懸命に生きる	限りある生命を懸命に生きることの大切さを理解し、互いに支え合って生きようとする実践意欲を育てる。	○「生きている」と感じるのは、どんなときか。 ○直美さんから病気のことを聞かされた瞳さんは、どんな気持ちだったろう。 ○医師と治療方針を話し合う瞳さんは、どんなことを考えていたのだろう。 ◎瞳さんの命を支え続けたのは、どんな思いだったのだろう。 ○限りある命を懸命に生きることの素晴らしさについて考えてみよう。	□かけがえのない生命を大切にし、互いに支え合って生きること感謝しようとする発言や記述が見られたか。 ◇瞳さんの状況や作文をもとに、問い返しや深める発問を行い、生命の尊さについて深く考えさせることができたか。	保健体育, 総合的な学習の時間
	32	足袋の季節	D-(22)	よりよく生きる喜び	強く気高く生きる	人間にある弱さや醜さを自覚しながらも、強く気高く、人間として生きる喜びを見いだそうとする態度を深める。	○「私」は日々どのような生活をしていたのだろう。 ○「私」の弱さや醜さが表れている場面を挙げてみよう。 ○上で挙げた場面には、「私」のどんな弱さや醜さが表れているのだろう。 ◎弱さや苦しみを乗り越えていこうとする「私」の生き方から、「人が強く気高く生きる」ということについて考えてみよう。グループで話し合い、自分の考えをまとめよう。 ○おばあさんが「私にくれた心」とはなんだろう。 ○今日の学習から、自分の生き方に今後生かしていきたいことはなんだろう。	□おばあさんの死から、「許しを得られない失敗は人間としてけっしてしない」と考え生きてきた「私」の思いと深い人間性に共感するような発言や記述が見られたか。 ◇問題解決的な学習や心情に共感させる展開によって、前向きに生きようとする考えを深めさせ、人間として後悔はけっしてしないと考えさせる授業構想であったか。	国語
	33	恋する涙	B-(8)	友情, 信頼	友情と好意	真の友情は悩みや葛藤を乗り越えることで培われるものであることを理解し、相手に信頼される自分になろうとする実践意欲を高める。	○恋と聞いて何を思い浮かべるか。 ○友達にうちあげられた「私」の心の中は、どのようなだったのだろう。 ◎●●くんへの思いが「潮がひくようにさめてしまった」という「私」をどう思うか。 ◎「私」が「恋はつぎつぎにミステリーを解きあかしてくれるステキな冒険」と言っている意味を考えてみよう。 ○友達とよりよい関係を築いていくために、どんなことが大切だろう。	□冷静に自分を見つめることで、友情を深めていこうとする発言や記述が見られたか。 ◇受容的な態度で生徒の意見を聞き、心情円盤などを活用することで、全員が参加できる授業を構築できたか。	保健体育, 特別活動
3月 (2時間)	34	包む	C-(17)	我が国の伝統と文化の尊重, 国を愛する態度	日本文化の心	我が国の優れた伝統と文化についての理解を深め、そこに込められた「日本人の心」に気づき、大切にしようとする心情を育てる。	○「ふろしき」はどんなことに使うか、知っているか。 ○筆者は「包む」ということに対して、どのような思いをもっているだろう。 ○筆箱をハンカチで包んでみよう。 ○包めたら近くの人のところへ持っていき、包みをほどいてから、心を込めて渡してみよう。 ◎「包む」という行為は、どんな心の表れなのだろう。包んで渡した体験をもとに話し合おう。 ○包むことを大切に作るほかに、日本の文化の特質として何があるか考えてみよう。	□我が国の伝統と文化のよさに興味をもち、「日本人の心」の奥深さに気づく発言や記述があったか。 ◇ふろしき包みの体験などをとおして、ふろしきのよさを伝統と文化の観点から見つめさせることができたか。	社会, 技術・家庭, 総合的な学習の時間, 特別活動
	35	きいちゃん	C-(14)	家族愛, 家庭生活の充実	家族のきずな	自分も家族にとってかけがえのない存在であることに気づき、家族の一員としての役割を果たそうとする心情を育てる。	○家族は、あなたにとってどんな存在か。 ○きいちゃんがいつもさびしそうだったのは、どうしてだろう。 ○きいちゃんは、なぜ「生まれてこなければよかったのに…」と言ったのだろう。 ○結婚式に出られなくなったきいちゃんは、どんな思いでゆかたをぬい続けたのだろう。 ◎きいちゃんが「生んでくれてありがとう。」とお母さんに話したのは、なぜだろう。 ○家族を大切にすることは、どういうことだろう。	□きいちゃんの心の変化や言動をとおして、きいちゃんの家族のそれぞれの思いを感じとるだけでなく、生徒自身の家族への思いや、将来の家庭生活の在り方に思いをはせている発言や記述があったか。 ◇きいちゃんの心の変化が生き方の変容につながっていったことについて、十分に意見を交換させることができたか。	社会, 技術・家庭

令和7年度 中学部 1～3年(Ⅱ課程A1) 国語科 年間指導計画

単位数 /配当時 数	児童生徒	担当者	教科書/副教材
4/140			「国語☆☆☆☆」(文部科学省)/ 「はじめての国語辞典」(小学館) 「くもんの小学ドリル」(くもん出版) 「しまくとぅば読本 中学生」(沖縄県)ほか

目標:(知及技)知識及び技能 (思判表力)思考力、判断力、表現力等 (学・人)学びに向かう力・人間性等
 評価:(知・技)知識・技能 (思・判・表)思考・判断・表現 (主学)主体的に学習に取り組む態度

年間目標		<p>(知及技) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができる。</p> <p>(思判表力) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。</p> <p>(学・人) 言葉がもつよさに気付くとともに、言語感覚を養い、国語を大切にその能力の向上を図る態度を養う。</p>			
学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期	52	<p>(知・技) 授業や図書室利用のルールやマナーを知る。 (学・人) 自分の目標を立て、学習意欲を高める。 (知・技) 姿勢や筆記用具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書く。 (思・判・表) 文章を読んで分かったことを伝えたり、感想を持つ。 (知・技) 基本的なはがきの書き方を知る。</p>	<p>(知・技) 授業や図書室利用のルールやマナーを理解している。 (主学) 自分の目標を持ち、学習意欲を高めようとしている。 (知・技) 正しい姿勢や筆記用具の持ち方を身に付け、文字の形に注意しながら、丁寧に書くことができる。 (思・判・表) 文章を読んで分かったことを伝えたり、感想を持ったりしている。 (知・技) 基本的なはがきの書き方を身に付けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業オリエンテーション 図書室オリエンテーション 書写(硬筆) 平和学習～6.23慰霊の日～ 暑中見舞いを書こう 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のルールやマナーを知る。読む、書く、聞く、話すことについての自分の目標を立てる。 図書室利用のルールやマナーを知る。 友達や先生の名前を書いたり、教科書やホワイトボードの字をノートに視写したりする。字を書く際の正しい姿勢を身に付ける。 絵本や新聞記事を通して、慰霊の日について学習し、ワークシートにまとめる。 基本的なはがきの書き方を学ぶ。
2 学期	60	<p>(思・判・表) 話す事柄を決め、内容の大体が伝わるように話す。 (思・判・表) 文章に対する感想を持ち、文の構成、語句の使い方に気を付けて書く。 (知・技) 読書の良さに気づき、標語にまとめる。 (知・技) 昔話や童歌を通して、方言の響きやリズムに親しむ。 (知・技) 基本的な年賀状の書き方を知る。</p>	<p>(思・判・表) 話す事柄を決め、内容の大体が伝わるように話している。 (思・判・表) 文章に対する感想を持ち、文の構成、語句の使い方に気を付けて書いている。 (知・技) 読書の良さに気づき、標語にまとめている。 (知・技) 昔話や童歌を通して、方言の響きやリズムに親しんでいる。 (知・技) 基本的な年賀状の書き方を身に付けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みを振り返ろう 読書感想文を書こう 読書標語を作ろう 方言に親しむ 年賀状を書こう 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みの課題(日記)を読み返し、夏休みの思い出を発表する。 好きな本を読み、感想文にまとめる。原稿用紙の使い方を知る。 575のリズムで読書標語を作る。 昔話や童歌を通して、方言に親しむ。 基本的な年賀の挨拶を知る。十二支や月の異名について知る。
3 学期	28	<p>(知・技)姿勢や用具の使い方を正しくし、筆使いに注意しながら、丁寧に書く。 (学・人)お世話になった人を思い浮かべ、感謝の気持ちを言葉で表現する。 (知・技)ローマ字の決まりを知り、ローマ字入力する。</p>	<p>(知・技)正しい姿勢や用具の用い方を身に付け、筆使いに注意しながら、丁寧に書くことができる。 (主学)お世話になった人を思い浮かべ、感謝の気持ちを言葉で表現しようとしている。 (知・技)ローマ字の決まりを知り、ローマ字入力できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 書写(毛筆)「永字八法」 感謝の気持ちを表そう ローマ字の学習 	<ul style="list-style-type: none"> 毛筆の用具の名前や用具の使い方を知る。基本的な筆使いを身に付ける。 お世話になった先輩や先生に、感謝の気持ちを伝える。 ローマ字の決まりを理解し、パソコンやタブレットにローマ字入力をする。
通 年		<p>(知・技)明瞭な発声・発音を身に付ける。 (知・技)語のまとまりに気を付けて音読する。 (知・技)日常的に使用する漢字を読む。 (思・判・表) 様々な文章を読み、内容の大体を捉える。</p>	<p>(知・技)明瞭な発声・発音を身に付けている。 (知・技)語のまとまりに気を付けて音読している。 (知・技)日常的に使用する漢字を読むことができる。 (思・判・表) 様々な文章を読み、内容の大体を捉えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 声のエクササイズ(発声) 音読(季節の詩) 読字力テスト 文章読解(物語・説明文) 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい姿勢や口形に気を付けて発声する。 月ごとの詩を音読、朗読する。 個々の習得度に合わせて、小学校1～6年の漢字の読みテストに取り組む。 簡単な文章を読み(読み聞かせ、一斉読み、黙読)、登場人物やできごとや話題の順序、内容の理解を確かめる。

留意点
引継ぎ等

- ・始業の挨拶時に、着席の姿勢や学習道具の準備が整っていることを確認し、学習に向かう気持ちを整えさせる。
- ・季節行事や学校行事などの身近な話題を挙げ、学習内容との関係性を示しながら、学習への関心・意欲を高めさせる。
- ・予め学習目標と活動の流れ、本時の着地点を示すことで、学習活動に見通しを持たせる。
- ・学習内容と関わりのある絵本や詩などを、読み聞かせたり、一斉音読したりして、学習への意欲・関心を高めさせる。
- ・体を動かしたり、声を出したりする言葉遊び・ゲーム・発声練習を取り入れ、学習活動にメリハリをつける。
- ・活動の進捗に合わせて、個別の支援や発展的な課題の提示を行う。
- ・既習の漢字の復習・定着のために日々の学習に取り組ませる。
- ・学習課題に応じて、適宜ICT機器を活用する。

令和7年度 中学部 1～3年（Ⅱ課程B） 国語科 年間指導計画

単位数 ／配当時 数	児童生徒	担当者	教科書／副教材
2／70			

目標：(知及技)知識及び技能 (思判表力)思考力、判断力、表現力等 (学・人)学びに向かう力・人間性等
 評価：(知・技)知識・技能 (思・判・表)思考・判断・表現 (主学)主体的に学習に取り組む態度

年間目標		(知及技) ・身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じる。 ・言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりする。 (思判表力) ・身近な人からの話し掛けに注目する。 ・教師と一緒に絵本などを見て身近な事物に気付き注目する。 (学・人) ・日常生活の人との関わりの中で、言葉の持つ楽しさを味わっている。			
学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1学期	26	(知・技) ・身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じる。 (知・技) ・自分の名前が呼ばれたことが分かり、声のする方向を見たり、手を挙げたり、意図を持って声を出したりする。 (思・判・表) 身近な人からの話し掛けに注目して、応じて答えたりする。 (知・技) 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れる。	(知・技) ・身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じる。 (知・技) ・自分の名前が呼ばれたことが分かり、声のする方向を見たり、手を挙げたり、意図を持って声を出したりしている。 (思・判・表) 身近な人からの話し掛けに注目して、応じて答えたりしている。 (知・技) 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりしている。	・始まり、終わりの号令 ・出席確認 ・手遊び歌 ・読み聞かせ ・季節の制作	・AAC機器やアプリを活用して挨拶をする。 ・歌「あなたのお名前は？」にのせて呼名・出席確認を行う。 ・手遊び歌を聴き、教師と一緒に動きを模倣する。 ・季節の行事や地域の伝統について、読み聞かせを聴いたり、動画を視聴したりする。 ・季節の制作を通して、様々な筆記具に触れる。
2学期	30	(知・技) 読み聞かせや手遊び歌を通して、言葉のもつ楽しさに触れる。 (思・判・表) 絵本や動画などを観て、示された身近な事物や生き物に気付き、注目する。 (思・判・表) 教師や絵本、動画に出てくる登場人物の動きを模倣する。 (知・技) いろいろな筆記具に触れ、線を書いたり、色を塗ったりする。 (学・人) 特定の人の声や音、音楽などを聴き、反応や表情で快情動を伝える。	(知・技) 読み聞かせや手遊び歌を通して、言葉のもつ楽しさに触れている。 (思・判・表) 絵本や動画などを観て、示された身近な事物や生き物に気付き、注目している。 (思・判・表) 教師や絵本、動画に出てくる登場人物の動きを模倣している。 (知・技) いろいろな筆記具に触れ、線を書いたり、色を塗ったりしている。 (主学) 特定の人の声や音、音楽などを聴き、反応や表情で快情動を伝えようとしている。		
3学期	14	(学・人) 読み聞かせや手遊び歌の繰り返し表現で流れを理解し、反応や表情で期待感を示そうとしている。	(主学) 読み聞かせや手遊び歌の繰り返しの表現で流れを理解し、反応や表情で期待感を示そうとしている。		
留意点 引継ぎ等		・リラックスできるよう教室環境を設定する。 ・安全に活動できるよう座席配置や教師の配置を工夫する。 ・感覚（視覚・聴覚・触覚）に訴える活動を仕組む。 ・他者（生徒・教師）との関わり合いが生まれるような活動を仕組む。			

令和7年度 中学部 123年（Ⅱ課程 Aグループ） 社会科 年間指導計画

単位数 /配当時数	児童生徒	担当者	教科書／副教材
2/70			社会☆☆☆☆

目標：(知及技)知識及び技能 (思判表力)思考力、判断力、表現力等 (学・人)学びに向かう力・人間性等
 評価：(知・技)知識・技能 (思・判・表)思考・判断・表現 (主学)主体的に学習に取り組む態度

年間目標		(知及技) 地域や我が国の地理的環境について、身近なできごとや体験を通して理解できるようにする。 (思判表力) 社会的事象について、自分の生活と結びつけて具体的に考え、表現できるようにする。 (学・人) 社会に主体的に関わることを学び、地域社会の一員として生きていく自覚を養う。			
学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期	13	①授業のきまりを学び、それを守ることの大切さを知る。(思判表力) ②身近な地域の様子について知る。(思判表力) ③学んだ身近な地域の様子を地図にまとめる。(知及技) ④沖縄戦について学び、平和について考える。(学・人)	①授業のきまりを学び、それを守ることの大切さを知ろうとしている。(思・判・表) ②身近な地域の様子について知ろうとしている。(思・判・表) ③学んだ身近な地域の様子を地図にまとめられている。(知・技) ④沖縄戦について学び、平和について考えようとしている。(主学)	①授業の進め方・約束 ②自分の住んでいる地域・石垣島 ③自分の住んでいる地域のマップを作ろう ④慰霊の日	①授業の約束の確認。 ②石垣島の地理や歴史、公共施設などを写真や資料を使って学ぶ。 ③②で学んだ石垣島についての様々なことを地図にまとめる。 ④当時のビデオや写真を見て、戦争の悲惨さについて知り平和について考える。 ・手話や視覚教材(図、写真、動画、タブレット端末活用等)を使用して授業内容の説明や学習をサポートする。 ・生徒の反応に合わせて、立体地図や触れる教材を使って、地域の特徴や感覚的な学び(視覚、聴覚、触覚、音や香り)を組み合わせた学習を行う。
		①沖縄県内の主な歴史を手がかりに、先人の働きや出来事、文化遺産などを知る。(知及技) ②県内の文化財や年中行事の様子を捉え、それらの特色を考え、表現する。(思判表力) ③公共施設や公共物の役割とその必要性を理解する。(知及技) ④自然災害や事故に着目して、危険から身を守る活動と働きを考える。(思判表力)	①沖縄県内の主な歴史を手がかりに、先人の働きや出来事、文化遺産などを知ろうとしている。(知・技) ②県内の文化財や年中行事の様子を捉え、それらの特色を考え、表現しようとしている。(思・判・表) ③公共施設や公共物の役割とその必要性を理解しようとしている。(知・技) ④自然災害や事故に着目して、危険から身を守る活動と働きを考えようとしている。(思・判・表)	①沖縄の歴史、伝統や文化を知る ②沖縄の歴史、伝統や文化を知る ③公共施設について知ろう ④地域の安全について考えよう	①沖縄県内の歴史的事象や人物について写真や資料を使って学習する。 ②沖縄本島をはじめ、離島の行事やしまくとぅばなどについて比較しながら学ぶ。 ③身の回りの公共施設や公共物の利用の仕方、必要性について学ぶ。 ④日本や沖縄であった自然災害や事故を例に挙げ、身を守るすべについて学習する。 ・手話や視覚教材(図、写真、動画、タブレット端末活用等)を使用して授業内容の説明や学習をサポートする。 ・生徒の反応に合わせて、立体地図や触れる教材を使って、地域の特徴や感覚的な学び(視覚、聴覚、触覚、音や香り)を組み合わせた学習を行う。
3 学期	7	①学級や学校の中で、協力しながら生活する必要性を理解し、そのための知識や技能を身に付ける。(知及技) ②家庭や学校、地域社会でのきまりは、社会生活で送るために必要なことであることを理解する。(知及技)	①学級や学校の中で、協力しながら生活する必要性を理解し、そのための知識や技能を身に付けようとしている。(知・技) ②家庭や学校、地域社会でのきまりは、社会生活で送るために必要なことであることを理解しようとしている。(知・技)	①生徒会選挙と連携した取り組み ②社会の決まり、ルール・マナーについて	①生徒会選挙を通しての主権者教育。 ②社会生活の中でのルールを知り、自分の役割について考える活動。 ・手話や視覚教材(図、写真、動画、タブレット端末活用等)を使用して授業内容の説明や学習をサポートする。 ・生徒の反応に合わせて、立体地図や触れる教材を使って、地域の特徴や感覚的な学び(視覚、聴覚、触覚、音や香り)を組み合わせた学習を行う。
留意点 引継ぎ等					

令和7年度 中学部 123年（Ⅱ課程Bグループ） 社会科 年間指導計画

単位数 /配当時数	児童生徒	担当者	教科書／副教材
2/70			社会☆☆☆☆

目標：(知及技)知識及び技能 (思判表力)思考力、判断力、表現力等 (学・人)学びに向かう力・人間性等
 評価：(知・技)知識・技能 (思・判・表)思考・判断・表現 (主学)主体的に学習に取り組む態度

年間目標		(知及技) 地域や我が国の地理的環境について、身近なできごとや体験を通して理解できるようにする。 (思判表力) 社会的事象について、自分の生活と結びつけて具体的に考え、表現できるようにする。 (学・人) 社会に主体的に関わることを学び、地域社会の一員として生きていく自覚を養う。			
学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期	13	①授業のしまりを学び、それを守ることの大切さを知る。(思判表力) ②身近な地域の様子について知る。(思判表力) ③学んだ身近な地域の様子を地図にまとめる。(知及技) ④沖縄戦について学び、平和について考える。(学・人)	①授業のしまりを学び、それを守ることの大切さを知ろうとしている。(思・判・表) ②身近な地域の様子について知ろうとしている。(思・判・表) ③学んだ身近な地域の様子を地図にまとめている。(知・技) ④沖縄戦について学び、平和について考えようとしている。(主学)	①授業の進め方・約束 ②自分の住んでいる地域・石垣島 ③自分の住んでいる地域のマップと一緒に作る ④慰霊の日	①授業の約束事の確認。 ②石垣島の地理や歴史、公共施設などを写真や資料を使って学ぶ。 ③②で学んだ石垣島についての様々なことを地図から探し、発表できる。 ④当時のビデオや写真を見て、戦争の悲惨さについて知る。 ・視覚教材(図、写真、動画、タブレット端末活用等)を使用して授業内容の説明や学習をサポートする。 ・生徒の反応に合わせて、立体地図や触れる教材を使って、地域の特徴や感覚的な学び(視覚、聴覚、触覚、音や香り)を組み合わせた学習を行う。
		①沖縄県内の主な歴史を手がかりに、先人の働きや出来事、文化遺産などを知る。(知及技) ②県内の文化財や年中行事の様子を捉え、それらの特色を考え、表現する。(思判表力) ③公共施設や公共物の役割とその必要性を理解する。(知及技) ④自然災害や事故に着目して、危険から身を守る活動と働きを考える。(思判表力)	①沖縄県内の主な歴史を手がかりに、先人の働きや出来事、文化遺産などを知ろうとしている。(知・技) ②県内の文化財や年中行事の様子を捉え、それらの特色を考え、表現しようとしている。(思・判・表) ③公共施設や公共物の役割とその必要性を理解しようとしている。(知・技) ④自然災害や事故に着目して、危険から身を守る活動と働きを考えようとしている。(思・判・表)	①沖縄の歴史、伝統や文化を知る ②沖縄の歴史、伝統や文化を知る ③公共施設について知ろう ④地域の安全について考えよう	①沖縄県内の歴史的事象や人物について写真や資料を使って学ぶ。 ②沖縄本島をはじめ、離島の行事やしまくとぅばなどについて比較しながら学ぶ。 ③身の回りの公共施設や公共物の利用の仕方について学ぶ。 ④日本や沖縄であった自然災害や事故を例に挙げ、身を守るすべについて学習する。 ・視覚教材(図、写真、動画、タブレット端末活用等)を使用して授業内容の説明や学習をサポートする。 ・生徒の反応に合わせて、立体地図や触れる教材を使って、地域の特徴や感覚的な学び(視覚、聴覚、触覚、音や香り)を組み合わせた学習を行う。
3 学期	7	①学級や学校の中で、協力しながら生活する必要性を理解し、そのための知識や技能を身に付ける。(知及技) ②家庭や学校、地域社会でのしまりは、社会生活で送るために必要なことであることを理解する。(知及技)	①学級や学校の中で、協力しながら生活する必要性を理解し、そのための知識や技能を身に付けようとしている。(知・技) ②家庭や学校、地域社会でのしまりは、社会生活で送るために必要なことであることを理解しようとしている。(知・技)	①生徒会選挙と連携した取り組み ②社会の決まり、ルール・マナーについて	①生徒会選挙を通しての主権者であることを知る。 ②社会生活の中でのルールを知り、自分の役割について考える。 ・視覚教材(図、写真、動画、タブレット端末活用等)を使用して授業内容の説明や学習をサポートする。 ・生徒の反応に合わせて、立体地図や触れる教材を使って、地域の特徴や感覚的な学び(視覚、聴覚、触覚、音や香り)を組み合わせた学習を行う。
留意点 引継ぎ等					

令和7年度 中学部 1～3年（Ⅱ課程A1）数学科 年間指導計画

単位数 /配当時 数	児童生徒	担当者	教科書／副教材
4/140			数学 ☆☆☆～☆☆☆☆☆ [特別支援学校中学部知的障害者用 (文部科学省著作教科書 中学部数学科)]

目標：(知及技)知識及び技能 (思判表力)思考力、判断力、表現力等 (学・人)学びに向かう力・人間性等
 評価：(知・技)知識・技能 (思・判・表)思考・判断・表現 (主学)主体的に学習に取り組む態度

年間目標		(知及技)数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質を理解し処理することができる。 (思判表力)日常の事象を数学的に考え、数学的な表現を用いて発表できる。 (学・人)数学的活動の楽しさに気づき、数学で学んだことを生活や学習に活用できる。			
学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期	39	(知・技)重さの単位【グラム(g)キログラム(kg)が分かり測定でグラム(g)を使うことができる。 (思判表)数のまとまりに着目し、数の大きさの比べ方や数え方を考えることができる。 (学・人)表やグラフから数量の大小や多少を読み取り、データから読み取れることを話し合うことができる。	(知・技)体重や物の重さを表す単位がグラム(g)と分かり、グラム(g)を用いて測定している。 (思判表)10のまとまり、100のまとまりなど、学習したことを生かして1000のまとまりに気付き表現している。 (主学)数量の大小や多少に気づき、その理由を考え話し合うことができる。	C測定 ア 量の単位と測定 A数と計算 ア 整数の表し方 Dデータの活用 ア 身の回りにあるデータを簡単な表やグラフで表したり、読み取ったりすること	・重さを比べよう！ ・1000より大きい数を数えよう！ ・グラフを読み取り話し合おう！
		(知・技)正方形、長方形、直角三角形の特徴(辺と頂点、直角)を知り、違いや共通点に気付く。 (思判表)数のまとまりに着し、思考する範囲を広げながら数の大きさの比べ方や数え方を考え、日常生活に生かすことができる。 (学・人)測りたいものや場所を決め、目的に適した単位で量の大きさを測定することができる。	(知・技)「辺・頂点の数」を調べたり、「直角カード」を補助具として確認したりしている。 (思判表)一つの金額を、使う硬貨を変えながら、いろいろな揃え方をしている。 (主学)ペアで測りたいものや場所を決め、適した単位を選択し測定している。	B図形 ア 図形 A数と計算 ア 整数の表し方 C測定 ア 量の単位と測定	・同じ形に分けよう！ ・お金を揃えてみよう！ ・いろいろな長さを測ろう！
3 学期	21	(知・技)コンパスを使って正三角形や二等辺三角形を作図できる。 (思判表)伴って変わる二つの数量の表からさまりを見つけ、表の空欄を埋めることができる。 (学・人)面積の意味が分かり、いろいろな四角形の大きさを比べることができる。	(知・技)コンパスの特性を利用して、正三角形や二等辺三角形を描いている。 (思判表)表を横に見たり、縦に見たりして、さまりを見つけ、表の空欄を埋めている。 (主学)方眼紙に好きな四角形を描き、グループの人とマス目の数に着目して大きさを比べることができる。	B図形 ア 図形 C変化と関係 ア 伴って変わる二つの量 B図形 イ 面積	・コンパスを使おう！ ・変わり方のさまりを見つけよう！ ・大きさを比べよう！
留意点 引継ぎ等		※時刻やカレンダーワーク(暦)は、毎週の授業で行う。 ※2学期、3学期の買い物学習に合わせて、お金(硬貨の種類等)の指導を行う。 ※生徒の実態に応じた教材作成を行う。			

令和7年度 中学部 1・3年（Ⅱ課程B）数学科 年間指導計画

単位数 ／ 配当時 数	児童生徒	担当者	教科書／副教材
2/70			さんすう ☆☆☆ [特別支援学校中学部知的障害者用 (文部科学省著作教科書 小学部算数科)]

目標：(知及技)知識及び技能 (思判表力)思考力、判断力、表現力等 (学・人)学びに向かう力・人間性等
 評価：(知・技)知識・技能 (思・判・表)思考・判断・表現 (主学)主体的に学習に取り組む態度

年間目標		(知及技)数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質を理解し処理することができる。 (思判表力)日常の事象を数学的に考え、数学的な表現を用いて発表できる。 (学・人)数学的活動の楽しさに気づき、数学で学んだことを生活や学習に活用できる。			
学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期	13	(知及技) 観点に基づいて仲間集めをしたり、1対1対応によって物の個数の多少を比べたりすることができる。 (思判表力)物の個数の多少の比べ方を工夫することができる。	(知・技) 仲間集めをするときの観点を理解している。 (主学)示された観点や自分で決めた観点をもとに、仲間集めをしようとしている。	なかまあつめ	◎示された観点や自分で決めた観点到合わせて仲間集めをし、名前を付ける。 ◎観点を替えて、別の仲間集めをする。
		(学・人)仲間集めや多少比較に親しみ、そのたのしさを感しながら学ぼうとする。	(知・技) 1対1対応によって物の集まりの要素の個数が比較できることを理解し、直接比較をすることができる。 (思・判・表)物の個数の多少を工夫して比べている。	くらべよう	◎物の個数の多少を、比べる対象どうしを線で結ぶ1対1対応によって比較する。 ◎直接比較しにくい物の個数の多少を、操作しやすい物に置き換えて、1対1対応によって比較する。
2 学期	15	(知及技) 10までの数の数え方、数字の書き方、読み方、数の順序、系列や大小について理解し、10までの数について数えたり、数字を読んだり書いたり、物の個数を比べたりすることができる。 (思判表力)身の回りの物を、色や形などを捨象して個数に着目して捉え、数の大きさや比べ方をブロックや絵などを用いて表すことができる。	(知・技) 1から5までの数の唱え方や、数字の読み方を理解している。 (思・判・表)身の回りの物を、色や形などを捨象して個数に着目して捉えている。	5までのかず	◎1から5までの数を唱えたり、数えたり、数字を読んだりする。
		(学・人)数に親しみ、身の回りの物を数字で表すなど、数字の書き方、読み方を生活や学習に生かそうとする。	(知・技) 6から10までの数の唱え方や数え方、数字の読み方を理解している。 (思・判・表)身の回りの物を、色や形などを捨象して個数に着目して捉えている。	10までのかず	◎6から10までの数を唱えたり、数えたり、数字を読んだりする。
3 学期	7	(学・人)数に親しみ、身の回りの物を数字で表すなど、数字の書き方、読み方を生活や学習に生かそうとする。	(思・判・表)身の回りの物の個数について説明している。 (主学)身の回りにあるいろいろな物の個数を数えようとしている。	かずをさがそう	◎10までの数を用いて身の回りにある物の個数を数える。
留意点 引継ぎ等					

令和7年度 中学部1・2・3年（Ⅱ課程Aグループ） 理科 年間指導計画

単位数 /配当時 数	児童生徒	担当者	教科書／副教材
1/35			教科書：理科(☆4、☆5) 文部科学省出版

目標：(知及技)知識及び技能 (思判表力) 思考力、判断力、表現力等 (学・人) 学びに向かう力・人間性等
 評価：(知・技)知識・技能 (思・判・表) 思考・判断・表現 (主学) 主体的に学習に取り組む態度

年間目標	(知及技) 実験の流れを知り、観察のしかたを身に付けることができる。 (思判表力) 身の回りの生物や植物の様子に関心を持ち、予想や仮説を立て発表することができる。 (学・人) 自然事象に気づき、体験的に学んだことを日常生活で積極的に利用することができる。
------	---

学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期	12	(知及技) 身近な植物を観察することができる。 (思判表力) 植物の葉や花の形、色について着目し比較したり、違いについて考えることができる。 (学・人) いろいろな植物の共通点や採点を基に問題を見出す力や植物を愛護しようとする。	(知・技) 植物の葉や花の形、色の違いを理解するとともに、器具などを正しく扱って観察や採集を行い、結果をわかりやすく記録する。 (思・判・表) 植物の差異点や共通点をもとに問題を見だし、表現する。 (主学) 身の回りの植物についてすすんで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするともに、学んだことを学習や生活に生かそうとすることができる。	・自然の観察	・校内にある植物を観察しよう！ ・植物の名前をおぼえよう！ ・植物には色、形、大きさなど、姿の違いを見つけよう！
	8	(知及技) 身近な昆虫を探したり育てたりして観察することができる。 (思判表力) 成長の過程に着目し、調べの活動を通して、育ち方についての理解や観察に関する技能を身に付けることができる。 (学・人) 昆虫の飼育を通して、生き物を大切にしようとする。	(知・技) 虫眼鏡を正しく使い、チョウの育ち方を確かめ、記録することができる。 (思・判・表) チョウの育ちについて、差異点や共通点をもとに問題を見だし、その考えを他者に伝えるように表現することができる。 (主学) 継続的にチョウの世話をすることで、チョウの姿が変化する様子に興味をもち、他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとする。	・昆虫の育ち方 [1] チョウの育ち方 [2] 昆虫の体のつくり	・校内にいるオオゴマダラを見に行こう！ ・幼虫は何を食べるかな？ ・幼虫を捕りに行こう！ ・成長過程を記録しよう！ ・昆虫の体のつくり
2 学期	7	(知及技) 身近な植物を育て、観察に関する理解や技能を身に付けることができる。 (思判表力) 成長の過程に着目し、育ち方について比較しながら調べ差異点や共通点をもとに問題を見だし表現する。 (学・人) 植物の栽培を通して、育てるために必要なもの、条件に気づき育てることができる。	(知・技) 虫眼鏡やものさしを正しく使い、育てている植物の育ちを確かめ形や色、大きさなどの特徴を捉え、記録することができる。 (思・判・表) 育てている植物の育ちについて、差異点や共通点をもとに問題を見だし、その考えを他者に伝えるように工夫して表現することができる。 (主学) 継続的に植物の世話をすることで、ホウセンカの育ちに興味をもち、他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとする。	・植物の育ち方 [1] たねねぎ [2] 植物の育ち方と体のつくり	・葉を出したあと ・花をさかせたあと
	4	(知及技) 太陽と地面の様子との関係について、影と太陽の位置関係や地面のあたためられ方についての理解や観察に関する技能を身に付けることができる。 (思判表力) 日なたと日かげの様子に着目して、それらを比較しながら調べる活動を通して追究する中で差異点や共通点をもとに問題を見だし表現する。 (学・人) 太陽と地面の様子を観察を通して、日常生活の事象に繋げようとする。	(知・技) 器具を正しく扱いながら、影の向きと太陽の向きを確かめ、その結果をわかりやすく記録することができる。 (思・判・表) 影ができる向きについて、差異点や共通点をもとに問題を見だし、表現することができる。 (主学) 身のまわりで見られる事象をもとに、影の向きについて興味をもち、他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとする。	・地面の様子と太陽 [1] 影の向きと太陽の位置 [2] 日なたと日かげの地面の様子 [3] 太陽の進み方 [4] 日光を当てたところの明るさとあたたかさ	・影と太陽 ・日なたと日かげ ・温度を計ろう ・光を集めよう
3 学期	4	(知及技) 磁石につく物や鉄の磁化、磁石の極の特性についての理解や実験に関する技能を身に付けることができる。 (思判表力) 磁石の性質について、磁石を身のまわりの物や他の磁石に近づけたときの様子に着目し、磁石の性質について追究する中で差異点や共通点をもとに問題を見だし表現する。 (学・人) 磁石の活用について考え、生活の様々な場面で生かそうとする。	(知・技) 器具を正しく扱いながら、磁石を物に近づけて何が磁石につくかを確かめ、その結果をわかりやすく記録することができる。 (思・判・表) 磁石につく物について、差異点や共通点をもとに問題を見だし、その考えを他者に伝えるように工夫して表現することができる。 (主学) 身のまわりで見られる現象をもとに、磁石につく物について興味をもち、他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとする。	・じしゃくのふしぎ [1] じしゃくに引き付けられるもの [2] じしゃくと鉄	・じしゃく
	留意点 引継ぎ等				

令和7年度 中学部1・2・3年（Ⅱ課程Bグループ） 理科 年間指導計画

単位数 /配当時 数	児童生徒	担当者	教科書／副教材
1/35			教科書：理科(☆4、☆5) 文部科学省出版

目標：(知及技)知識及び技能 (思判表力) 思考力、判断力、表現力等 (学・人) 学びに向かう力・人間性等
 評価：(知・技) 知識・技能 (思・判・表) 思考・判断・表現 (主学) 主体的に学習に取り組む態度

年間目標	(知及技) 実験の流れを知り、観察のしかたを身に付けることができる。 (思判表力) 身の回りの生物や植物の様子に関心を持ち、予想や仮説を立て発表することができる。 (学・人) 自然事象に気づき、体験的に学んだことを日常生活で積極的に利用することができる。
------	---

学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期	12	(知及技) 身近な植物を観察することができる。 (思判表力) 植物の葉や花の形、色について着目し比較したり、違いについて考えることができる。 (学・人) いろいろな植物の共通点や採点を基に問題を見出す力や植物を愛護しようとする。	(知・技) 植物の葉や花の形、色の違いを理解するとともに、器具などを正しく扱って観察や採集を行い、結果をわかりやすく記録する。 (思・判・表) 植物の差異点や共通点をもとに問題を見だし、表現する。 (主学) 身の回りの植物についてすすんで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするともに、学んだことを学習や生活に生かそうとすることができる。	・自然の観察	・校内にある植物を観察しよう！ ・植物の名前をおぼえよう！ ・植物には色、形、大きさなど、姿の違いを見つけよう！
	8	(知及技) 身近な昆虫を探したり育てたりして観察することができる。 (思判表力) 成長の過程に着目し、調べた活動を通して、育ち方についての理解や観察に関する技能を身に付けることができる。 (学・人) 昆虫の飼育を通して、生き物を大切にしようとする。	(知・技) 虫眼鏡を正しく使い、チョウの育ち方を確かめ、記録することができる。 (思・判・表) チョウの育ちについて、差異点や共通点をもとに問題を見だし、その考えを他者に伝えるように表現することができる。 (主学) 継続的にチョウの世話をすることで、チョウの姿が変化する様子に興味をもち、他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとする。	・昆虫の育ち方 [1] チョウの育ち方 [2] 昆虫の体のつくり	・校内にいるオオゴマダラを見に行こう！ ・幼虫は何を食べるかな？ ・幼虫を捕りに行こう！ ・成長過程を記録しよう！ ・昆虫の体のつくり
2 学期	7	(知及技) 身近な植物を育て、観察に関する理解や技能を身に付けることができる。 (思判表力) 成長の過程に着目し、育ち方について比較しながら調べた差異点や共通点をもとに問題を見だし表現する。 (学・人) 植物の栽培を通して、育てるために必要なもの、条件に気づき育てることができる。	(知・技) 虫眼鏡やものさしを正しく使い、育てている植物の育ちを確かめ形や色、大きさなどの特徴を捉え、記録することができる。 (思・判・表) 育てている植物の育ちについて、差異点や共通点をもとに問題を見だし、その考えを他者に伝えるように工夫して表現することができる。 (主学) 継続的に植物の世話をすることで、ホウセンカの育ちに興味をもち、他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとする。	・植物の育ち方 [1] たねまき [2] 植物の育ち方と体のつくり	・葉を出したあと ・花をさかせたあと
	4	(知及技) 太陽と地面の様子との関係について、影と太陽の位置関係や地面のあたためられ方についての理解や観察に関する技能を身に付けることができる。 (思判表力) 日なたと日かげの様子に着目して、それらを比較しながら調べる活動を通して追究する中で差異点や共通点をもとに問題を見だし表現する。 (学・人) 太陽と地面の様子を観察を通して、日常生活での事象に繋げようとする。	(知・技) 器具を正しく扱いながら、影の向きと太陽の向きを確かめ、その結果をわかりやすく記録することができる。 (思・判・表) 影ができる向きについて、差異点や共通点をもとに問題を見だし、表現することができる。 (主学) 身のまわりで見られる事象をもとに、影の向きについて興味をもち、他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとする。	・地面の様子と太陽 [1] 影の向きと太陽の位置 [2] 日なたと日かげの地面の様子 [3] 太陽の進み方 [4] 日光を当てたところの明るさとあたたかさ	・影と太陽 ・日なたと日かげ ・温度を計ろう ・光を集めよう
3 学期	4	(知及技) 磁石につく物や鉄の磁化、磁石の極の特性についての理解や実験に関する技能を身に付けることができる。 (思判表力) 磁石の性質について、磁石を身のまわりの物や他の磁石に近づけたときの様子に着目し、磁石の性質について追究する中で差異点や共通点をもとに問題を見だし表現する。 (学・人) 磁石の活用について考え、生活の様々な場面で生かそうとする。	(知・技) 器具を正しく扱いながら、磁石を物に近づけて何が磁石につくかを確かめ、その結果をわかりやすく記録することができる。 (思・判・表) 磁石につく物について、差異点や共通点をもとに問題を見だし、その考えを他者に伝えるように工夫して表現することができる。 (主学) 身のまわりで見られる現象をもとに、磁石につく物について興味をもち、他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとする。	・じしゃくのふしぎ [1] じしゃくに引き付けられるもの [2] じしゃくと鉄	・じしゃく
	留意点 引継ぎ等				

令和7年度 中学部 1～3年（Ⅱ課程Aグループ） 音楽科 年間指導計画

単位数 /配当時 数	児童生徒	担当者	教科書／副教材
70			音楽 ☆☆☆ [特別支援学校中学部知的障害者用 (文部科学省著作教科書 中学部数学科)]

目標：(知及技)知識及び技能 (思判表力)思考力、判断力、表現力等 (学・人)学びに向かう力・人間性等
 評価：(知・技)知識・技能 (思・判・表)思考・判断・表現 (主学)主体的に学習に取り組む態度

年間目標		(知及技) 音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身につける。 (思判表力) 音や音楽を味わいながら聴くことができる。 (学・人) 進んで音や音楽に関わり、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。			
学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期	5	(知及技) 歌詞やリズムを意識して歌う。 (思・判・表)いろいろなパターンの動きを覚えて表現する。 (学・人)友人と動きを合わせて楽しく踊ることができる。	(知・技) 歌詞やリズムを意識して歌おうとしている。 (思・判・表)いろいろなパターンの動きを覚えて表現している。 (学・人)友人と動きを合わせて楽しく踊っている。	身体表現	・歌詞やメロディーを覚える。 ・ダンスの動きを1つずつ確認しながら表現する。 ・両手に旗を持ってみんなでダンスをする。
	11	(知及技) 楽譜を見て簡単な楽曲を演奏することができる。 (思・判・表)テンポに合わせて演奏することができる。 (学・人)鍵盤楽器を演奏することの楽しさに気付くことができる。	(知・技) 楽譜を見て簡単な楽曲を演奏している。 (思・判・表)テンポに合わせて演奏している。 (学・人)鍵盤楽器を演奏することの楽しさに気付いている。	器楽	・鍵盤で音階を演奏する。 ・個人で演奏する曲に取り組む。 ・キーボードで合奏をする。
	10	(知及技) 画面の音符を見ながら自分の身体を鳴らすことができる。 (思・判・表)好きな音符を組み合わせてリズムを作ることができる。 (学・人)みんなで表現することの楽しさを味わうことができる。	(知・技) 画面の音符を見ながら自分の身体を鳴らしている。 (思・判・表)好きな音符を組み合わせてリズムを作っている。 (学・人)みんなで表現することの楽しさを味わおうとしている。	身体表現	・画面を見ながら、音楽に合わせて身体のいろいろな部分の音を鳴らす。 ・好きな音符を選び創作をする。 ・組み合わせたリズムを演奏する。
2 学期	15	(知及技)歌詞やリズムを意識して歌う。 (思・判・表)手話で表現することができる。 (学・人)演奏や表現を友人と合わせて楽しく表現できる。	(知・技)歌詞やリズムを意識して歌っている。 (思・判・表)手話で表現しようとしている。 (学・人)演奏や表現を友人と合わせて楽しく表現している。	身体表現	・音楽を聴いて旋律やリズムを覚える。 ・歌詞を1つ1つ確認しながら手話に取り組む。 ・音楽に合わせて手話で表現する。
	15	(知及技)楽器を使って自分のパートの音を演奏することができる。 (思・判・表)周りの音を聴きながら演奏することができる。 (学・人)鍵盤や打楽器で合奏できる。	(知・技)楽器を使って自分のパートの音を演奏している。 (思・判・表)周りの音を聴きながら演奏している。 (学・人)鍵盤や打楽器で合奏している。	合奏	・個人練習を行い、自分のパートのリズムや旋律を覚える。 ・パート練習を通して、周りと音を合わせて練習に取り組む。 ・メロディーパートと伴奏パートに分けて練習を行い、全体合奏をする。
3 学期	7	(知及技)音楽の特徴や背景について知ることができる。 (思・判・表)曲や演奏のよさを感じ取って聴くことができる。 (学・人)音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。	(知・技)音楽の特徴や背景について知ろうとしている。 (思・判・表)曲や演奏のよさを感じ取って聴こうとしている。 (学・人)音楽のよさや美しさを味わって聴こうとしている。	鑑賞	・作曲家や曲の特徴について確認をする。 ・クラシック音楽が現代音楽にリメイクされている曲などを紹介し、おもしろさに気付くことができるようにする。 ・様々なジャンルの曲に取り組み、興味関心が高められるようにする。
	7	(知及技)三線を良い姿勢で弾くことができる。 (思・判・表)工工四を見ながら演奏することができる。 (学・人)曲を聴きながらタイミングを合わせて三線の弦を鳴らすことができる。	(知・技)三線を良い姿勢で弾いている。 (思・判・表)工工四を見ながら演奏している。 (学・人)曲を聴きながらタイミングを合わせて三線の弦を鳴らしている。	器楽	・三線の正しい持ち方や姿勢を確認する。 ・開放弦の3つの音を鳴らして演奏する。 ・音楽に合わせて演奏する。
留意点 引継ぎ等					

令和7年度 中学部1～3年（Ⅱ課程）Aグループ 美術科 年間指導計画

単位数 /配当時 数	児童生徒	担当者	教科書／副教材
2/70			なし

目標：(知及技)知識及び技能 (思判表力)思考力、判断力、表現力等 (学・人)学びに向かう力・人間性等
 評価：(知・技)知識・技能 (思・判・表)思考・判断・表現 (主学)主体的に学習に取り組む態度

年間目標	<p>(知及技) 造形的な視点について気づき、材料や用具の扱い方に親しむとともに、表し方を工夫する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(思判表力) 表したいことや表し方などについて考えたり、身近な作品から自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。</p> <p>(学・人) 美術を楽しむ心情を育み、生活や社会に生かそうとする態度を養う。</p>
------	---

学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期	13 週	<p>(知・技) ・顔の角度、表情やしぐさ、背景などに注目して表す。 ・インク、ローラーなど、版画で使う用具の扱い方を身に付ける。</p> <p>(思・判・表) ・今の気持ちや顔のイメージなどを基に、構想を練る。 ・材料を基に、自画像の表し方を発想する。</p> <p>(主学) ・今の気持ちを見つめ、自画像で表すことに関心を持ち、意欲的に取り組もうとする。 ・主体的に制作活動に取り組み、自分なりに工夫しようとする。</p>	<p>(知・技) ・顔の特徴に注目して、自分なりに表し方を工夫している。 ・版画で使う用具の扱い方を身につけている。</p> <p>(思・判・表) ・心情や顔の雰囲気などを基に、絵の構想を練っている。 ・材料の特性を基に、表し方を発想している。</p> <p>(主学) ・主体的に、表すことに取り組んでいる。</p>	<p>「自画像をつくろう」 ・版画で表現する (版の制作、刷り、着彩)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・版画で使う用具の特性を知る。 ・用具の扱い方を身につける。 ・自分と向き合い、表し方を発想する。 ・他者の作品を鑑賞する。
2 学期	15 週	<p>(知・技) ・水彩絵の具を使って、工夫して表すことができる。</p> <p>(知・技) ・粘土の特性や質感に注目して表す。</p> <p>(思・判・表) ・学校行事の内容を基に、表したいことを発想することができる。</p> <p>(思・判・表) ・紙粘土の感触を基に、表したいことを発想することができる。</p> <p>(主学) ・水彩絵の具や粘土の特性を生かしてつくづくことに関心を持ち、意欲的に取り組もうとする。</p>	<p>(知・技) ・水彩絵の具を使って、自分なりに表し方を工夫している。</p> <p>(知・技) ・粘土の特徴に注目して表している。</p> <p>(思・判・表) ・学校行事の内容を基に、表したいことを発想している。</p> <p>(思・判・表) ・紙粘土の感触を基に、表したいことを発想している。</p> <p>(主学) ・主体的に、表すことに取り組んでいる。</p>	<p>「学校行事のポスターをつくろう」 ・絵画で表現する</p> <p>「小物をつくろう」 ・立体で表現する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水彩絵の具や粘土の特性を知る。 ・用具の扱い方を身につける。 ・学校行事のポスターの表し方を発想する。 ・他者の作品を鑑賞する。
3 学期	7 週	<p>(知・技) ・1年間で制作した作品を、工夫して作品集にまとめることができる。</p> <p>(思・判・表) ・心に残っている1年間の思い出を発想し、絵に表すことができる。</p> <p>(主学) ・卒業式の壁画を作る活動に、楽しく取り組もうとする。</p>	<p>(知・技) ・1年間で制作した作品を、工夫して作品集にまとめている。</p> <p>(思・判・表) ・心に残っている1年間の思い出を発想し、絵に表している。</p> <p>(主学) ・卒業式の壁画を作る活動に、楽しく取り組んでいる。</p>	<p>「作品集をつくろう」 ・作品をのり付けする</p> <p>「卒業式の壁画をつくろう」 ・体育館の装飾を制作する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・材料や用具の特性を知る。 ・1年間のまとめとして、作品集を制作する。 ・他者の作品を鑑賞する。
留意点 引継ぎ等		<ul style="list-style-type: none"> ・用具の名称を確認したり、使い方の実演を提示したりする。 ・制作に用いる材料を提示し、触れる時間を設けたり、工夫する方法を参考作品や動画を通して伝えたりする。 ・主体的に取り組めるよう、生徒の関心のある素材を選ぶ。 			

令和7年度 中学部1～3年（Ⅱ課程）Bグループ 美術科 年間指導計画

単位数 /配当時 数	児童生徒	担当者	教科書／副教材
2/70			なし

目標：(知及技)知識及び技能 (思判表力)思考力、判断力、表現力等 (学・人)学びに向かう力・人間性等
 評価：(知・技)知識・技能 (思・判・表)思考・判断・表現 (主学)主体的に学習に取り組む態度

年間目標	<p>(知及技) 造形的な視点について気づき、材料や用具の扱い方に親しむとともに、表し方を工夫する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(思判表力)表したいことや表し方などについて考えたり、身近な作品から自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。</p> <p>(学・人)美術を楽しむ心情を育み、生活や社会に生かそうとする態度を養う。</p>
------	---

学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期	13 週	<p>(知・技) ・材料を貼り付けて版をつくることができる。</p> <p>・インク、ローラーなど、版画で使う用具の扱い方を身に付ける。</p> <p>(思・判・表) ・身近な材料を貼り、表したいことを思いついたり、作品などの面白さや楽しさを感じ取ったりすることができる。</p> <p>(主学) ・主体的に制作活動に取り組み、自分なりに工夫しようとする。</p> <p>・進んで鑑賞の活動に取り組もうとする。</p>	<p>(知・技) ・材料（小さくちぎった画用紙やボール紙、シールなどの身近な材料）を、貼り付けて版をつくっている。</p> <p>・版画で使う用具の扱い方を身に付けている。</p> <p>(思・判・表) ・身近な材料を貼り、面白さや楽しさを感じ取っている。</p> <p>(主学) ・主体的に制作活動に取り組み、自分なりに工夫している。</p> <p>・進んで鑑賞の活動に取り組んでいる。</p>	<p>「版画をつくろう」 (版の制作、刷り、着色)</p>	<p>・版画で使う材料を貼り付ける。</p> <p>・版画で使う用具の扱い方を身につける。</p> <p>・他者の作品を鑑賞する。</p>
2 学期	15 週	<p>(知・技) ・水彩絵の具を使って、画用紙に色を塗ることができる。</p> <p>(知・技) ・粘土を使って、「ちぎる」「丸める」「広げる」などの動きができる。</p> <p>(思・判・表) ・学校行事の内容を基に、絵（ポスター）に表すことができる。</p> <p>(思・判・表) ・紙粘土の感触を味わい、表したいことを思い付くことができる。</p> <p>(主学) ・水彩絵の具や粘土の特性を生かしてつくることに興味を持ち、意欲的に取り組もうとする。</p> <p>・絵画の人物になりきる鑑賞活動に、進んで取り組もうとする。</p>	<p>(知・技) ・水彩絵の具を使って、画用紙に色を塗っている。</p> <p>(知・技) ・粘土を使って、「ちぎる」「丸める」「広げる」などの動きをしている。</p> <p>(思・判・表) ・学校行事の内容を基に、絵（ポスター）に表している。</p> <p>(思・判・表) ・紙粘土の感触を味わい、表したいことを思い付いている。</p> <p>(主学) ・主体的に、表すことに取り組んでいる。</p> <p>・絵画の人物になりきる鑑賞活動に、進んで取り組んでいる。</p>	<p>「学校行事のポスターをつくろう」 ・絵画で表現する</p> <p>「小物をつくろう」 ・立体で表現する</p>	<p>・絵の具の扱い方を身につける。</p> <p>・学校行事のポスターをつくる。</p> <p>・小物（マグネット等）をつくる。</p> <p>・他者の作品を鑑賞する。</p>
3 学期	7 週	<p>(知・技) ・1年間で制作した作品を、作品集にまとめることができる。</p> <p>(思・判・表) ・心に残っている出来事を思い出し、絵に表すことができる。</p> <p>(主学) ・卒業式の壁画を作る活動に、楽しく取り組もうとする。</p>	<p>(知・技) ・1年間で制作した作品を、作品集にまとめている。</p> <p>(思・判・表) ・心に残っている出来事を思い出し、絵に表している。</p> <p>(主学) ・卒業式の壁画を作る活動に、楽しく取り組んでいる。</p>	<p>「作品集をつくろう」 ・作品をのり付けする</p> <p>「卒業式の壁画をつくろう」 ・体育館の装飾を制作する。</p>	<p>・のりの扱い方を身につける。</p> <p>・作品集をつくる。</p> <p>・卒業式の壁画をつくる。</p>
留意点 引継ぎ等		<p>・用具の名称を確認したり、使い方の実演を提示したりする。</p> <p>・制作に用いる材料を提示し、触れる時間を設けたり、工夫する方法を参考作品や動画を通して伝えたりする。</p> <p>・主体的に取り組めるよう、生徒の関心のある素材を選ぶ。</p>			

令和 7年度 中学部 1・2・3年 (II課程A) 保健体育科 年間指導計画

単位数/ 配当時数	生徒について		担当者	教科書/副教材	
4/140					
年間目標	<p>(知・技) 運動の特性や行い方及び健康・安全について分かり、基本的な動きや技能を身に付ける。 (思判表) 運動や健康な生活における自分の課題を見付けたり、他者に伝える力を養う。 (学・人) 運動に進んで取り組み、きまりや簡単なスポーツのルールなどを守り友達と協力することができる。</p>				
学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価基準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期	46	<p>(知・技) 運動の行い方が分かり、基本的な技能を身に付ける。 (思判表) 自己の基礎的運動能力や体力を知り、課題を見つける。 (学・人) 水泳のきまりを守り、安全に留意して泳ぐ。</p>	<p>(知・技) 多様な動きや水に親しみ、色々な身体の動きを身につけたり、楽しさを感じることができる。 (思判表) 自己の課題を見付けたり、目標を設定したりすることができる。 (学・人) 約束事をまもり、安全に留意して行動している。</p>	<p>①体づくり運動 ②水泳</p>	<p>①体ほぐしの運動(体操、リズム運動、集団遊び)、体の動きを高める運動(ウォーキング、サーキット運動)、体力テスト ②もぐる・浮く運動、浮いて進む運動、泳ぐ運動</p>
2 学期	54	<p>(知・技) 各種目の行い方が分かり、基本的な技能を身に付ける。 (思判表) 自己やチームの課題を見つけ、解決方法を考えたり工夫したりする。他者に伝える。 (学・人) 各種の運動に進んで取り組み、きまりや簡単なルールなどを守り、楽しく運動する態度を養う。</p>	<p>(知・技) ・ボール運動の初歩的技能(握る・投げる・拾う・蹴る)を身につける。 ・決められたレーンや距離を最後まで全力で走ったり、合図に反応してスタートすることができる。 ・曲のリズムに合わせてダンスを楽しむことができる。 (思判表) 自己やチームの課題を見つけ、目標を設定したり、作戦を考えたりすることができる。 (学・人) きまりや簡単なルールを守り、友達と協力して運動を楽しむことができる。</p>	<p>①球技 ②陸上運動 ③ダンス</p>	<p>①ゴール型(サッカー、バスケット)、ネット型(ソフトバレー、バドミントン)、ベースボール型(キックベースボール) ②短距離走・リレー(50・100m走、バトンパス) ③エイサー、創作ダンス</p>

令和 7年度 中学部 1・2・3年(II課程B)		保健体育科 年間指導計画			
単位数/ 配当時数	生徒について		担当者	教科書/副教材	
4/140					
年間目標	<p>(知・技) 様々な運動や健康・安全に取り組み、基本的な動きや健康な生活に必要な事柄を身につける。</p> <p>(思判表) 運動や健康・安全における自分の課題に取り組んだり、他者に伝えたりする力を養う。</p> <p>(学・人) 運動に親しみ、健康の保持増進と体力の向上を目指し、友達と協力することができる。</p>				
学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価基準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期	46	<p>(知・技) 運動の行い方が分かり、基本的な技能を身に付ける。</p> <p>(思判表) 体を動かすことの楽しさや心地よさを表現できるようにする。</p> <p>(学・人) 水泳のきまりを守り、安全に留意して泳ぐ。</p>	<p>(知・技) 多様な動きや水に親しみ、色々な身体の動きを身につけたり、楽しさを感じることができる。</p> <p>(思判表) 言葉だけではなく、表情や身振りなど多様な表現の方法で、楽しさや心地よさを他者に伝えることができる。</p> <p>(学・人) 約束事をまもり、教師と一緒に安全に行動している。</p>	<p>①体づくり運動</p> <p>②水泳</p>	<p>①体ほぐしの運動(体操、リズム運動、集団遊び)、体の動きを高める運動(ウォーキング、サーキット運動)</p> <p>②もぐる・歩く・浮く運動</p>
2 学期	54	<p>(知・技) 各種目の行い方が分かり、基本的な技能を身に付ける。</p> <p>(思判表) 体を動かすことの楽しさや心地よさを表現できるようにする。</p> <p>(学・人) 各種の運動に進んで取り組み、きまりや簡単なルールなどを守り、楽しく運動する態度を養う。</p>	<p>(知・技) ・ボール運動の初歩的スキル(握る・投げる・拾う・蹴る)を身につける。・決められたレーンや距離を最後まで全力で走ったり、合図に反応してスタートすることができる。・曲のリズムに合わせてダンスを楽しむことができる。</p> <p>(思判表) 言葉だけではなく、表情や身振りなど多様な表現の方法で、楽しさや心地よさを他者に伝えることができる。</p> <p>(学・人) きまりや簡単なルールを守り、教師や友達と協力して運動を楽しむことができる。</p>	<p>①球技</p> <p>②陸上運動</p> <p>③ダンス</p>	<p>①ゴール型(サッカー、バスケット)、ネット型(ソフトバレー、バドミントン)、ベースボール型(キックベースボール)</p> <p>②短距離走・リレー(30・50・100m走、バトンパス)</p> <p>③エイサー、創作ダンス</p>
3 学期	28	<p>(知・技) 各種目の行い方が分かり、基本的な技能を身に付ける。</p> <p>(思判表) 体を動かすことの楽しさや心地よさを表現できるようにする。</p> <p>(学・人) 各種の運動に進んで取り組み、きまりや簡単なルールなどを守り、楽しく運動する態度を養う。</p>	<p>(知・技) ・ボール運動の初歩的スキル(握る・投げる・拾う・蹴る)を身につける。・一定の距離や時間を自分のペースで走ったり、歩いたりすることができる。</p> <p>(思判表) 言葉だけではなく、表情や身振りなど多様な表現の方法で、楽しさや心地よさを他者に伝えることができる。</p> <p>(学・人) きまりや簡単なルールを守り、友達と協力して運動を楽しむことができる。</p>	<p>①陸上競技</p> <p>②球技</p>	<p>①長距離走(時間走、決まった距離)</p> <p>②ゴール型(サッカー、バスケット)、ネット型(ソフトバレー、バドミントン)、ベースボール型(キックベースボール)</p>
通 年	12	<p>(知・技) 体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方が分かり、基本的な知識及び技能を身に付ける。</p> <p>(思判表) 自分の課題を見付け、解決方法を考えたり伝えたりできる。</p>	<p>(知・技) 手洗い、うがいや、衛生面において、生活に必要な習慣や態度を身に付けている。</p> <p>(思判表) 自分の課題について考えたり伝えたりしている。</p>	<p>保健</p> <p>①体の発育・発達</p> <p>②けがの防止</p> <p>③病気の予防</p>	<p>①自分の体、性徴、身体各部の働き</p> <p>②応急手当</p> <p>③食事、運動、睡眠・休憩、身辺の清潔</p>
留意事項 引継ぎ等					

令和7年度 中学部 1～3年（Ⅱ課程A） 職業・家庭/職業分野 年間指導計画

単位数 /配当時数	児童生徒	担当者	教科書/副教材
2/70			たのしい職業科、進路学習、プログラミング

目標：(知及技)知識及び技能 (思判表力)思考力、判断力、表現力等 (学・人)学びに向かう力・人間性等
 評価：(知・技)知識・技能 (思・判・表)思考・判断・表現 (主学)主体的に学習に取り組む態度

年間目標	<p>(知及技) ・学習の中で学習環境や(室内・外、調理環境等)素材、道具の感覚を身に付け、将来必要な基盤を育てる。 ・学習を通し、生活及び働くために必要な知識、技能、態度を身に付ける。 ・道具や機械などの使い方を理解し、安全に衛生的に取り扱う技術を身に付ける。</p> <p>(思判表力) ・様々な環境や素材、道具の感覚を身に付け、喜びや、楽しむ感覚を育てる。 ・学習を通し日常生活や社会生活の基盤となる資質、態度を育てる。 ・学習を通し地域・社会への興味・関心を広げる。</p> <p>(学・人) ・学習の中で、将来への興味・関心を広げ、生活していく力と働く意欲を育てる。 ・社会生活の中で他者と協力するための態度を育てる。</p>
------	---

学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期	2	(知及技)学習の概要を知ることができる。働くうえでの心得を知る。 (思判表力)覚えた心得を活動内で実践していくことができる。 (学・人)これからの学習活動に興味を持つことができる。	(知・技)学習導入時の質問に対する応答により確認。 (思・判・表)学習導入時の質問に対する応答と心得の確認。 (主学)挨拶や返事、ミーティング時の発表等の声の大きさや態度。	◎オリエンテーション	・オリエンテーション：職業分野についての学習内容について説明。 ・「働くための心得」の説明：「挨拶返事をきちんとしよう」「時間を守ろう」「身なりをととのえよう」「道具は安全に丁寧に使おう」「仲間と協力しよう」「最後まで頑張ろう」を伝える。
通 年	66	(知及技)文字入力ができる。インターネットを使い検索できる。 (思判表力)パソコンを使い発表ができる。また、行事や商品の案内や必要な書類作成ができる。必要な情報を検索できる。 (学・人)パソコンに興味・関心を持つことができる。自身の学習、余暇活動に取り入れることができる。	(知・技)パソコンの基本操作ができる(電源起動、文字入力、マウスの活用等)。 (思・判・表)チラシやポスターの作成ができる。発表やプレゼンができる。パソコンを使い調べものができる。 (主学)パソコンや情報機器を学習及び余暇活動に取り入れている。	◎パソコン学習 (情報基礎)	・ワード、エクセルの使用、基本操作(文字入力、表・図・写真の挿入、レイアウト等) ・インターネット検索(調べもの練習) ・パワーポイントの使用
		(知及技)鍋敷きやワゴンの工程を知ることができる。 (思判表力)安全に気をつけて背金を持って任された工程を集中して取り組むことができる。(安全面) (学・人)ほうれんそうができる。	(知・技)工具や工程の名称、使い方をすることができる。 (思判表力)工夫しながら作業工程に取り組むことができる。作業場の整理整頓(安全面) (主学)自ら挨拶できる。他者とのコミュニケーションが進んでできる。ほうれんそうができる。	◎木材加工	・鍋敷き、キャスターワゴン等を作成 ・けがき、ノコギリ引き、ペーパーがけ等 ・販売準備
		(知及技)育成物に適した生育環境が分かる。 (思判表力)灌水や草取りのタイミングがわかる。作物の収穫の時期が分かる。 (学・人)花や作物の育成に興味・関心を持つことができる。室外作業に慣れる。	(知・技)育成環境を保つことができる。 (思・判・表)育成環境を保つため、灌水や草取りをすることができる。作物の成長を観察できる。 (主学)花や作物を丁寧に育てることができる。	◎農園芸作業	・花、作物の育成 育成環境の整備、灌水、収穫等 ・販売(計量、袋詰め等)
		(知及技)ホウキ、モップ、ワイパー等、清掃用具の使い方が分かる。場所ごとの適した清掃方法が分かる。道具の手入れの仕方が分かる。 (思判表力)場所ごとに適した用具と方法で清掃できる。 (学・人)清掃活動に興味・関心を持つことができる。	(知・技)清掃用具を正しく使い、各場所をきれい片付けることができる。用具の手入れができる。 (思・判・表)隙間等、細かな箇所まで清掃できる。道具を工夫してきれいにする。 (主学)自ら進んで清掃活動ができる。	◎清掃活動	・清掃道具の使い方(ホウキ、モップ、ワイパー等) ・道具の手入れ ・清掃場所ごとの清掃方法(廊下、靴箱、広場、トイレ等) ・車の洗いや方
		(知及技)接客マナー(言葉づかい、接客姿勢等)が分かる。飲食物の準備ができる。 (思判表力)お客様に丁寧に接することができる。道具を清潔に保つことができる。 (学・人)販売に興味・関心を持ち、お客とのやり取りができる。	(知・技)丁寧な接客対応ができる。飲食物の準備ができる(お茶、珈琲、茶菓子等) (思判表力)接客、受注、準備、片付けの一連の流れができる。 (主学)自ら挨拶できる。他者とのコミュニケーションが進んでできる。	◎販売学習(接客)	・販売接客練習(案内、会計、言葉づかい等) ・商品の準備 ・活動環境の整備
		(知及技)ルールを守り計画通りに買い物やボランティア活動ができる。 (思判表力)校内での学習を活かし、皆と協力しながら楽しく活動ができる。 (学・人)学校外の環境に慣れ学習活動ができる。ボランティア活動に参加できる。	(知・技)自ら計画ができる。計画通りに取り組める。校外の方への言葉づかい。 (思・判・表)臨機応変な対応。困ったときの行動、協力できたか。 (主学)自ら挨拶できる。他者とのコミュニケーションが進んでできる。ボランティア活動に参加できる。	◎校外学習	・買い物学習 ・ボランティア活動(学校周辺の清掃活動等)
		(知及技)働くための基本事項を覚える。 (思判表力)働くための心得を学習内で守ることができる。 (学・人)働くことに興味・関心を持つことができる。	(知・技)心得の質問に答える。 (思・判・表)学校生活で心得を活かすことができる(進んで挨拶、服装を整える等) (主学)自己の将来に興味・関心を持つことができる。	◎働くための心得	・働くための心得 「挨拶、返事」「時間を守る」「身なり」「道具の使い方」「協力連携」「報告、連絡、相談」「言葉づかい」等
		3 学期	2	(知及技)これまでの学習を思い出すことができる。 (思判表力)自身の学習の振り返りができ、他者の前で発表できる。 (学・人)学習を振り返り、自身の将来への活動に取り入れることができる。	(知・技)これまでの学習を思い出すことができる。 (思・判・表)学習の思い出を絵や写真、パソコン等を使い、仲間前で発表できる。 (主学)自身の将来について興味・関心を持ち学習できる。
留意点 引継ぎ等	・学習能力や実態にあわせて学習計画を行う。 ・学習の状態、状況に応じて、グループ分けを行い学習する場合もある。また、他の学習グループと協力して学習を行う場合もある。				

令和7年度 中学部 1～3年（Ⅱ課程B） 職業・家庭/職業分野 年間指導計画

単位数 /配当時数	児童生徒	担当者	教科書/副教材
2/70			たのしい職業科、進路学習、プログラミング

目標：(知及技)知識及び技能 (思判表力)思考力、判断力、表現力等 (学・人)学びに向かう力・人間性等
 評価：(知・技)知識・技能 (思・判・表)思考・判断・表現 (主学)主体的に学習に取り組む態度

年間目標	(知及技) 学習の中で、学習環境や(室内・外、調理環境等)素材、道具の感覚を身に付け、将来必要な基盤を育てる。 ・学習を通し、生活及び働くために必要な知識、技能、態度を身に付ける。 ・道具や機械などの使い方を理解し、安全に衛生的に取り扱う技術を身に付ける。 (思判表力) 様々な環境や素材、道具の感覚を身に付け、喜びや、楽しむ感覚を育てる。 ・学習を通し日常生活や社会生活の基盤となる資質、態度を育てる。 ・学習を通し通し地域・社会への興味・関心を広げる。 (学・人) 学習の中で、将来への興味・関心を広げ、生活していく力と働く意欲を育てる。 ・社会生活の中で他者と協力するための態度を育てる。		
------	--	--	--

学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期	2	(知及技) 学習の概要を知ることができる。働くうえでの心得を知る。 (思判表力) 覚えた心得を活動内で実践していくことができる。 (学・人) これからの学習活動に興味を持つことができる。	(知・技) 学習導入時の質問に対する応答により確認。 (思・判・表) 学習導入時の質問に対する応答と心得の確認。 (主学) 挨拶や返事、ミーティング時の発表等の声の大きさや態度。	◎オリエンテーション	・オリエンテーション：職業分野についての学習内容について説明。 ・「働くための心得」の説明：「挨拶返事をきちんとしよう」「時間を守ろう」「身なりをととのえよう」「道具は安全に丁寧に使おう」「仲間と協力しよう」「最後まで頑張ろう」を伝える。
通 年	66	(知及技) 文字入力ができる。インターネットを使い検索できる。 (思判表力) パソコンを使い発表ができる。また、行事や商品の案内や必要な書類作成ができる。必要な情報を検索できる。 (学・人) パソコンに興味・関心を持つことができる。自身の学習、余暇活動に取り入れることができる。	(知・技) パソコンの基本操作ができる(電源起動、文字入力、マウスの活用等)。 (思・判・表) チラシやポスターの作成ができる。発表やプレゼンができる。パソコンを使い調べものができる。 (主学) パソコンや情報機器を学習及び余暇活動に取り入れている。	◎パソコン学習(情報基礎)	・ワード、エクセルの使用、基本操作(文字入力、表・図・写真の挿入、レイアウト等) ・インターネット検索(調べもの練習) ・パワーポイントの使用
		(知及技) 鍋敷きやワゴンの工程を知ることができる。 (思判表力) 安全に気をつけて背金を持って任せられた工程を集中して取り組むことができる。(安全面) (学・人) ほうれんそうができる。	(知及技) 工具や工程の名称、使い方をすることができる。 (思判表力) 工夫しながら作業工程に取り組むことができる。作業場の整理整頓(安全面) (主学) 自ら挨拶できる。他者とのコミュニケーションが進んでできる。ほうれんそうができる。	◎木材加工	・鍋敷き、キャスターワゴン等を作成 ・けがき、ノコギリ引き、ペーパーがけ等 ・販売準備
		(知及技) 育成物に適した生育環境が分かる。 (思判表力) 灌水や草取りのタイミングがわかる。作物の収穫の時期が分かる。 (学・人) 花や作物の育成に興味・関心を持つことができる。室外作業に慣れる。	(知・技) 育成環境を保つことができる。 (思・判・表) 育成環境を保つため、灌水や草取りをすることができる。作物の成長を観察できる。 (主学) 花や作物を丁寧に育てることができる。	◎農園芸作業	・花、作物の育成 ・育成環境の整備、灌水、収穫等 ・販売(計量、袋詰め等)
		(知及技) ホウキ、モップ、ワイパー等、清掃用具の使い方が分かる。場所ごとの適した清掃方法が分かる。道具の手入れの仕方が分かる。 (思判表力) 場所ごとに適した用具と方法で清掃できる。 (学・人) 清掃活動に興味・関心を持つことができる。	(知・技) 清掃用具を正しく使い、各場所をきれい片付けることができる。用具の手入れができる。 (思・判・表) 隙間等、細かな箇所まで清掃できる。道具を工夫してきれいにできる。 (主学) 自ら進んで清掃活動ができる。	◎清掃活動	・清掃道具の使い方(ホウキ、モップ、ワイパー等) ・道具の手入れ ・清掃場所ごとの清掃方法(廊下、靴箱、広場、トイレ等) ・車の洗いや方
		(知及技) 接客マナー(言葉づかい、接客姿勢等)が分かる。飲食物の準備ができる。 (思判表力) お客様に丁寧に接することができる。道具を清潔に保つことができる。 (学・人) 販売に興味・関心を持ち、お客様に接することができる。	(知及技) 丁寧な接客対応ができる。飲食物の準備ができる(お茶、珈琲、茶菓子等)。 (思判表力) 接客、受注、準備、片付けの一連の流れができる。 (主学) 自ら挨拶できる。他者とのコミュニケーションが進んでできる。	◎販売学習(接客)	・販売接客練習(案内、会計、言葉づかい等) ・商品の準備 ・活動環境の整備
		(知及技) ルールを守り計画通りに買い物やボランティア活動ができる。 (思判表力) 校内での学習を活かし皆と協力しながら楽しく活動ができる。 (学・人) 学校外の環境に慣れ学習活動ができる。ボランティア活動に参加できる。	(知・技) 自ら計画ができる。計画通りに取り組める。校外の方への言葉づかい。 (思・判・表) 臨機応変な対応。困ったときの行動、協力できたか。 (主学) 自ら挨拶できる。他者とのコミュニケーションが進んでできる。ボランティア活動に参加できる。	◎校外学習	・買い物学習 ・ボランティア活動(学校周辺の清掃活動等)
		(知及技) 働くための基本事項を覚える。 (思判表力) 働くための心得を学習内で守ることができる。 (学・人) 働くことに興味・関心を持つことができる。	(知・技) 心得の質問に答える。 (思・判・表) 学校生活で心得を活かすことができる(進んで挨拶、服装を整える等)。 (主学) 自己の将来に興味・関心を持つことができる。	◎働くための心得	・働くための心得 「挨拶、返事」「時間を守る」「身なり」「道具の使い方」「協力連携」「報告、連絡、相談」「言葉づかい」等
		3 学期	2	(知及技) これまでの学習を思い出すことができる。 (思判表力) 自身の学習の振り返りができ、他者の前で発表できる。 (学・人) 学習を振り返り、自身の将来への活動に取り入れることができる。	(知・技) これまでの学習を思い出すことができる。 (思・判・表) 学習の思い出を絵や写真、パソコン等を使い、仲間の前で発表できる。 (主学) 自身の将来について興味・関心を持ち学習できる。
留意点 引継ぎ等	・体験的学習を中心に生徒の実態にあわせ活動計画を行う。 ・学習の状態、状況に応じて、他の学習グループと協力して学習を行う場合もある。				

令和7年度 中学部1～3年（Ⅱ課程B） 職業・家庭／家庭分野 年間指導計画

単位数 ／ 配當時 数	児童生徒	担当者	教科書／副教材
2/70			「たのしい家庭科」（開隆堂） 「共に生きる家庭科」（開隆堂）

年間目標	<p>(知及技) 家庭の中で自分の役割に気づき、生活の自立に必要な基礎的な理解を図り、それらに関わる技能を身に付ける。</p> <p>(思判表力) 家庭生活に必要な事柄について触れ、課題や解決策に気づき、実践し、学習したことを伝えるなど日常生活における課題解決する力の基礎を養う。</p> <p>(学・人) 家族や地域の人々とのやり取りを通してよりよい生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする実践的な態度を養う。</p>
------	---

学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期	6	<p>(知及技) 「職業・家庭」の授業内容を知る。 (学・人) 担当教師に注目し、学習意欲を高める。 (思判表力) 他者に関心を持ち、ボールを渡す。</p>	<p>(知・技) 「職業・家庭」の学習内容のスライドの方に関心を持って見ることが出来る。 (知・技) 自分の名前を呼んだ担当教師に気づき、反応することができる。 (思・判・表) 他者に関心を持ち、指示された人にボールを渡すことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・「職業・家庭」で何を学習するの？ ・まわりの人とよりよい関係づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・「職業・家庭」を学ぶ意義について学ぶ。 ・ボールを活用してまわりの人と積極的に関わろうとするソーシャルスキルの向上を目指す。
	8	<p>(知及技) 人の成長過程のスライドの方に関心を持って見る。 (思判表力) 新生児抱き人形に興味を持ち、優しく触れる。</p>	<p>(知・技) 人の成長過程のスライドの方に関心を持って見ることが出来る。 (思・判・表) 新生児人形に興味を持ち、優しく触れることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長をふり返ろう ・子どもの成長 	<ul style="list-style-type: none"> ・新生児人形を使用した体験的な学習を行う。
	12	<p>(知及技) 簡単な調理や裁縫に必要な器具に触れようとする。 (学・人) 味覚や嗅覚、触った感触で素材の良さを感じようとする。</p>	<p>(知・技) 簡単な調理や裁縫に必要な器具に触れようとする。 (主学) 味覚や嗅覚、触った感触で素材の良さを感じようとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習の基礎 ・沖縄の伝統的菓子「アガラサー」 ・沖縄の行事食「ポーポー」 ・被服実習の基礎 	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の伝統的菓子や行事食に触れる。
2 学期	14	<p>(知及技) 衣生活に関連した絵カードや、絵本に触れる。</p>	<p>(知・技) 衣生活に関連した絵カードや、絵本に触れることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・季節に応じた被服の工夫 	
	16	<p>(知及技) 簡単な調理や裁縫に必要な器具に触れようとする。 (学・人) 味覚や嗅覚、触った感触で素材の良さを感じようとする。</p>	<p>(知・技) 簡単な調理や裁縫に必要な器具に触れようとする。 (主学) 味覚や嗅覚、触った感触で素材の良さを感じようとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習の基礎 ・季節の果物を使った調理「アップルパイ」 ・被服実習の基礎 	<ul style="list-style-type: none"> ・旬の食材を使用することで季節感を感じることができるようにする。
3 学期	8	<p>(知及技) 食生活に関連した絵カードや、絵本に触れる。</p>	<p>(知・技) 食生活に関連した絵カードや、絵本に触れることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな食品を知ろう 	
	6	<p>(知及技) 簡単な調理や裁縫に必要な器具に触れようとする。 (学・人) 調理の過程や出来上がりに対する関心を高める。</p>	<p>(知・技) 簡単な調理や裁縫に必要な器具に触れようとする。 (主学) 行事を楽しむ調理を行うことを通して、調理の過程や出来上がりに対する関心を高めることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習の基礎 ・行事食 ・被服実習の基礎 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事食に触れることで季節感を感じることができるようにする。
留意点 引継ぎ等	<ul style="list-style-type: none"> ・始業時の挨拶時に、着席の姿勢や学習の準備が整っていることを確認し、学習に向かう気持ちを整えさせる。 ・学習内容と関連した絵本を読み聞かせし、学習への意欲・関心を高めさせる。 ・学習内容に応じて、適宜ICT機器を活用する。 				

単位数 /配当時 数	児童生徒	担当者	教科書/副教材
2/70			「たのしい家庭科」(開隆堂) 「共に生きる家庭科」(開隆堂) 「技術・家庭学習ノート」(沖縄県中学校技術・家庭科研究会)ほか

年間目標	<p>(知及技) 家庭の中で自分の役割に気づき、生活の自立に必要な基礎的な理解を図り、それらに関わる技能を身に付ける。</p> <p>(思判表力) 家庭生活に必要な事柄について触れ、課題や解決策に気づき、実践し、学習したことを伝えるなど日常生活における課題解決する力の基礎を養う。</p> <p>(学・人) 家族や地域の人々とのやり取りを通してよりよい生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする実践的な態度を養う。</p>
------	---

学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期	6	<p>(知及技) 「職業・家庭」の授業内容を知る。</p> <p>(学・人) 自分の目標を立て、学習意欲を高める。</p> <p>(思判表力) まわりの人を大切にできる気持ちを持ち、よりよい関わり方について気づき、それらを他者に伝える。</p>	<p>(知・技) 「職業・家庭」の学習内容を理解している。</p> <p>(主学) 自分の目標を持ち、学習意欲を高めている。</p> <p>(思・判・表) まわりの人を大切にできる気持ちを持ち、よりよい関わり方について気づき、それらを他者に伝えることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・「職業・家庭」で何を学習するの？ ・自立と衣食住の大切さ ・まわりの人とよりよい関係づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・「職業・家庭」を学ぶ意義について学ぶ。 ・まわりの人とよりよい関係をつくるにはどうしたらよいか考える手立てとして「ちくちくことば」「ふわふわことば」について考える。 ・すぐろくを活用してまわりの人と積極的に関わろうとするソーシャルスキルの向上を目指す。
	8	<p>(知及技) 自分の成長に気づき、成長過程を知る。子どもの成長や適切な関わり方を知る。</p> <p>(思判表力) 妊娠中の生活を知ること、母親の気持ちを考える。</p>	<p>(知・技) 自分の成長に気づき、成長過程を知る。子どもの成長や適切な関わり方を理解している。</p> <p>(思・判・表) 妊娠中の生活を知ること、母親の気持ちを考えることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長をふり返ろう ・子どもの成長 	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬妊婦体験や新生児人形を使用した体験的な学習を行う。 ・自分の人生の中で、今どんな時期なのかを知り、過去の自分、今の自分、未来の自分について思いを巡らせながら「わたし絵本」の制作を行う。
	12	<p>(知及技) 簡単な調理の仕方や手順について知り、調理できる。</p> <p>(思判表力)(学・人) 調理計画に沿って、調理の手順や仕方を工夫する。</p> <p>(知及技) 安全に注意して小物製作を行う。</p>	<p>(知・技) 簡単な調理の仕方や手順について知り、調理できる。</p> <p>(思・判・表)(主学) 調理計画に沿って、調理の手順や仕方を工夫している。</p> <p>(知・技) 安全に注意して小物製作ができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習の基礎 ・沖縄の伝統的菓子「アガラサー」 ・沖縄の行事食「ポーポー」 <ul style="list-style-type: none"> ・被服実習の基礎 ・基礎縫い 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理室や調理道具の使い方を学び、安全面・衛生面に配慮した調理ができるようにする。 ・沖縄の伝統的菓子や行事食に触れ、郷土の文化への理解を深める。 <ul style="list-style-type: none"> ・被服室や裁縫道具の使い方を学び、安全面に配慮した製作ができるようにする。
2 学期	16	<p>(知・技) 場面に応じた日常着の着方や手入れの仕方などについて知り、実践する。</p> <p>(思判表力) 日常着の着方や手入れの仕方に気づき、工夫する。</p>	<p>(知・技) 場面に応じた日常着の着方や手入れの仕方などについて知り、実践できる。</p> <p>(思判表力) 日常着の着方や手入れの仕方に気づき、工夫している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・季節に応じた被服の工夫 ・衣服の手入れの仕方 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節に応じた被服の工夫を考える。 ・衣服の手入れの仕方(アイロンのかけ方、たたみ方、洗濯機の使い方) ・身の回りの整理整頓、身だしなみを整えることの大切さを知る。
	14	<p>(知・技) 簡単な調理の仕方や手順について知り、調理できる。</p> <p>(思判表力)(学・人) 調理計画に沿って、調理の手順や仕方を工夫する。</p> <p>(知・技) 安全に注意して小物製作を行う。</p>	<p>(知・技) 簡単な調理の仕方や手順について知り、調理できる。</p> <p>(思・判・表)(主学) 調理計画に沿って、調理の手順や仕方を工夫している。</p> <p>(知・技) 安全に注意して小物製作ができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習の基礎 ・季節の果物を使った調理「アップルパイ」 ・パーティーをしよう「ピザ」 <ul style="list-style-type: none"> ・被服実習の基礎 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理室や調理道具の使い方を学び、安全面・衛生面に配慮した調理ができるようにする。 ・旬の食材を使用することで季節感を感じることができるようにする。 ・パーティーを企画して実行する。 <ul style="list-style-type: none"> ・被服室や裁縫道具の使い方を学び、安全面に配慮した製作ができるようにする。
3 学期	8	<p>(知及技) 健康な生活と食事の役割や日常の食事の大切さを理解する。</p> <p>(思判表力) 日常の食事の大切さや規則正しい食事の必要性を考え、表現すること。</p>	<p>(知・技) 健康な生活と食事の役割や日常の食事の大切さを理解している。</p> <p>(思・判・表) 日常の食事の大切さや規則正しい食事の必要性を考え、表現できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・バランスのよい食事をしよう ・簡単な朝食を考えよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の役割とはたらき、バランスについて知り。 ・栄養バランスを考えた簡単な朝食を考えてみる。
	6	<p>(知及技) 簡単な調理の仕方や手順について知り、調理できる。</p> <p>(思判表力)(学・人) 調理計画に沿って、調理の手順や仕方を工夫する。</p> <p>(知及技) 安全に注意して小物製作を行う。</p>	<p>(知・技) 簡単な調理の仕方や手順について知り、調理できる。</p> <p>(思・判・表)(主学) 調理計画に沿って、調理の手順や仕方を工夫している。</p> <p>(知・技) 安全に注意して小物製作ができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習の基礎 ・簡単な朝食の調理 <ul style="list-style-type: none"> ・被服実習の基礎 ・基礎縫い 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理室や調理道具の使い方を学び、安全面・衛生面に配慮した調理ができるようにする。 ・栄養バランスを考えた簡単な朝食を作る。 <ul style="list-style-type: none"> ・被服室や裁縫道具の使い方を学び、安全面に配慮した製作ができるようにする。
留意点 引継ぎ等	<ul style="list-style-type: none"> ・始業時の挨拶時に、着席の姿勢や学習の準備が整っていることを確認し、学習に向かう気持ちを整えさせる。 ・季節行事等の身近な話題を挙げ、学習内容との関係性を示しながら、学習への関心・意欲を高めさせる。 ・学習内容と関連した絵本を読み聞かせし、学習への意欲・関心を高めさせる。 ・学習内容に応じて、適宜ICT機器を活用する。 				

令和7年度 中学部 1～3年（Ⅱ課程Bグループ） 英語科 年間指導計画

単位数 /配当時 数	児童生徒	担当者	教科書／副教材
35			Genki English The singing walrus すきまドリル Baby bus Maple leaf learnig

目標：(知及技)知識及び技能 (思判表力)思考力、判断力、表現力等 (学・人)学びに向かう力・人間性等
 評価：(知・技)知識・技能 (思・判・表)思考・判断・表現 (主学)主体的に学習に取り組む態度

年間目標	(知及技) 外国語の音声や歌を聞いて反応したり、楽しんだりする。 簡単な英語表現を発声したり、問いかけに答えたりする。 (思判表力) 外国語で話しかけられた際に反応したり注目したりすることができる。 外国語の意味に合わせて体を動かすことができる。 (学・人) 外国の映像に興味を示したり、外国の文化にすすんで触れようとしている。
------	---

学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期	12	(知及技) 他者からの外国語での呼びかけに反応し、注意を向けることができる。	(知及技) 他者からの外国語での呼びかけに反応し、注意を向けることができる。	あいさつ ウォームアップ	・あいさつの歌に合わせて身体を動かす。 ・簡単な動詞を聞いて身体を動かす。
		(知及技) 外国語の音声や音楽を聞いて外国語に慣れ親しむ。	(知及技) 外国語の音声や音楽を聞いて外国語に慣れ親しむ。	自己紹介	・"I'm～"に合わせて胸を叩いたり、自分を指したりして自己紹介をする。
		(知及技) 英語のリズムやアクセントを真似して発声することができる。	(知及技) 英語のリズムやアクセントを真似して発声することができる。	ボディーパーツ	・身体の部位を触って英語表現と結びつける。 ・"Open""Close"の歌に合わせて身体を動かす。
		(知及技) 外国語が指す物の意味を理解している。	(知及技) 外国語が指す物の意味を理解している。	カラー	・色紙を掴んでとり、"I like ～."と好きな色を言う。
2 学期	15	(思判表力) 簡単な動作の英語表現に触れ、体を動かして表現することができる。	(思判表力) 簡単な動作の英語表現に触れ、体を動かして表現することができる。	クラスルームイングリッシュ	・教室にある物の英語表現を学習し、英語を聞いて触れたり探したりする。
		(思判表力) 身近で簡単な英語表現について、注目して見聞きすることができる。	(思判表力) 身近で簡単な英語表現について、注目して見聞きすることができる。	リアクション ハロウィン	・様々な感嘆表現を用いて、表情や身振りを工夫しながらリアクションする。 ・ハロウィンの仮装をしてパーティーをする。
3 学期	8	(学・人) 英語の歌や映像に興味を持ち、外国語に親しんでいる。	(学・人) 英語の歌や映像に興味を持ち、外国語に親しんでいる。	クリスマス	・スタンプや指、ちぎり絵などを用いて家族にクリスマスカードを作成する
		(学・人) 外国の風景や映像に注目し、雰囲気味わおうとしている。	(学・人) 外国の風景や映像に注目し、雰囲気味わおうとしている。	カウントダウン 英語でじゃんけん	・世界の新年のカウントダウンと花火を見て外国の雰囲気味わう。 ・じゃんけんの札をつかんで英語でジャンケンしよう

留意点 引継ぎ等	<ul style="list-style-type: none"> ・始業の挨拶時に、着席の姿勢や学習道具の準備が整っていることを確認し、学習に向かう気持ちを整えさせる。 ・季節行事や学校行事などの身近な話題を挙げ、学習内容との関係性を示しながら、学習への関心・意欲を高めさせる。 ・予め学習目標と活動の流れ、本時の着地点を示すことで、学習活動に見通しを持たせる。 ・体を動かしたり、声を出したりする言葉遊び・ゲーム・発声練習を取り入れ、学習活動にメリハリをつける。 ・個々の活動の進捗に合わせて、個別の支援や発展的な課題の提示を行う。 ・五感を刺激する活動を多く取り入れる。
-------------	---

令和7年度 中学部 1～3年（Ⅱ課程Aグループ） 英語科 年間指導計画

単位数 /配当時数	児童生徒	担当者	教科書／副教材
35			Genki English すぎるまドリル Baby bus Maple learnig

年間目標	<p>(知及技) 英語を用いた活動を通して、身近な生活で見聞きする英語に興味や関心をもち、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ。 (思判表力) 身近で簡単な事柄について、英語で聞いたり話したりして表現力を身に付ける。 (学・人) 英語を通して、その言葉の背景にある文化の多様性を知り、意欲的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。</p>		
------	---	--	--

学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期	12	<p>(知及技) あいさつの英語表現を理解し、使うことができる。 英語の音声や発音やアクセントを真似て発音することができる。</p> <p>(知及技) アルファベットを識別することができる、正しい順番がわかる。</p> <p>(思判表力) 自分の名前や好みなどを簡単な語や基本的な表現を用いて表現することができる。</p> <p>(学・人) 英語を話す楽しさを味わい、意欲的に外国語に親しんでいる。</p>	<p>(知・技) 外国語を用いてあいさつや簡単なやりとりをしようとしている。</p> <p>(知・技) アルファベットの音と形を覚えている。アルファベットを読んだり書いたりしようとしている。</p> <p>(思・判・表) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて情報や考えなどを表現しようとしている。</p> <p>(主学) 外国語に親しみをもち、意欲的に外国語を使う姿勢が見られる。</p>	<p>あいさつ</p> <p>自己紹介</p> <p>日付・曜日 数字1～30</p> <p>一般動詞</p> <p>アルファベット</p>	<p>・あいさつの英語表現と、各国の「こんにちは」をその国の言葉で言おう</p> <p>・自己紹介プリントを用いて英語で自己紹介をしよう</p> <p>・日付と曜日の確認、自分の誕生日を英語で言おう</p> <p>・ジェスチャーゲームを通して一般動詞を覚えよう</p> <p>・アルファベットの歌を歌おう</p> <p>・プリント学習で理解を深めよう</p>
		<p>(知及技) 外国の文化や行事に触れ、関係する英語表現を理解することができる。</p> <p>(知及技) 既習事項から、簡単な文を用いて、クリスマスカードを作ることができる。</p> <p>(思判表力) 声の抑揚や表情を工夫して、場面に合わせて英語でリアクションすることができる。</p> <p>(学・人) 外国の行事に触れ、ゲームやクイズを通してすすんで理解を深めようとしている。</p>	<p>(知・技) ハロウィンやクリスマス等の外国の文化や行事について理解し、関係する英語表現や英単語を覚えて使おうとしている。</p> <p>(知・技) 手紙を作成するときのルールを踏まえてカードを制作しようとしている。</p> <p>(思・判・表) 表情や身振りを工夫して、場面から状況や心情を考えて英語でリアクションしようとしている。</p> <p>(主学) ハロウィンやクリスマス等の外国の文化や行事に触れ、意欲を持って活動に参加しようとしている。</p>	<p>ハロウィン</p> <p>クリスマス</p> <p>リアクション</p>	<p>・ハロウィンの起源と日本との違いを知ろう</p> <p>・クリスマスカード制作</p> <p>・世界のクリスマスの過ごし方、ワードゲーム</p> <p>・リアクション</p>
2 学期	15	<p>(知及技) 新年のあいさつや、関連する単語を理解し、使うことができる。</p> <p>(知及技) 飲食店で用いる英語表現を使い、自分の欲しいものを注文したり、店員としての注文に応じたりすることができる。</p> <p>(思・判・表) オーストラリアイングリッシュの特徴について学習し、特徴を踏まえて言語に親しむことができる。</p> <p>(学・人) 学習した英語表現を用いて意欲的に外国語を話すことができる。1年間で学習した内容を振り返ることができる。</p>	<p>(知・技) 新年のあいさつや、関連する単語を理解し、使おうとしている。</p> <p>(知・技) 飲食店で使われる英語表現がわかり、それらを用いてペアでやりとりしようとしている。</p> <p>(思・判・表) オーストラリアイングリッシュの特徴について学習し、特徴を踏まえて言語に親しもうとしている。</p> <p>(主学) 相手の発言をよく聞こうとしたり自分の考えを伝えようとしている。</p>	<p>新年のカウントダウン</p> <p>オーストラリアについて</p> <p>ハンバーガーショップ</p> <p>1年間の総復習</p>	<p>・カウントダウンをして新年のお祝いをしよう</p> <p>・オーストラリアについて学ぼう</p> <p>・ハンバーガーショップの店員やお客さんになって英語でやりとりをしよう</p> <p>・学習した単語や表現を復習しよう</p>
		<p>(学・人) 学習した英語表現を用いて意欲的に外国語を話すことができる。1年間で学習した内容を振り返ることができる。</p>	<p>(主学) 相手の発言をよく聞こうとしたり自分の考えを伝えようとしている。</p>	<p>ハンバーガーショップ</p> <p>1年間の総復習</p>	<p>・学習した単語や表現を復習しよう</p>
3 学期	8	<p>(学・人) 学習した英語表現を用いて意欲的に外国語を話すことができる。1年間で学習した内容を振り返ることができる。</p>	<p>(主学) 相手の発言をよく聞こうとしたり自分の考えを伝えようとしている。</p>	<p>ハンバーガーショップ</p> <p>1年間の総復習</p>	<p>・学習した単語や表現を復習しよう</p>
留意点 引継ぎ等		<p>・始業の挨拶時に、着席の姿勢や学習道具の準備が整っていることを確認し、学習に向かう気持ちを整えさせる。 ・季節行事や学校行事などの身近な話題を挙げ、学習内容との関係性を示しながら、学習への関心・意欲を高めさせる。 ・予め学習目標と活動の流れ、本時の着地点を示すことで、学習活動に見通しを持たせる。 ・体を動かしたり、声を出したりする言葉遊び・ゲーム・発声練習を取り入れ、学習活動にメリハリをつける。 ・個々の活動の進捗に合わせて、個別の支援や発展的な課題の提示を行う。</p>			

令和7年度 中学部 1年(Ⅱ課程A・B) 特別の教科 道徳 年間指導計画(時数:35)

単位数 /配当時 数	児童生徒	担当者	教科書/副教材
1/35			私たちの未来 未来の私たち(開隆堂) 生きる力(日本文教出版)

年間目標	・学校の教育活動全体を通し、それぞれの具体的な場において適切な指導を行い、明るく豊かな道徳的心情、実践意欲と態度を育てる。			
------	---	--	--	--

学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
通年	13	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や教師に対する親しみの気持ちを伝えることができる。 ・学校生活で楽しみにしていることを思い起こす、発表する。 ・日常生活の中で感謝の気持ちを素直に表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や教師に対する親しみの気持ちを伝えようとしている。 ・学校生活で楽しみにしていることを思い起こす、発表している。 ・日常生活の中で感謝の気持ちを素直に表現しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・礼儀、作法 ・学校生活 	<ul style="list-style-type: none"> ・名前を呼ばれたら「はい」と返事する。 ・友達や教師に対し、場に応じて挨拶をする。 ・学校にはたくさんの楽しさがあることに気づく ・自分の成長を支えてくれる人々について考え、誰にどんな「ありがとう」を伝えたいかを発表する。
	15	<ul style="list-style-type: none"> ・決まりの必要性に気づき、共有する場所や物を大切にしようとする。 ・自分の健康に気をつけ、健全な態度で活動することができる。 ・友達と仲良くすること、助け合うことについて考える。 ・物事を最後まできちんとやり遂げる。 ・自分が生きているからこそできるあたりまえのことを喜び命を大切にしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・決まりの必要性に気づき、共有する場所や物を大切にしようとしている。 ・自分の健康に気をつけ、健全な態度で活動しようとしている。 ・友達と仲良くすること、助け合うことについて考えようとしている。 ・物事を最後まできちんとやり遂げようとしている。 ・自分が生きているからこそできるあたりまえのことを喜び命を大切にしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・決まり ・健康安全 ・友達 ・向上心 ・生命の尊重 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活を通して、基本的な決まりを守る。様々な状況を想定して決まりや約束を守ることの意味を考える。 ・怪我をした時や、気分が悪くなった時は、教師にその状態を伝える。 ・危険な場所では遊ばない。 ・集団生活を描いた絵やお話を通して仲良くしたり助け合うことの良さや大切さを考える。 ・中途半端で終わらず、最後までやりぬくことによって、達成感を味わう。 ・「息をする」「食べる」「遊ぶ」など生きていることで感じられる喜びを考え話合う。 ・食育を通して命について関心を持つ。
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを思いやり、優しく接しようとする。 ・働くことの大切さを知る。 ・自分の事は自分でやろうとする意欲を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを思いやり、優しく接しようとしている。 ・働くことの大切さを知ろうとしている。 ・自分の事は自分でやろうとする意欲を持とうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・優しさ ・勤労、役割 ・整理整頓 	<ul style="list-style-type: none"> ・意地悪をしてしまう気持ち、親切にしたいという気持ちを比較し、人に親切にすることの良さや難しさをについて考える。 ・自分の役割分担に対しては、責任を持って最後までやり遂げる。 ・自分の持ち物がわかり、所定の場所に片付ける。 ・汚れに気がつき、清潔にする。 ・日常生活の中でできていることは、進んで行く。
留意点 引継ぎ等	①教育活動全体で指導し、家庭や地域社会との連携の下に取り組む。 ②各教科との関連を計りながら取り組む				

令和7年度 中学部 2年（Ⅱ課程A・B） 特別の教科 道徳 年間指導計画(時数：35)

単位数 ／ 配当時 数	児童生徒	担当者	教科書／副教材
1／35			私たちの未来 未来の私たち（開隆堂） 生きる力（日本文教出版）

年間目標	<p>・学校の教育活動全体を通し、それぞれの具体的な場において適切な指導を行い、明るく豊かな道徳的心情、実践意欲と態度を育てる。</p>			
------	--	--	--	--

学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
通年	13	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や教師に対する親しみの気持ちを伝えることができる。 ・学校生活で楽しみにしていることを思い起こす、発表する。 ・日常生活の中で感謝の気持ちを素直に表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や教師に対する親しみの気持ちを伝えようとしている。 ・学校生活で楽しみにしていることを思い起こす、発表している。 ・日常生活の中で感謝の気持ちを素直に表現しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・礼儀、作法 ・学校生活 	<ul style="list-style-type: none"> ・名前を呼ばれたら「はい」と返事する。 ・友達や教師に対し、場に応じて挨拶をする。 ・学校にはたくさんの楽しさがあることに気づく ・自分の成長を支えてくれる人々について考え、誰にどんな「ありがとう」を伝えたいかを発表する。
	15	<ul style="list-style-type: none"> ・決まりの必要性に気づき、共有する場所や物を大切にしようとする。 ・自分の健康に気をつけ、健全な態度で活動することができる。 ・友達と仲良くすること、助け合うことについて考える。 ・物事を最後まできちんとやり遂げる。 ・自分が生きているからこそできるあたりまえのことを喜び命を大切にしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・決まりの必要性に気づき、共有する場所や物を大切にしようとしている。 ・自分の健康に気をつけ、健全な態度で活動しようとしている。 ・友達と仲良くすること、助け合うことについて考えようとしている。 ・物事を最後まできちんとやり遂げようとしている。 ・自分が生きているからこそできるあたりまえのことを喜び命を大切にしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・決まり ・健康安全 ・友達 ・向上心 ・生命の尊重 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活を通して、基本的な決まりを守る。様々な状況を想定して決まりや約束を守ることの意味を考える。 ・怪我をした時や、気分が悪くなった時は、教師にその状態を伝える。 ・危険な場所では遊ばない。 ・集団生活を描いた絵やお話を通して仲良くしたり助け合うことの良さや大切さを考える。 ・中途半端で終わらず、最後までやりぬくことによって、達成感を味わう。 ・「息をする」「食べる」「遊ぶ」など生きていることで感じられる喜びを考え話合う。 ・食育を通して命について関心を持つ。
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを思いやり、優しく接しようとする。 ・働くことの大切さを知る。 ・自分の事は自分でやろうとする意欲を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを思いやり、優しく接しようとしている。 ・働くことの大切さを知ろうとしている。 ・自分の事は自分でやろうとする意欲を持とうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・優しさ ・勤労、役割 ・整理整頓 	<ul style="list-style-type: none"> ・意地悪をしてしまう気持ち、親切にしたいという気持ちを比較し、人に親切にすることの良さや難しさをについて考える。 ・自分の役割分担に対しては、責任を持って最後までやり遂げる。 ・自分の持ち物がわかり、所定の場所に片付ける。 ・汚れに気がつき、清潔にする。 ・日常生活の中でできていることは、進んで行う。
留意点 引継ぎ等					

令和7年度 中学部 3年(Ⅱ課程A) 特別の教科 道徳 年間指導計画(時数:35)

単位数 /配当時 数	児童生徒	担当者	教科書/副教材
1/35			私たちの未来 未来の私たち(開隆堂) 生きる力(日本文教出版)

年間目標	・学校の教育活動全体を通し、それぞれの具体的な場において適切な指導を行い、明るく豊かな道徳的心情、実践意欲と態度を育てる。		
------	---	--	--

学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
通年	13	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や教師に対する親しみの気持ちを伝えることができる。 ・学校生活で楽しみにしていることを思い起こす、発表する。 ・日常生活の中で感謝の気持ちを素直に表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や教師に対する親しみの気持ちを伝えようとしている。 ・学校生活で楽しみにしていることを思い起こす、発表している。 ・日常生活の中で感謝の気持ちを素直に表現しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・礼儀、作法 ・学校生活 	<ul style="list-style-type: none"> ・名前を呼ばれたら「はい」と返事する。 ・友達や教師に対し、場に応じて挨拶をする。 ・学校にはたくさんの楽しみがあることに気づく ・自分の成長を支えてくれる人々について考え、誰にどんな「ありがとう」を伝えたいかを発表する。
	15	<ul style="list-style-type: none"> ・決まりの必要性に気づき、共有する場所や物を大切にしようとする。 ・自分の健康に気をつけ、健全な態度で活動することができる。 ・友達と仲良くすること、助け合うことについて考える。 ・物事を最後まできちんとやり遂げる。 ・自分が生きているからこそできるあたりまえのことを喜び命を大切にしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・決まりの必要性に気づき、共有する場所や物を大切にしようとしている。 ・自分の健康に気をつけ、健全な態度で活動しようとしている。 ・友達と仲良くすること、助け合うことについて考えようとしている。 ・物事を最後まできちんとやり遂げようとしている。 ・自分が生きているからこそできるあたりまえのことを喜び命を大切にしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・決まり ・健康安全 ・友達 ・向上心 ・生命の尊重 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活を通して、基本的な決まりを守る。様々な状況を想定して決まりや約束を守ることの意味を考える。 ・怪我をした時や、気分が悪くなった時は、教師にその状態を伝える。 ・危険な場所では遊ばない。 ・集団生活を描いた絵やお話を通して仲良くしたり助け合うことの良さや大切さを考える。 ・中途半端で終わらず、最後までやりぬくことによって、達成感を味わう。 ・「息をする」「食べる」「遊ぶ」など生きていることで感じられる喜びを考え話合う。 ・食育を通して命について関心を持つ。
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを思いやり、優しく接しようとする。 ・働くことの大切さを知る。 ・自分の事は自分でやろうとする意欲を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを思いやり、優しく接しようとしている。 ・働くことの大切さを知ろうとしている。 ・自分の事は自分でやろうとする意欲を持とうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・優しさ ・勤労、役割 ・整理整頓 	<ul style="list-style-type: none"> ・意地悪をしてしまう気持ち、親切にしたいという気持ちを比較し、人に親切にすることの良さや難しさについて考える。 ・自分の役割分担に対しては、責任を持って最後までやり遂げる。 ・自分の持ち物がわかり、所定の場所に片付ける。 ・汚れに気がつき、清潔にする。 ・日常生活の中でできていることは、進んで行う。

留意点 引継ぎ等					
-------------	--	--	--	--	--

令和7年度 中学部 1,2,3年（Ⅱ課程A・B）総合的な学習の時間 年間指導計画

単位数 /配当時数	児童生徒	担当者	教科書／副教材
1/35			なし/ワークシート 視覚的教材（写真、PPなど） ICT機器

目標：(知及技)知識及び技能 (思判表力)思考力、判断力、表現力等 (学・人)学びに向かう力・人間性等
 評価：(知・技)知識・技能 (思・判・表)思考・判断・表現 (主学)主体的に学習に取り組む態度

年間目標		(知及技) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題を探求することができる。 (思判表力) 実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。 (学・人) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組み、互いのよさを生かしながら積極的に社会に参画しようとする。			
学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1学期	13	(知及技) 体験的な活動を通して、課題の解決に必要な知識及び技能を身につける。 (思判表力) 身近な生活の中にある課題に気付き、自分なりに考えたり、それをまとめて表現したりできるようにする。	(知・技) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題を探求することができる。 (思・判・表) 実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。	【総合開き】 【教室掲示物作成】 【避難訓練】 【交流・共同学習】 【クリーンデー】 【職場見学、職場体験】 【進路講話】	・係表や時間割表などを作成し、掲示する。 ・防災時の基礎知識や避難方法を理解する。 ・同年代の友達と交流を深める。 ・清掃用具を上手に使うことができる。 ・任された清掃場所をきれいにすることができる。 ・協力して仲良く活動する。 ・場所がかわっても代表らしく挨拶や清掃等ができる。 ・キャリア教育でこれから求められる力を理解し、日々の学習や生活にどのように活かすかを考える。
2学期	15	(学・人) 主体的・協働的に取り組む中で、互いの良さに気付き、自ら積極的に他者と関わり合って社会に参画しようとする態度を養う。	(主学) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組み、互いのよさを生かしながら積極的に社会に参画しようとする。	【宿泊学習の事前学習】 【中高体育校外学習】 【クリーンデー】 【学部集会】 【職場見学、職場体験】 【進路講話】	・進級進学に向けての意識を高め、自分の将来について考えるきっかけにする。 ・宿泊学習の日程について見通しをもつ。 ・成功に向けて友人と協力し最後まで活動に参加することができる。 ・学習を振り返り達成感を味わう。 ・興味のある題材を選び、意欲的に活動に取り組むことができる。 ・就業への興味や関心を持ち、意欲を育てる。
3学期	7			【校外学習】 【職場見学、職場体験】 【進路講話】 【交流共同学習】 【クリーンデー】	
留意点 引継ぎ等					

令和7年度 中学部 1～3年（Ⅱ課程A・B） 特別活動 年間指導計画

単位数 /配当時数	児童生徒	担当者名	教科書／副教材
1 / 35			

目標：(知及技)知識及び技能 (思判表力)思考力、判断力、表現力等 (学・人)学びに向かう力・人間性等
 評価：(知・技)知識・技能 (思・判・表)思考・判断・表現 (主学)主体的に学習に取り組む態度

年間目標	<p>(知及技) 多様な他者と協議する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。</p> <p>(思判表力) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。</p> <p>(学・人) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。</p>
------	---

学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材の活動内容
1学期	13	<p>【学級活動】</p> <p>(知・技) 学級における集団活動や自律的な生活を送ることの意義を理解し、そのために必要となることを身に付ける。</p> <p>(思・判・表) 学級や自己の生活、人間関係をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりできる。</p> <p>(学・人) 人間関係をよりよく形成するとともに、将来の生き方を描き、その実現に向けて、日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。</p>	<p>【学級活動】</p> <p>(知・技) 学級における集団活動や自律的な生活を送ることの意義を理解し、そのために必要となることを理解し身に付けている。</p> <p>(思・判・表) 学級や自己の生活、人間関係をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりして実践している。</p> <p>(主学) 人間関係をよりよく形成するとともに、将来の生き方を描き、その実現に向けて、日常生活の向上を図ろうとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就任式、始業式、入学式、終業式 ・学級開き、学年開き ・自己紹介、学級目標、個人目標、係活動 ・キャリアパスポート ・幼児児童生徒会集会 ・幼児児童生徒総会 ・身体測定 ・内科検診、歯科検診、心電図検査 ・地震火災津波避難訓練 ・不審者対策訓練 ・1学期のまとめ、振り返り ・夏休みの過ごし方
2学期	15	<p>【生徒会活動】</p> <p>(知・技) 生徒会やその中に置かれる委員会などの異年齢により構成される自治的組織における活動の意義について理解するとともに、その活動のために必要なことを理解し行動の仕方を身に付ける。</p> <p>(思・判・表) 生徒会において、学校全体の生活をよりよくするための課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく形成したりできる。</p> <p>(学・人) 多様な他者と協働し、学校や地域社会における生活をよりよくしようとする態度を養う。</p> <p>【学校行事】</p> <p>(知・技) 各学校行事の意義について理解するとともに、行事における活動のために必要なことを理解し、規律ある行動の仕方や習慣を身に付ける。</p> <p>(思・判・表) 学校行事を通して集団や自己の生活上の課題を結びつけ、人間としての生き方についての考えを深め、場面に応じた適切な判断をしたり、人間関係や集団をよりよくしたりできる。</p> <p>(学・人) 集団や社会の形成者としての自覚を持って多様な他者を尊重しながら協働し、公共の精神を養い、よりよい生活をつくろうとする態度を養う。</p>	<p>【生徒会活動】</p> <p>(知・技) 生徒会やその中に置かれる委員会などの異年齢により構成される自治的組織における活動の意義について理解するとともに、その活動のために必要なことを理解し行動の仕方を身に付けている。</p> <p>(思・判・表) 生徒会において、学校全体の生活をよりよくするための課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく形成したりして実践している。</p> <p>(主学) 多様な他者と協働し、学校や地域社会における生活をよりよくしようとしている。</p> <p>【学校行事】</p> <p>(知・技) 各学校行事の意義について理解するとともに、行事における活動のために必要なことを理解し、規律ある行動の仕方や習慣を身に付けている。</p> <p>(思・判・表) 学校行事を通して集団や自己の生活上の課題を結びつけ、人間としての生き方についての考えを深め、場面に応じた適切な判断をしたり、人間関係や集団をよりよくしたりして実践している。</p> <p>(主学) 集団や社会の形成者としての自覚を持って多様な他者を尊重しながら協働し、公共の精神を養い、よりよい生活をつくろうとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・始業式、終業式 ・夏休みの思い出発表 ・個人目標、係活動 ・キャリアパスポート ・幼児児童生徒会集会 ・火災避難訓練 ・宿泊学習 ・八重山地区中学校総合文化祭（出品・上映） ・2学期のまとめ、振り返り ・冬休みの過ごし方
3学期	7	<p>(知・技) 各学校行事の意義について理解するとともに、行事における活動のために必要なことを理解し、規律ある行動の仕方や習慣を身に付ける。</p> <p>(思・判・表) 学校行事を通して集団や自己の生活上の課題を結びつけ、人間としての生き方についての考えを深め、場面に応じた適切な判断をしたり、人間関係や集団をよりよくしたりできる。</p> <p>(学・人) 集団や社会の形成者としての自覚を持って多様な他者を尊重しながら協働し、公共の精神を養い、よりよい生活をつくろうとする態度を養う。</p>	<p>(知・技) 各学校行事の意義について理解するとともに、行事における活動のために必要なことを理解し、規律ある行動の仕方や習慣を身に付けている。</p> <p>(思・判・表) 学校行事を通して集団や自己の生活上の課題を結びつけ、人間としての生き方についての考えを深め、場面に応じた適切な判断をしたり、人間関係や集団をよりよくしたりして実践している。</p> <p>(主学) 集団や社会の形成者としての自覚を持って多様な他者を尊重しながら協働し、公共の精神を養い、よりよい生活をつくろうとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・始業式、卒業式、修了式、離任式 ・新年の抱負 ・個人目標、係活動 ・八特祭 ・幼児児童生徒会選挙 ・お別れ遠足 ・1年間のまとめ、キャリアパスポート ・進級に向けて

留意点
引継ぎ等